

虎杖浜3遺跡

——北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書——

昭和57年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

虎杖浜3遺跡

—北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭和57年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

目 次

I 調査の概要	13
1 調査要項	14
2 調査体制	14
3 調査の経緯	15
4 調査結果の概要	15
II 遺跡周辺の地理的・歴史的環境	17
1 地形と地質	19
2 周辺の遺跡	20
3 発掘区の設定	24
III A地点の遺構と遺物	27
1 遺構の分布	28
2 遺構	29
3 遺物	60
IV B地点の遺構と遺物	161
1 遺構の分布	162
2 遺構	163
3 遺物	177
V C地点の遺構と遺物	193
1 遺構の分布	194
2 遺構	195
3 遺物	195
VI D地点の遺構？と遺物	211
1 遺構？の分布	212
2 遺構？	213
遺物	214
総まとめ	223

例　　言

1 本書は、北海道縦貫自動車道建設に伴う、白老町虎杖浜3遺跡の発掘調査の記録である。

2 遺構は次の略号をもって示す。

H=住居跡　　P=土壙（墓、Tピットを含む）　　F=焼土

3 遺構図および遺物図等の縮尺は、原則として次のとおり。

遺構図および土層柱状図：40分の1

土器実測図および拓影図：4分の1

剝片石器実測図：2分の1

礫石器実測図：4分の1、ただし石皿は6分の1

4 遺構図等に示した方位は磁北である。

5 石器の石質の略号は、表10のあとに記載してある。

6 土器・石器の分類については、Ⅴ章で解説する。

7 本書作成の分担はつぎのとおり。

地形図および遺構図：立川トマス

土器の図：森重典子

石器の図：野村留美

昭和55年度現地写真：佐藤和雄

その他の写真：伊野正之

I章執筆：森田知忠

上記以外のもの：佐藤調敏

図 1



C 地点—遺物番号 1

図2



C地点—遺物番号2

図3



A地点—遺物番号9

図4



A地点—遺物番号3



A地点—遺物番号108

図5



A地点—遺物番号102

図6



A 地点—遺物番号103

図 7



A 地点—遺物番号104

図8



A地点—遺物番号182

図9



A地点—遺物番号175

図10



B地点—P3出土

調査の概要

I



調査の概要

I 調査の概要

1 調査要項

事業名 北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査
事業委託者 日本道路公団札幌建設局
事業受託者 財團法人北海道埋蔵文化財センター
遺跡名 虎杖浜3遺跡（道教委登載番号 J-10-12）
遺跡の所在地 北海道白老郡白老町字虎杖浜439番地の21ほか
調査面積 (1)2,210m² (2)2,680m² 計4,890m²
調査期間 (1)昭和55年4月1日～昭和56年3月31日
(2)昭和57年4月1日～昭和58年3月31日

2 調査体制

(財) 北海道埋蔵文化財センター 理事長 浅井理一郎
業務部長 馬場 治夫（昭和55年度）
〃 皆川 富三（昭和57年度）
調査部長 高橋 稔一（昭和55年度）
〃 藤本 英夫（昭和57年度）
調査第一班長 中村 福彦（昭和55年度）
〃 森田 知忠（昭和57年度発掘担当者）
文化財保護主事 稲市 幸生（昭和55年度発掘担当者）
〃 青柳 文吉（昭和55年度）
〃 矢吹 俊男（昭和57年度）
〃 田口 尚（〃）
(調査補助員) 中村 英重（昭和55年度）
〃 佐藤 和雄（〃）
〃 西条美智枝（〃）
〃 立川トマス（昭和57年度）
〃 佐藤 誠敏（〃）
〃 伊野 正之（〃）

なお、調査の遂行にあたって、下記の機関および人びとのご指導ならびにご協力をいただいた。記して感謝申しあげる。

北海道教育委員会、白老町教育委員会、北海道開拓記念館、苫小牧市青少年センター、苫小牧市埋蔵文化財センター、北海道教育大学教授 春日井昭、北海道文化財調査員 佐藤一夫（順不同、敬称略）

3 調査の経緯

日本道路公団が建設を進めている、北海道縦貫自動車道（函館～稚内）のうち、室蘭～苫小牧の分布調査は、昭和51年度に北海道教育委員会によって行われ、虎杖浜3遺跡が本線建設予定地にかかることが判明した。

その結果をうけて、昭和54年に、事前発掘調査（試掘）を行い、昭和55・57年度に発掘調査を行った。虎杖浜3遺跡は、小川によっていくつの地点に区分されるが、昭和55年度には、そのなかほどの部分（A地点）を⁵⁵、本年度は残りの部分全部（B～D地点）を発掘調査した。なお、本年度の調査面積は、当初2,080m²の予定であったが、調査期間中に町道切替のために600m²（D地点の一部）が追加され、これについても併せて調査を行った（図17）。

（注）当センター刊「川上B遺跡・虎杖浜3遺跡——北海道縦貫自動車道登別地区埋蔵文化財調査報告」昭和56年3月

4 調査結果の概要

昭和55・57年の両年度にわたる調査によって、虎杖浜3遺跡からは81個の遺構等（表1）が検出され、56,922点の遺物（表2）が出土した。調査が工事用地内だけにとどまっているので遺跡の全貌は不明であるが、調査地区は短期的な居住地または集落の縁辺にあたっているものと思われ、遺物量に比較して遺構は貧弱であった。

これらのはとんどは縄文時代の資料で、B地点でややまとまりをもって検出された後期のものを除けば、早期に所属するものが圧倒的に多い。なかでも、貝殻文土器群（I群a類）は、質・量ともに豊富で、この地域における編年研究上重要と思われる。

当遺跡から最も多量に得られたのは、縄文時代早期末葉の繩状痕文、撲糸文、縄文等の施された土器群（I群b類）で、このなかでは束綱路直式に相当するもの（b-1類）が多い。また、石刀鐵文化の所産と思われるブレイド2点（接合）がB地点から出土し、この土器群の初期もしくは貝殻文土器群末期と関連をもつものと思われる。

B地点から検出された住居跡は、縄文時代後期初頭の余市式土器（II群a類）の時期のものである。また、白老町内ではこれまで検出されていなかったTピットが2個発見された。ひとつは溝形のタイプで、もうひとつは小判形プランで底面に杭穴をもつタイプである。

表1 遺構等一覧

	A 地 点	B 地 点	C 地 点	D 地 点	計
住居跡		1			1
住居的施設	3	2			5
墓	9	1			10
Tピット		1	1		2
土 墓	28	3		(2)	33
(焼 土)	27	2		1	30
計	67	10	1	3	81

表2 遺物一覧

	A 地 点			B 地 点			C地点	D地点	合 計
	遺 構	包含層	計	遺 構	包含層	計	包含層	包含層	
土器 I a-1							81		81
♦ I a-2	33	2,536	2,569		891	891	551	28	4,039
♦ I a-3	4	308	312				11		323
♦ I b-1	214	15,309	15,523		1,026	1,026	37	815	17,401
♦ I b-2	40	3,083	3,123						3,123
♦ I b-3		839	839						839
♦ I b-4		4,443	4,443				585		5,028
♦ II a					24	24			24
♦ III a							60	139	199
♦ III b-3				1	41	42			42
♦ IV a				45	2,707	2,752			2,752
♦ IV b				11		11			11
♦ IV c								10	10
♦ VI								4	4
♦ (分類不明)	291	937	1,228					982	2,210
土器 計	582	27,455	28,037	57	4,689	4,746	1,325	1,978	36,086
石 磨 I A	12	250	262	9	98	107	9	9	384
石 柴 I B	3	48	51	3	15	18	4	1	74
石 鐵 II A	31	31			3	3			34
つまみ針ナカ II A	10	249	259		10	10	13	8	290
スクレイパー III B	5	346	351	4	19	23	10	3	387
石 刀 IV A		66	66	1	17	18	7	3	94
たたき石 V A	3	26	29	1	1	2	5		36
すり石 VI A	9	194	203	1	12	13	12	3	231
石 盆 VI B	2	44	46		5	5	3		54
砥 石 VII B	1	26	27		10	10	3	1	41
石 銛 VII A	10	88	98		15	15	26		139
石 核 VIII A		30	30	1	11	12	4	2	48
剝片・礫片 IX B	162	15,229	15,391	452	1,260	1,712	553	252	17,908
加・使剥片 X A	4	423	427	4	141	145	45	10	627
礫	21	195	216	1	1	2	1	265	484
貝 穀	2		2						2
石器等計	244	17,245	17,489	477	1,618	2,095	695	557	20,836
合 計	826	44,700	45,526	534	6,307	6,841	2,020	2,535	56,922

II 遺跡周辺の地理的・歴史的環境





図11 虎杖浜3遺跡の位置(1)と周辺の遺跡

1 地形と地質

立地 遺跡の後背地には標高530mほどの併多楽カルデラがあり、直接火山性山地が急斜面をなして海岸と接している。遺跡は、山地から南東に流下するアヨロ川と、その支流によって形づくられた僅かな平坦面を利用して形成されている（図11）。

層序 遺跡の土層は図12に示したとおり9層にわけられる。

- I 層 厚さ20cm程度の表土。
- II 層 径20~25cmの灰白色軽石層。ほぼ均一に調査区全域に分布する。1663年降下の有珠火山噴出物（U s-b）である。
- III 層 厚さ10cmの黒色土。粒子が細かく粘性がある。
- IV 層 厚さ5cmの赤味を帯びた褐色の火山灰層。駒ヶ岳火山系統の火山灰かといわれている。
- V 層 厚さ15cmの黒色土。上部からは縄文時代後期～中期の遺物が出土し、下部からVI層上面にかけて縄文時代早期I群b-2類が出土する。
- VI 層 厚さ10cmの赤褐色の火山灰層。噴出源不明。
- VII 層 厚さ12cmの黒褐色土。縄文時代早期I群a類、I群b-1類を包含する。
- VIII 層 厚さ10cmの茶褐色の漸移層。I群a類が出土するが、その量は多くない。
- IX 層 黄褐色ローム層。

昭和55年度の調査（A地点）時の層序は、III～V層が細分されておらず、したがって遺物の記載は当時のままとなっているが、つぎのように対応する。旧III層：新III～V層、旧IV層：新VI層、旧V層：新VII層、旧VI層：新VIII層、旧VII層：新IX層である。

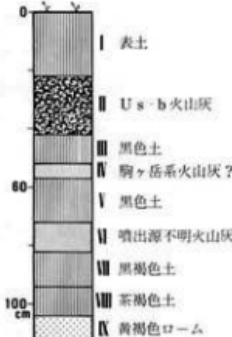


図12 虎杖浜3遺跡の土層

II 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

2 周辺の遺跡

虎杖浜地区をとりまく標高50m前後の俱多楽台地縁辺部では、縄文時代～近世にかけての遺跡が発掘調査され、考古学上重要な情報を提供している。以下、周辺遺跡の資料を援用して、これまでの成果を概観する。

最も古い遺跡として縄文時代早期の虎杖浜1遺跡がある(図11-1)。ポンアヨロ川右岸の海岸段丘上に立地する。直径およそ5mの円形プランの竪穴住居跡が1個発掘された(大場ほか、1962)。住居内部中央に炉跡があるほか、柱などの施設はみつかっていない。住居内からは、図13-1～3の土器が出土した。1・2は貝殻で引っかいた文様が施された平底の深鉢、3は幅広のヘラ状工具で調整された砲弾形の尖底深鉢で、「虎杖浜式土器」と命名された。この土器には¹⁴C年代で7700年B.P.の値が与えられている。

虎杖浜5遺跡からは大陸を原郷土とする石刃文化期の遺物が確認されている(佐藤・工藤、1980)・(図11-5)。報告によれば石刃鐵・石刃があり、縄文時代早期のいわゆるアルトリ式土器との関連性を考えているようである。石刃鐵文化の動態を知るうえできわめて貴重な資料である。

縄文時代前期の遺跡としては虎杖浜2遺跡・虎杖浜4遺跡が知られている。

虎杖浜2遺跡は1961年・77年の2回試掘調査が実施されている(大場ほか、1962・岡田編、1978)・(図11-2)。ヤマトシジミ、コタマガイを中心とした貝塚が2か所あり、現在この付近では生息しないハマグリがみつかっており、また、マダイ等の暖流系の魚類が多く検出されていることから、貝塚が形成されたころは、現在よりも暖流の影響が強かった。

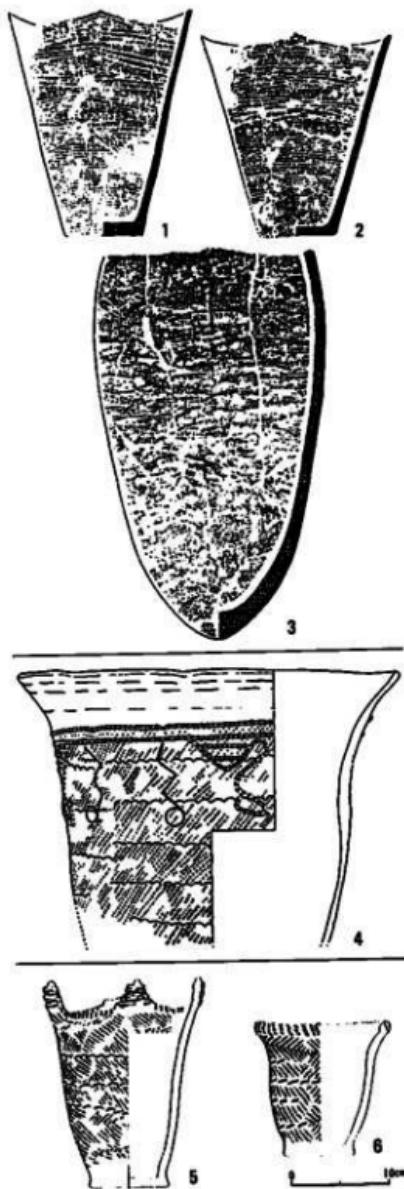


図13 虎杖浜出土の縄文時代早～中期の土器

たようである。土器は縄文時代前期の中野式・円筒土器下層a式である。また、大木3式土器(図13-4)が出土したことは、東北地方との交流および編年を決めるうえで重要である。

虎杖浜4遺跡からは、東北地方や北海道の渡島半島に多く分布する円筒土器下層d式土器を伴う住居跡が検出されている(鶴北海道埋蔵文化財センター編、1981)(図11-4)。住居跡は長辺が12mの長円形プランで、その中から、たくさんの鹿の骨がみつかっている。

縄文時代中期から後期にかけての遺跡には、虎杖浜4遺跡がある。縄文時代中期の円筒土器上層式(図13-5-6)・天神山式・ノダップⅡ式・トコロ6類土器、後期の余市式・人江式土器が出土している。

縄文時代晩期の遺跡は、苦小牧市寄りの社台にある、社台1遺跡が知られており、72個の墓と6か所の焼土が検出されている(鶴北海道埋蔵文化センター編、1981)。この遺跡の土器は東北地方を中心に栄えたいわゆる鬼ヶ岡文化の影響を受けた大洞C₁式～大洞C₂式土器である。図14-7はP-19墓とそこから出土した土器群で、小型台付鉢、注口土器、浅鉢がありいずれも精製された土器である。8の壺は、全面に朱ウルシを塗布したみごとな土器である。

統縄文時代の遺跡にはアヨロ遺跡がある(図11-9)。1953年に名坂武光・峰山巖(1962)によって調査され、恵山式・北大式・擦文土器が出土し統縄文時代～擦文時代にかけての遺跡であることが確認されている。さらに1978・79年には、ほぼ遺跡全域が発掘された(高橋編、1980)。土器、石器、玉などの豊富な副葬品を伴う墓が64個みつかって



図14 社台1遺跡出土の縄文時代晩期の土器

Ⅲ 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

いる。図15は墓307とそこから出土した土器・石器で、土器は渡島半島に多い恵山式土器。墓の中には厚くベンガラが塗かれ深鉢、鉢、台付鉢、壺が埋設されていた。これだけ多くの墓が調査された例ではなく、恵山文化の墓制を知るうえで貴重な遺跡である。アヨロ遺跡からは恵山式土器に続く時期の北大式土器、および古いタイプの擦文土器も出土している。

中～近世の特徴的な遺跡としてチャシがある。カムイエカシチャシは神祖の砦の意。カムイエカシは、ポンアヨロにあった部落の人々の先祖のえらい跡で、この人については、いろいろな伝説が伝えられている。このチャシの発掘調査が1976年に実施された(岡田編、1977)。それによると、1条の塹をめぐらした丘頂式の、いわゆるお供え型チャシである(図16-10)。塹の断面は明瞭なV字形であり、塹から掘り上げられた土は外側に積みあげられていた。構築年代は、丘頂部および塹の断面に有珠山の噴火(1663年)による軽石層が15cm内外の厚さに堆積していたことから、1663年より新しくないことは確実である。また塹の中にまだ黒土層が堆積しないうちにU s-b軽石が堆積しているので、このチャシが使用されたのは1663年よりあまり古くはないといふ。鉄製の槍先および刀子が検出され、また同じ層位から数か所の焼土も確認されている。機能は、和人と戦争をするときの見張所とされるが、出土品および焼土は、祭場として用いられた可能性も示唆するようである。

近世に入ると、白老に仙台藩による陣屋の設営があり、これが町の開基となる。安政2(1855)年、仙台藩は幕府から東蝦夷地「シ



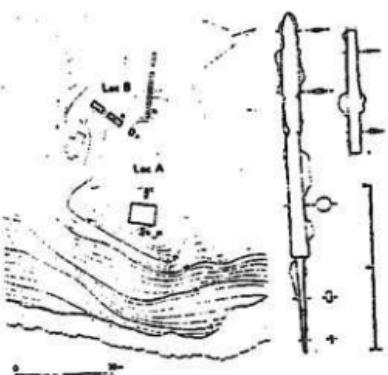
図15 アヨロ遺跡出土の統括文時代の遺物

ラオイ」(白老)から「シレトコ」(知床)にいたる一帯の舊備を命ぜられ、翌3年に元陣屋を「シラオイ」に築造した。そして陣屋は、慶応4(1868)年の戊辰戦争で藩士が撤収するまでの13年間にわたって経営された。その後、一時南部藩兵が滞陣したが、明治2(1869)年に白老郡の支配を命ぜられた一ノ岡藩に引き継がれ、明治4年まで白老郡の支配となった。しかし翌3年には陣屋は襲され、その廃材で役所1棟、民家10余棟が建てられたという。

この白老仙台藩陣屋跡は、昭和41年に主部が国の史跡に指定され、昭和51年には塩釜・愛宕の二社を含む区域が追加指定されている。それに伴い、昭和44年以降、白老町によって陣屋の復元および環境整備が進められた(図16-11)。昭和55年度の調査(長沼、1982)では、2棟の長屋について、位置・規模などを確認している。出土品には陶磁器・鉄製品・銅製品・古錢(天保通宝・箱館通宝・仙台通宝)・土製品・ガラス玉・石製品などがある。

図版出典

虎杖浜1遺跡(第4図、第5図、第11図)虎杖浜2遺跡(第7図)虎杖浜4遺跡(図4-14)社台1遺跡(図3-13、図3-97)アヨロ遺跡(図13)カムイエカシチャシ(第3図、第5図)白老仙台藩陣屋跡(史料1、図7、図24-13・17、図26-46・56、図35-1・2)



10

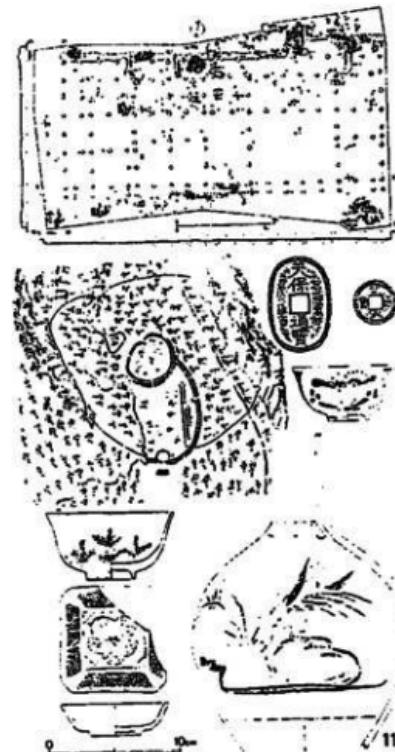


図16 カムイエカシチャシと白老仙台藩陣屋

II 遺跡周辺の地理的・歴史的環境

3 発掘区の設定

調査地区的全体について、縦貫道のセンターラインに合わせて、10mのメッシュをかけて発掘区を設定した。すなわち、センターラインをMとし、10mごとに、北にI、K……、南にN、O、P……とし、これに直交する10mごとの線を、西から0、1、2……36とし、北西隅の交点の記号をその区の名称とした。ただし、縦貫道は北向きに緩く弧を描いており（南に凸）、Mラインには昭和55年度にA地点で設定されたために、両端部ではこのラインと道路のセンターは一致しない。

現地調査では、作業の都合上、このようにして定めた発掘区をさらに4等分して用いた。北西の四分をaとし、逆計画まわりにそれぞれb、c、dとした。したがって、作業単位となる発掘区は「M24a」のように表わされている（図17）。

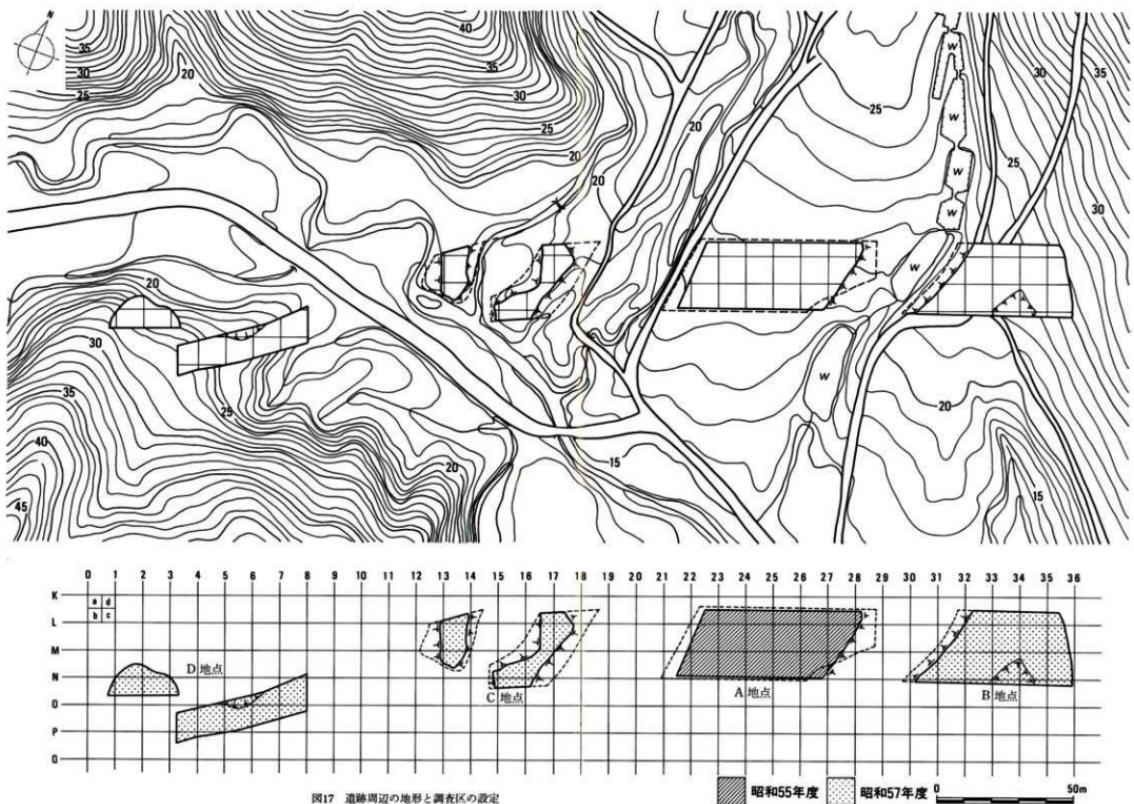


図17 道路周辺の地形と調査区の設定

III A地点の遺構と遺物



A地点の調査状況

III A地点の遺構と遺物

1 遺構の分布

A地点において確認された遺構およびそれに類似するものは总数66(図18)、その内訳は、住居的施設(H)2、墓を含む土壙(P)37、焼土27である。

遺構の分布を概観すると、住居的施設、および土壙のなかでも比較的大型で住居的施設にちかいP-16等は、何らまとまりをもたず、それぞれ10m以上の距離をもって分散している。土壙は、舌状の高まりの上のL24区に集中的に分布する。これらは遺物を伴わない時期・用途不明の土壙である。墓とした土壙は集中せず、発掘区全域に分散している。焼土は発掘区の22~26ラインの間に分布し、とくに土壙の集中する周辺に多く分布している。

全体的な遺構の分布傾向は、微高地に多く、K・L-24・25 約200m²の範囲内に64%が集中する。

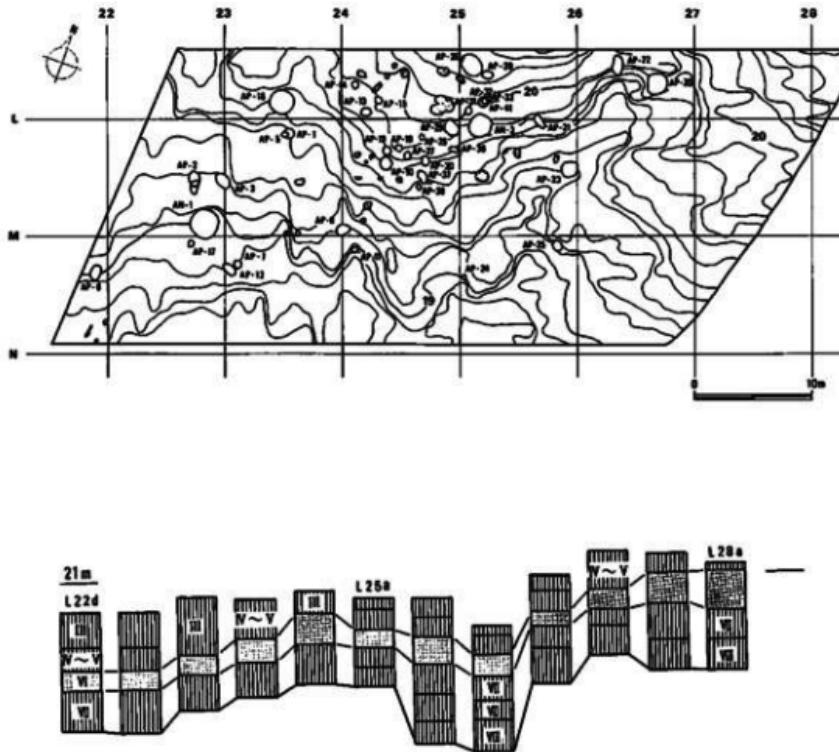


図18 A地点の遺構分布と土層柱状図

2 遺構

H-1 (図19~21)

L 22c 区にある。覆土は2層に分けられる。I層は黒褐色土で確認面から床面まで堆積する。II層は壁際に三角状堆積した黄褐色土。平面形は長径2.48m、短径2.28mのはば円形。壁は緩く立ち上がり、床はほぼ平坦で堅い。覆土・床面ともに多量の礫が混在し、また覆土中からはかなりの量の木炭粒が検出された。炉跡・柱穴は確認されていない。

遺物 1はやや外反する口縁部破片。口唇は丸頭にちかいが、内側に傾斜している。口縁に平行して貼付帯が1条付けられ、貼付带上には繩が押圧されている。繩押圧文は口唇にも施されている。貼付帶下位には短繩文が継位に施文されている。器壁の厚さは8mmである。床面出土。2は小突起を有する口縁部破片。口唇は丸頭状で横位と斜位に貼付帯があり、貼付带上には刻目が施されている。刻目は口唇にもみられる。地文には格子条体压痕文が斜位に施文されている。器厚は5mm。3は短繩文と組合せられた胴部破片。器厚は8mm。2・3は覆土出土。4は口径26.7cm、器高30.3cmの深鉢。口唇は平坦であるが、若干外側に傾斜する。L R・R Lによる結束第1種の羽状繩文が口縁部から胴下半部まで施文されている。口唇にも繩文が認められる。炭化物がa^(付1)、b^(付2)に付着している。底部形態はX 3 aにちかい。5は口径25.6cm、器高28.6cmの深鉢。口唇は平坦であるが、若干内側に傾斜している。L R・R Lによる結束第1種の羽状繩文が口縁部から底部付近にかけて施文されている。底部くびれ部分には継位の繩による押圧文が施されている。炭化物が器内面全体に付着している。底部形態はX 4 aにちかい。4、5は床面出土。6は頁岩製のつまみ付きナイフ。表面右側縁に刃部がある。7は両側縁に二次加工を施した黒曜石製のスクリイバー。8~10は断面三角形のすり石。安山岩製。いずれも長方形のすり面を1か所もつ。11は安山岩の円礫を素材とするたたき石。敲打痕は平坦な面と両側縁にある。敲打痕のある面には擦った痕跡も認められ、すり石にも使用されている。12~14は安山岩製の石皿。12・13は図示した面および反対側の面が、平坦で使用面と考えられる。14は片側の平坦な面に使用面をもつ。石器の重量は、(5.3g)、7:(3.7g)、8:(945g)、9:840g、10:(245g)、11:525g、12:(845g)、13:(520g)、14:790gである。7は覆土、6・8~14は床面出土。

小括 住居とするには一辺が3m弱と小さく、炉や柱穴もないことから、短期間使用の仮小屋的な施設としておく。出土土器は1・2がI b-2、3~5はI b-1に相当する。H-1はI b-1を主体に、I b-2を若干含む繩文時代早期の遺構である。伴出石器にはつまみ付きナイフ・すり石・石皿がある。

注1 炭化物の付着については、直まとめのなかで分類記号化した。

注2 底部形態についても直まとめのなかで分類記号化した。

注3 土器分類記号。詳細については直まとめのなかで述べる。

III A地点の遺構と遺物

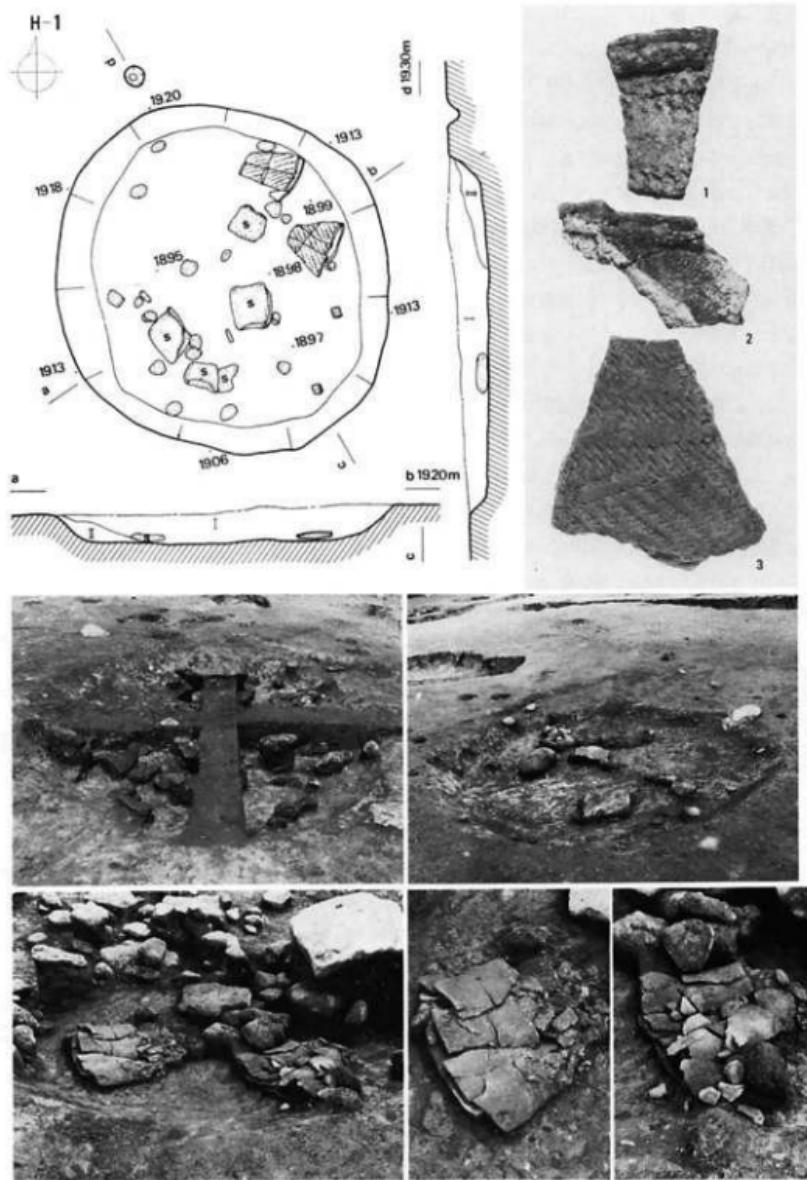


図19 H-1と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

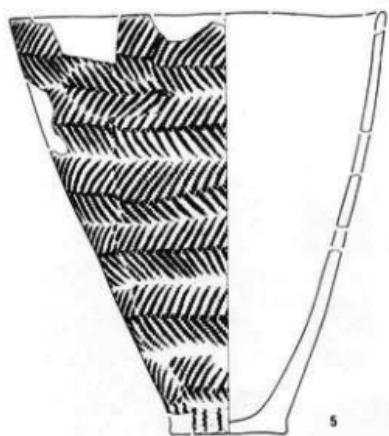


図20 H-1出土の土器

III A地点の遺構と遺物

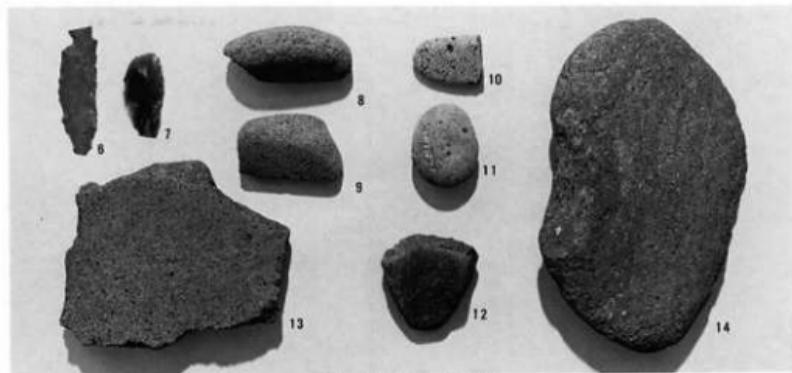
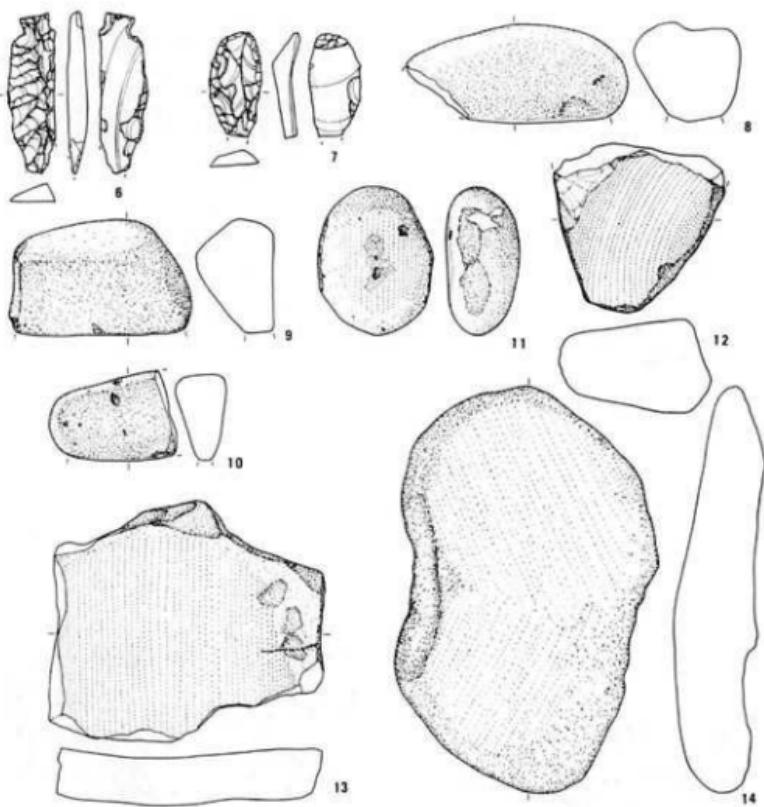


図21 H-1出土の石器

H-3

L25a区にある。覆土は7層に分けられる。
I層は黒褐色土。II層は粘性をもつ暗黒褐色土。
III層は茶褐色土。IV層は黒色土。V層は
黄褐色土。VI層は黒褐色土。VII層は茶褐色土。
平面形は長径1.96m、短径1.8mの円形。

遺物 15はIa-2の胸部破片。貝殻条痕文が横位に施される。器厚5mm。16はIb-1の胸部破片。LR・RLによる結束第1種の羽状繩文が施されている。器厚10mm。17は表面右側縁に刃部をもった、つまみ付きナイフ。18・19はスクレイバー。17~19はいずれも頁岩製。石器の重量は、17:8.6g、18:9.2g、19:(11.1g)である。15・18・19は覆土、16・17は床面出土。

小括 本遺構もH-1と同様の構造をもつ仮小屋的施設と思われる。Ib-1を伴う繩文時代早期の遺構である。

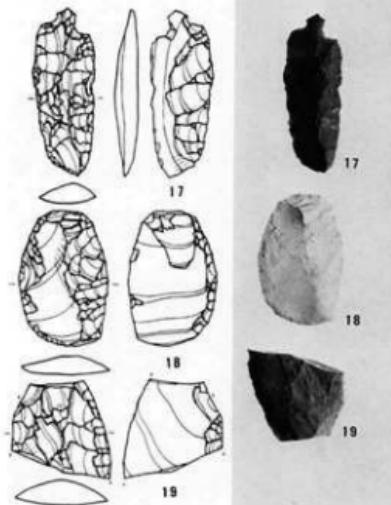
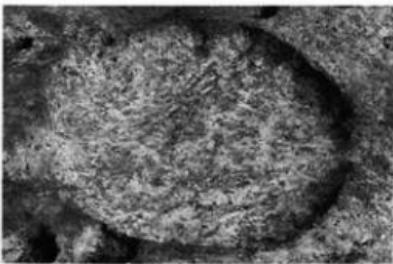
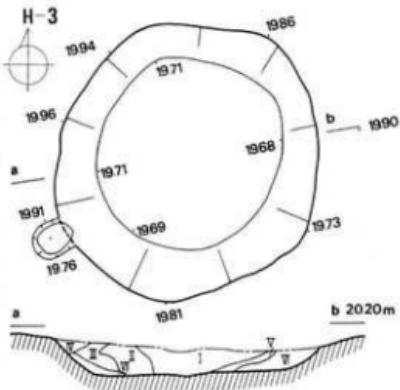


図22 H-3と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

P-1・5 (図23・24)

L23 a区にある。P-1の覆土は2層に分けられる。I層はソフトな黒褐色土。II層は灰黄褐色土。P-1の平面形は長径0.96m、短径0.72mのたまご形。P-5の平面形は長径が0.58m、短径0.44mのほぼ円形。新旧関係は古P-5→新P-1である。

遺物 P-1の覆土中から石錐が9個まとめて出土した。31だけが4軸打ち欠きで、ほかはすべて両端打ち欠きである。重量は、28: 160g、29: 91g、30: 160g、31: 230g、32: 198g、33: 170g、34: 240g、35: 152g、36: 240gである。また、その上面からは図60-102・108のI a-3が出土している。20~27はP-1の覆土出土。20・22は

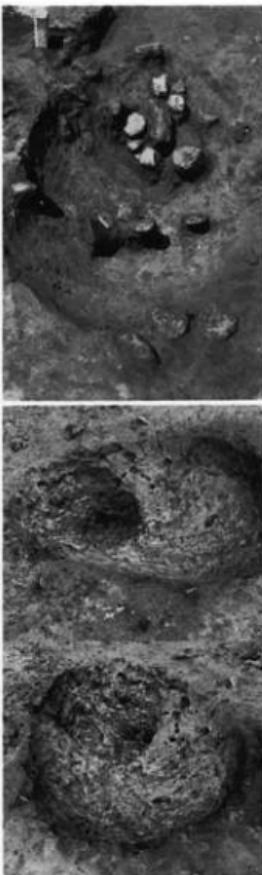
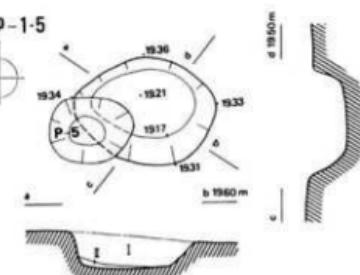


図23 P-1・5と出土遺物

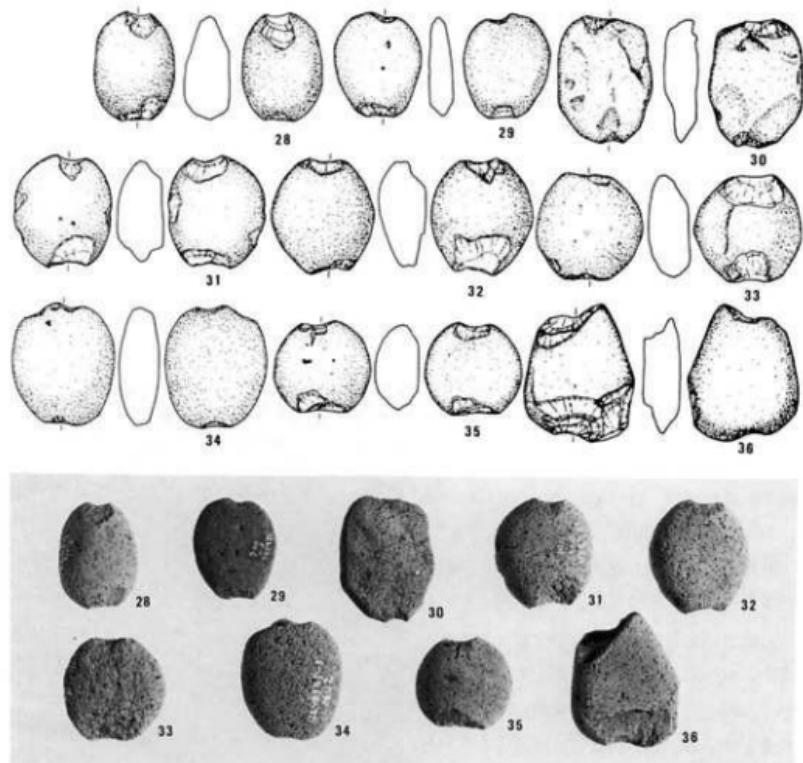


図24 P-1出土の石錘

I a - 3 で、縦位・横位に条痕文が施された胸部破片。胎土に石英・軽石粒を含む。器厚は20が7 mm、22が6 mm。21は貝殻腹縁文、沈線文のある I a - 2 の胸部破片。器厚は6 mm。胎土に多量の石英を含む。23・25・26は I b - 1。23は小突起を有する口縁部破片。口唇は棒状工具で押圧され小波状となっている。口唇断面は丸頭状。縦位の短纏文と横位の絡合体压痕文が施されている。器厚は6 mm。器内面には多量の炭化物が付着している。25は R L 斜纏文と短纏文のある胸部破片。器厚は7 mm。26は L R 斜纏文と短纏文のある底部破片、形態は X 4 a。24は I b - 2 の口縁部破片。口縁に平行して細めの貼付帶があり、貼付帶上には纏押圧文がみられる。地文には R L・L R の羽状纏文が施されている。器厚は4 mm。27は P - 5 の覆土から出土した I a - 2 の底部破片。胎土に石英を含む。無文。底部形態は X 3 a。

小括 P-1 の覆土からは9個の石錘と I a - 2・3、I b - 1・2 の土器が出土した。しかし、底面からの遺物はなく、時期は不明である。P-5 も時期は不明である。

III A地点の遺構と遺物

P-2 (図25、26)

L22 c・d区にある。覆土は5層に分かれる。I層は黒色土で基本層序のⅢ層。II層は黒褐色土で基本層序のⅣ層。Ⅲ層は灰黃褐色土。Ⅳ層は暗黃褐色土で基本層序のV層。V層は灰褐色土で小粒のバミスを含む。なお、対比層序は旧層序である。平面形は長径が1.32m、短径が0.86mのたまご形。深さ0.50m。覆土は非常に堅くしまっていた。

遺物 37は頁岩製の石鏃。裏面に主剝離面を残す。38は黒曜石製の大型石槍片。39は黒曜石製の石槍片。ともに入念な加工が施されている。40はカキ貝殻。41・42は断面三角形のすり石。一面に長方形のすり面をもつ。石器等の重量は37:(1.7g)、39:(3.1g)、40:(4.5g)、41:990g、42:1,930gである。これらは、いずれも底面出土である。土器は図示していないが、底面から1点出土している。表面が剝離しているため文様は不明であるが、おそらくI b-1に比定しうるものと思う。胎土に石英を含む。器内面に炭化物が付着している。なお、底面には遺体と思われる糊状の痕跡がみられた。

小括 本遺構は墓の可能性が強い。底面から石鏃・石槍・すり石・貝と土器が出土した。これらはP-2の副葬品と考えられる。土器が1点しか検出されていないが、I b-1の攤文時代早期に属すると考えて大過なかろう。

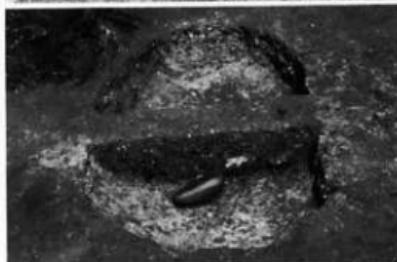
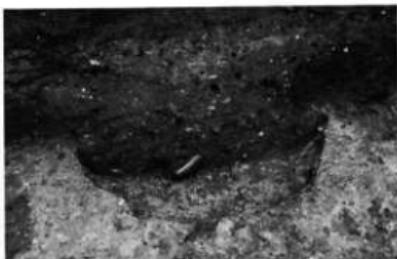
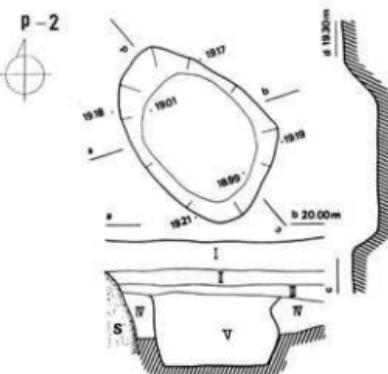


図25 P-2

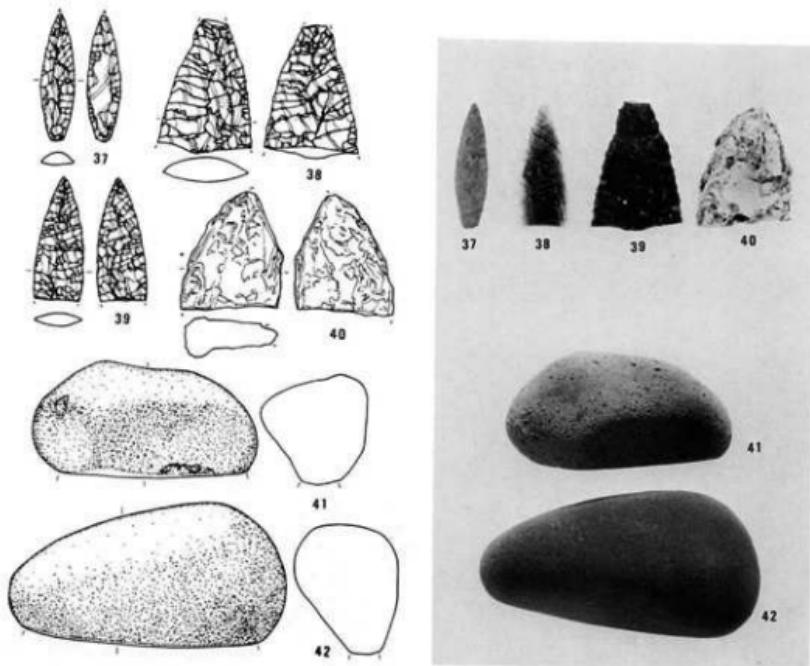


図26 P-2出土の遺物

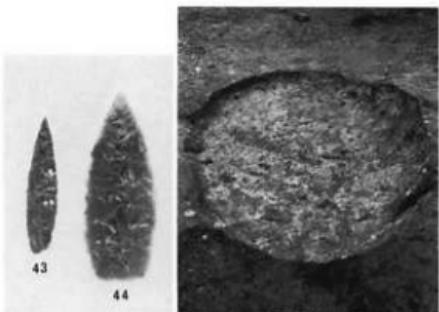
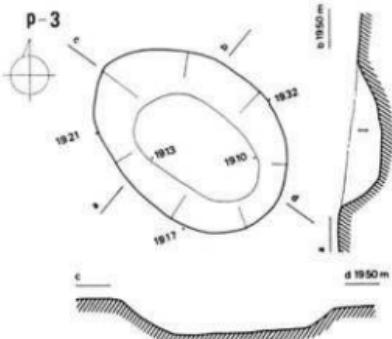
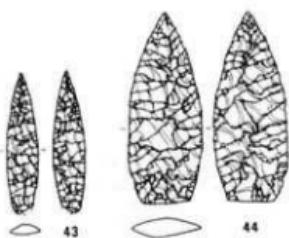
P-3 (図27)

L22c・d、L23a・b区にある。覆土は1層で灰褐色土である。平面形は長径1.48m、短径1.06mの長円形。立ち上がりは明瞭である。形態・規模ともにP-2にちかい。

遺物 43は黒曜石製の石鏃。入念な加工が施され、薄身に作られている。44は長さ6.5cmの石槍の完形品。両面とも入念な加工が施され、比較的薄身に作られている。2点とも覆土中の底面ちかくから出土している。図示していないが、覆土からIa-2の底部とIb-1の太めの縄線文土器が出土している。

小括 本遺構は時期を決定づける土器がないので確定的なことは言えないが、形態・規模、掘り込み面、および出土した石鏃・石槍の形態も同じであることから、P-2と同じくの縄文時代早期に属する墓と考えられる。

III A地点の遺構と遺物



p-4

L22a区にある。本遺構は昭和54年度の詳細分布調査時において確認されたものである。平面形は長径0.48m、短径0.38mの隅丸長方形。遺物は出土していない。

小括 本遺構は規模としては小型の土壙に属し、用途・時期とも不明である。

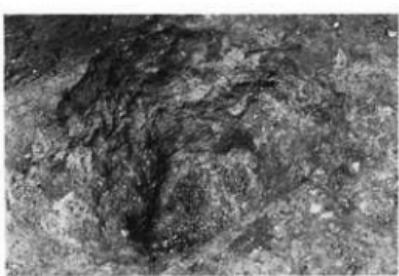
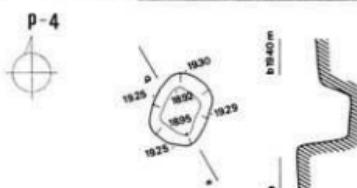


図27 p-3・4と出土遺物

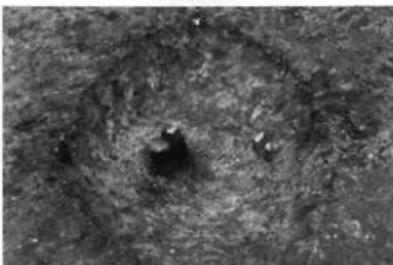
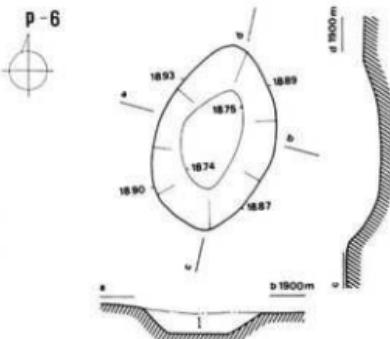
III A地点の遺構と遺物

P-6

M21 d 区にある。覆土は1層で、小粒のバミスを含む灰褐色土。平面形は長径が1.26m、短径が0.80mのややいびつな長円形。底面は若干凸凹しているが、ほぼ平坦で堅くしまっている。

遺物 覆土中から土器1点、碟2点、貝殻片1点が出土した。土器は貝殻条痕文が縦位に施されたI a-2の底部破片。

小括 I a-2は本遺構周辺から多数出土しており、覆土に混入したものと考えられる。規模・形態および貝殻が出土していることから、P-1・3と同じ時期の墓の可能性がある。



P-7

M23 a 区にある。覆土は1層で小粒のバミスを含む灰褐色土である。平面形は長径0.70m、短径0.60mのややいびつな長円形。底面はやや軟弱。

遺物 覆土上部から I b-1 が10点、フレイク1点出土した。45は短纏文とLR斜纏文の組み合わされた口縁部破片。口唇断面は丸頭状。器厚は6mm。46はLR斜纏文のある口縁部破片。口唇断面は丸頭状。器厚は6mm。

小括 繩文時代早期の I b-1 の時期のものである可能性がある。用途は不明。

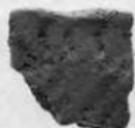
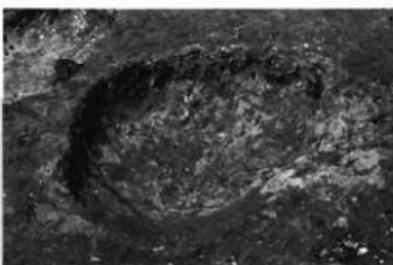
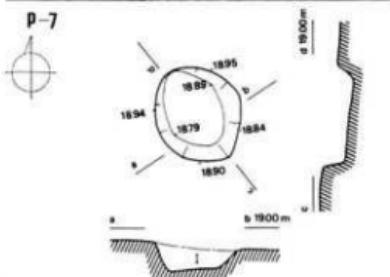


図28 P-6・7と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

P—8 (図29・30)

L23c・L24b区にある。覆土は5層に分けられる。I層は黒褐色土。II層は黒色土。III層は焼土に多量の炭化物を含む赤褐色土。IV層は灰褐色土、V層は黄褐色ローム。平面形は長径1.40m、短径0.96m、の北西部がいびつな長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はほぼ平坦で堅くしまっている。

遺物 覆土中には長大な縄が詰まっており、この縄の下の底面から2個体の土器が押し潰された状態で出土した。48は口径25.8cm、器高27.9cmの深鉢。RL・LRによる羽状繩文が器全面に施文されている。繩文は口唇にも施されている。口唇断面に繩文施文により内側に傾斜している。49は口径が28.2cm、器高は推定で28.4cmの深鉢。LR・RL斜繩文が器全面に施文され、底部内側にもみられる。また、短繩文が底部のくびれたところに施文されている。39・40とも器内全面に炭化物が付着している。覆土からつまみ付きナイフ(47)とフレイク11点が出土した。

小括 I b-1の土器が伴うことから繩文時代早期の墓の可能性が高い。

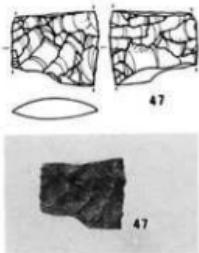
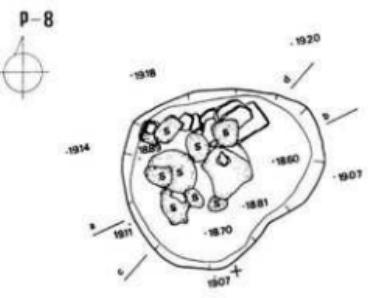


図29 P—8と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

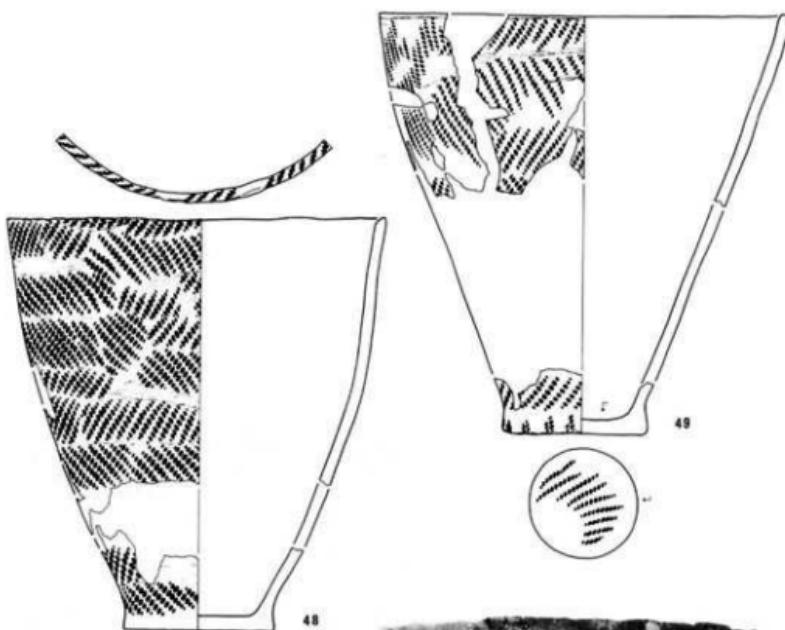


図30 P-8出土の土器

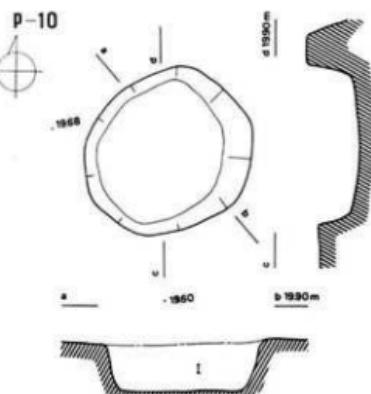
III A地点の遺構と遺物

P-10

L24 a区にある。覆土は1層で、バミスを含む灰褐色土。平面形は長径1.10m、短径1.08mのはば円形。壁は垂直に立ち上がる。底面は平坦で堅い。

遺物 覆土中から砾が1個出土したのみである。

小括 時期・用途ともに不明である。



P-11

M24 a区にある。覆土は1層で、ソフトな黒褐色土。平面形は長径0.56cm、短径0.52cmのはば円形。底面は平坦。

遺物 覆土上部から I b - 2 の底部破片が出土した。底角が「く」の字状にくびれている(X 4 a)。絡条体圧痕文が縦位・斜位に施され、さらにその間に横位の短い絡条体圧痕文が施されている。底部のくびれ部分には縦位の短纏文が押圧されている。

小括 I b - 2 は本遺構に伴うものがどうかはわからない。用途は不明。

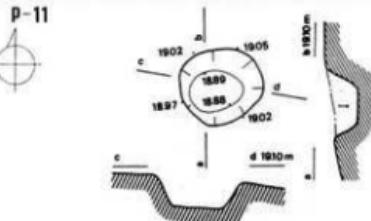


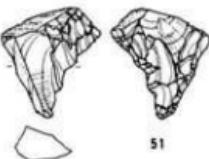
図31 P-10・11と出土遺物

P-12

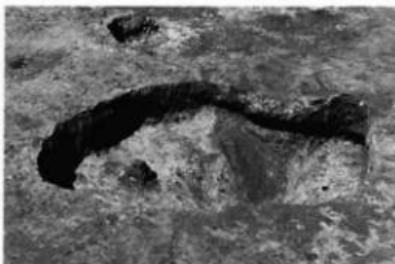
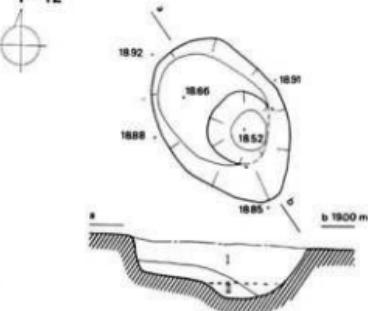
M23 a 区にある。覆土は 2 層に分けられる。I 層はバミスを含む黒色土で、やや粘性をもつ。II 層は暗黄褐色土。平面形は長径 1.20m、短径 0.82m の長円形。底面は凹凸が著しく、南壁よりの底はさらに一段落ち込んでいる。

遺物 図示していないが覆土中から土器が 16 点出土している。そのほとんどが表面剥脱しているため、文様は不鮮明であるが、縦条体压痕文、斜擺文、羽状擺文が施されており、I b - 1 に属しよう。覆土中から黒曜石の加工のあるフレイク(51)と、フレイク 10 点が出土している。

小括 時期は I b - 1 が多く出土していることから、縄文時代早期の可能性がある。用途は不明。



P-12



P-13

K24 b 区にある。覆土は 3 層に分けられる。I 層は粘性をもった黒色土。II 层は暗黄褐色土。III 層は火山灰を含む赤褐色土。平面形は長径 0.92m、短径 0.64m のいびつな長円形。底面は軟弱である。

遺物 覆土中から礫が 1 点出土している。

小括 時期・用途ともに不明である。

P-13

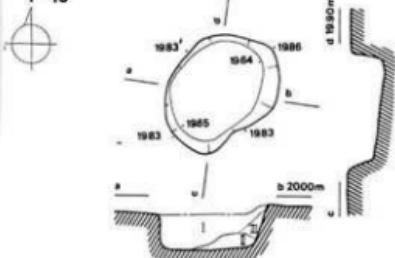


図32 P-12・13と出土遺物

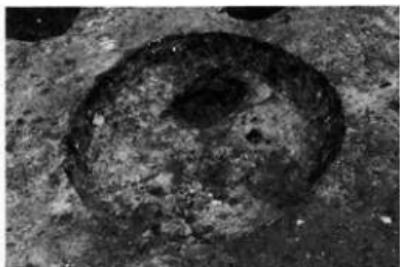
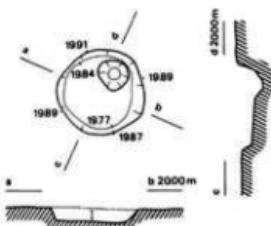
III A地点の遺構と遺物

P-14

K24 b 区にある。覆土は 1 層で、小粒のバミスを含む灰褐色土。平面形は径 0.60m の円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦であるが、やや軟弱。北壁よりの底面に径 0.20m の小ピットがある。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明である。

P-14



P-15

K24 b 区にある。覆土は 4 層に分けられる。I 層は微量のバミス・ローム粒を含む黒色土で粘性をもつ。II 層は茶褐色土。III 層は黄褐色ローム。IV 層は黒褐色土。平面形は長径 0.60m、短径 0.53m のほぼ円形。床面は軟弱である。

遺物 図示していないが覆土から磨製石斧の破片と礫 1 点が出土している。

小括 磨製石斧が、本遺構に伴う可能性は薄い。時期・用途ともに不明。

P-15

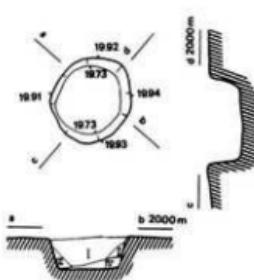


図33 P-14・15

P-16 (図34・35)

K23 b・c区にある。覆土は1層で、バミスを含む灰褐色土。粘性をもつ。平面形は長径2.02m、短径2.00mのいびつな円形。壁の立ち上がりはゆるやかで、底面は皿状を呈している。

遺物 53はIa-2の口縁部破片。口唇は平坦に整形され、やや内側にめくれている(g)。胎土には石英粒を多量に含む。さほど顯著でないが器外面横位に幅広い条痕が施されている。内面は、それとは反対に幅広い条痕が顯著に力強く施されている。器厚は6mm。覆土出土。54はIa-2の胸部破片。器外面に貝殻条痕が施文されている。器厚は7mm。底面出土。52は石皿の破片。図示した面およびその反対の面が、平坦で使用面と考えられる。安山岩製。重量は(4,000g)である。そのほか、覆土中から10数個の礫が出土した。

小括 規模・形態からすれば、H-1・3と同じ機能をもった遺構の可能性がある。底面から石皿が出土していることも、その可能性を示唆している。時期は、Ia-2が底面から出土しているので、おそらくその時期のものであろう。また、さきのH-1

・3がIb-1の時期であり、

その可能性もある。

注 口唇断面形状はVIIまとめのなかで分類記号化している。

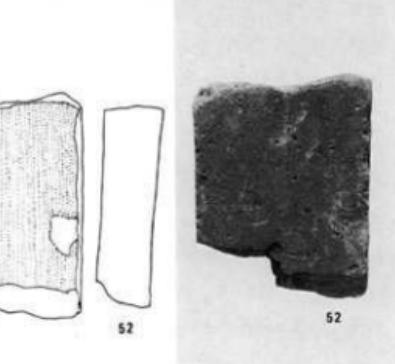
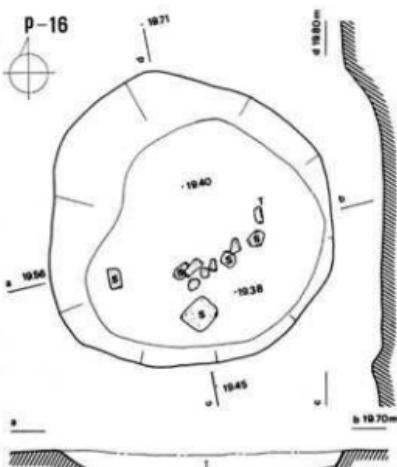


図34 P-16と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

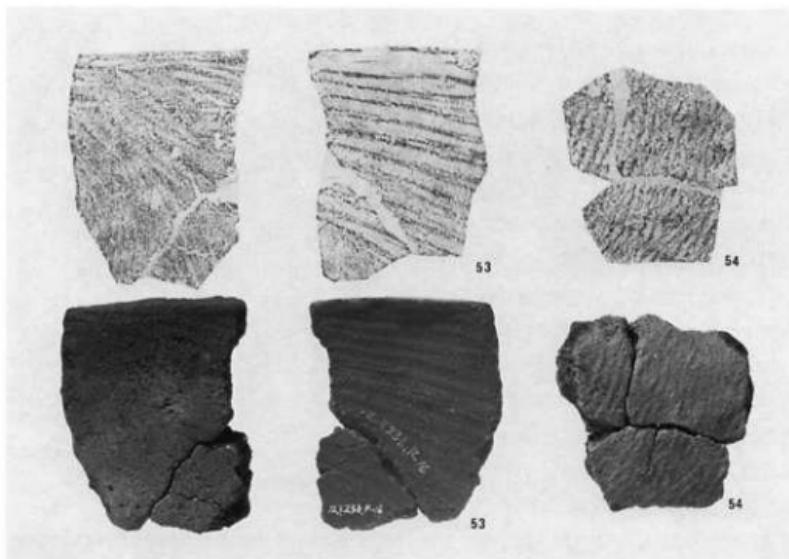


図35 P-16出土の土器

P-17 (図36)

M22 d区ある。平面形は長径0.60m、短径0.46mの長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凸凹である。

遺物 覆土中から安山岩製のくぼみ石が1点出土しているのみである。重量は300g。

小括 時期・用途とも不明である。ただ、H-1の南西にあり近接しているため、H-1と何らかの関連があるかもしれない。

P-18 (図36)

L24 aにある。覆土は3層に分けられる。I層は少量のバミスを含む灰褐色土。II層は粘性をもつ灰褐色土。III層はバミス混りの黄褐色土。覆土は人為的な埋土の可能性が強い。平面形は長径0.72m、短径0.06mのほぼ円形。北壁壙口部がややオーバーハングしフラスコ状にちかい断面形をもつ。その他の壁は立ち上がりが急である。底面はやや凸凹している。

小括 時期・用途ともに不明。

P-19

L24 a区にある。覆土は1層で、小粒のバミスを含む黒褐色土。平面形は長径0.52m、短径0.48mの円形。小型の土壤で断面はボウル状。

遺物 56はI b-2の口縁部破片。口唇断面は尖頭状。口縁には2段の貼付帯があり、貼付帯上には繩文とR Lの斜縫文が施されている。器内面には炭化物が付着している。器厚は6mm。覆土から出土。57は底面出土の石錐。安山岩製。両端に打ち欠きがみられる。重量は40.3gである。

小括 時期の決め手に欠けるが、繩文時代早期に属しよう。用途は不明である。

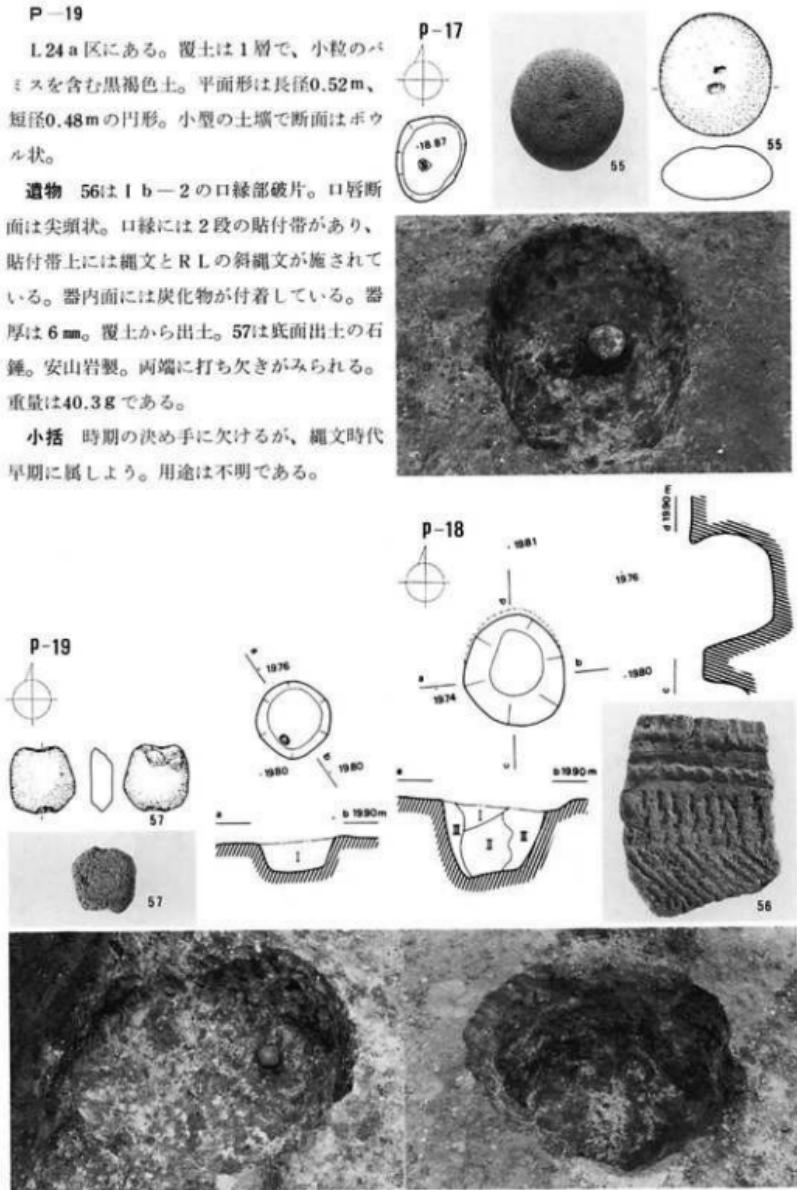


図36 P-17・18・19と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

P-20 (図37・38)

K26c区にある。平面形は長径1.81m、短径1.49mのややいびつな長円形。壁の立ち上がりは垂直にもかい。底面は皿状。

遺物 土器は17点出土している。58はI-a-2の胴部破片。器内外に横位の貝殻条痕文が施されている。器厚は5mm。覆土出土。59-61はI-b-1。59は斜繩文と短繩文の組み合わされた胴部破片。器厚は10mm。60より結束第1種の羽状繩文を施した胴部破片。器厚は10mm。胎土、施文などが59に近く同一個体の可能性が強い。61はR.L.+L.Rの斜繩文のある底部破片、底角は若干張り出す(X3a)。器厚は10mm。59は底面出土。58・60・61は覆土出土。62・66・67は両面に入念な加工の施された黒曜石製の石鎚。68は黒曜石製の石槍。両面に入念な加工が施され、全体が薄身に作られている。63・70はつまみ付きナイフ。いずれも表面右側縁に刃部を作り出している。63は黒曜石製、70は頁岩製。64・65は加工痕



図37 P-20と出土遺物

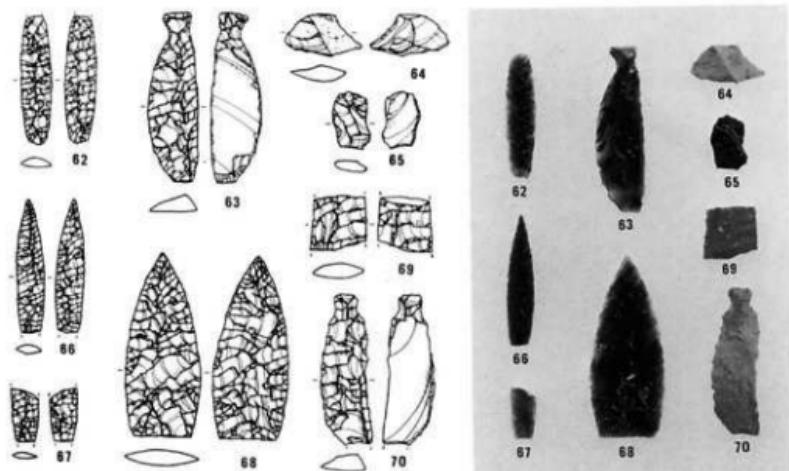


図38 P-20出土の石器

のあるフレイク。64は頁岩、65は黒曜石である。69は頁岩製の石槍片と思われる。両面とも入念な加工が施されている。石器の重量は62:(1.6) g、63:5.0 g、64:(0.8) g、65:(0.8 g)、66:(1.1) g、67:(0.4) g、68:8.9 g、69:(2.6) g、70:(4.3) gである。62~65は底面出土、66~70は覆土出土である。

小括 時期は I b - 1 を伴うことから縄文時代早期に属する。伴出石器は石鏃・つまみ付きナイフ・加工痕のあるフレイクである。覆土出土の石槍なども本遺構に伴う可能性が強い。石槍は、P-2・3のものと形態的に極めて類似しており、さらには遺構の規模・形態からみてもP-2・3同様、墓の可能性が高い。

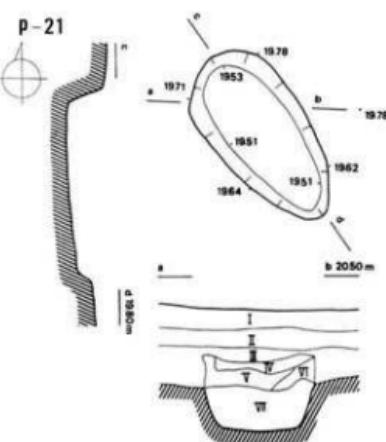
P-21(図39)

K25c・L25d区ある。覆土は7層に分けられる。I層は黒色土で基本層序のIII層に対比。II層は赤褐色土で基本層序のIV層。III層はバミスを含む黒褐色土。IV層はローム粒を含む褐色土。V層はバミスを含む黄褐色土。VI層は暗黄褐色土。VII層は粒性のある黒褐色土である。なお、対比層序は旧層序である。平面形は長径1.32m、短径0.64mの長円形。掘り込み面はP-2・3と同じ層位であることが確認された。覆土は人為的な埋土の可能性が強い。壁はほぼ垂直に立ちあがり、底面は平坦である。

遺物 覆土から土器18点、フレイク11点が出土した。71はIb-1の胴部破片。縦位に短縄文が施されている。器厚は8mm。72はIa-2の底部破片。底角はX1。横位の貝殻条痕文が施されている。

III A地点の遺構と遺物

小括 覆土から出土した土器はI b-1に相当する。したがって、時期は縄文時代早期のI b-1の時期の可能性がある。本遺構の規模・形態などからP-2に類似しており、墓の可能性もある。



P-22

K26 a + b区にある。覆土は1層で、細粒のロームを含む茶褐色土。平面形は長径1.40m、短径0.93mのややひびつな長円形。底面は皿状であるが中央部は平坦である。

遺物 底面から径20cm程の扁平な礫が1点出土したのみである。

小括 時期・用途ともに不明である。本遺構の規模・形態はP-2・3と類似している。

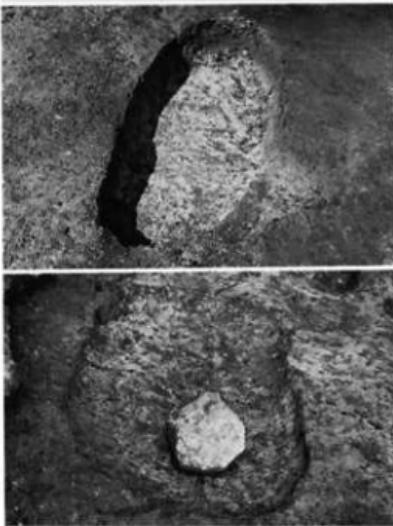
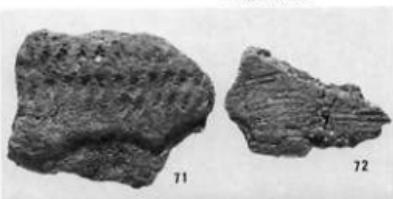
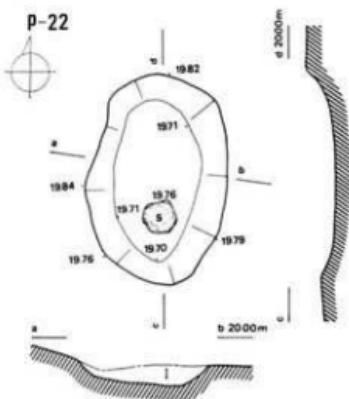


図39 P-21・22と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

P-23 (図40・41)

L 25 d 区にある。覆土は 5 層に分けられる。I 層は黄褐色の火山灰。II 層は多量のバミスを含む茶褐色土。III 層は細かい粒子状の黒色土。IV 層は少量のバミスを含む黒色土。V 層はバミスを含む黒褐色土である。平面形は長径 1.58m、短径 1.26m の長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。底面は堅くしまっている。

遺物 73~78 は底面出土の石器。73~76 は黒曜石製の石鏃。両面に入念な加工を施し全体が薄身に作り出されている。77 は頁岩製のラウンドスクレイバー。78 は安山岩製のすり石。長方形のすり面をもっている。重量は 73 : (0.6) g, 74 : (0.6) g, 75 : (1.25) g, 76 : (1.3) g, 77 : (4.3) g, 78 : (415) g である。土器は 18 点出土している。79 は土壤上層（壙口部）から出土した I b-2 の口縁部破片である。口径は 29.3cm。口縁は大きな波状を呈し、2 本の貼付帯が施されている。貼付带上には縫が押圧されている。文様の構成は口縁部と胴中央部を周縁する貼付帶によって区画され、その間に 2 ~ 4 本の縦位の貼付帶が施されている。縦位の貼付帶は展開図に示すとおり、波頭部の貼付帶は胴中央部の

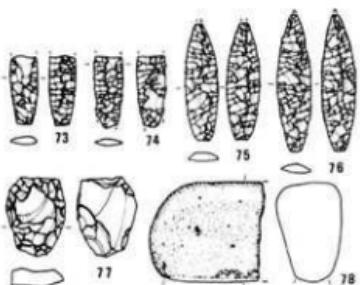
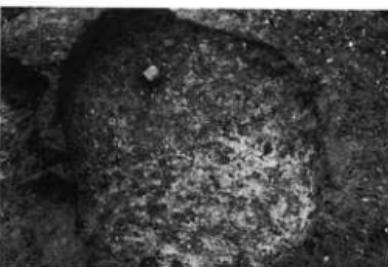
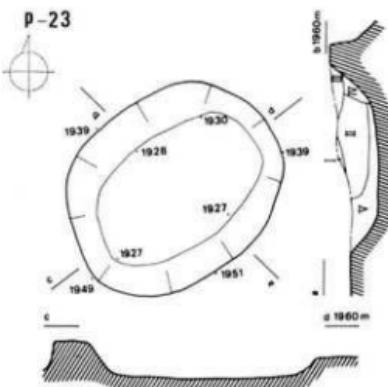


図40 P-23と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

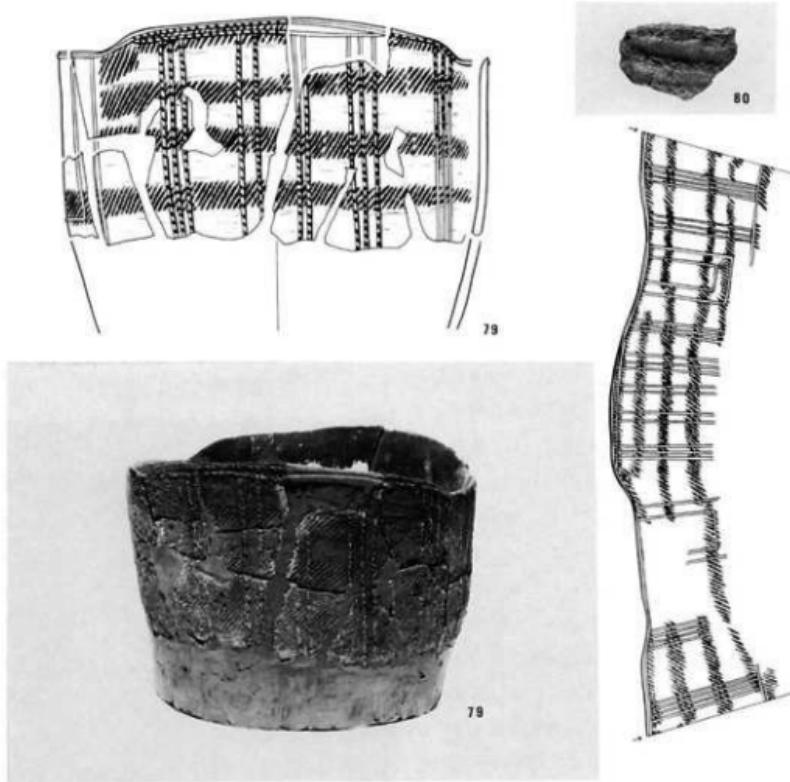


図41 P-23出土の土器

貼付帯と接続するが、他に「コ」の字状に完結するものもある。地文には幅1.5~3cmのL R斜縞文が5段横位に施文されている。80は組紐圧痕のみられるI b-1の胸部破片。内面に炭化物が付着している。器厚は5mm。覆土出土。

小括 土器は壙口部からI b-2、覆土からはI a-3、I b-1が出土しており、昭和55年度の調査者は壙口部から出土したI b-2の時期の墓の可能性を考えているが、本遺跡においてはほかに壙口部に土器を副葬する事例がないことから時期決定は困難かと考える。本遺構に伴う石器には石鏃、スクレイバー、すり石があり、石器組成から縄文時代早期のI b期であることには違いない。

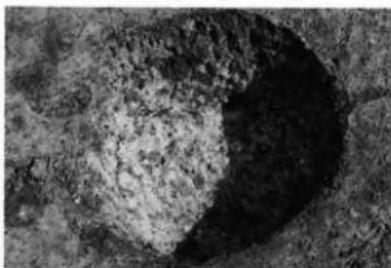
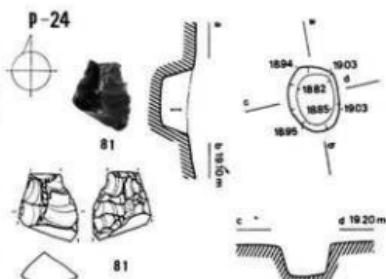
III A地点の遺構と遺物

P-24

M25 a 区にある。覆土は1層で、少量のバミスを含む黒色土。平面形は長径0.45m、短径0.35mの長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦である。

遺物 81は黒曜石製の石槍？片。重量は(3.6) gである。底面出土。

小括 本遺構に伴うのは石槍？片のみであり、時期を決定づけるのは困難である。用途も不明。



P-25

M25 d 区にある。覆土は2層に分けられる。I層はバミスを含む黒色土。II層は黄褐色ローム粒を含む茶褐色土。平面形は長径0.84m、短径0.80mの円形。土壤断面はボウル状で、底面は小さく若干凸凹している。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明である。

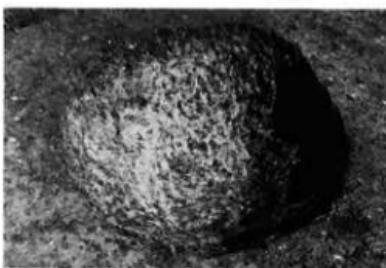
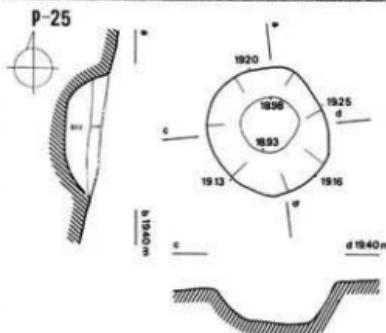


図42 P-24・25と出土遺物

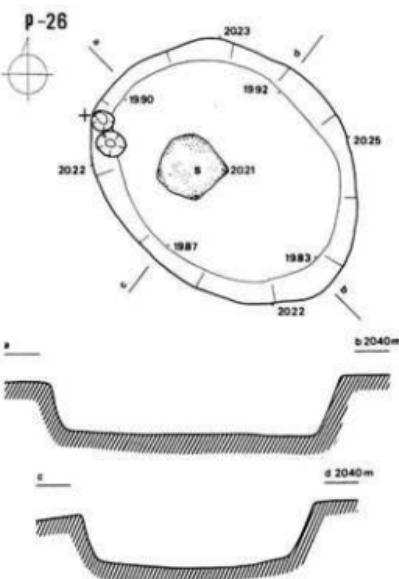
III A地点の遺構と遺物

P-26

K25 a・b区にある。平面形は長径2.00m、短径1.60mの長円形。底面は平坦である。

遺物 覆土中から径0.40mの砾が1個出土しているのみである。

小括 時期・用途ともに不明である。

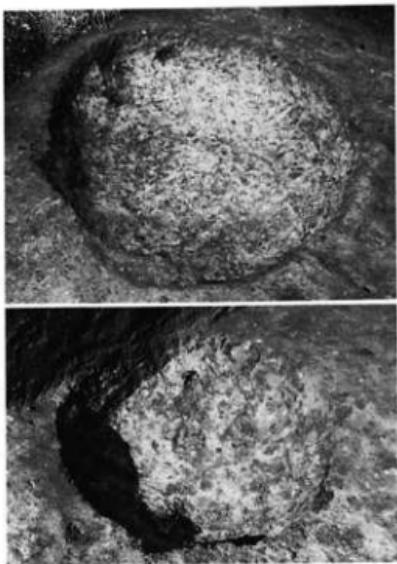


P-27

L24 d区にある。覆土は2層に分けられる。I層は微量のローム粒を含む黒褐色土。II層はブロック状のローム粒を含む黒褐色土。平面形は長径0.65m、短径0.55mのややいびつな長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。床面は平坦である。

遺物 覆土上層部から砾1個出土。

小括 時期・用途ともに不明である。



P-27

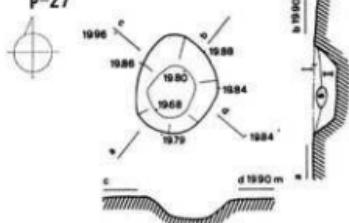


図43 P-26・27と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

P-28

L24 d区にある。覆土は2層に分けられる。I層はバミスを含む褐色土。II層は黄褐色土。本遺構は2つの土壤が切り合い、破線がその切り合い部分にある。北側の土壤(P-28 A)が南側の土壤(P-28 B)を切っている。Aの平面形は長径0.40m、短径0.24mの長円形。Bの平面形は長径0.40m、短径0.22mの長円形。

遺物 82は黒曜石製の加工痕のあるフレイク。83は安山岩のすり石。重量は82:13.2g、83:650gである。P-28 Aの覆土出土。

小括 A・Bとも時期・用途は不明。

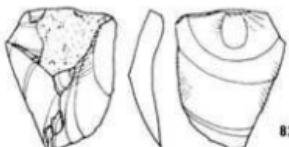
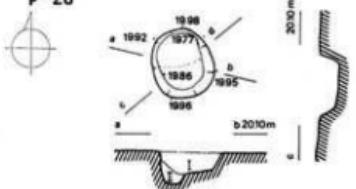
P-29

L24 d区にある。平面形は長径1.50m、短径1.00mの長円形。南側に一段深い小土壤が確認されたが、本遺構に付随するものかどうか不明。

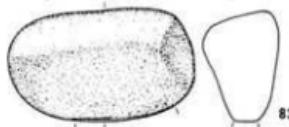
遺物 84は頁岩の加工痕のあるフレイク。重量は7.7g。覆土出土。

小括 時期・用途ともに不明である。

P-28



82



83

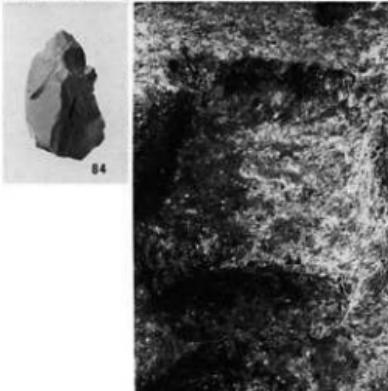
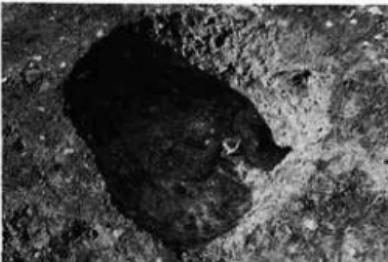


図44 P-28・29と出土遺物

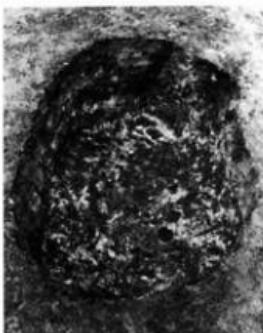
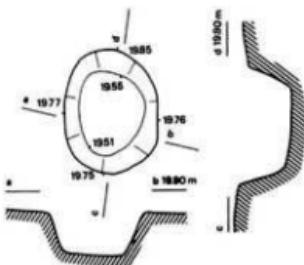
III A 地点の遺構と遺物

P-30

L 24 d 区にある。平面形は長径0.84m、短径0.64mの長円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面はやや凸凹している。

遺物 覆土からフレイクが1点出土。

小括 時期・用途ともに不明である。



P-31

L 25 b 区にある。覆土は2層に分けられる。I層はバミスを含む黒褐色土。II層は黒褐色土。平面形は長径0.60m、短径0.56mのいびつな円形。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は平坦で堅い。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明である。

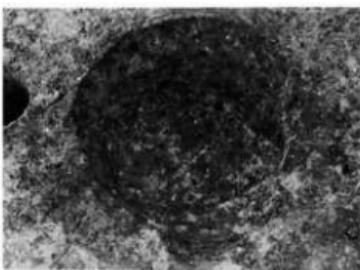
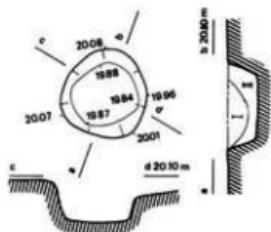


図45 P-30・31

P-32

K25 b 区にある。3つの土壤が切り合っている。P-32・41の覆土は4層に分けられる。I層は少量のバミスを含む黒褐色土。II層は少量のローム粒を含む黒褐色土。III層はI層を混じた黄褐色土、IV層は少量のローム粒を含む黒色土。平面形は長径0.94m、短径0.78mの長円形。覆土は堅くしまり、人為的な埋土である。底面は平坦で堅い。

遺物 底面から単節の羽状繩文の施されたI b-1、疊1個、砂岩の砥石(85)が出土している。砥石の重量は210gである。

小括 時期はI b-1が底面から出土しており、繩文時代早期に属する。用途は不詳であるが墓の可能性もある。なお、P-32・33・41の新旧関係は古33・41→新32である。

P-33

覆土は3層に分けられる。I層は多量のバミスを含む茶褐色土。II層は少量のバミスを含む黒褐色土。III層は黄褐色ローム土。平面形は長径(0.55)m、短径(0.50)mの円形であると思われる。底面はほぼ平坦で堅い。遺物は出土していない。

小括 時期はI b-1以前か同時期である。用途は不明。

P-41

覆土の土層はP-32参照。平面形は長径0.58m、短径0.52m円形。底面はほぼ平坦で堅い。遺物は出土していない。

小括 時期はI b-1以前か同時期である。用途は不明。

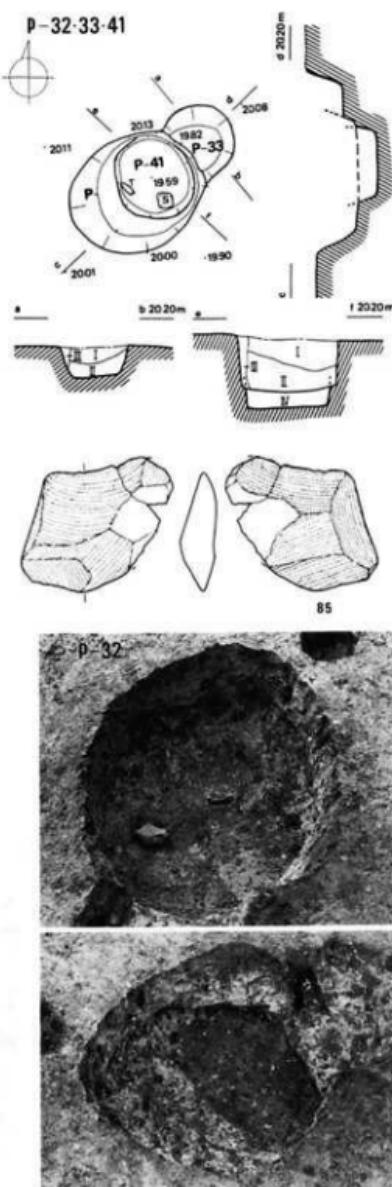


図46 P-32・33・41と出土遺物

III A地点の遺構と遺物

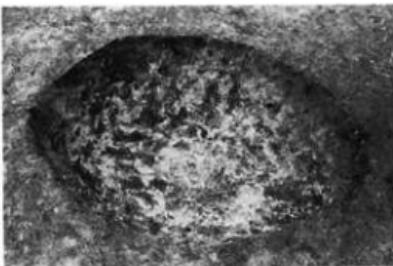
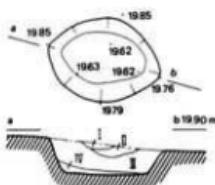
P-36

L24 d区にある。覆土は4層に分けられる。I層は赤褐色の焼土。II層も淡褐色の焼土。III層はローム粒に焼土が少量混入する黄褐色土。IV層は黄褐色土。平面形は長径0.78m、短径0.58mの長円形。壁はややゆるやかに立ち上がる。底面はほぼ平坦で堅い。土壤中央の壙口部において焼土を確認したが、炭化物はみあたらなかった。

遺物 覆土中から器外面の磨耗したI b-1の胸部破片が3点出土している。

小括 時期はI b-1が出土しているので、縄文時代早期の可能性も考えられる。この土壙は焼土が検出されているものの、炉跡ではない。用途は不明である。

p-36



P-37

L24 d区にある。平面形は長径0.90m、短径0.65mのややいびつな長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。底面はやや軟弱で凹凸がある。

遺物 覆土中からI aの底部破片2点とI b-1の口縁部破片2点が出土している。86は短縄文とLR斜縄文の組み合わされたI b-1の口縁部破片。口唇断面は丸頭状、器内面に炭化物が付着している。器厚は5mm。

小括 時期はI b-1の可能性もあるが確言できない。用途は不明である。

p-37

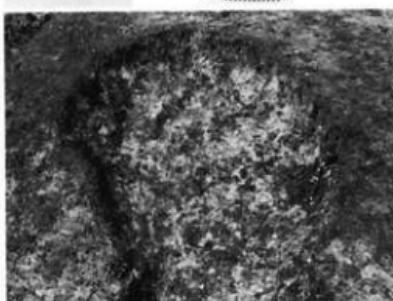
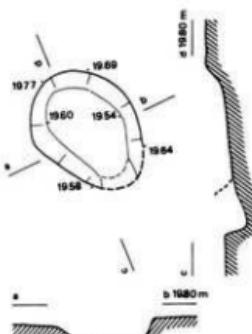


図47 P-36・37と出土遺物

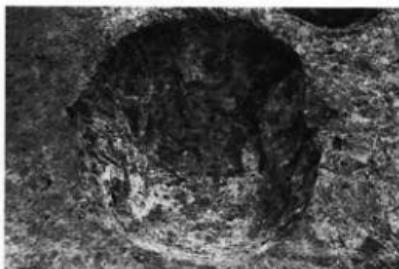
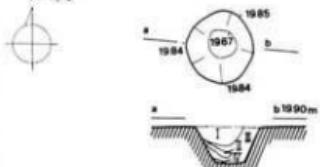
III A地点の遺構と遺物

P-38

L24c区にある。覆土は4層に分けられる。I層はバミスを含む黒褐色土。II層は茶褐色ローム土。III層は黒褐色土。IV層はローム粒を含む黒褐色土。平面形は長径0.50m、短径0.46mの円形。土壤の断面はボウル状。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明である。

p-38



P-39

K25b区にある。平面形は長径0.90m、短径0.76mの長円形。壁はゆるやかに立ち上がる。底面は軟弱で凸凹している。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明である。

p-39

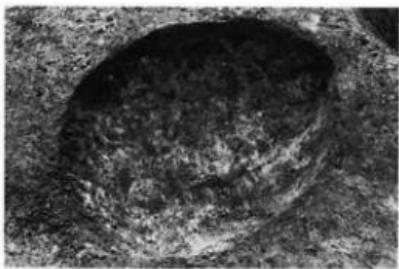
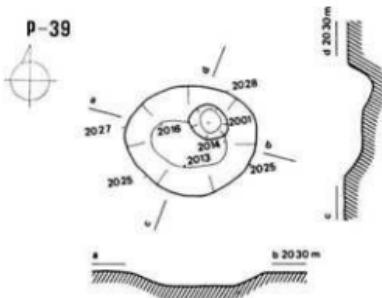


図48 P-38・39

III A地点の遺構と遺物

3 遺物

(1) 土器群

I群a-2類⁽¹⁾ (図3・4、図49-59、図64・65-139-157、164-165)

I群a-2類は、縄文時代早期の土器群のうち、貝殻条痕文・貝殻腹縁文・沈線文・刺突文・貝殻押し引き文等の文様をもった土器群である。器形は平底深鉢を主体とするが、尖底深鉢もある。当該期の土器群は文様の組み合わせから12の類型に分類が可能である。以下、各類型について記述するが、個々の詳細な特徴については表3を参照されたい。

I群a-2類1 (図51-52-12-20) 貝殻腹縁文を主体としたもの。12・13が波状口縁、そのほかは平縁である。口唇断面はすべて外側に傾斜(d)する。貝殻腹縁文には3種類の施文具が確認された(腹縁文-a・b・c)。12-15は腹縁文aであり、腹縁文aは口唇にも施文されている。口縁に施文されている腹縁文は、器全面を被覆するもの(12)、まばらなもの(13)、横位・斜位のもの(14・15)がある。なお、15の器内面には横位の条痕文が施文されている。16・17は腹縁文aと腹縁文bの組み合わせられた例である。腹縁文aは原体を縦位に押し引きしたものである。腹縁文bは口縁上部に2本単位に施文されている。18-20は腹縁文cを口唇・口縁部に施文している例である。18・19は櫛目状の押捺文がまばらに施される例。20は密な原体(一見、格子状痕文風)によって横位・斜位に施された例である。

I群a-2類2 (図51-52-21-28) 貝殻腹縁文+沈線文を主体としたもの。25・26は波状口縁である。21は沈線文による山形モチーフを描いたもの。口唇・口縁上部に腹縁文aが施文されている。22-24は太めの沈線と沈線間を腹縁文aで充填した例。いずれも口縁部には縦位の腹縁文aが施文されている。22・24の口唇には腹縁文aが施されている。沈線内に刺突のあるもの(2b)が22-24で認められる。25・26は腹縁文cと2bの組み合わせられた例である。2-4本単位の2bとその空間を腹縁文cで充填したもの。腹縁文cは口唇にもみられる。27は2cと腹縁文cが組み合わされており、2cの刺突は沈線文の交点に施される。腹縁文cは口唇にもみられる。28は沈線文+腹縁文cの組み合わせられた例である。腹縁文cは口唇にもみられる。

I群a-2類3 (図49-50-1、図51-52-29-32) 貝殻腹縁文+沈線文+刺突文を主体としたもの。1は全体の文様構成が判別できる例である。口径は21.3cm。胴上部にある沈線を区画文として、口縁と沈線との間を腹縁文aによる菱形が構成されている。その交点には刺突列(5b)が垂下する。胴下半部には横位の条痕文が施文され、条痕文は器内面にも顕著に認められる。腹縁文aは口唇にも施されている。29は沈線文とその交点に刺突列が垂下する例である。沈線文間は腹縁文aで充填されている。腹縁文aは口唇・口縁部内面にも施されている。30は沈線文が横位に施され、その間を刺突文(5a)と腹縁文aが充填している。胴下半は押し引き状の腹縁文aが縦位に記されている。31は口縁に近い胴部破片。多数の沈線文が施され、その交点に刺突列が垂下する。口縁部と胴部とを区画する2段の刺突列(5a)が横位にめぐる。刺突列下位は条痕文が施されている。口縁付近には腹縁文bが横位に施文されている。32

は沈線文+その交点に刺突文が施された例。口縁部・口唇に腹縁文cが施文されている。

I群a-2類4(図53・54-33~38)貝殻腹縁文+刺突文を主体とするもの。33~35は腹縁文a・c+刺突文(5a)の組み合わされた例である。腹縁文aは器外面全体に施されるのに對して腹縁文cは口縁部あるいは口唇に限られている。口縁内面にも腹縁文cが斜位に施されている。刺突文は横位に2段施文されている。36は33~35の組み合わせに垂下する刺突列(5a)の加わったもの。37は腹縁文a+刺突文の組み合わせ。腹縁文aは器内面にも施されている。地文に若干の条痕文が認められる。38は地文の条痕があり、口唇・口縁部に腹縁文aが施された例。垂下する刺突列(5b)がある。条痕文は器内面にも施されている。

I群a-2類5(図53・54-39)貝殻腹縁文+貝殻押し引き文を主体とするもの。4条の貝殻押し引き文が2段施文され、その空間に腹縁文aを充填。腹縁文aは口唇にもみられる。

I群a-2類6(図49・50-2・4、図53・54-40~52)貝殻腹縁文+貝殻条痕文を主体とするもの。2は波状口縁・口径19.5cm。口縁および口唇に腹縁文aが施文されている。地文には貝殻条痕文が器内外に認められる。40・45は地文に貝殻条痕文を施し、さらに腹縁文aをまばらではあるが全面に施文している。4、41~44、46~48は口縁上部に腹縁文aを1~2条施文した例。地文には横位の貝殻条痕文が施されている。4は口径14cm。口唇に腹縁文aが施される。49~52は腹縁文c(一見、絶条体圧痕文風)が縱位、横位に施文された例。腹縁文cは口唇にも縱位されている。

I群a-2類7(図49・50-3・5、図55・56)沈線文を主体とするもの。3は口径8.6cm、器高9cm。口縁は四つの波状をもつ。底部中央には焼成前の円孔が穿たれている。波頭部より垂下する沈線文を基線として菱形のモチーフが構成されている。5は細い沈線文が器外面全体に施されている例。53は横位の沈線文を基線として沈線による矢羽根状のモチーフを構成している。54も同様の構成。55もややいびつな構成であるが、53と同じモチーフ。53・55には地文に貝殻条痕文がある。56は沈線文と2bの沈線文が組み合わされた例。口唇および口縁内面に腹縁文aが施される。

I群a-2類8(図55・56-57~64)沈線文+刺突文を主体とするもの。57・58は沈線文の交点に刺突(5b)のある例。腹縁文aが口唇・口縁内面のある例。59の沈線文は浅い。60・61は刺突列を基線として太めの沈線文が「く」の字状に施されている。62は地文に貝殻押し引き文のある例。63は2段の爪形刺突文(5c)のある例。64は腹縁文aが口唇・口縁内面に施されている。

I群a-2類9(図49・50-7、図55・56-65・66)刺突文を主体とするもの。7は口径20cm。器形は尖底の可能性もあるが断言できない。器内外全面に貝殻条痕文が施される。円形刺突文が口縁上部に囲繞している。65の穿孔は焼成前である。66の腹縁文cは絶条体圧痕文のよう見える。

I群a-2類10(図55・56-67)貝殻押し引き文を主体とするもの。地文に貝殻条痕文が施されている。

III A地点の遺構と遺物

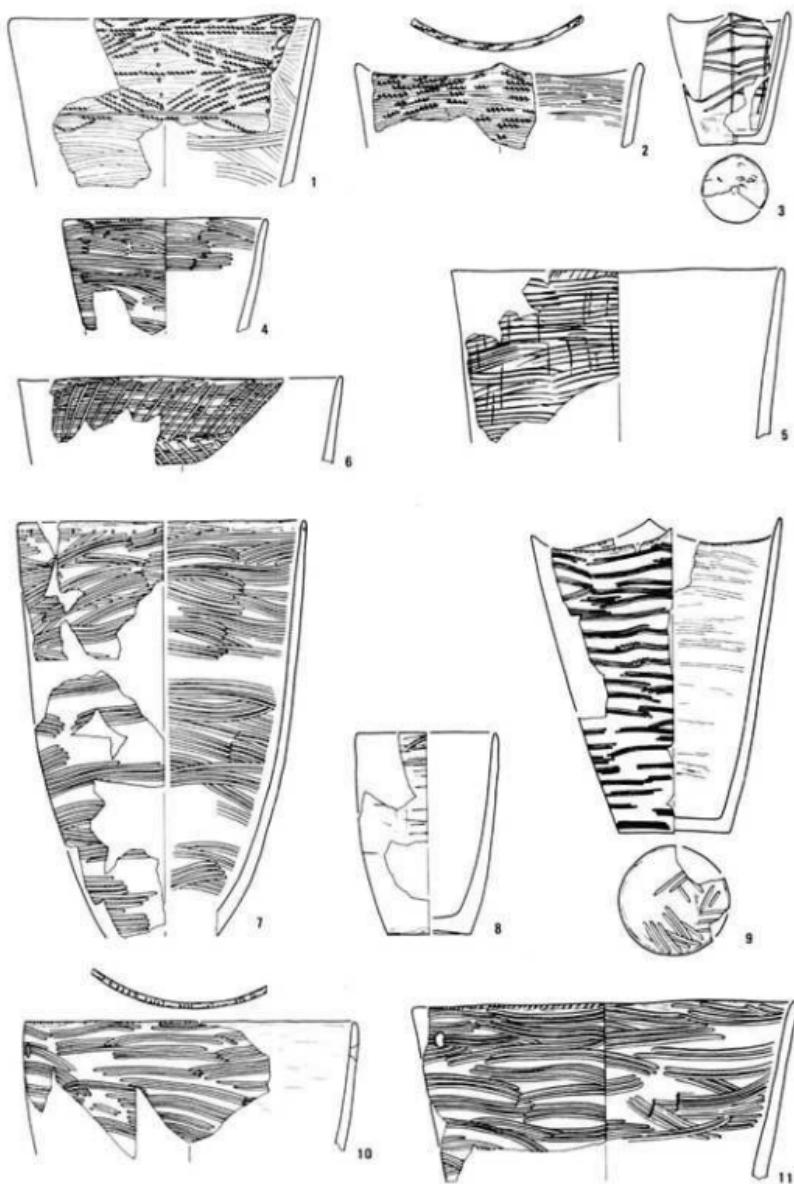


図49 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物

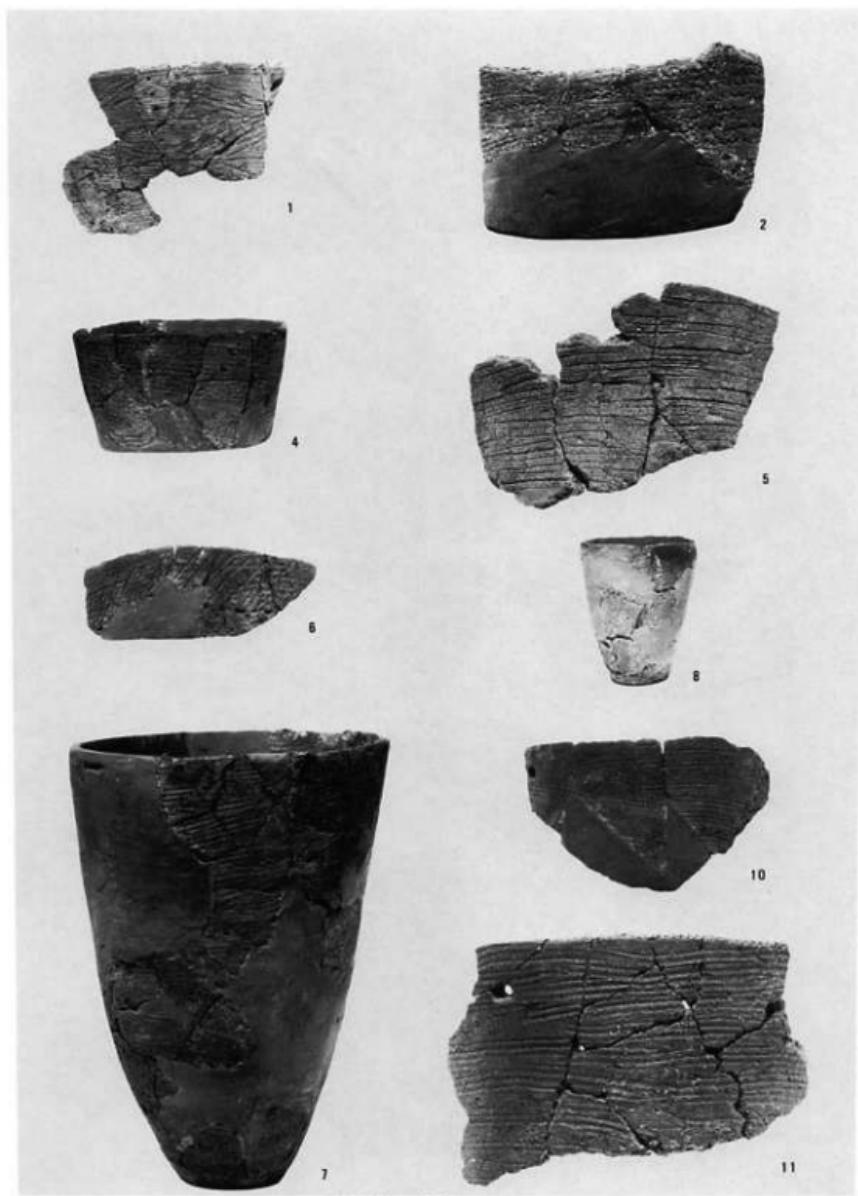


図50 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物

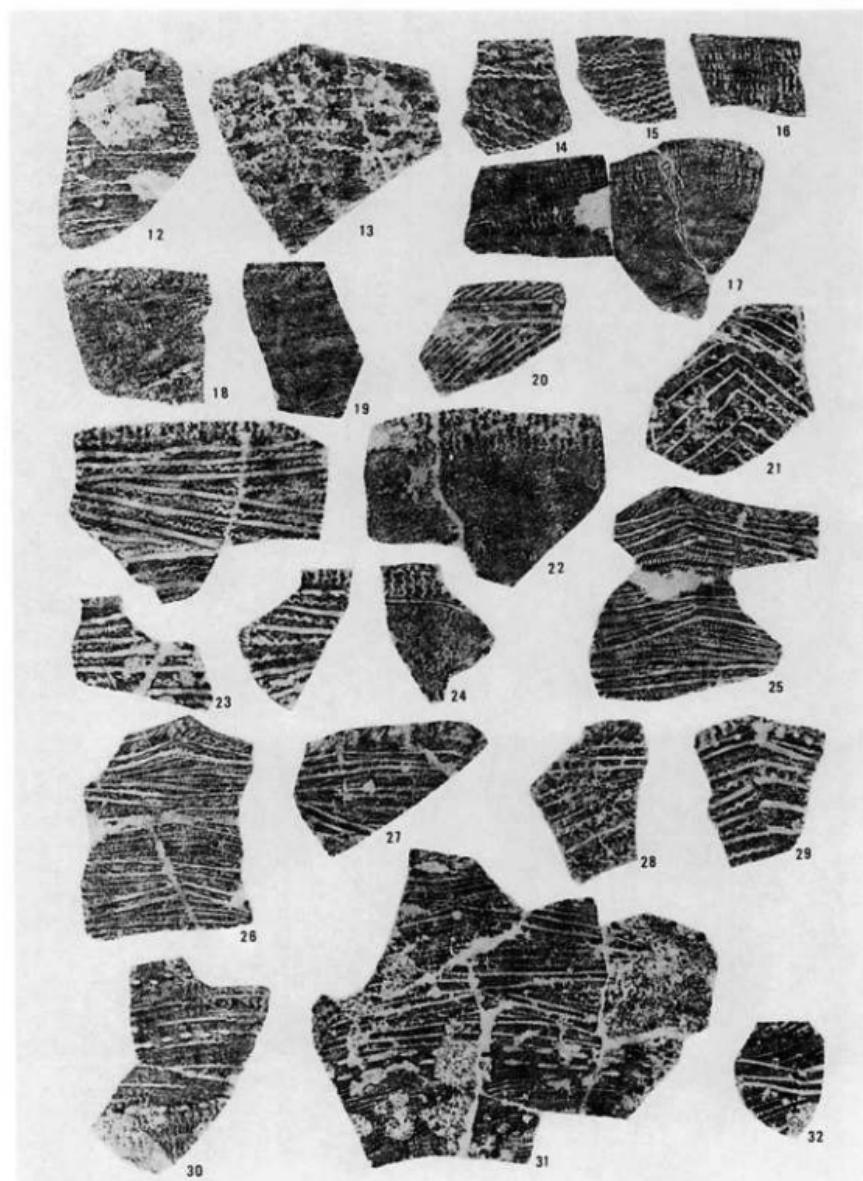


図51 A地点出土の土器群（I群 a—2類）

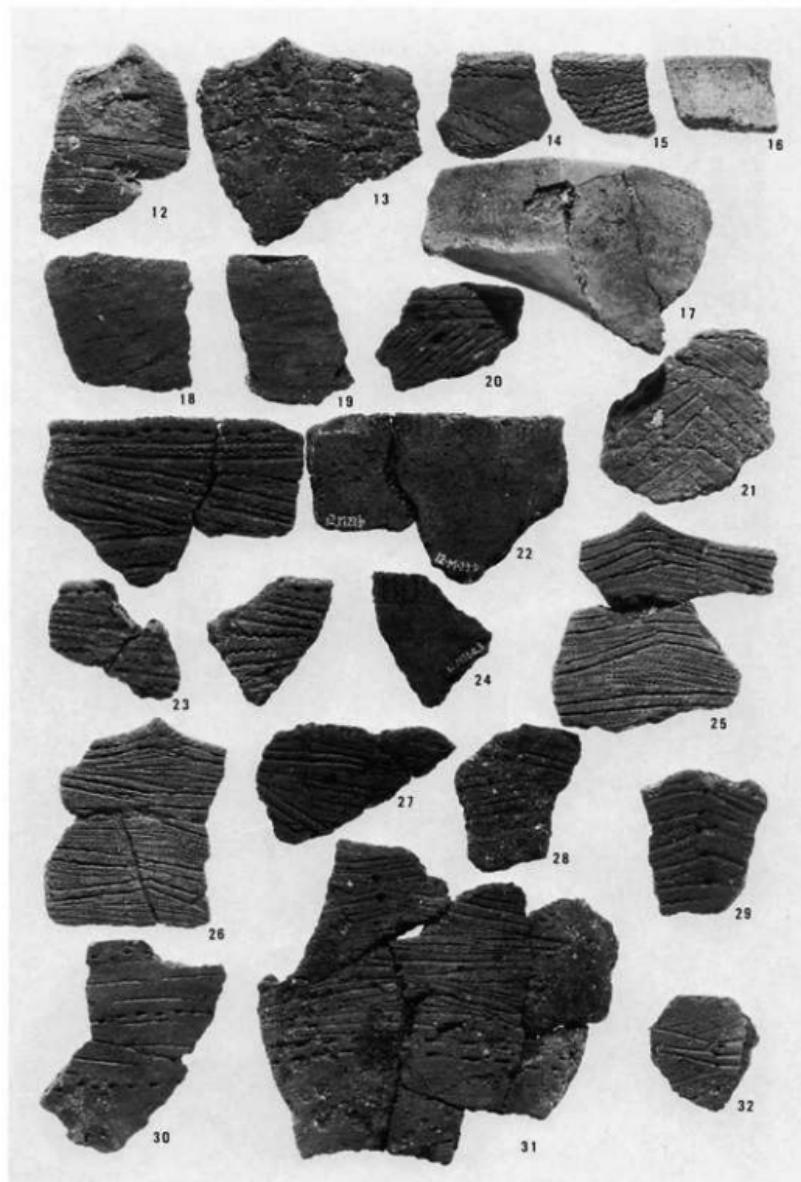


図52 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物



図53 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物

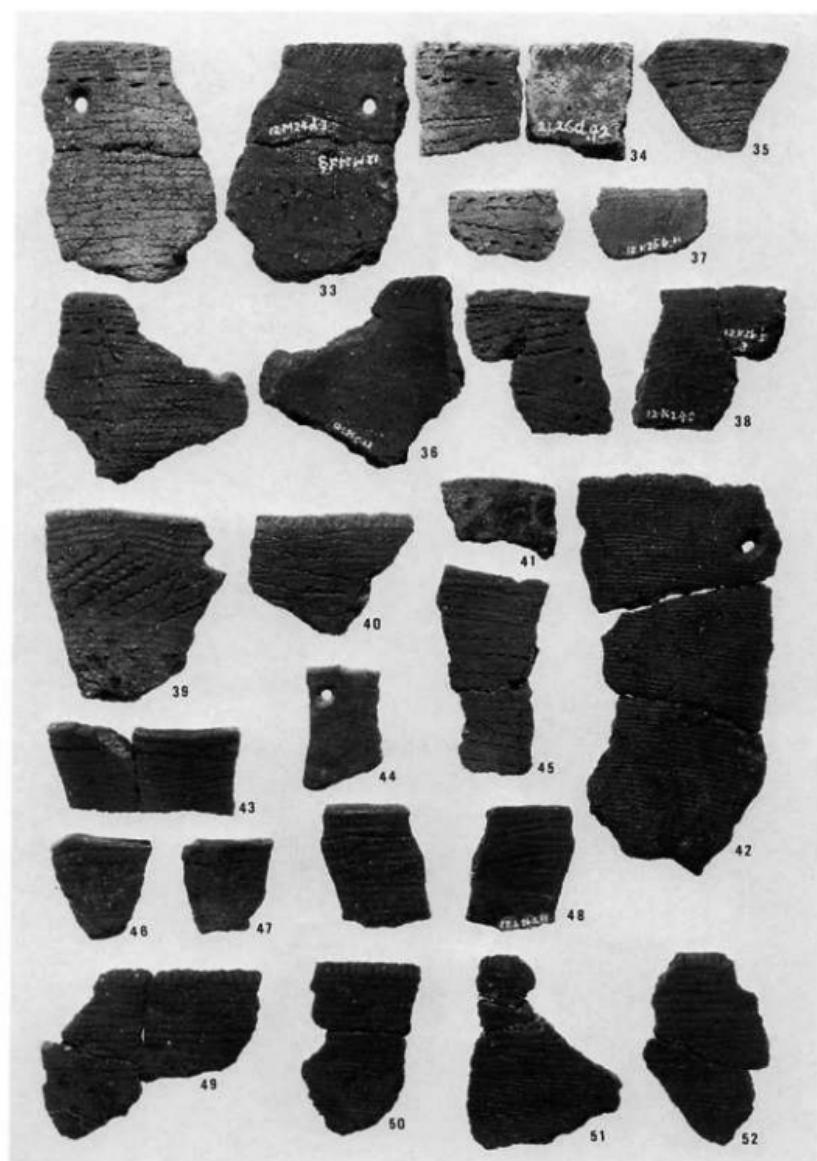


図54 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物

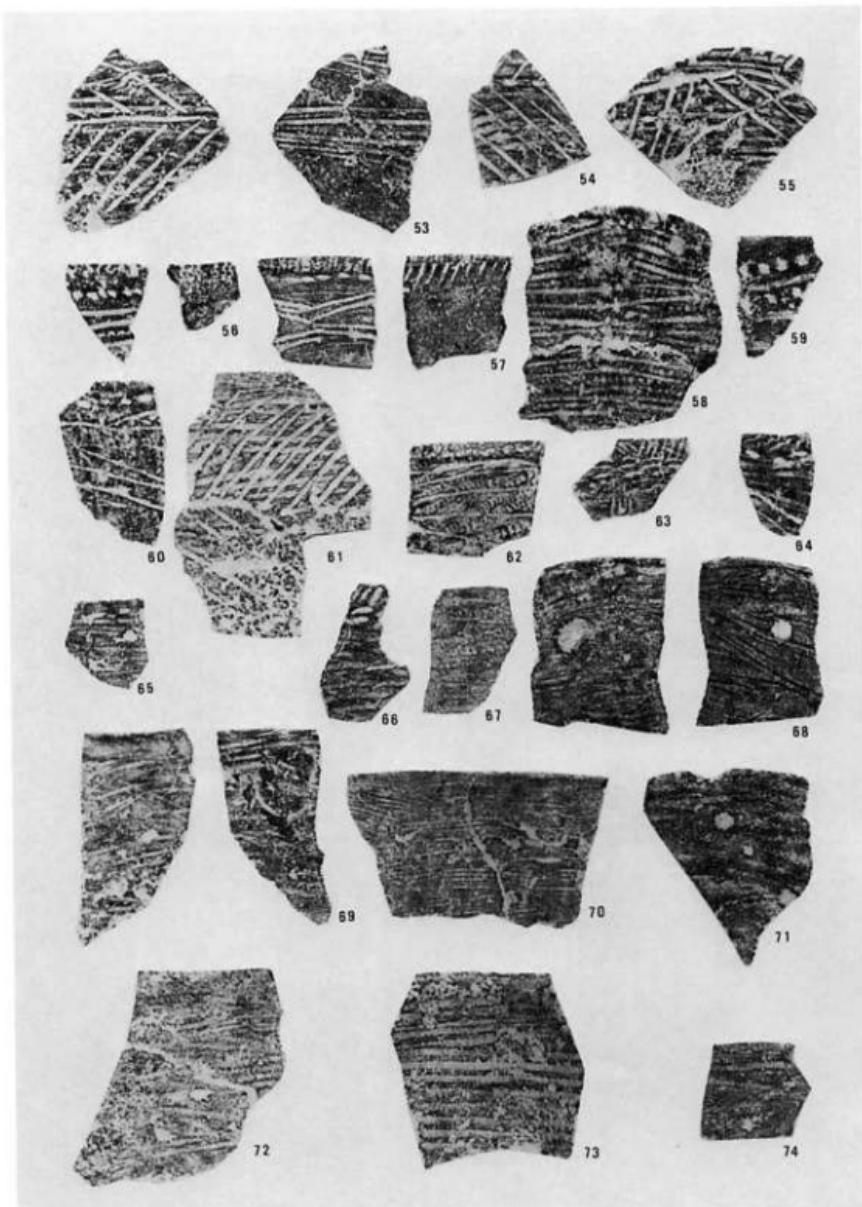


図55 A地点出土の土器群（1群a—2類）

III A地点の遺構と遺物

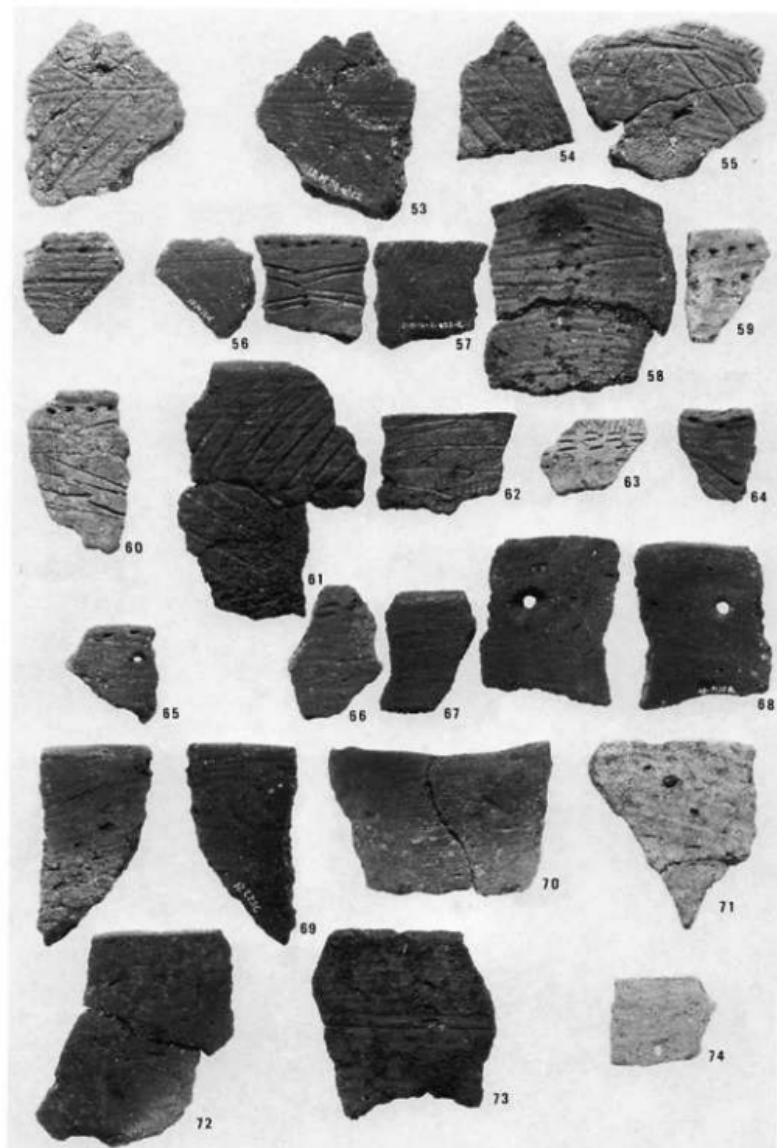


図56 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物



図57 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物



図58 A地点出土の土器群（I群a—2類）

III A地点の遺構と遺物

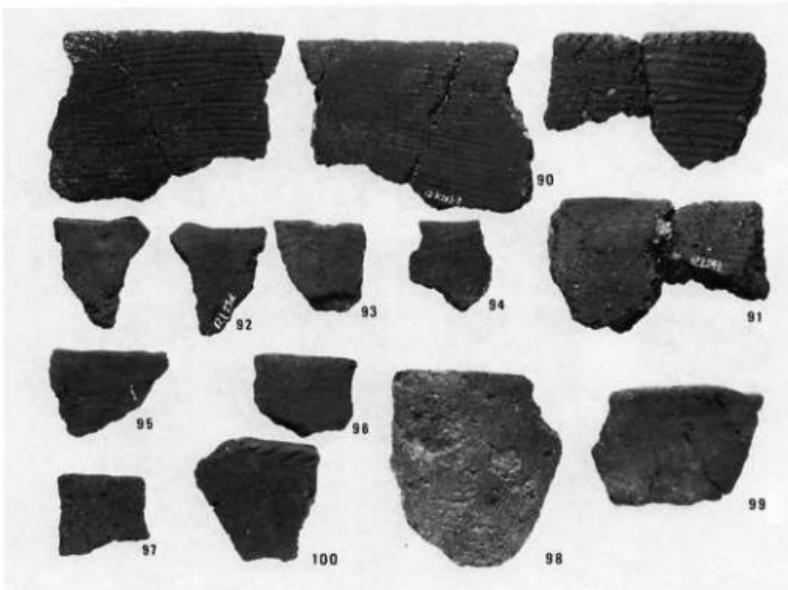
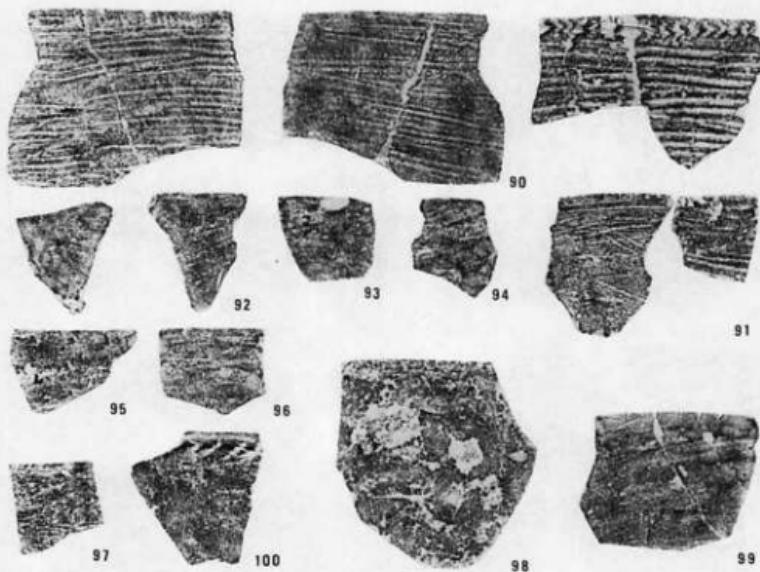


図59 A地点出土の土器群（1群a—2類）

I群a-2類11(図49・50-8~11、図55~59-68~91)貝殻条痕文を主体とするもの。75~77の口唇には条痕文が施されている。9~11、78~84・88~91は口唇に腹縁文aを施した例。85~87は腹縁文aを口唇・口縁内面に施した例。

I群a-2類12(図59-92~100)無文を主体としたもの。100には口縁上部に腹縁文cを施されている。

I群a-3類(図4~7、図60~63、図64・65-158~162)

I群a-3類は縄文時代早期の土器群のうち、隆帯(貼付帯)・縦位の条痕文・沈線文などの文様をもった土器群である。器形は平底深鉢を主体とする。この土器群は、さきのI群a-2類ほど文様の変化に富まないが、8の類型に分類が可能である。以下、各類型について記述するが、個々の詳細な特徴については表3を参照されたい。

I群a-3類1(図60・61-101、図62・63-109-110)隆帯文+沈線文+縦位条痕文を主体とするもの。101は口縁と平行する隆帯文が1本回繞する。沈線文は隆帯に平行して上位に1条、下位に2条施されている。隆帯上および口縁上部に短沈線(刻目)文が施されている。沈線文の下位は縦位の条痕文が施され、さらにその下位には横位の粗な条痕文がみられる。109は隆帯下位の沈線文間に刻目のある例。110の沈線は隆帯貼付後の一種の整形痕と思われ、明瞭な沈線文ではない。地文は細い縦位の調整痕(擦痕)が認められる。

I群a-3類2(図5・6-102・103、図62・63-111~124)隆帯文+縦位条痕文を主体とするもの。102は口径26.8cm、器高32.5cm。胎土には多量の白色不透明の混和物(軽石?)が混入する。口縁に平行して隆帯が回繞する。隆帯上には半截竹管と思われる工具による連続刺突文(5d)が施されている。隆帯下位の地文として縦位条痕文が施され、その下位に粗い横位の条痕文があり、以下無文となる。103は口径19.1cm、器高26.9cm。隆帯上には絡条体?圧痕文が施され、縦位条痕文の原体も絡条体である可能性が強い。111~114は山形の波状口縁。いずれも隆帯上には竹管状の刺突文が施されている。120~123の隆帯上には短沈線(刻目)文が施されている。

I群a-3類3(図62・63-125・126)隆帯文+沈線文を主体とするもの。沈線文は植物質のものを工具としている。隆帯上の刻目も扁平な植物質のものによって施文されている。地文は斜位の調整痕(擦痕)が認められる。

I群a-3類4(図62・63-127~132)沈線文を主体とするもの。127~131を波状口縁で波肩部から垂下する沈線を基線として斜位の沈線文が描かれる。130は5本単位の細沈線文。

I群a-3類5(図62・63-133)刺突文+絡条体圧痕文を主体とするもの。横位の刺突列(5a)が4段あり、さらに絡条体圧痕文が粗雑に施されている。

I群a-3類6(図62・63-134)円形刺突文+縦位条痕文を主体とするもの。焼成前の外→内の刺突が口縁上部に穿たれている。

I群a-3類7(図7、図60、61-104・105、図62・63-135・136)縦位の条痕文を主体とするもの。104は口径10.4cm、器高16.5cm。縦・横位の細かい沈線状の条痕文が施されている。

図 A地点の遺構と遺物

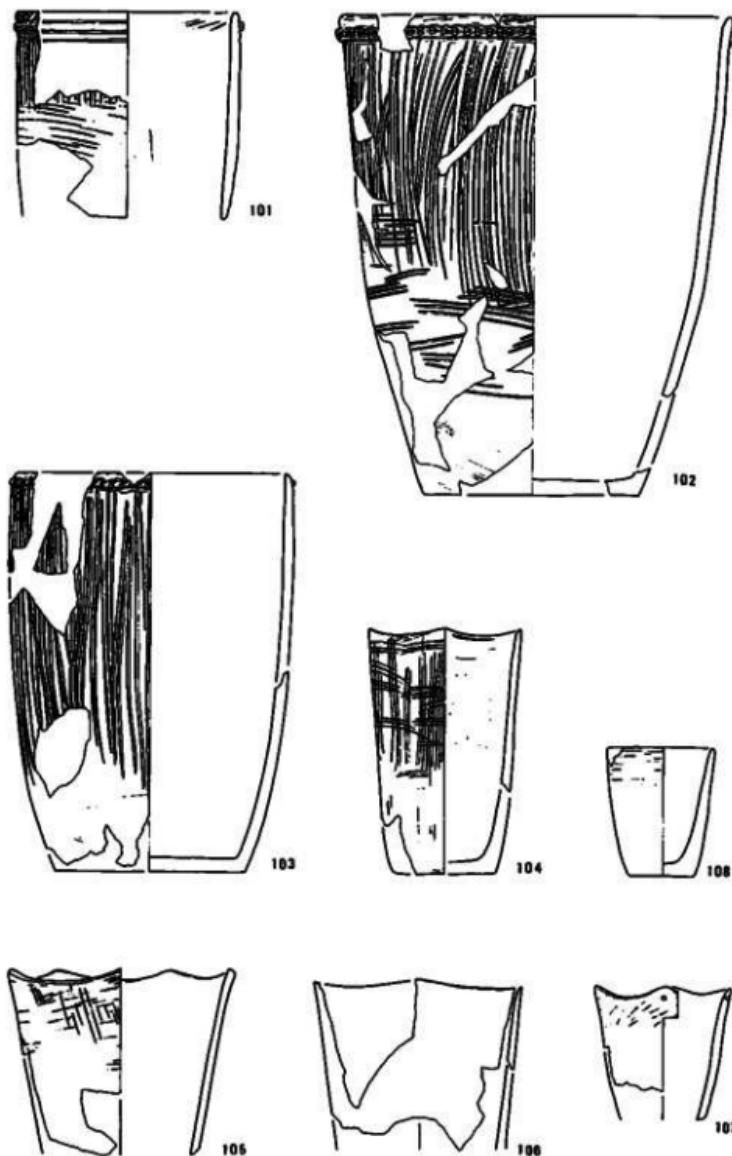


図60 A地点出土の土器群（I群a—3類）

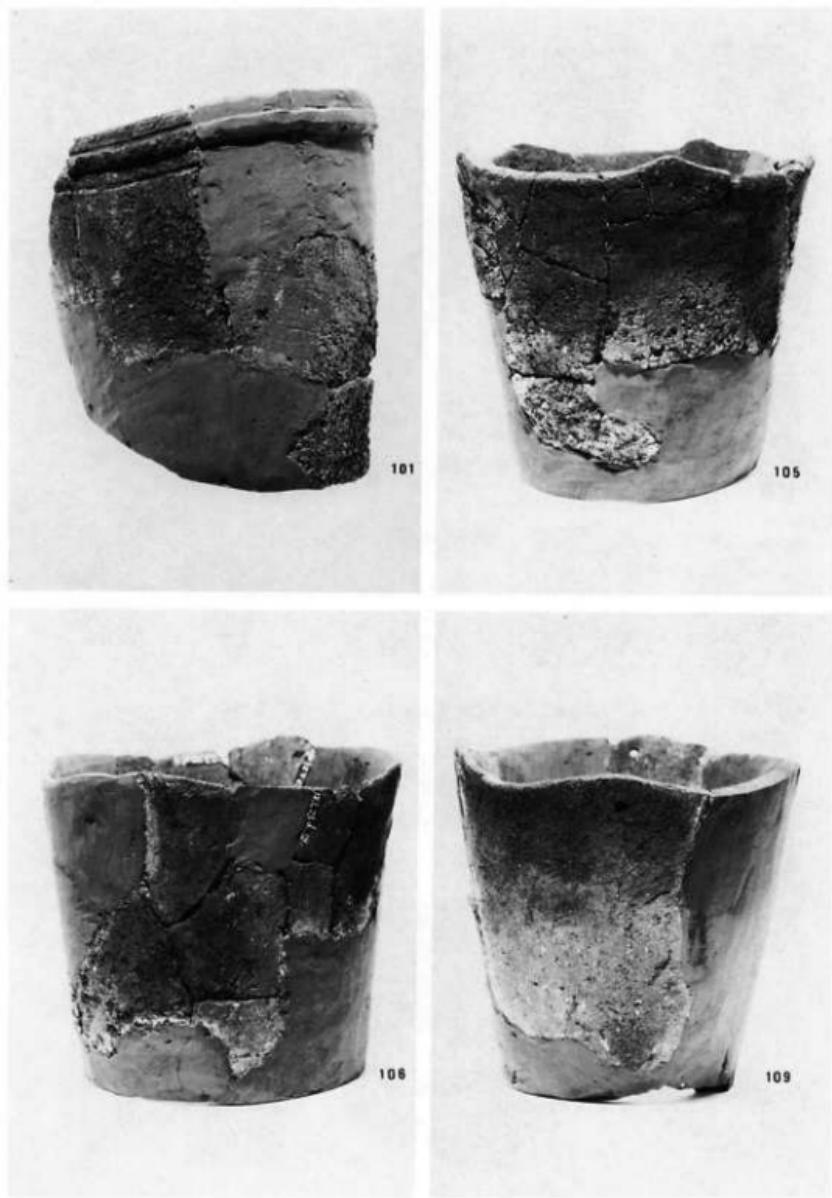


図61 A地点出土の土器群（I群a—3類）

III A地点の遺構と遺物

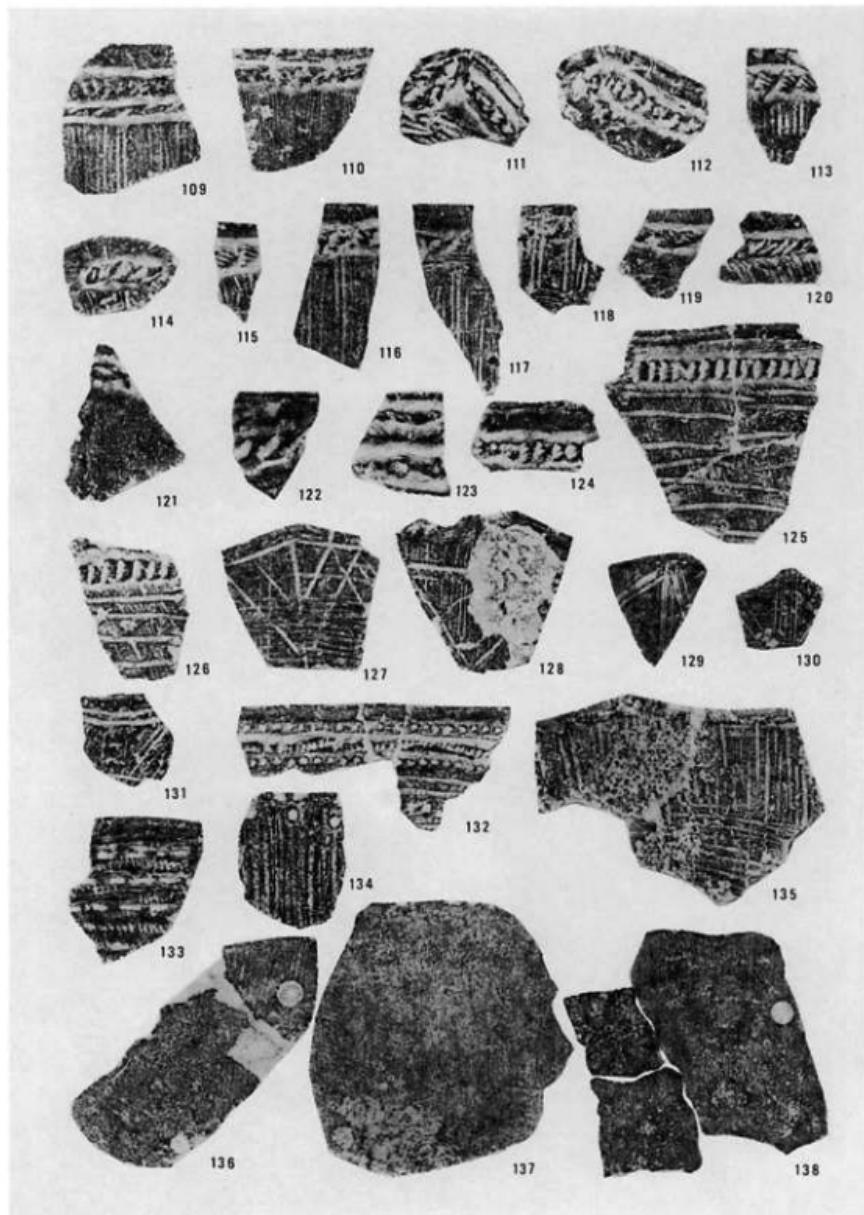


図62 A地点出土の土器群（I群a—3類）

III A地点の遺構と遺物

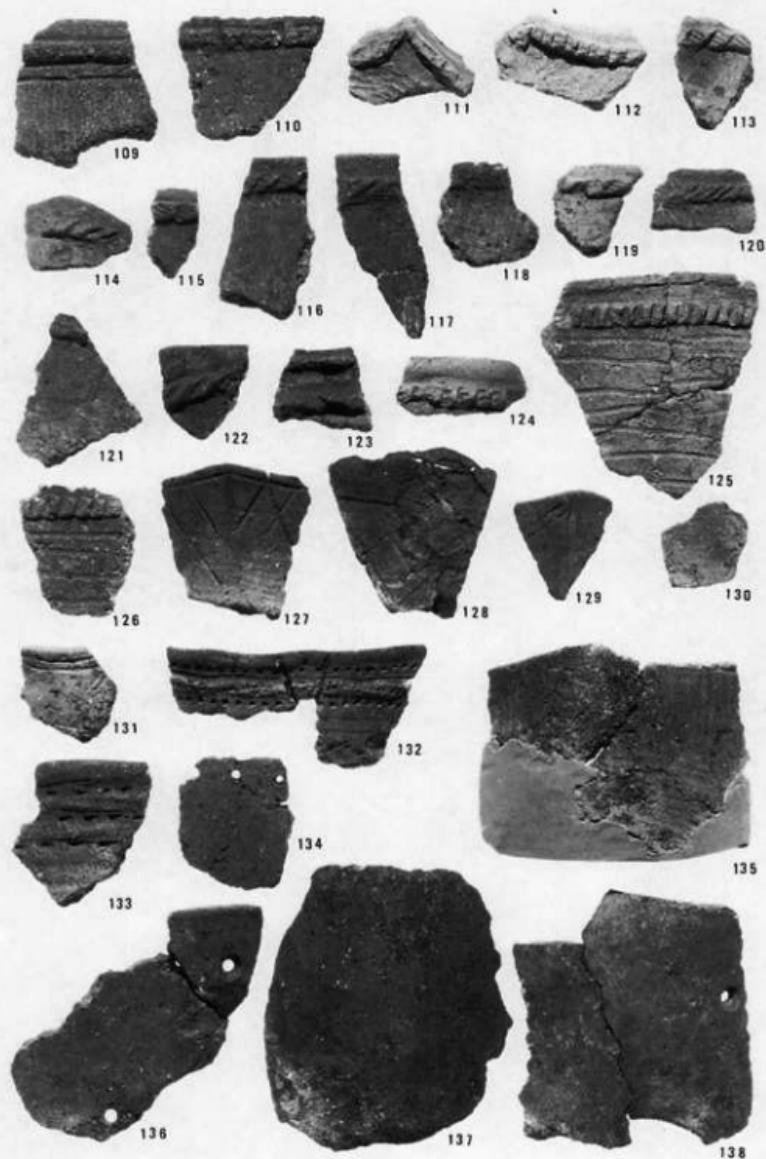


図63 A地点出土の土器群（I群a—3類）

III A地点の遺構と遺物

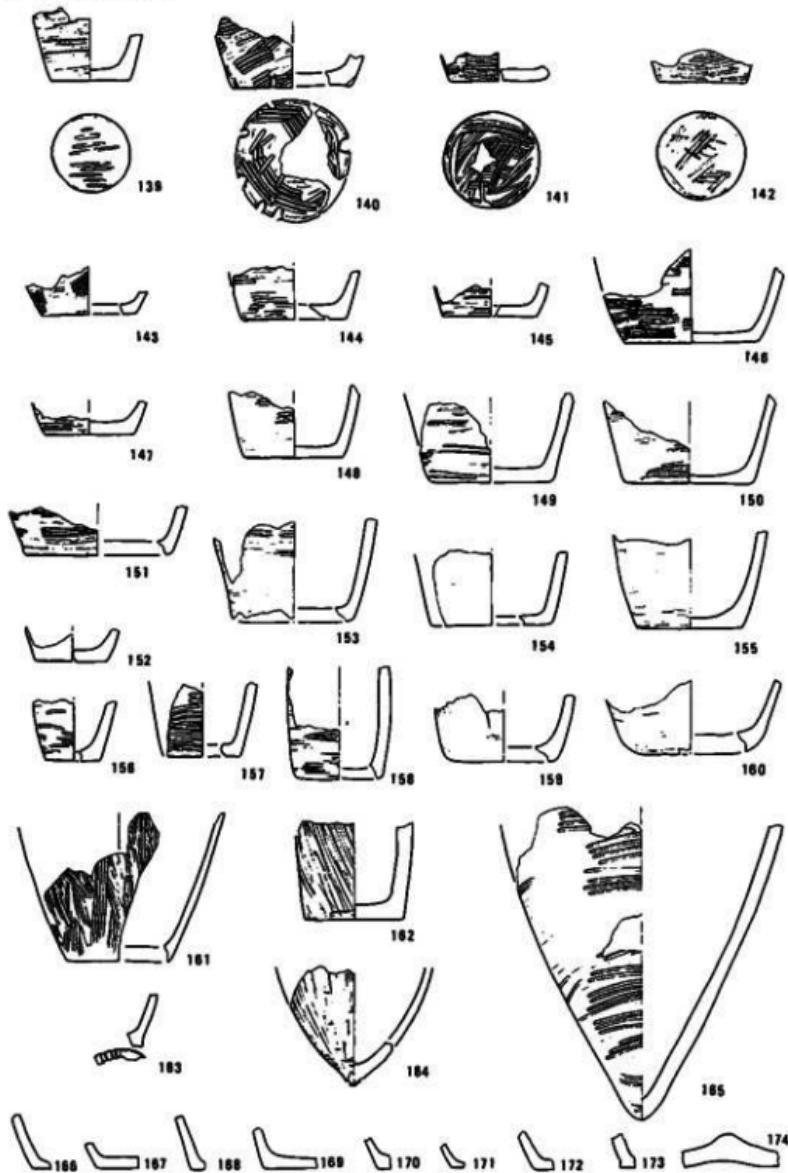


図64 A地点出土の土器群

III 地点の遺構と遺物

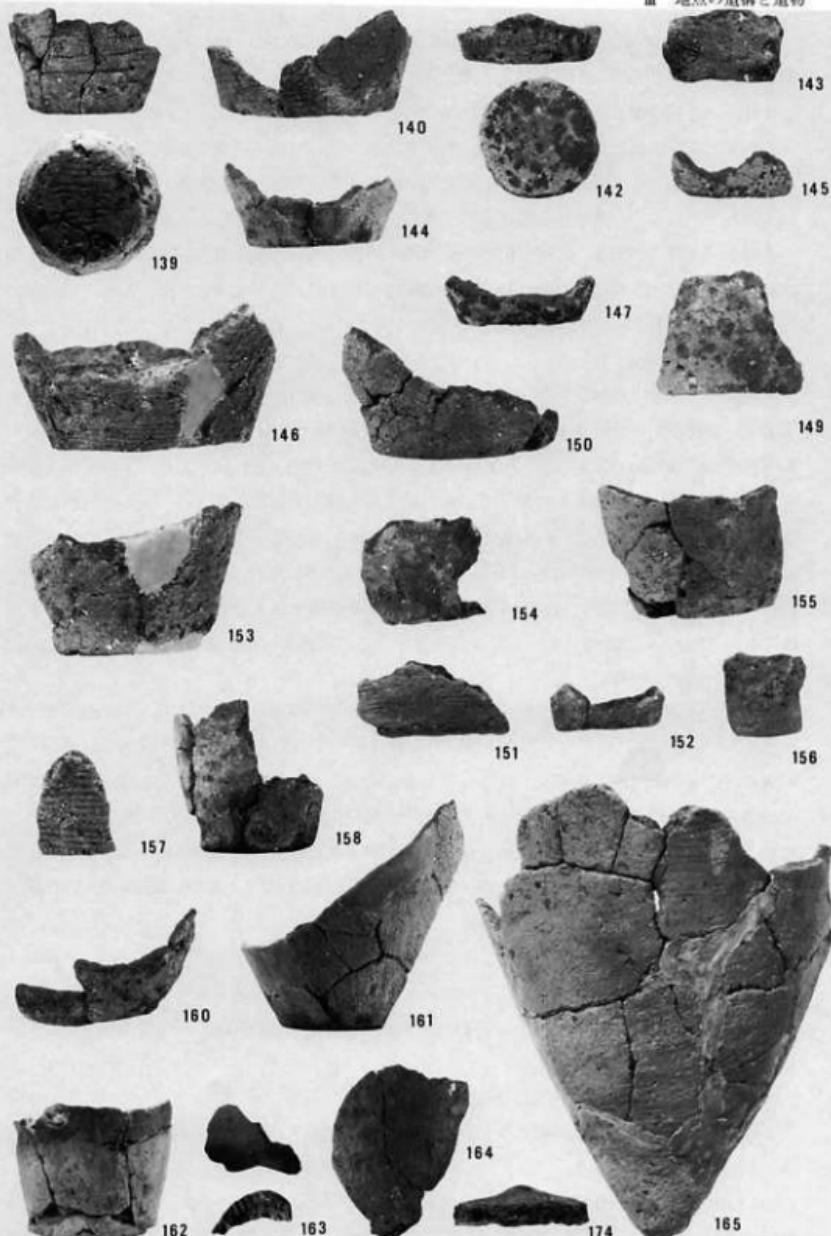


図65 A地点出土の土器群

III A地点の遺物と遺物

I群a - 3類8（図4、図60・61-106-108、図62・63-137・138）無文のもの。109の波痕部に焼成前の外→内の円形刺突文が穿たれている。

I群b - 1類（図8・9、図66-69、図72-75）

I群b - 1類は縄文時代早期のうち、「縄原体」を用いて縄文・組紐圧痕文・絡条体圧痕文などの文様をもった土器群である。この土器群は文様モチーフの変化が著しいが、文様要素の組み合わせから5つの類型に分類が可能である。

I群b - 1類1（図9、図66・67-175-178、図72-191-200、図75-238-242）縄文+羽状縄文を主体とするもの。175-177、197-200はR L + L Rの羽状縄文を施した例。194・195はR L 斜縄文、191-193はL R 斜縄文を施した例。178はLの斜縄文を施した例。175は口徑26.7cm、器高30.4cm。

I群b - 1類2（図8、図66・67-179、図68・69-182・183、図72-74-201-223）組紐圧痕文+短縄文を主体とするもの。179は口径14.2cmのボウル状の器形で、短縄文・縦線文の施された例。182は口径33.1cm、器高42.3cm。この類では唯一完形品であり、全体的な文様構成が理解できる。口縁部から底部までL R 斜縄文・短縄文・組紐圧痕文が交互に7段構成されている。183はL R 斜縄文・組紐圧痕文・短縄文の施された例。201-208、210-217は組紐圧痕文・短縄文が施された例。209は組紐圧痕文の施された例。218・220は短縄文が施された例。219は短縄文・縦線文の施された例。221はR L + L R 斜縄文による羽状縄文・組紐圧痕文・短縄文の施された例。222はR L + L R 斜縄文による羽状縄文・短縄文の施された例。223はL R 斜縄文・短縄文の施した例。

I群b - 1類3（図66・67-180・181、図74・75-224-234）絡条体圧痕文+短縄文を主体とするもの。180は口唇から口縁部にかけての貼付帯のあるもの。絡条体圧痕文が口縁部に7段施され、下位にはL R 斜縄文が施されている。縦文は口唇部にもみられる。181は絡条体圧痕文が縦・横位に施され、胴下半部はL R 斜縄文と横位の絡条体圧痕文が交互に施されている。224-233はL R 斜縄文・短縄文・絡条体圧痕文の施された例。225・228・230-232は短縄文・絡条体圧痕文の施された例。226・227・229は絡条体圧痕文の施された例。234は絡条体圧痕文・刺突文（5a）の施された例である。

そのほか、縦線文の施された例（235）、半截竹管状工具による沈線文の施された例（236・237）がある。底部（図75-238-242）はいずれも底角は張り出す（X3a）。238はR L 斜縄文、239は絡条体圧痕文、240・242はL R 斜縄文・短縄文、241は組紐圧痕文・短縄文が施されている。

I群b - 2類（図76・77-243-261）

I群b - 2類は縄文時代早期のうち、縄文・組紐圧痕文・絡条体圧痕文・貼付帯を主要な文様要素とした土器群である。

244・246・247・249は組紐圧痕文・短縄文・貼付帯の施された例。246・249の貼付帯上には縦の押圧がみられる。243は短縄文・縦線文・貼付帯の施された例。248は組紐圧痕文・貼付帯

の施された例。250～255はL R・R L斜縄文による羽状縄文・貼付帯が施された例。250・253の貼付带上には縄が押圧されている。251～252の貼付带上には刻目が施されている。254の貼付带上には指頭状の押圧文が施されている。256～258は絡条体圧痕文・貼付帯の施された例で、貼付带上には縄の押圧文が施されている。259～261はこの時期の仲間と思われる。259～261には結束第1種の羽状縄文、260にはR L斜縄文が施されている。

I群b-3類(図69・70-185、図77・78-262-275)

I群b-3類は縄文時代早期の土器群のうち、隆起線文・絡条体圧痕文・撲糸文等の文様をもった土器群である。

262～266・268～271は隆起線・縦位の撲糸文の施された例。隆起線は平行線を主体として、弧状または縦位の短かい隆起線が組み合わされる例もある。267は無文地に縦・横位に隆起線文を施した例。185・272・273はR L斜縄文・隆起線文の施された例。273には結束第2種がみられる。274は絡条体圧痕文・撲糸文・隆起線文の施された例、275は絡条体圧痕文・隆起線文の施された例である。

I群b-4類(図68・69-184、図70・71-186-189、図78・79-276-292)

I群b-4類は縄文時代早期のうち、縄文・撲糸文などの文様をもった土器群である。とくに撲糸文が特徴的である。

276～279は斜位の撲糸文を施した例。280・281は2本組みの撲糸文が羽状に施されている。186・187・285は口縁に平行して数本の撲糸を押圧し、下位に羽状の撲糸文を施したもので、187は2本組みである。282・288は口縁に数段短縄文が施され、下位に羽状撲糸文のある例。189は188と同一個体である。283・284・291・292は撲糸文の施された例。291・292は底部近くの破片である。286・287・289・290は結束第2種のある例。286・287には撲糸文、289にはR L斜縄文、290には短縄文とR L斜縄文が施されている。288は2本組みの撲糸文の施された例。

II群a-2類(図70・71-190)

縄文時代前期の土器である。胎土に多量の植物繊維を含有している。口径は約31.7cm。Lの斜縄文が粗雑に施されている。

IV群b類(図79-293・294)

縄文時代後期の土器である。口縁上部に若干の無文帯をもち、下位はL R斜縄文が施される。

注1 VIIまとめて述べるが、I群a類は当センターの従来の土器分類であるが、これは当遺跡で細分したものである。

注2 文様要素の分類記号であり、VIIまとめて参照されたい。

図 A地点の造構と造物



図66 A地点出土の土器群（I群b—1類）

III A地点の遺構と遺物

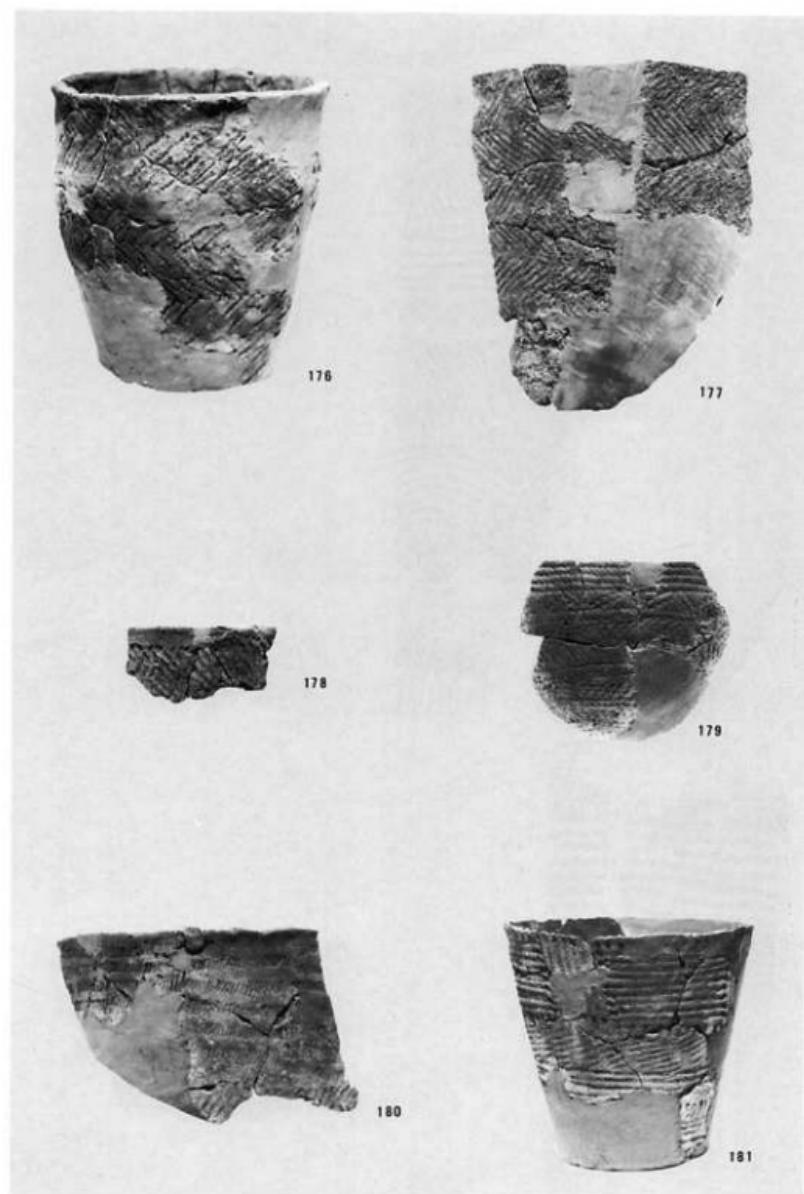


図67 A地点出土の土器群（I群b—1類）

III A地点の遺構と遺物

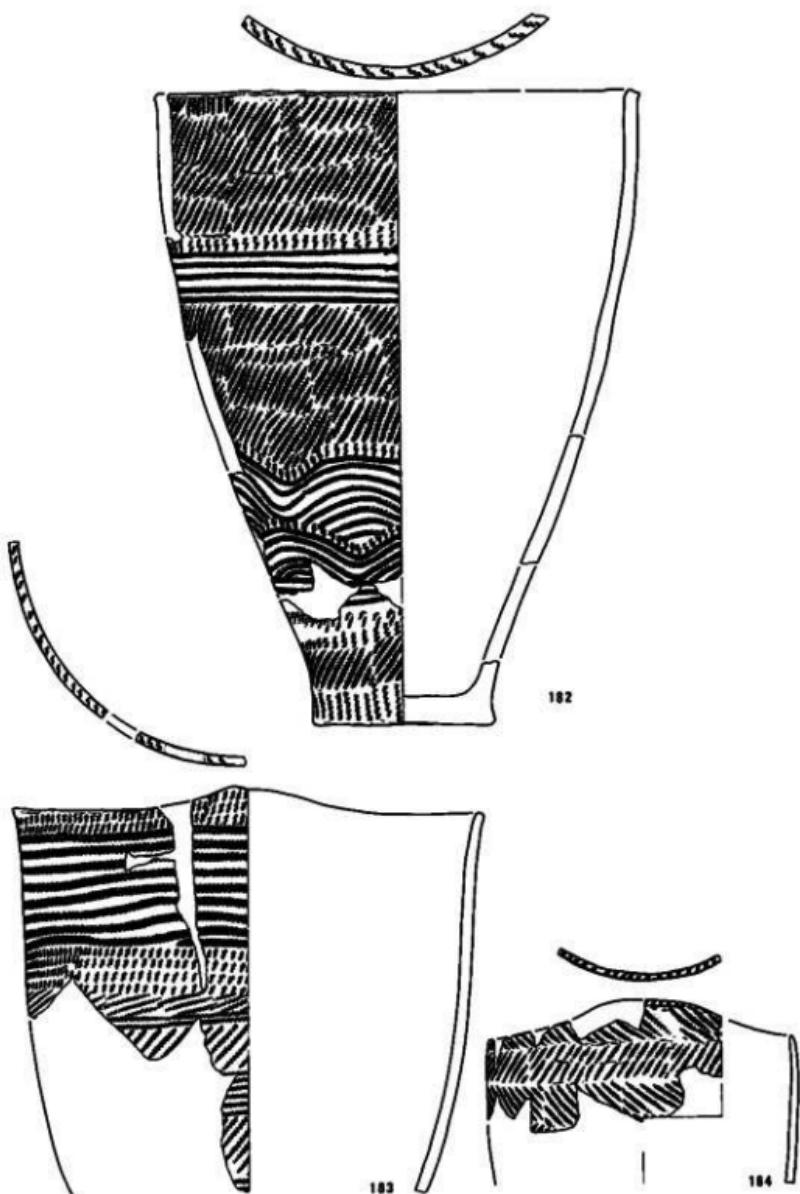


図68 A地点出土の土器群（I群b—1～3類）

III A地点の遺構と遺物

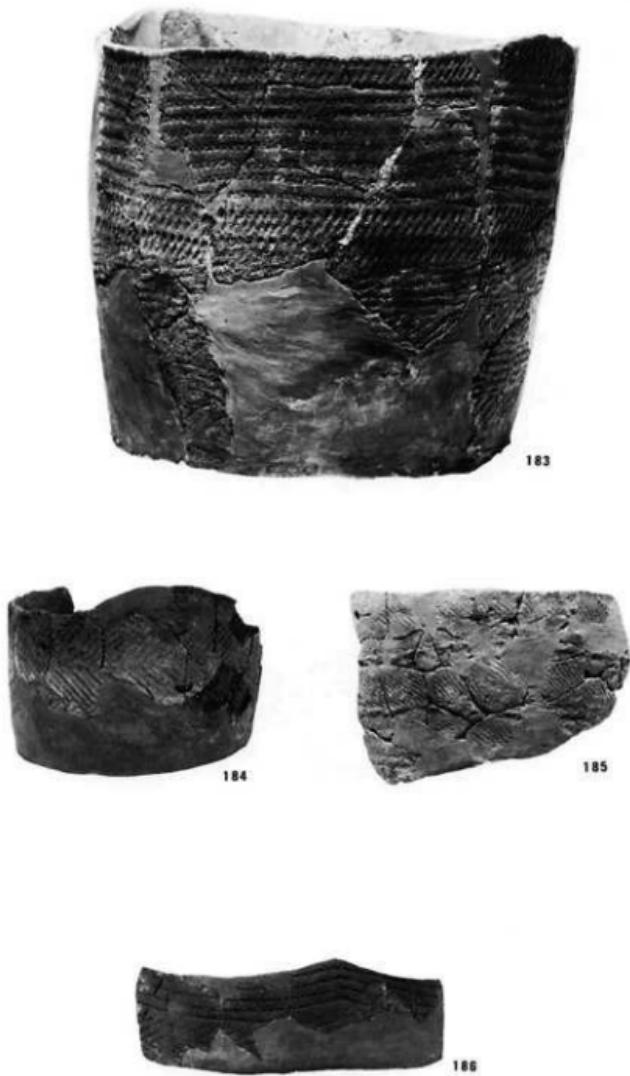


図69 A地点出土の土器群（I群b—1～3類）

III A地点の遺構と遺物

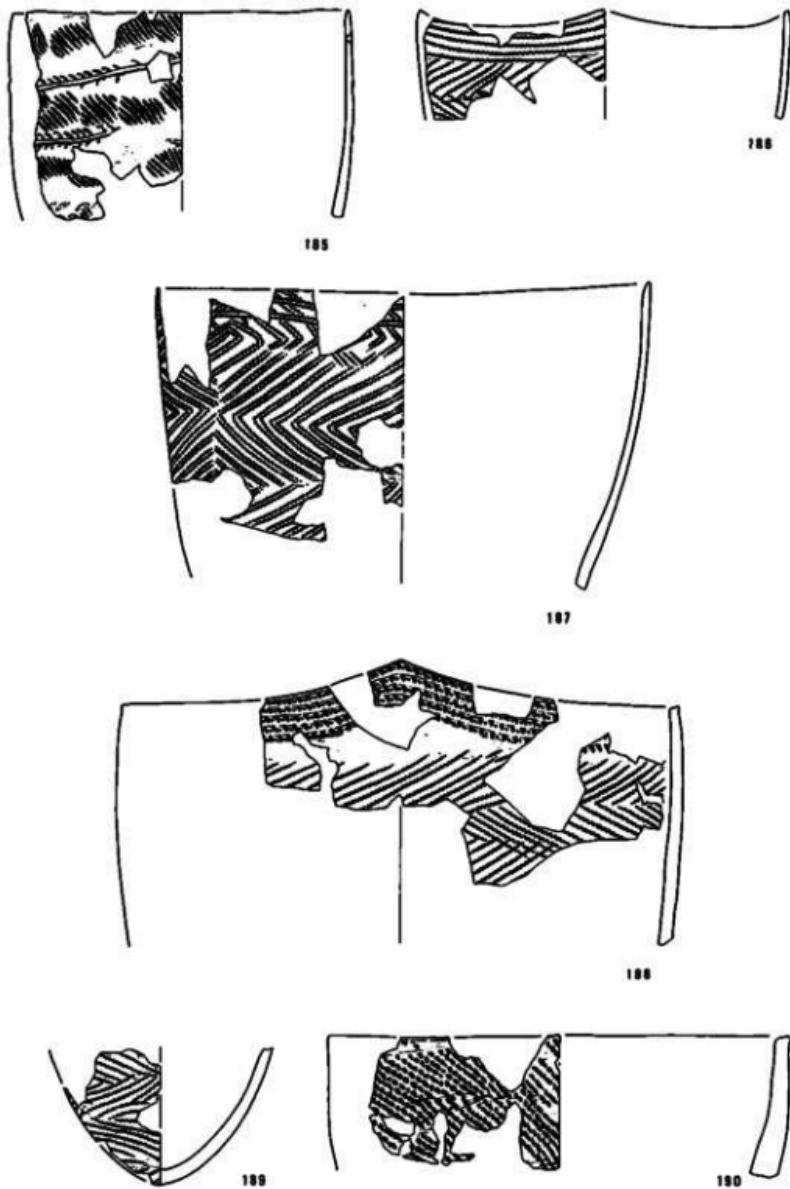


図70 A地点出土の土器群（I群b—4類・II群a類）



図71 A地点出土の土器群（I群b—4類・II群a類）

III A地点の遺構と遺物

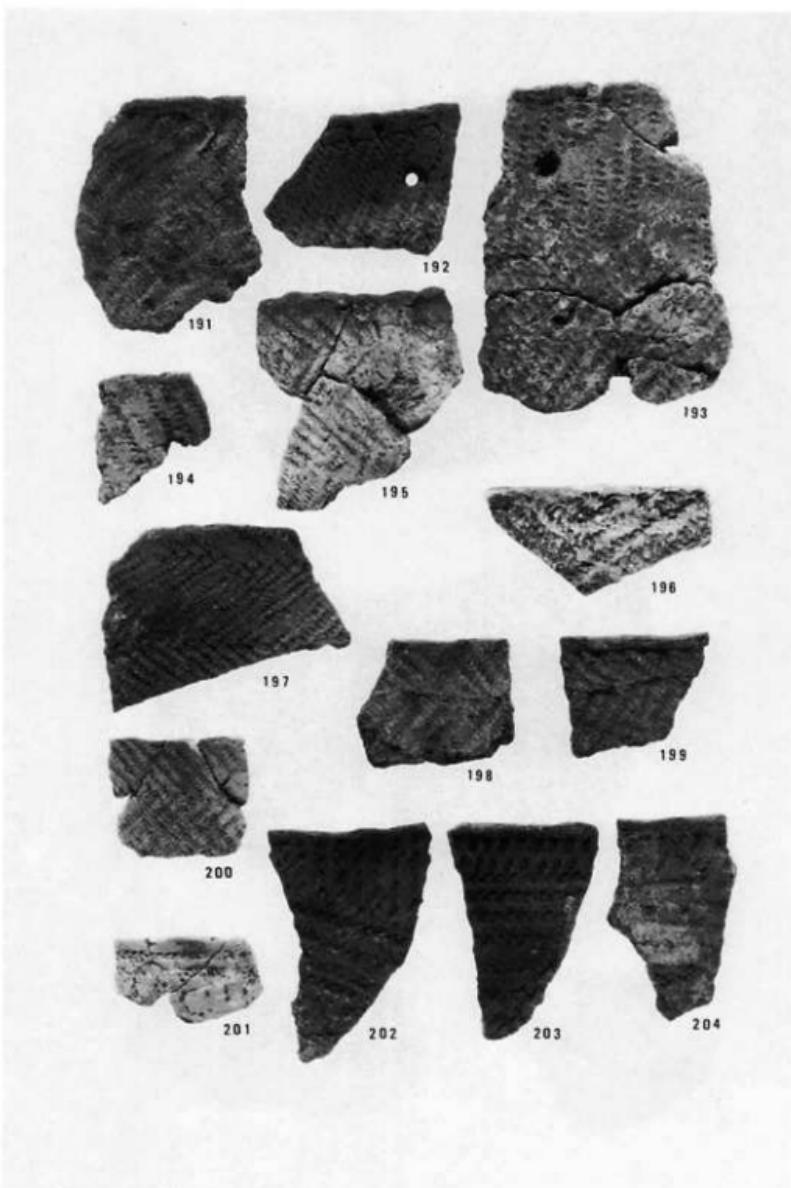


図72 A地点出土の土器群（I群b—1類）

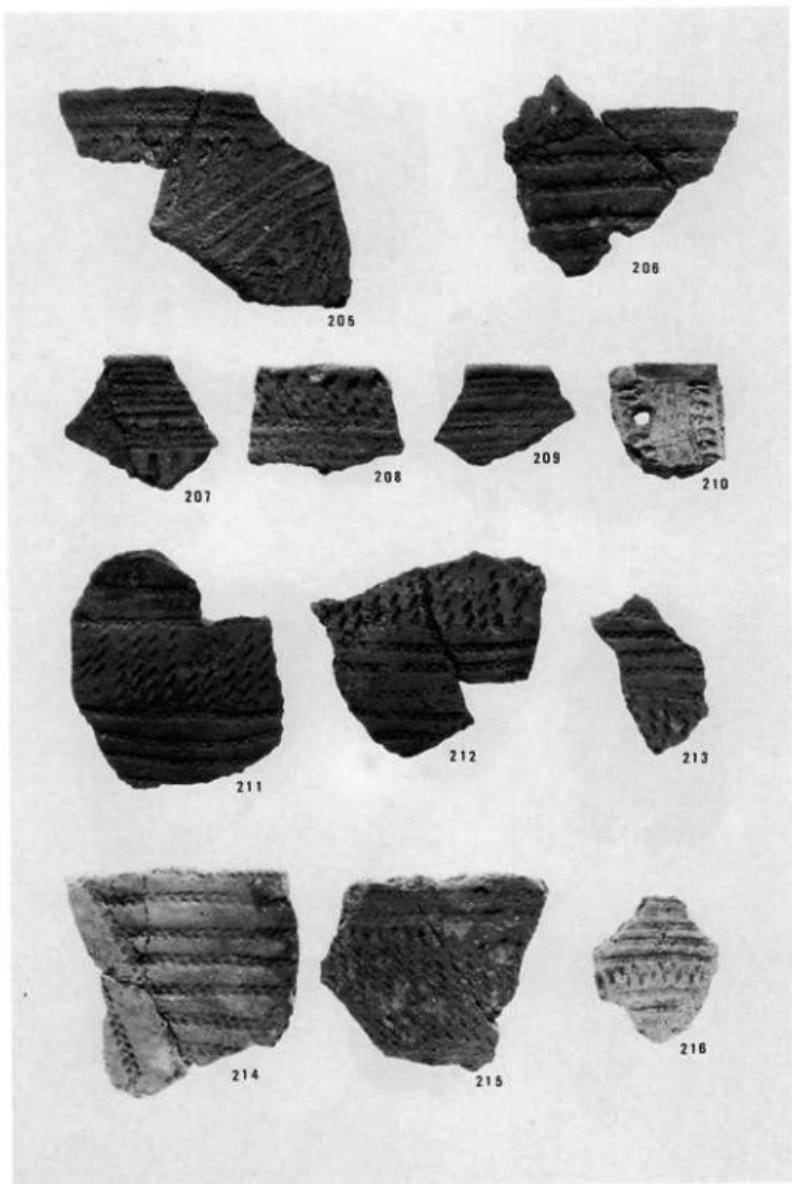


図73 A地点出土の土器群（I群b—1類）

III A地点の遺構と遺物

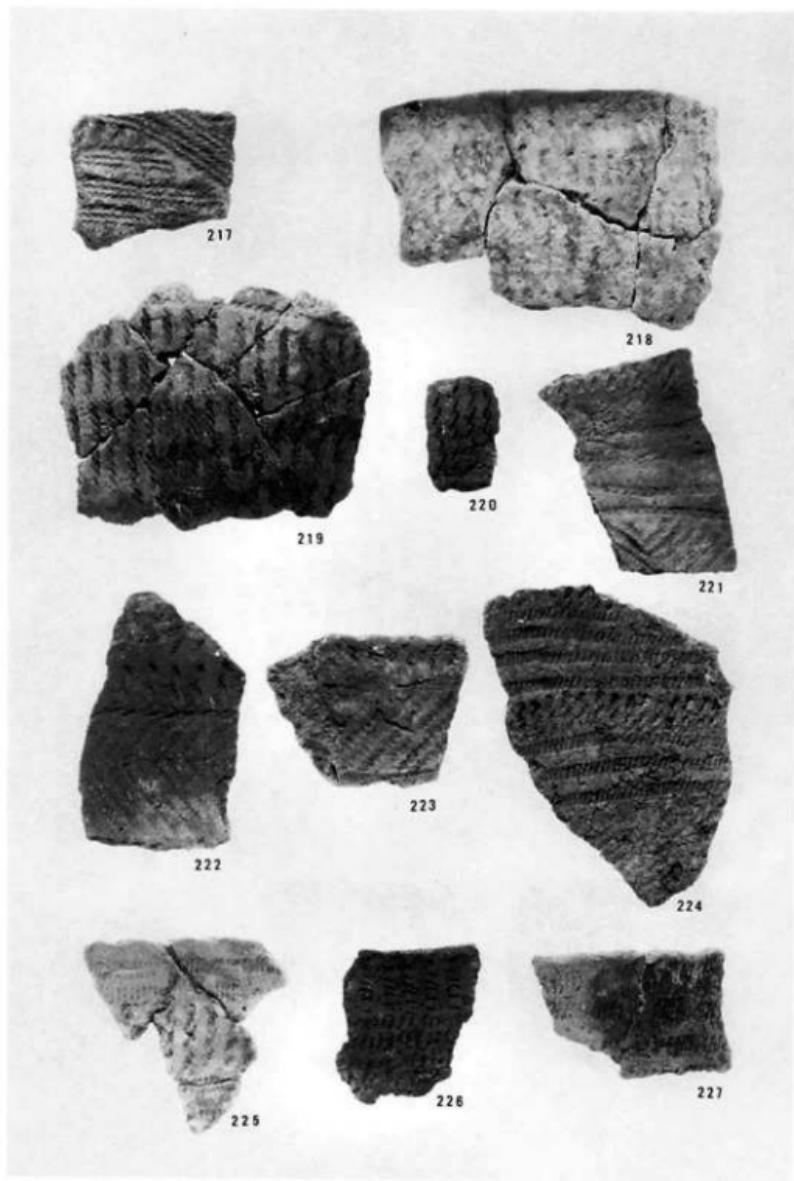


図74 A地点出土の土器群（I群b—1類）

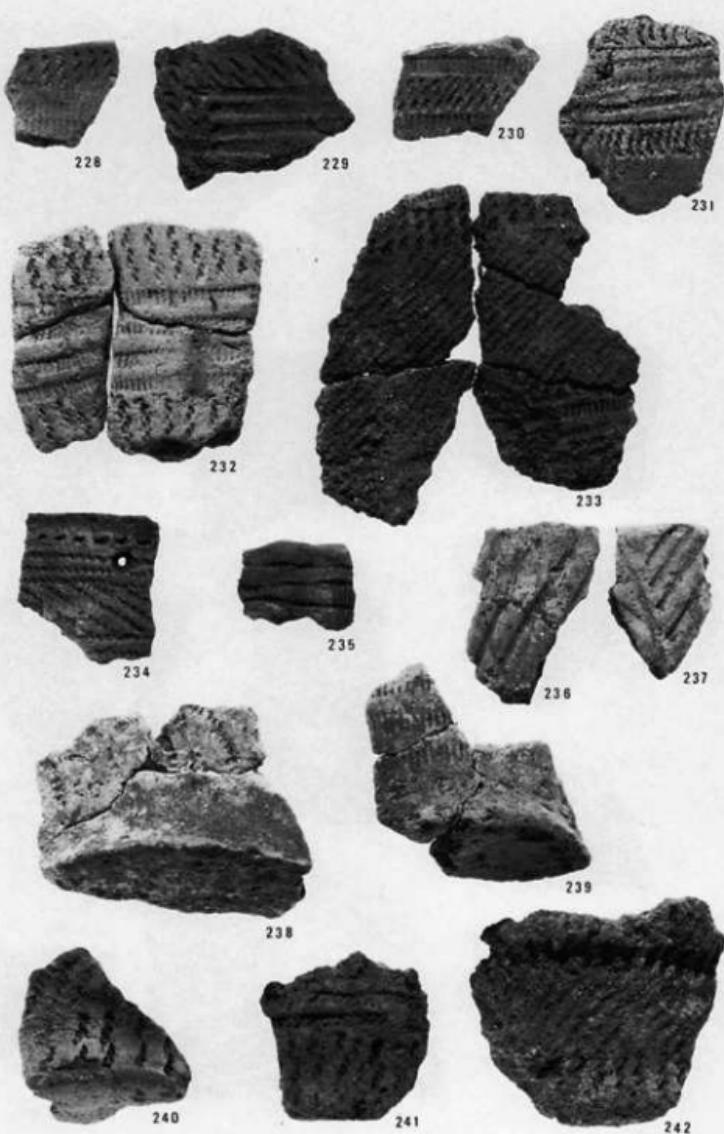


図75 A地点出土の土器群（I群b—1・2類）

III A地点の遺構と遺物

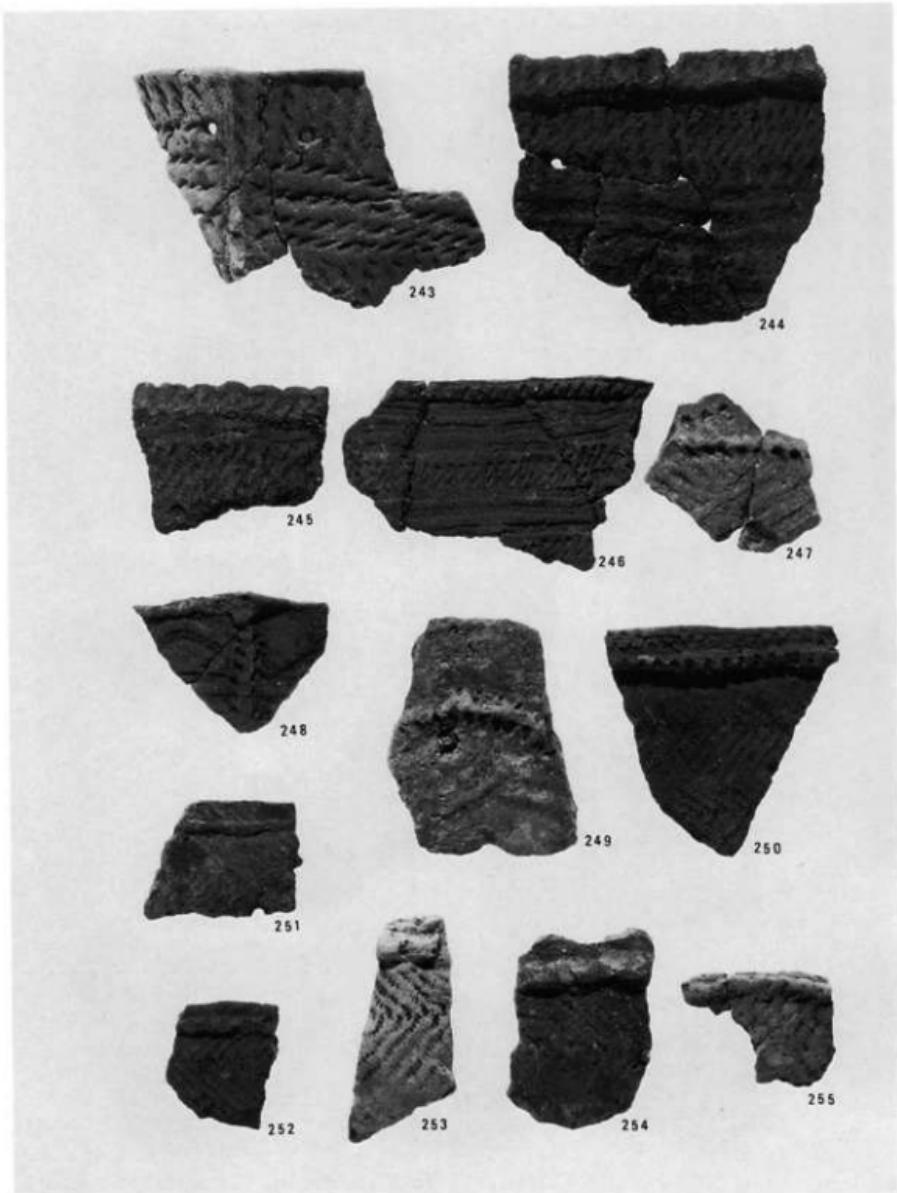


図76 A地点出土の土器群（I群b—2類）

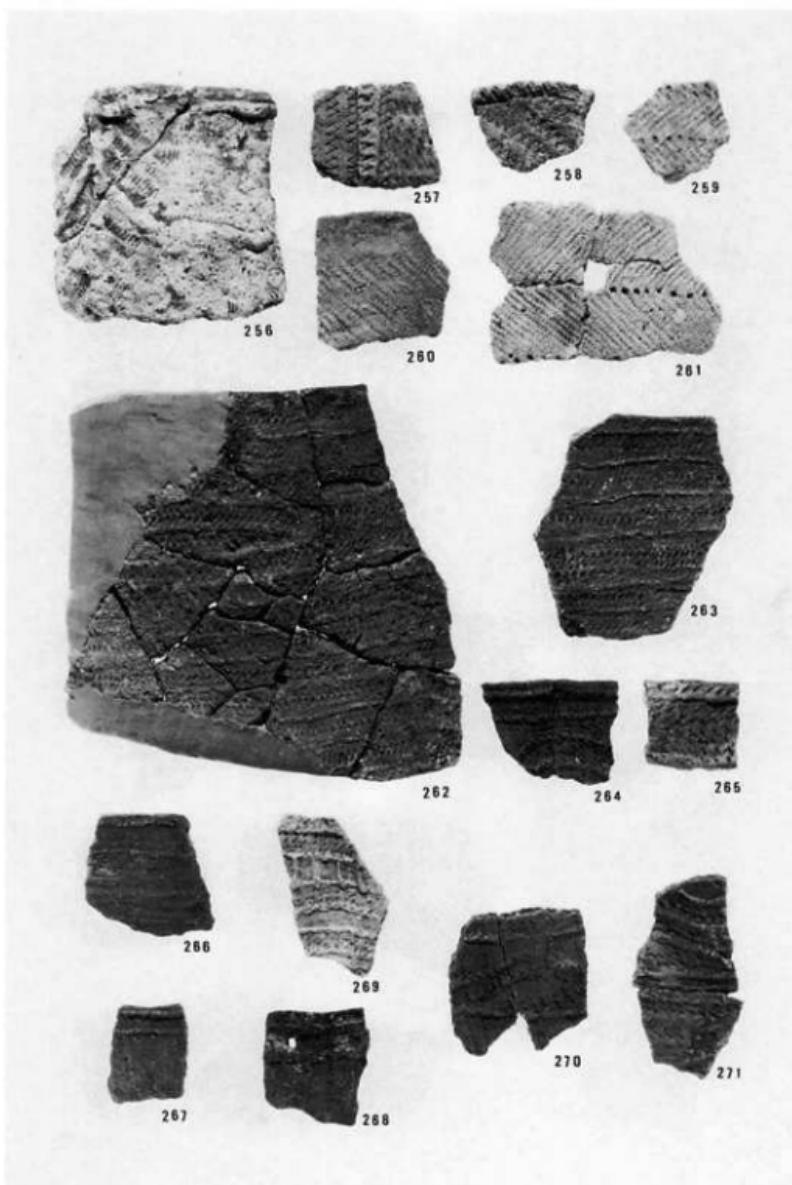


図77 A地点出土の土器群（I群b-2・3類）

III A地点の遺構と遺物

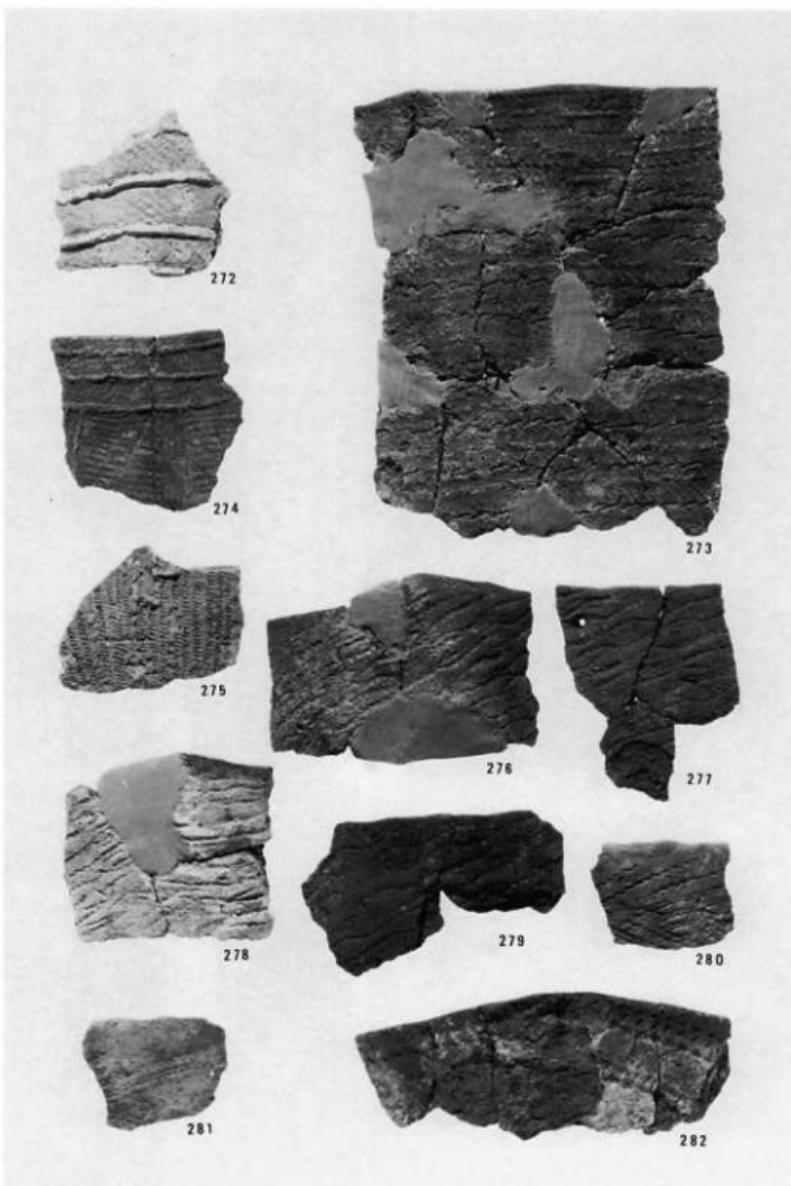


図78 A地点出土の土器群（I群b—3・4類）

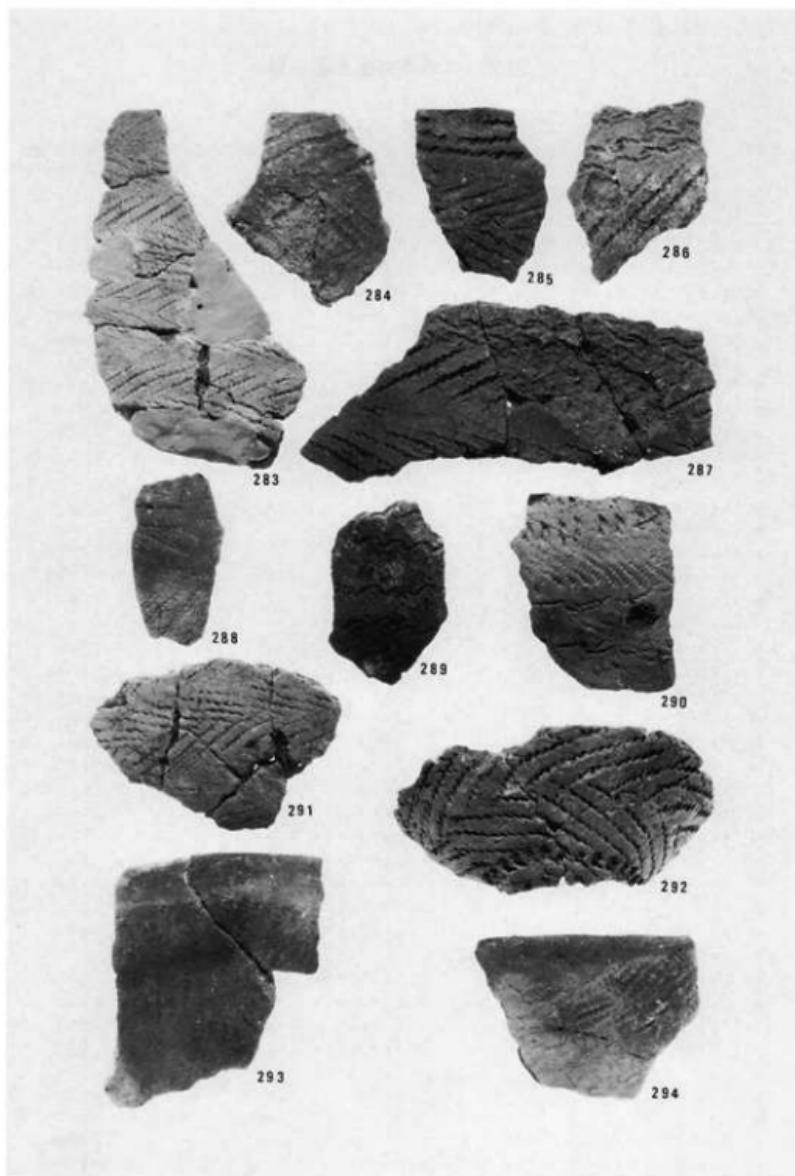


図79 A地点出土の土器群（I群b—4類・II群b類）

表3 A地点出土土器一覧

回収番号	分類	部位	口縁・唇・底面部形状	外表面性状	内縁部文様	内縁部形状	底面	裏面	炭化物	高さ(cm)	全長(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)
1	I x 2-3	II	11-4		1a+2a+3a+b	3a+1a				7	K25c	V	
2	I x 2-6	II	III 3-4		1a+3a	3a+1a				6	L25d	V	
3	I x 2-7	側面	II 2-a + XI c		2a		51	b1-2	4	L25e	V		
4	I x 2-6	II	11-4		1a+3a	3a+1a		b1-2	5	上25f	V		
5	I x 2-7	II	11-a		2a	24		b1	6	L25d	V		
6	I x 2-8	II	II 1-a		2a+5a			b1	7	K25b			
7	I x 2-9	II	12-4		1a+5b	-1a	a+b1		5	M22a	B		
8	I x 2-11	側面	II 2-4 + X2c		1a			b1	8	K22c			
9	I x 2-11	側面	II 1-c + XI c		1a		1a	a+b1	6	M22d	V		
10	I x 2-11	II	12-4		1a	3a				6	M22e	V	
11	I x 2-11	II	11-4		1a	3a+1a				9	M22f		
12	I x 2-1	II	II 2-4		3a	3a				7	上25g		
13	I x 2-1	II	II 2-4		3a	3a		b1	7	L25d	V		
14	I x 2-1	II	11-4		3a	3a		b1	6	M22b	V		
15	I x 2-1	II	12-4		3a	3a+1a				6	M22d	V	
16	I x 2-1	II	12-5		3b+4b			b1	5	L25e			
17	I x 2-1	II	12-5		3b+4b					5	上25h	B	
18	I x 2-1	II	12-4		3c	3c				7	L25b		
19	I x 2-1	II	12-4		3c	3c	a1		7	K22c	B		
20	I x 2-1	II	12-4		3c	3c	b1		5	L25e	V		
21	I x 2-2	II	II 2-4		2a	3a	b1			5	M22c		
22	I x 2-2	II	12-4		2a+2b+3a	3a	b1			7	M22b		
23	I x 2-2	II	11-4		2a+2b+3a	7				6	L25b		
24	I x 2-2	II	12-4		2a+2b+3a	3a+3a				7	M22a	V	
25	I x 2-2	II	II 2-4		2b+3c	3c	b1			5	M22c	V	
26	I x 2-2	II	II 2-4		2b+3c	3c	b1			5	上25j	B	
27	I x 2-2	II	II 2-4		2a+3c	24	b1			7	L25b		
28	I x 2-2	II	II 2-4		2a+3c	3c	a1			7	L25a		
29	I x 2-3	II	II 3-4		2a+3a+5b	3a+3a				7	L25c	B	
30	I x 2-3	II	II 3-5		3a+4b+5a					4	L25c		
31	I x 2-3	III		3a	2a+3b+5a+5b					5	L25a	V	
32	I x 2-3	II	II 2-4		2a+3c+5b	3c	b1			6	L25b		
33	I x 2-4	II	II 2-4		3a+3c+5a	3c+3c				8	M22d		
34	I x 2-4	II	II 2-4		3a+3c+5a	3c+3c				7	L25a		
35	I x 2-4	II	II 2-4		3a+3c+5a	3c+3c	b1			8	K25d	V	
36	I x 2-4	II	II 2-4		3a+3c+5a	3c+3c				8	L25c		
37	I x 2-4	II	II 2-4		3a+5a	3a+4b				4	K25b	V	
38	I x 2-4	II	II 2-4		1a+3a+5b	3a+1a	b1			5	K22c	V	
39	I x 2-5	II	II 2-4		1a+3a+4a	3a				6	?		
40	I x 2-6	II	II 2-4		1a+3a	3a+1a	a1			5	L25b		
41	I x 2-6	II	II 2-4		1a+3a	3a	a+b1			3	K27b	V	
42	I x 2-6	II	II 2-4		1a+3a	3a	a1			5	L25b	V	
43	I x 2-6	II	II 2-4		1a+3a		b1			5	K23b		
44	I x 2-6	II	II 2-4		1a+3a		a+b1			5	K23b		
45	I x 2-6	II	II 3-4		1a+3a					6	M25c	V	

III A地点の遺構と遺物

番号	分類	部位	1M8・骨・頭部形状	外観	文様	1M8	文様	1M8	文様	内面	文様	炭化物	寸法	度量	発掘記	部位
46	I・2-6	II	I3・4			1a+3a				a1+b1		6	K23b			
47	I・2-6	II	I3・4			1a+3a				a1+b1		5	K23b			
48	I・2-6	II	I3・4			1a+3a				a1+b1		7	L26a	V		
49	I・2-6	II	I2・4	1a		3c		3c		a1+b1		5	L25c	V		
50	I・2-6	II	I2・4	1a		3c		3c		a1+b1		5	L24c	V		
51	I・2-6	II	I2・4	1a		3c		3c		a1+b1		5	M26b	B		
52	I・2-6	II	I2・4	1a		3c		3c		a1+b1		5	M25b	V		
53	I・2-7	III				1a+2a		1a				8	M24d			
54	I・2-7	III				1a+2a+2b						7	L22a			
55	I・2-7	III				1a+2a						10	M23a	V		
56	I・2-7	II	I2・4			1a+2a+2b	3a・1a					6	M23d			
57	I・2-8	II	I2・4			2a+5a+5b	3a・3a			b1		5	L22a			
58	I・2-8	II	I2・4	2a		2a+5b	3a・3a			b1		7	L26a	V		
59	I・2-8	II	I2・4			2a+5b						6	K23c			
60	I・2-8	II	I3・4			2a+5b						4	K23c			
61	I・2-8	II	I3・4			2a+5a						6	K23b			
62	I・2-8	II	I3・4			2a+4a	4a					5	M25d	V		
63	I・2-8	II	I2・4			2a+5c						4	L22a	B		
64	I・2-8	II	I2・4			1a+2a+5a	3a・3a			a1+b1		5	K26b	N		
65	I・2-9	II	I2・4			1a+2a+5f						5	K25c			
66	I・2-9	II	I2・4			1a+2a+5e						5	L23b			
67	I・2-10	II	I3・4			1a+4a				a1+b1		6	M25d	V		
68	I・2-11	II	I2・4			1a		1a		a1+b1		5	M24a			
69	I・2-11	II	I2・4			1a		1a				10	L23a			
70	I・2-11	II	I2・4			1a				b1		8	K22c			
71	I・2-11	II	I3・4			1a						5	M23a			
72	I・2-11	II	I2・4			1a				a1+b1		5	L23b	N		
73	I・2-11	II	I2・4			1a						8	M23b			
74	I・2-11	II	I2・4			1a						5	M23d			
75	I・2-11	II	I2・4			1a		1a・1a				5	K26b	V		
76	I・2-11	II	I2・4			1a		1a・1a				5	L24c			
77	I・2-11	II	I2・4			1a		1a		b1		5	M25c	V		
78	I・2-11	II	I2・4			1a		3a		b1		6	M24a			
79	I・2-11	II	I2・4			1a		3a		b1		6	M25b	N		
80	I・2-11	II	I3・4			1a		3a		a1+b1		5	L24b			
81	I・2-11	II	I2・4			1a		3a		b1		4	L26b			
82	I・2-11	II	I3・4			1a		3a				5	L22b	V		
83	I・2-11	II	I2・4			1a		3a				6	L24a			
84	I・2-11	II	I2・4			1a		3a				5	M23c	B		
85	I・2-11	II	I2・4			1a		3a・3a		b1		6	L26a			
86	I・2-11	II	I2・4			1a		3a・3a		a1+b1		6	L25c			
87	I・2-11	II	I2・4			1a		3a・3a		b1		5	L25d	V		
88	I・2-11	II	I2・4			1a		3a・1a				7	L25d			
89	I・2-11	II	I2・4			1a		3a・1a				8	M23c	N		
90	I・2-11	II	I2・4			1a		3a・1a				5	K26b	V		
91	I・2-11	II	I2・4			1a		3a				8	L24b			
92	I・2-12	II	I2・4			o		1a				6	L23d			
93	I・2-12	II	I2・4			o		5+?				6	K22c	N		
94	I・2-12	II	I2・4			o		o				7	L23a	V		
95	I・2-12	II	I2・4			o		o				6	L24b			

III A地点の遺構と遺物

図版番号	分類	部位	上種・下種・底部形状	外表面文様	上種部文様	中種	内種	底面	炭化物	厚さ	発見場所	特徴
96	I × 2-12	II	I 2 × 4		0					5	M22a	
97	I × 2-12	II	I 2 × 4	1	0				1	6	K23e	
98	I × 2-12	II	I 2 × 4		0					6	M25d	V
99	I × 2-12	II	I 3 × 4		0					6	L25e	
100	I × 2-12	II	I 2 × 4		0		3e			7	M23d	
101	I × 3-1	II	I 2 × 4		1b+2a+2d+6a-5d					7	M22c	
102	I × 2-2	網目	II 1 × 4-XIa	1b-0	1b+6a+5d				al+94i	8	L23a	V
103	I × 2-2	網目	II 1 × 4-XIa	1b-0	1b+6a+8a?				al+94i	8	M26c	
104	I × 3-7	網目	II 1 × 4-XIa	0	2e				al+95i	6	L25b	
105	I × 3-10	II	I 3 × 4		1b-1e				b1	7	M24b	
106	I × 3-10	II	I 3 × 4	0	0				b1-2	5	L25a	V
107	I × 3-9	II	I 3 × 4	0	0+5f				a1	4	L23a	V
108	I × 3-	網目	I 3 × 4		0					7	L23a	V
109	I × 3-1	II	I 1 × 4	1b'	1b+2a+6a-5d					7	M23c	
110	I × 3-1	II	I 1 × 4	1e	1c+2a+6a-7					7	L25b	V
111	I × 3-2	II	I 1 × 4		1b+6a-5d					7	L23c	N
112	I × 3-2	II	I 1 × 4		6a-5d					7	L22d	V
113	I × 3-2	II	I 1 × 4		1b+6a-5d					6	M23d	
114	I × 3-2	II	I 1 × 4		1b+6a-2d					6	M23c	
115	I × 3-2	II	I 1 × 4		1b+6a-5d					5	M23	
116	I × 3-2	II	I 1 × 4	1b	1b+6a-5d					7	K27c	N
117	I × 3-2	II	I 1 × 4	1b	1b+6a-5d					6	M22c	
118	I × 3-2	II	I 1 × 4	1b	1b+6a-7					6	M26b	V
119	I × 3-2	II	I 1 × 4		6a-5d					5	M23c	
120	I × 3-2	II	I 1 × 4	1b	1b+6a-2d					5	L26b	V
121	I × 3-2	II	I 1 × 4		6a-7					7	K26c	V
122	I × 3-2	II	I 2 ? × 4		6a-2d					6	L23d	
123	I × 3-2	II	I 1 × 4		6a-5e					5	L25b	N
124	I × 3-2	II	I 1 × 4		6a-5d					6	L25a	B
125	I × 3-3	II	I 2 × 4	2a	2a+6a-8					5	L24a	
126	I × 3-3	網	2a		2a+6a-8					5	L23c	
127	I × 3-3	II	I 3 × 4		1b+2a				b1	6	K23c	
128	I × 3-4	II	I 3 × 4		1c+2a				b1	6	L26b	
129	I × 3-4	II	I 1 × 4		2a				b1	5	L26a	V
130	I × 3-4	II	I 2 ? × 4		2e					4	K24c	
131	I × 3-4	II	I 3 × 4		2a				b1	4	M23b	
132	I × 3-5	II	I 1 × 4		2a+5b+6b-8a?					4	L24d	V
133	I × 3-6	II	I 3 × 4		5a+6b-8a					6	K23c	
134	I × 3-7	II	I 2 ? × 4	1b	1b				a1	5	M25c	
135	I × 3-8	II	I 1 × 4	1b	1b+5f					4	M22b	V
136	I × 3-10	II	I 3 × 4	1e	1e				b1	6	L22a	N
137	I × 3-10	II	I 3 × 4	0	0				al+94i	4	L25d	
138	I × 3-10	II	I 3 × 4	1e	1e				b1-2	6	K23c	N
139	I × 2	底	XIa 1a			1a				7	L23d	
140	I × 2	底	XIa 1a			1d+1a				7	L24d	
141	I × 2	底	XIa 1a			1a				6	L25e	V
142	I × 2	底	XIa 3a			1a				6	L24c	V
143	I × 2	底	XIa 1a							5	K24b	
144	I × 2	底	XIa 1a							5	M24a	
145	I × 2	底	XIa 1a							6	L24e	V

III A地点の遺構と遺物

遺構番号	分類	基盤	上部構造部形状	外観文様	上部構造部文様	上部構造部内層文様	支撐	炭化物	寸法	発見地	解説
146	I × 2	底	X1a	1a					6	L25c	V
147	I × 2	底	X1a	1a					6	K25d	V
148	I × 2	底	X1a	1a					7	L25b	V
149	I × 2	底	X1a	1a					7	L25c	V
150	I × 2	底	X1a	1a					7	K25c	V
151	I × 2	底	X1a	1a					7	L25d	V
152	I × 2	底	X1a	1a					7	M25d	V
153	I × 2	底	X1a	1a					7	L25c	V
154	I × 2	底	X1a	0					7	K25b	V
155	I × 2	底	X1a	0					7	L25c	V
156	I × 2	底	X1a	0					6	M24b	
157	I × 2	底	X1a	1a					7	K25b	V
158	I × 3	底	X1a	1b					8	M25b	N
159	I × 3	底	X2a	0					7	L25b	V
160	I × 3	底	X2a	0					7	L25d	V
161	I × 3	底	X1a	1b					6	M22a	N
162	I × 3	底	X1a	1b					9	K25e	
163	I × 1	底	X3c	0			2a		6	M25a	V
164	I × 2	底	X5	1c					6	M25c	V
165	I × 2	底	X5	1a					9	M24a	
166	I ×	底	X1a						7	L22a	V
167	I ×	底	X1a						6	M24d	N
168	I ×	底	X1a						7	K25d	V
169	I ×	底	X1a						7	M24d	V
170	I ×	底	X1a						6	L25a	N
171	I ×	底	X1a						5	K25b	
172	I ×	底	X1a						7	L25d	V
173	I ×	底	X4a						7	K22b	V
174	I ×	底	X3a?							M22b	N
175	Ib2-1	側壁	I1-1	7f+7b+8e		1a		b1-2	6	L25b	N
176	Ib2-1	II	I2-1	7f					8	L25b	V
177	Ib2-1	II	I2-a	7f					8	L25b	V
178	Ib2-1	II	I2-a		7a				7	L25c	V
179	Ib2-2	II	I2-a		8d+8e				6	L24d	V
180	Ib2-3	II	I3-f	1	7c+8a	8e		(a)H4c	7	L25c	V
181	Ib2-3	II	I3-f		7c+8a	8e		b1-2	6	L25b	N
182	Ib2-2	側壁	I2-f	7e+8c+8e		8e		b1	7	L25a	V
183	Ib2-2	II	I3-f	7e	7e+8c+8e	8e		a1	7	L25a	V
184	Ib4?	II	I2-a	7f		8e			7	L25a	V
185	Ib3	II	I2-a	1	6b+2d+7d	1			5	L24d	
186	Ib4	II	I2-a	7f	8d				6	L25b	
187	Ib4	II	I2-a	7f	8d				6	L25b	
188	Ib4	II	I2-f	7f	8e				8	L25b	
189	Ib2	底	X5	7f					7	L25b	
190	I × 1	II	I2-b	7d				a1	12	K23c	
191	Ib1-1	II	I2-f	7e	8e		b1	5	L22c	V	
192	Ib1-1	II	I3-b	7e	8e			6	L23a	N	
193	Ib1-1	II	I3-f	7e	8e			6	L22a		
194	Ib1-1	II	I3-f	7d	8e		b1	5	L25d		
195	Ib1-1	II	I2-f	7f	8e		b1	6	L25c	N	

III A地点の遺構と遺物

遺構番号	分類	基部段	上部・基部形状	外表面文様	上部部文様	中間部空隙	裏面	底化物	高さ	完成度	段数
196	I b1-1	II	I3+I		7e				8	L25d	-
197	I b1-1	II	I2+*		7f	B+	a+b1	6	M25d	-	
198	I b1-1	II	I2+I		7f		b1	6	M24b	-	
199	I b1-1	II	I1+I		7f		b1	6	M23d	-	
200	I b1-1	II	I3+I+*		7f			6	M25a	N	
201	I b1-2	II	I3+*		8e+B+			4	M22a	N	
202	I b1-2	II	I1+*		8e+B+		a+b1	5	L22d	V	
203	I b1-2	II	I3+I		8e+B+	B+		6	L26a	V	
204	I b1-2	II	I3+I		8e+B+		b1	6	L26c	-	
205	I b1-2	II	I3+I		8e+B+	B+		5	L25b	V	
206	I b1-2	II	I2+*		8e+B+			7	M25d	V	
207	I b1-2	II	I3+I		8e+B+		b1	4	M26b	D	
208	I b1-2	II	I3+I		8e+B+			5	M25a	V	
209	I b1-2	II	I3+I		8e		b1	5	L23b	N	
210	I b1-2	II	I3+I+*		8e+B+		b1	5	L26b	N	
211	I b1-2	III			8e+B+		a+b1	7	M22d	N	
212	I b1-2	III			8e+B+		b1	7	M23b	-	
213	I b1-2	III			8e+B+			6	M23c	N	
214	I b1-2	III			8e			8	M22d	N	
215	I b1-2	III			8e+B+			7	L22b	N	
216	I b1-2	III			8e+B+			4	M22c	-	
217	I b1-2	III			8e+B+			5	L26b	-	
218	I b1-2	II	I2+*		8e		b1	11	M25c	N	
219	I b1-2	III			8d+B+		b2	7	L26d	V	
220	I b1-2	II	I2+2+*		8e	B+		3	L25b	-	
221	I b1-2	III			7e+B+e+B+			2	7	M23a	-
222	I b1-2	III			7f+B+			7	L24b	-	
223	I b1-2	II	I3+I		7e+B+	B+		9	L25c	N	
224	I b1-3	III			7e+B+e+B+			7	M25d	V	
225	I b1-3	II	I1+I		8e+B+	B+		7	L26d	-	
226	I b1-3	II	I3+I		8e			5	M25b	V	
227	I b1-3	II	I3+I		8e			5	K27b	N-V	
228	I b1-3	II	I3+I		8e+B+		b1	5	M22d	-	
229	I b1-3	II	I3+I+*		8e+B+	5e		7	-	-	
230	I b1-3	III			8e+B+			5	M22c	-	
231	I b1-3	III			8e+B+			7	-	-	
232	I b1-3	III			8e+B+			6	L25a	V	
233	I b1-3	III			7e+B+e+B+			6	M25d	N	
234	I b1-3	II	I2+*		5e+B+		b1	5	L22b	N	
235	I b1-4	II	I2+2+4		8d		a1	6	M22a	-	
236	I b1-5	II	I2+2+*		2a		a1	6	M23d	-	
237	I b1-5	II	I2+2+2+4		2a			6	M23d	-	
238	I b1-5	III		X3a	7e			8	K26c	V	
239	I b1	III		X4a	B+			5	L26a	-	
240	I b1	III		X4a	7e+B+			7	L25c	V	
241	I b1	III		X3a	B+d+B+			8	L24c	V	
242	I b1	III		X4b	7e+B+			8	L26b	V	
243	I b2	II	I1+I		6a+B+d+B+	B+	b1	6	M25a	V	
244	I b2	II	I2+*		6a+B+d+B+	B+	a+b1	6	L25d	-	
245	I b2	II	I2+*		6a+B+	B+	b1	6	L26b	N	

III A地点の遺構と遺物

測量号	分	組	測定番号	地盤形状	外観文様	土壤剖面	小石、空隙	要層	炭化物	層	発掘区分	層位
246	1b2	17	12-b			6a+8e+8e+8e				5	K25b	V
247	1b2	17	12-a			6a+8e+8e+8e	8e			6	L25a	N
248	1b2	17	81-f			6a+8e+8e+8e	8e		a1	5	M22d	V
249	1b2	86				6a+8e+8e+8e		b1	8	M21d	N	
250	1b2	17	11-a			6a+8e+7f			a1	6	L22b	N
251	1b2	17	13-e			6a+2d+7f	2d			5	L22a	N
252	1b2	17	13-a			6a+2d+7f				5	L25a	V
253	1b2	86				6a+8e+7f				8	L22d	N
254	1b2	86				6a+8e+7f				7	M25a	
255	1b2	17	12-d			6a+8e+7f+8e				6	M22d	N
256	1b2	17	12-a			6a+8e+8e	8e			5	M22a	
257	1b2	86				6a+8e+8e+8e				7	M22d	V
258	1b2	86				6a+8e+8e		b1	7	L21c		
259	1b2	17	13-a-e			7f+7b+8e	8e			5	M21c	N
260	1b2	17	11-a			7d		b1	5	M22a		
261	1b2	86				7f+7b		b1	7	M21c	N	
262	1b3	17	11-a			6b+7g		b1-2	5	L24d	V	
263	1b3	17	13-a			6b+7g		b1	5	L24d	V	
264	1b3	17	11-a			6b+7g				4	L26b	N
265	1b3	17	12-a			6b+7g				5	L25c	
266	1b3	17	13-a			6b+7g		a1	5	L25a	N	
267	1b3	17	13-a			6b				5	M25b	V
268	1b3	17	13-a			6b+8e+7g		b1	4	L24d		
269	1b3	17	11-c			6b+7g				5	K27b	V
270	1b3	86				6b+7g				4	L26b	N
271	1b3	86				6b+7g				5	L25a	N
272	1b3	86				6b+7d				9	M22a	
273	1b3	17	13-a			6b+7d+7f				5	L25b	V
274	1b3	17	13-a			6b+7g+8e				5	M24a	
275	1b3	86				6s+2d+8s				6		
276	1b4	17	12-a			7b				5	L25b	V
277	1b4	17	12-a			7b				5	L24c	N
278	1b4	17	12-a			7b				5	K26b	
279	1b4	17	12-a			7b		a1+b1	6	M22a	N	
280	1b4	17	12-a			7b				6	M22c	
281	1b4	17	12-a			7b?				5	M23b	
282	1b4	17	12-a			7d+8e				7	M25b	V
283	1b4	17	12-a			7f		b1	5	L22d	N	
284	1b4	17	12-a			7e				5	K26b	
285	1b4	17	11-a			7f+8d				7	K25b	N
286	1b4	86				7f+7f				5	L22d	N
287	1b4	86				7f+7f				5	L22a	N
288	1b4	86				7b?				5	M22c	
289	1b4	86				7d+7f		a1	5	L25a	N	
290	1b4	86				7f				5	L22d	N
291	1b4	86				7f				8	L22b	N
292	1b4	86				7d+7f+8e				7	L25a	V
293	Rb	17	12-b			8d+7e				7		
294	Rb	17	12-b			8d+7e				7		

III A地点の遺構と遺物

(2) 石器群

A地点から出土した石器・フレイク・石核・礫の总数は17,245点にのぼる。Ⅲ～Ⅴ層からの出土量が多い。その帰属する時期は土器群からみれば、Ⅲ層出土のものは縄文時代早期～後期の幅が考えられるが、Ⅳ・Ⅴ層は縄文時代早期に限定される。しかし出土石器の形態や土器群の数など考慮すれば、そのほとんどが縄文時代早期に属すると考えて大過なかろう。しかしながらその細分時期のいずれに該当するかは、一部の石器を除いて判断を下す根拠に欠ける。したがって、ここではとくに細分土器群との比定は行わないことにする。

石器の器種は石鎌・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・加工痕のあるフレイク・石斧・たたき石・石鏟・砥石・すり石・石皿が確認されている。以下、器種について記述するが、個々の石器のデータは表4を参照されたい。なお、石器分類の記号は当センターの分類に基づいている。

石鎌（図80～83-1～199）

形態別・層位別に配列してある。1～35・195がⅢ層、36～84・196がⅣ層、85～183・191・194・197～199がⅤ層、184がⅥ層である。

Ⅲ層：1～5・8・15が明瞭な茎をもつもの。6・7・9・10・19は、茎が明瞭にみられない、基部がひし形ないし丸味をもつものである。11・12・14は最大幅が尖頭部にあるもの。22は三角形のもので基部がやや鈎入している。23は明瞭ではないが五角形に近いもの。基部が平坦である。24はやや幅広の鎌。基部は平らに近いが、若干鈎入気味である。25～31・33～35は細身で薄味のもの。27は茎部が熱を受け白っぽくなっている。32は鎌の未成品かと思われる。

Ⅳ層：37・39は明瞭ではないが茎がある。36・38は茎がなく柳葉形のもの。40は五角形の大型鎌である。41～45は三角形のもので、いずれも某部が若干鈎入している。52・53には主剣離面が残る。54・55は五角形で薄身に作られたもの。58～80、82～84は細身で入念な加工の施されたもの。

Ⅴ層：85は茎が明瞭にみられるもの。86は五角形の鎌。87・88は茎が明瞭でなく、ひし形を呈している。89・90は最大幅が尖頭部にあり、細身で薄く作り出されている。91～95柳葉形で作りがやや粗雑なもの。96～167は細身で薄く作り出された柳葉形の鎌である。168は縁辺部に加工が施されたもので、基部が鈎入する。172は最大幅が尖頭部にあり、細身で薄く作り出されている。181～183はフレイクに簡単な加工を施しただけの鎌、195～198は始先の可能性もあるが、一応鎌としておく。199は五角形の大型鎌である。薄身で入念な加工が施されている。

石槍（図84・86～200～220）

203がⅢ層、204・206～208がⅣ層、200～202、209～217がⅤ層からの出土である。203・215はかえしの明瞭なもの。200・201は入念な加工が施され、薄身に作り出されたもの。210・211は細身で断面が丸味をもっている。

石錐（図85・86～221～253）

221がⅢ層、222～234、251がⅣ層、235～250・253がⅤ層の出土品である。221・222・225は

III A 地点の遺物

棒状の刺突部をもつもの。230・232・234・246～248・250・251はフレイクの一端にかんたんな刺突部を設けたもの。226～229、231、233、235～244、249・252・253は石鎌・つまみ付きナイフ・石槍ないしその未成品に刺突部が作り出されたものである。

つまみ付きナイフ（図87～93・254～385）

254～258がⅢ層、259～315がⅣ層、316～328がV層から出土したものである。254は二次加工が表面（図左側）全体に施され、右側縁部が急角度の刃部をもち、表面（図右側）のつまみ部および右側縁部に細かな加工が施されている（ⅢA 1）。殆どがこのタイプに属する。256・257は二次加工が縁辺部にのみ施されている（ⅢA 3）。306は両面加工のナイフである（ⅢA 4）。つまみ付きナイフはこの3種類が確認されている。ⅢA 1は形態上、尖頭形（たとえば280）、半月形（たとえば268）、一側縁（刃部）が極度に湾入しているもの（たとえば267）、先が幅広のもの（たとえば353）などバリエーションが認められる。ⅢA 3は概して作りが粗雑である。ⅢA 4は尖頭状のものが多い。

スクレイパー（図94～98・386～450）

386～388がⅢ層、389～410がⅣ層、411～450がV層から出土したものである。386・387・392・395・396・402・405・415～418・423・424・426・427・432～434・437が縁辺全体に加工の施されたスクレイパーで、形状は円形を基本としている。389・391・393・411～414、425・431が下端部（エンド）に刃部のあるスクレイパーである。400・406・435は両側縁に刃部のあるスクレイパーである。

石核（図99～101・451～474）

451～472はV層から出土。ほとんどの石核には板状の角縁が用いられている。剥離面は一定せず、大半の石核が原石面を残している。463・466・469・471・472は主剥離面をもった残核である。なお、451～469は一括資料である。

石斧（図102～105・475～515）

475～479はⅢ層、480～488・510・513はⅣ層、489～506・508・511～515はV層出土。ほとんどの石斧は475のように擦り切り痕を残している。形態的には481のように大型のものと、502のような小型がある。480は刃部だけが磨かれているもの。483の側縁には敲打痕が残っている。507には剥離調整された刃部が作り出されているが、磨かれていない。両刃がほとんどで、明瞭な片刃斧はないが、494・499～501はやや片刃に近いものである。509～515は擦り切り痕のある石斧残片である。

たたき石（図103・105・517～525）

517・518・522はⅣ層、519～521・523・524はV層出土。516には2か所の敲打痕が認められる。517は長円形の礫の両端に敲打痕がある。518は本来はすり石なのであろうが、擦面上に敲打痕が認められる。519は扁平な礫の両側縁に敲打痕がある。521はすり石とたたき石の用途を有するもので、周縁に敲打痕がある。522～525は扁平な円礫の平らな両面に敲打痕が認められる。

石鎌（図106～109・526～606）

III A地点の遺構と遺物

526はⅢ層、527～552はⅣ層、553～606はV層からの出土である。大半が長軸両端に打ち欠きのある縦。551・552・599・603は短軸両端に打ち欠きをもつ。548には打ち欠きを結ぶような擦痕が両面に認められる。

砥石（図110～111—607～624）

607・608はⅢ層、609～614はⅣ層、615～624はV層出土。607・610は片面に砥痕のあるもの。609～612・615～621は両面に砥痕のあるもの。612は石鋸で刃部が直線状になっている。613・614・622～624には砥面に溝が認められる。

すり石（図112～121—625～760）

625～633はⅢ層、634～671はⅣ層、672～742はV層出土。Ⅲ層：625～628・631～632は断面が隅丸三角形の縦の縫を擦ったもの。625～628には擦面が1か所、631・632には2か所ある。629・630は扁平な縦の側縁を擦ったもの。擦幅はせまく、1か所。633は扁平な円縦の平坦な面を擦面としている。

Ⅳ層：634～668は断面が隅丸三角形の縦の縫を擦ったもの。634～660には1か所、661～667には2か所、668には3か所の擦面がある。669は縦の縫ではなく、平坦な面を擦ったもので、擦面は2か所ある。670は扁平な縦の側縁に擦面があり、平坦な面にも一部擦った痕が認められる。671は扁平な円縦の平坦な面に擦面があり、側縁の一部にも擦った痕がある。

V層：672～742は断面が隅丸三角形の縦の縫を擦ったもの。672～730には擦面が1か所、731～741には2か所、742には3か所ある。758～760は出土層位不明。いわゆる北海道式石冠で敲打により握り部が作り出され、幅広の擦面をもつ。

石皿（図122～124—761～774）

761はⅢ層、762～766はⅣ層、767～773はV層出土。761は長軸が66cmある大きな縦で、平坦面に擦面がある。使用面は円錐状のくぼみになっている。762・764～766・768・769・771は板状の縦の平坦面に使用面がある。762・766・771は片面、764・765・768・769は両面に使用面がある。763・767・772～774は扁平な円縦ないし、その破片に使用面のあるもの。763・766・772・774は片面、773は両面に使用面がある。770は角柱状の縦の一面に使用面がある。

III A地点の遺構と遺物

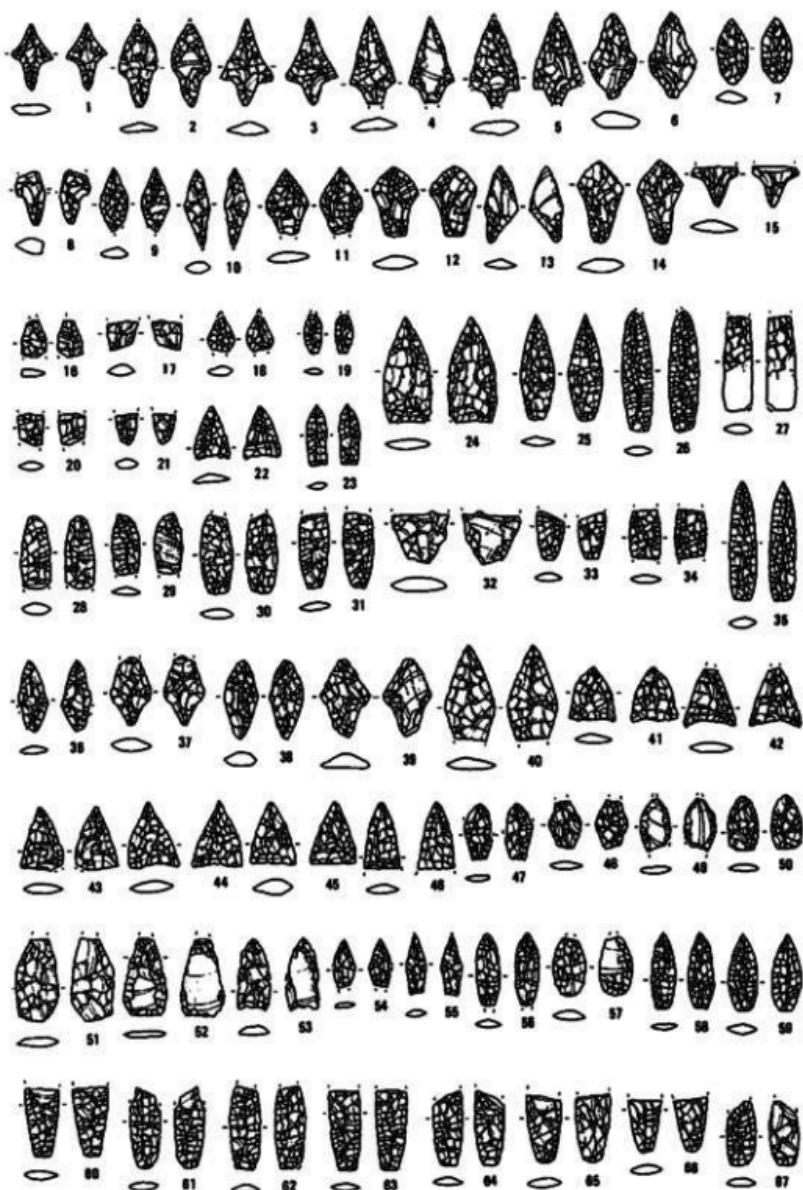


図80 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

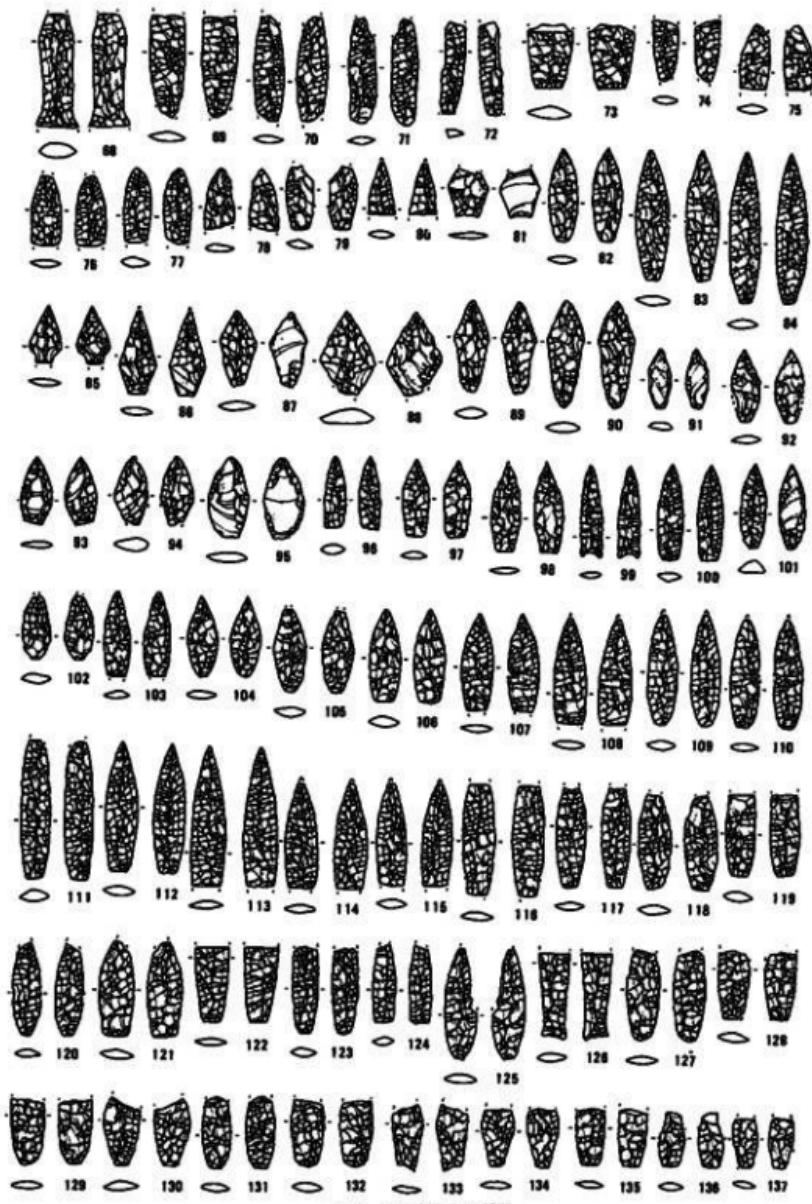


図81 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

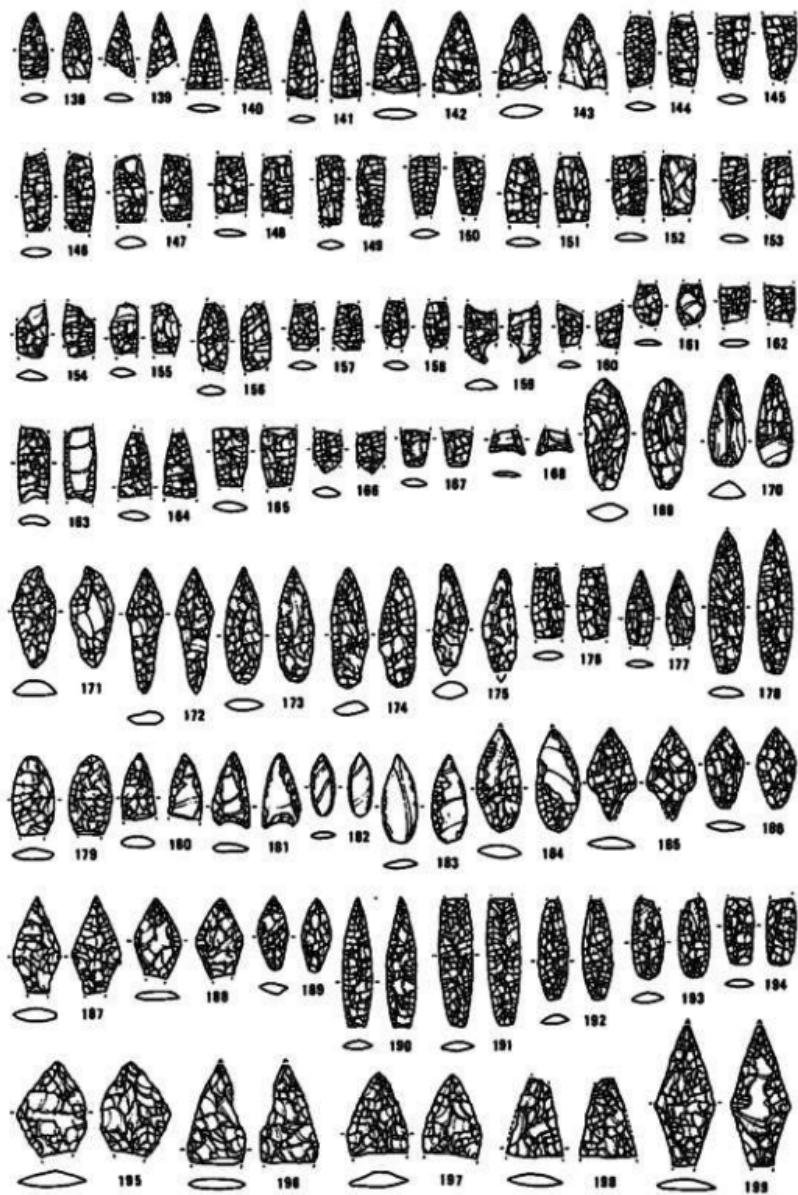


図82 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

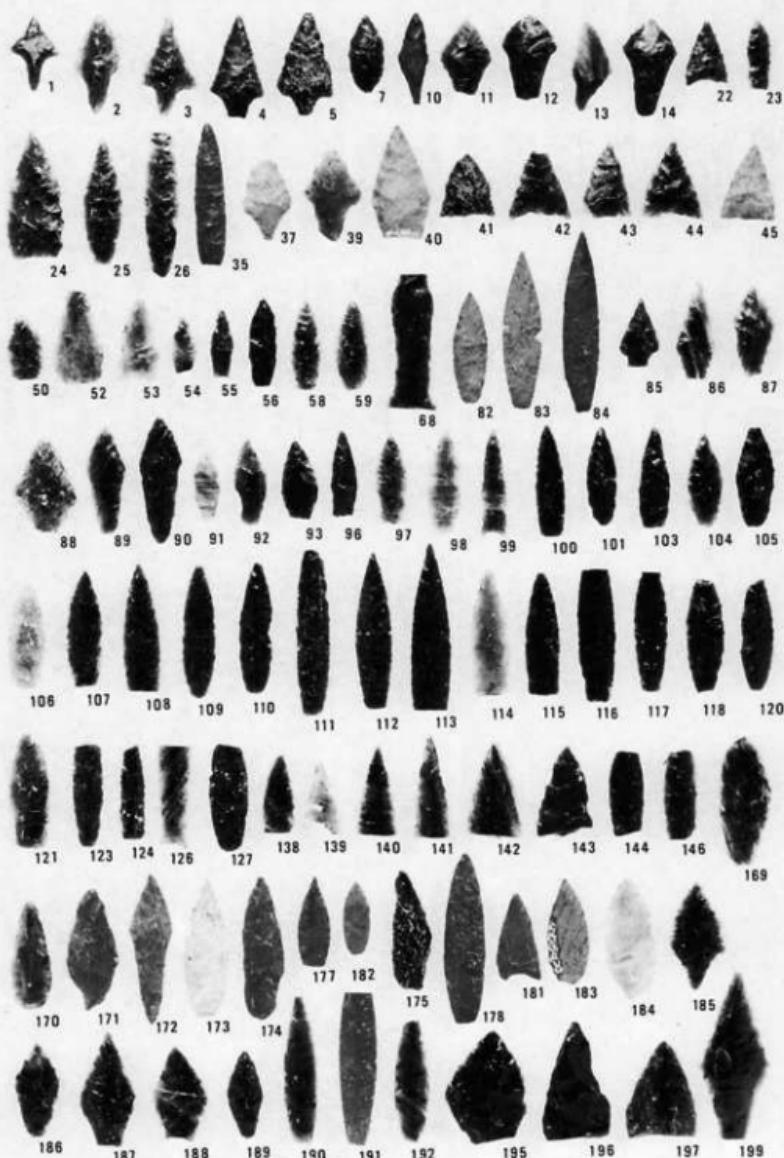


図83 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

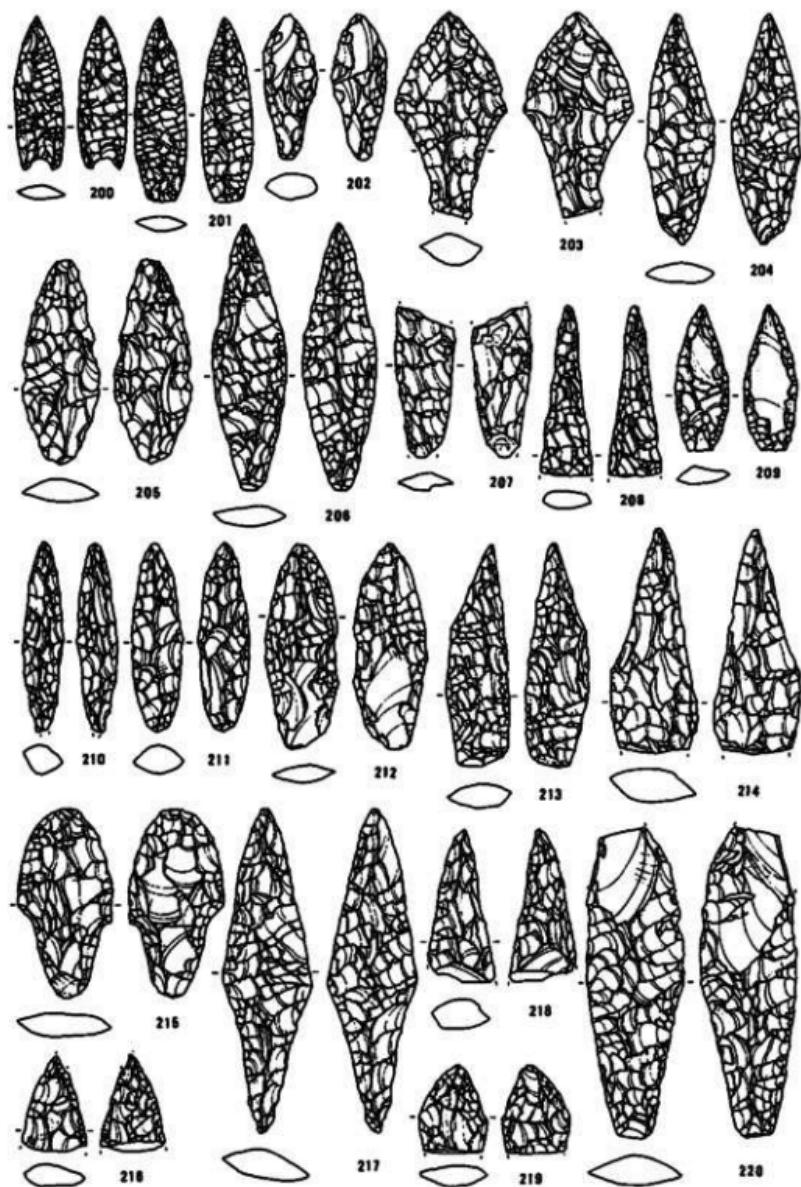


図84 A地点出土の石器

Ⅲ A地点の遺構と遺物

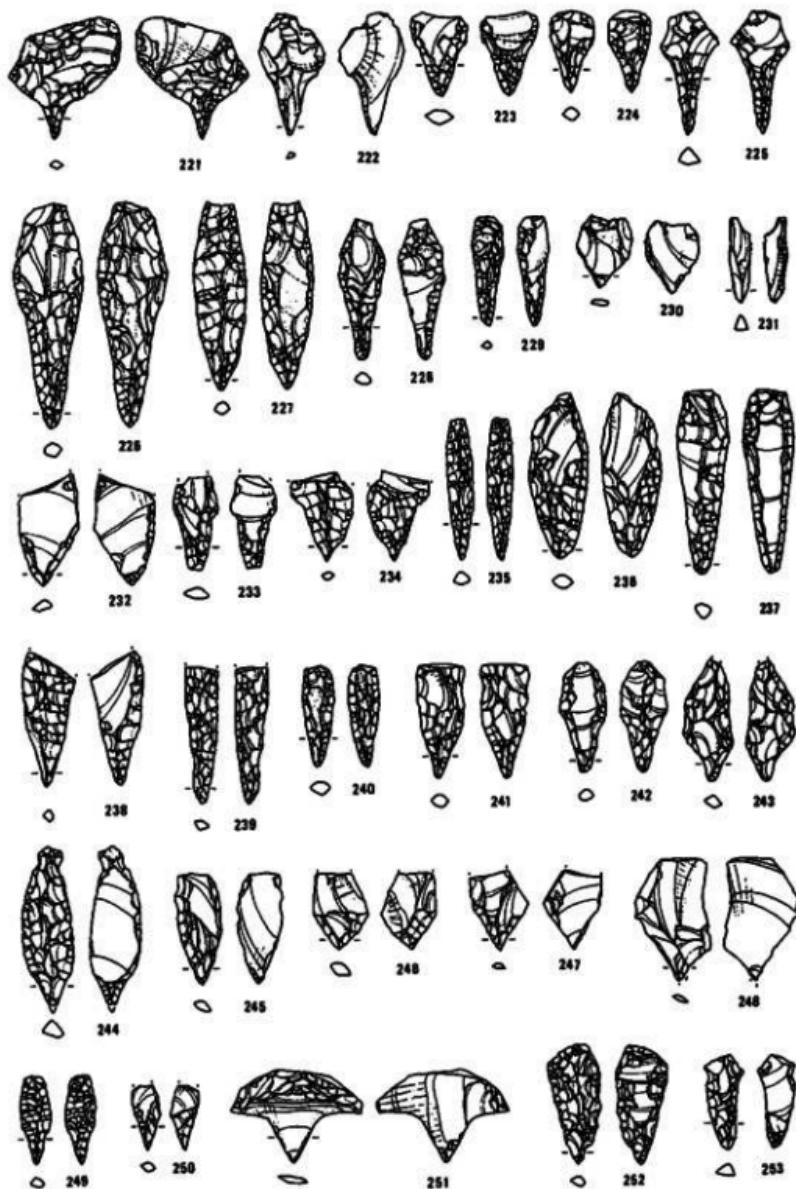


図85 A地点出土の石器

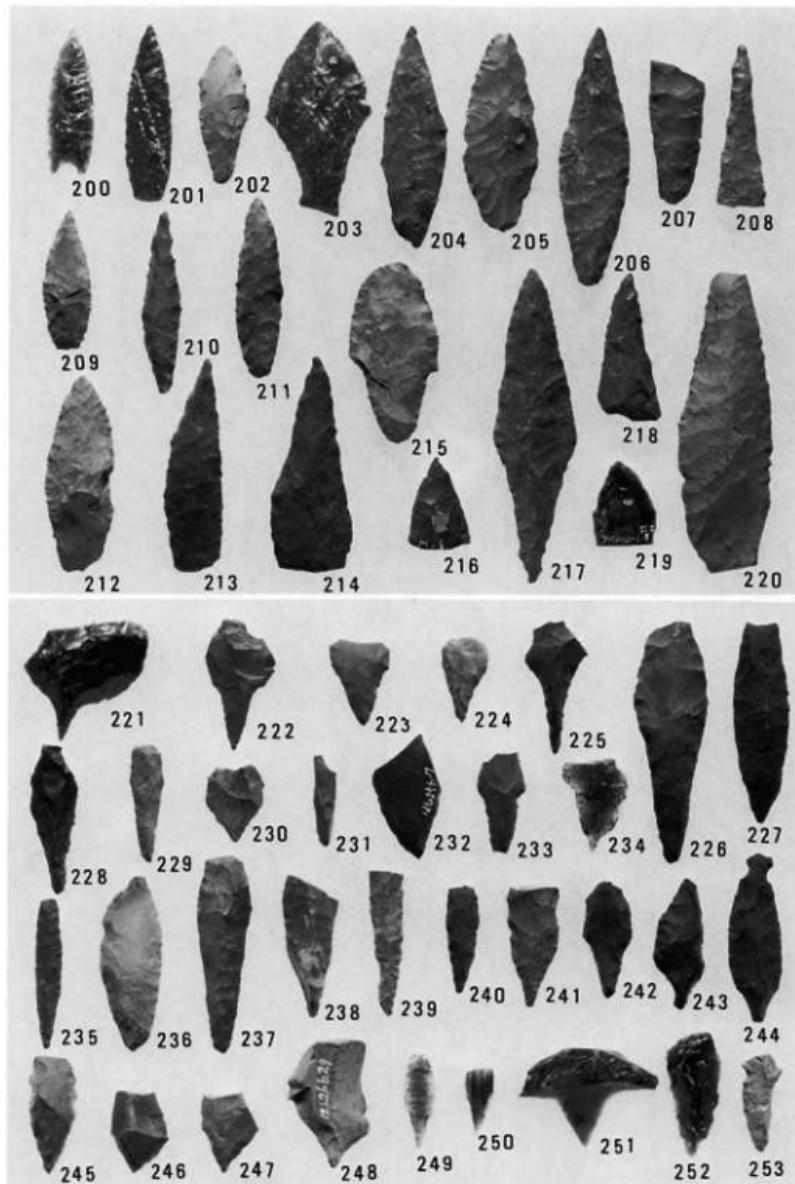


図86 A地点出土の石槍・石錐

III A地点の遺構と遺物

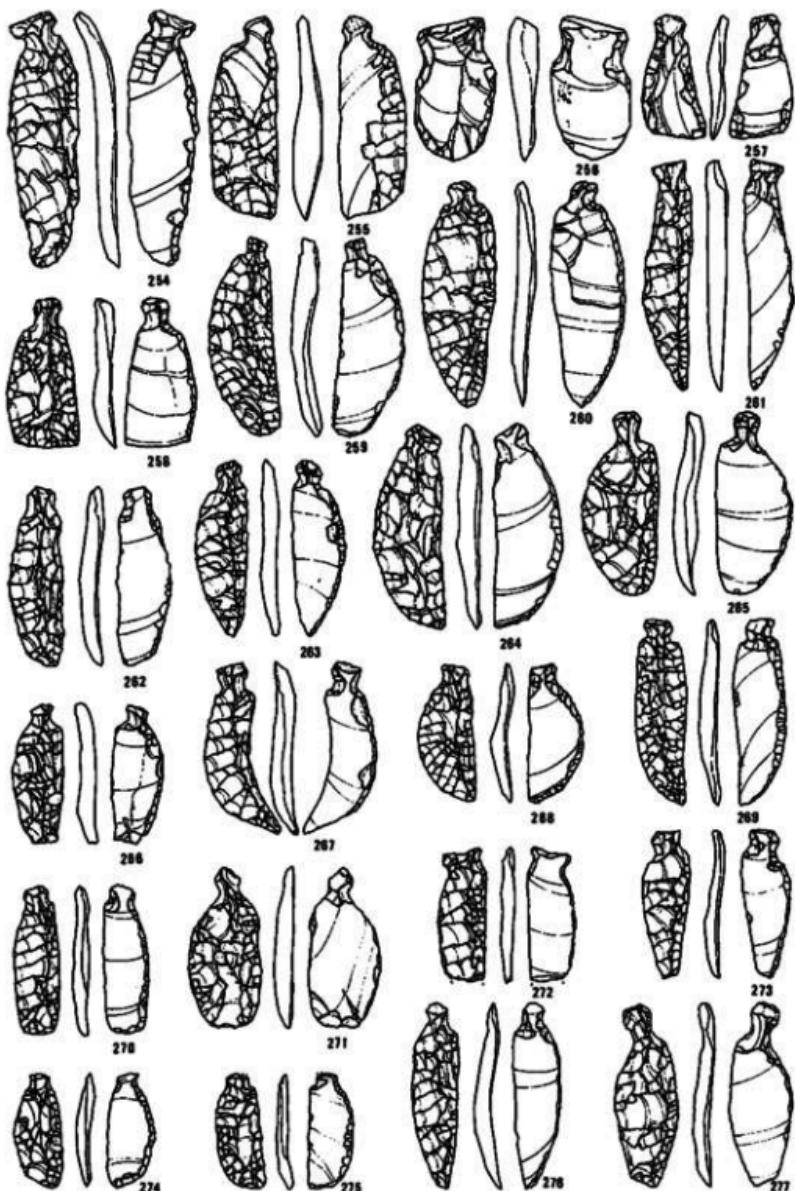


図87 A地点出土のつまみ付きナイフ

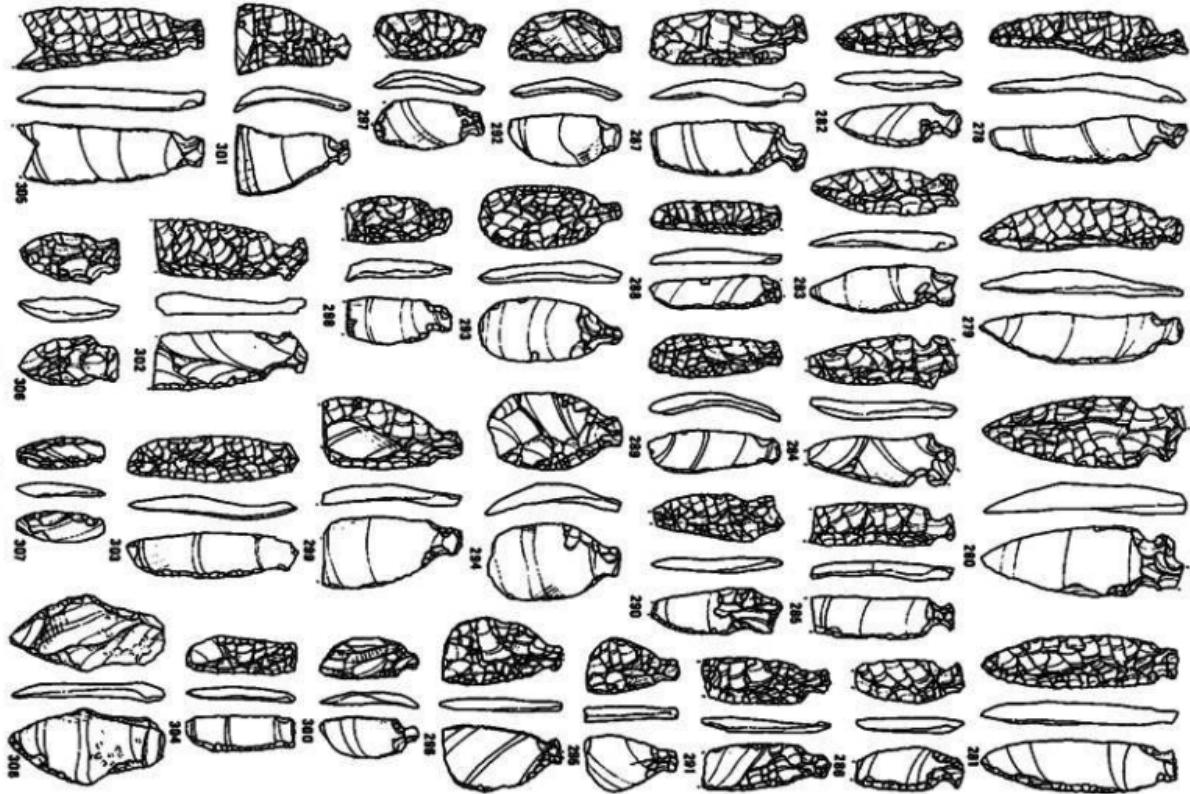


図 A地点の遺構と遺物

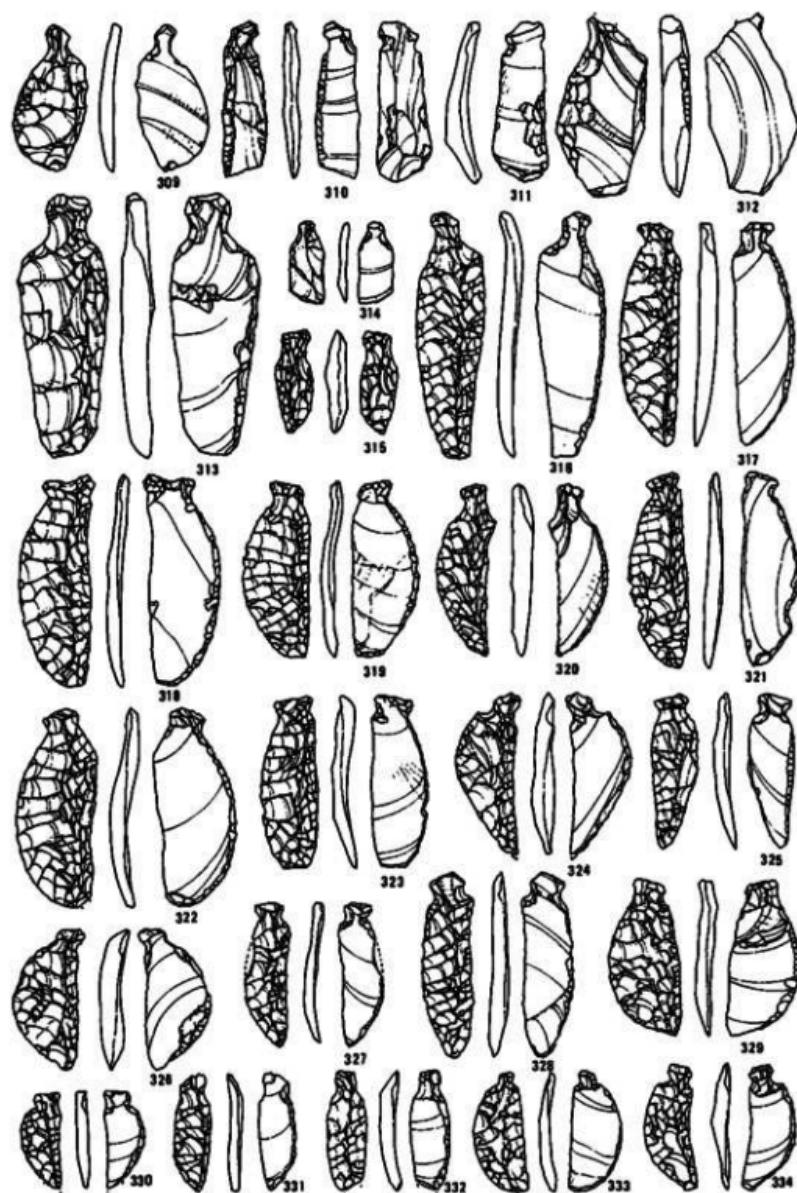


図89 A地点出土のつまみ付きナイフ

III A地点の遺物

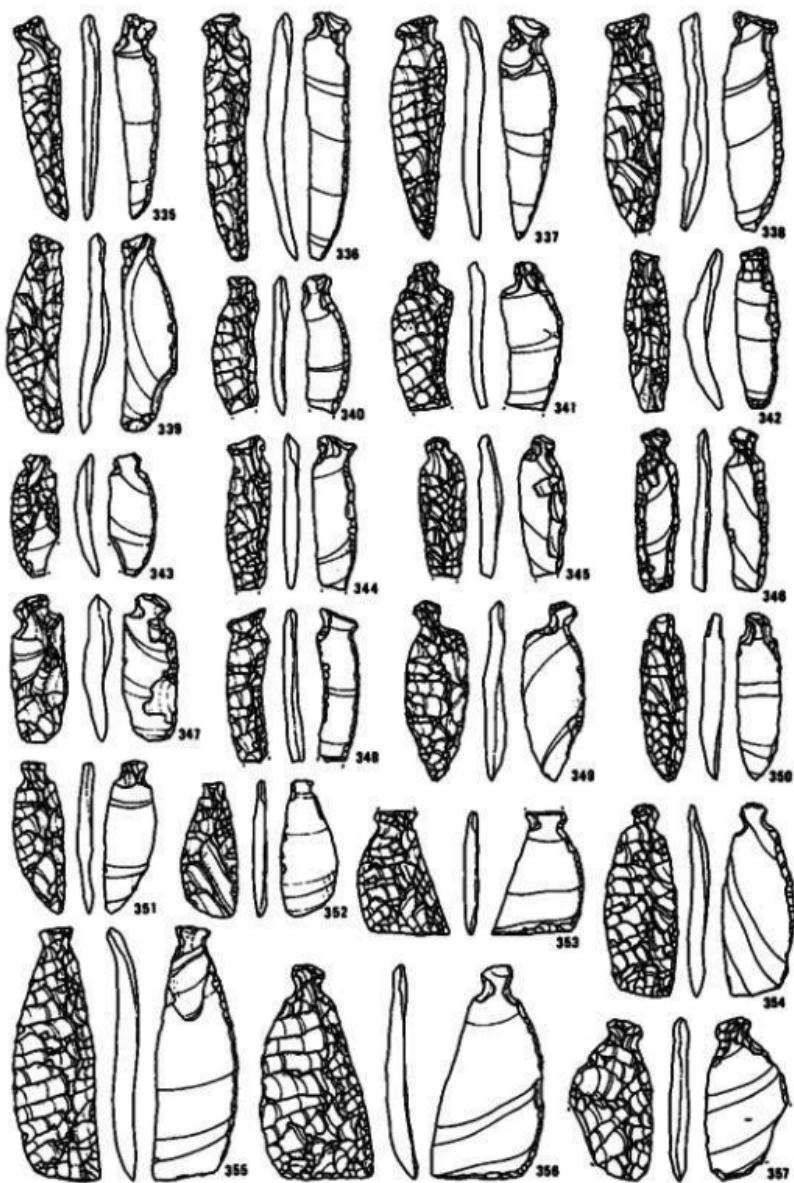


図90 A地点出土のつまみ付きナイフ

III A地点の遺構と遺物

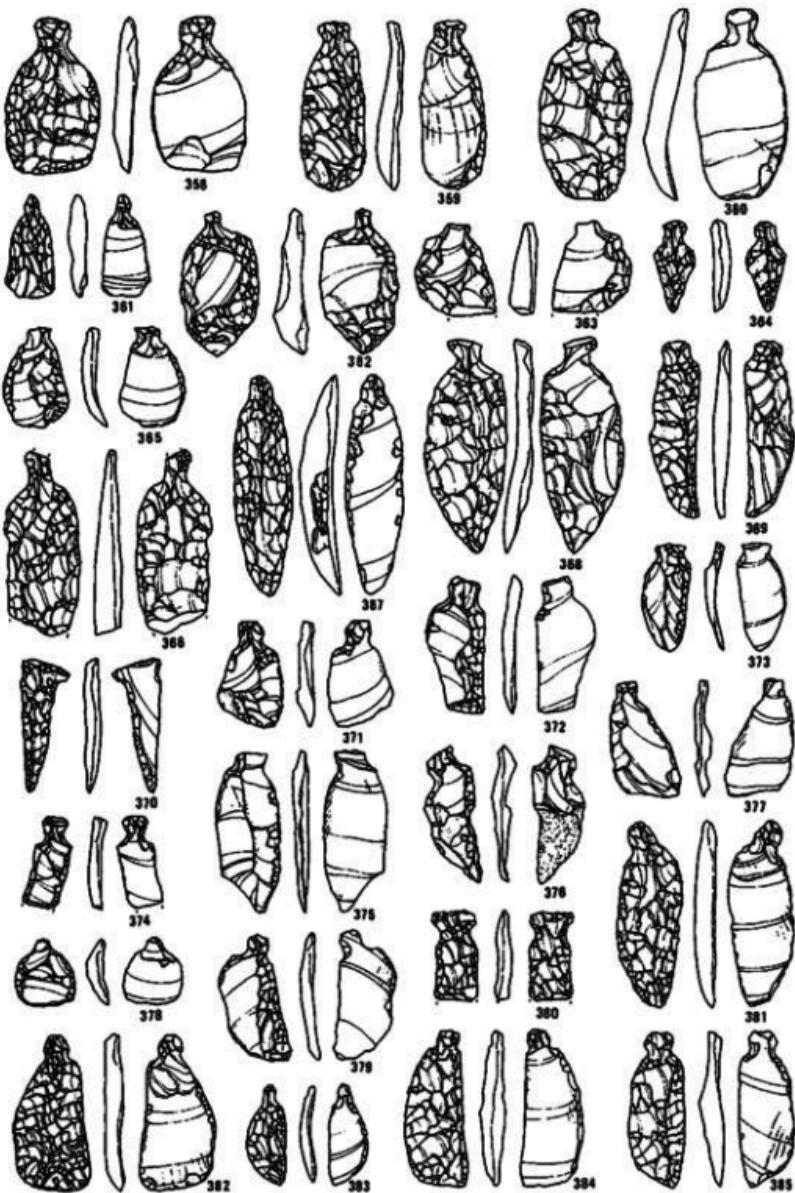


図91 A地点出土のつまみ付きナイフ

III A地点の遺構と遺物

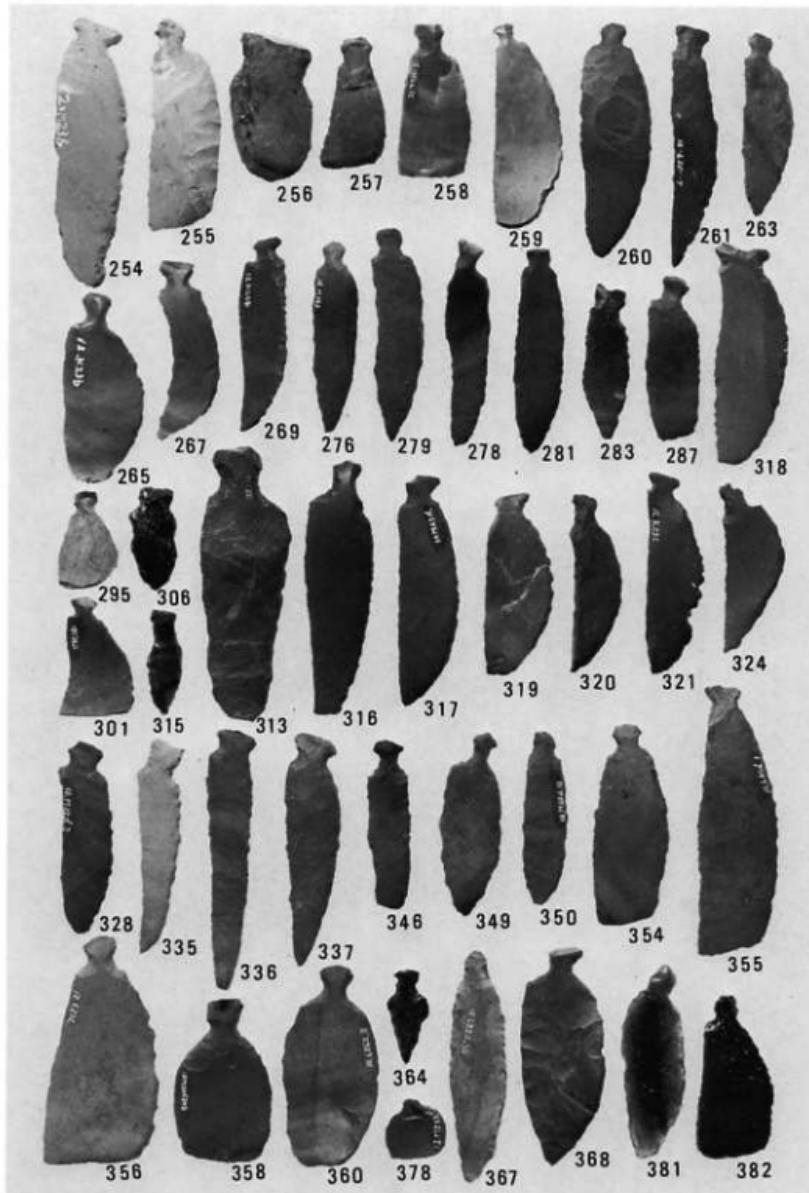


図92 A地点出土のつまみ付きナイフ

III A地点の遺構と遺物

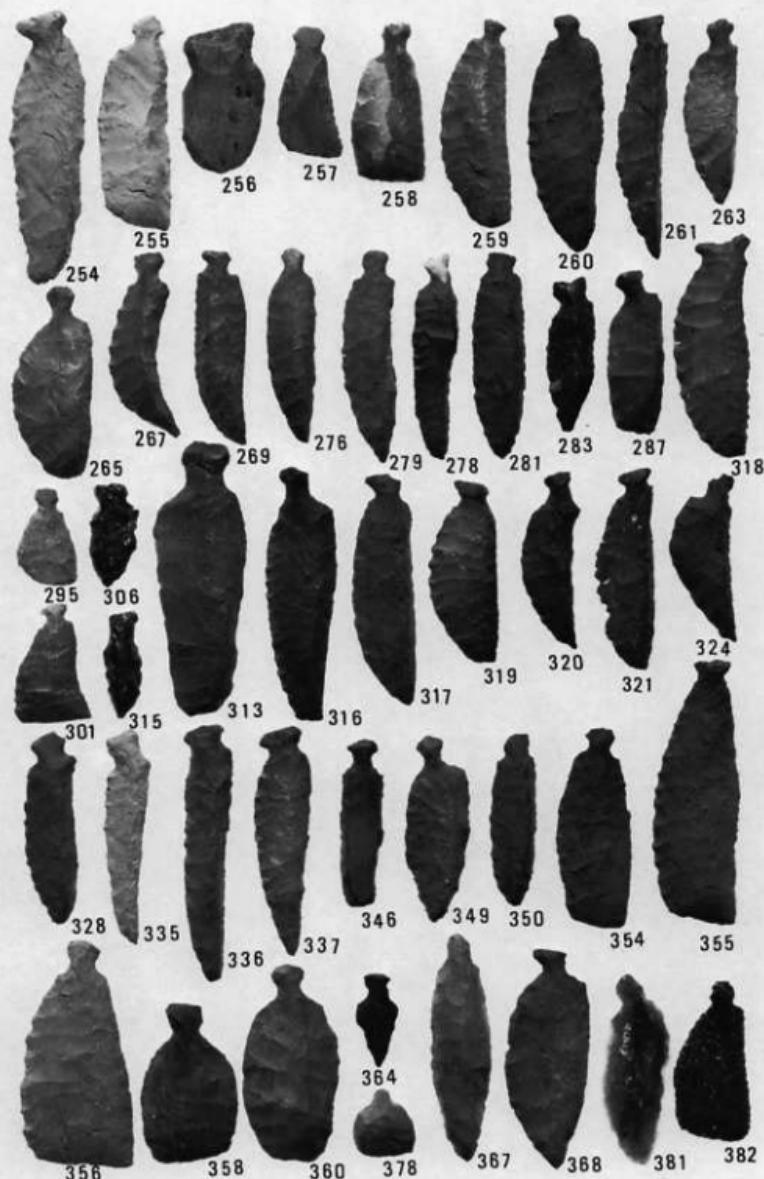


図93 A地点出土のつまみ付きナイフ

III A地点の遺構と遺物

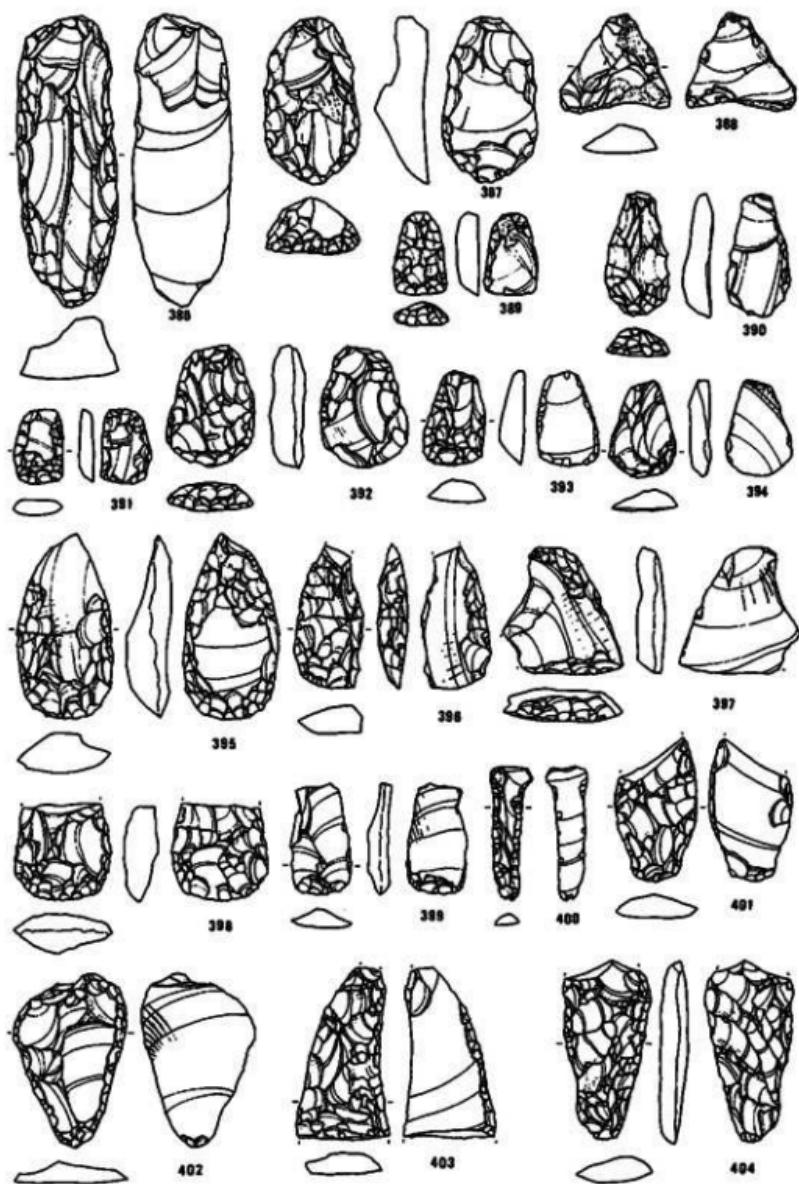


図94 A地点出土のストレーパー

III A地点の遺構と遺物

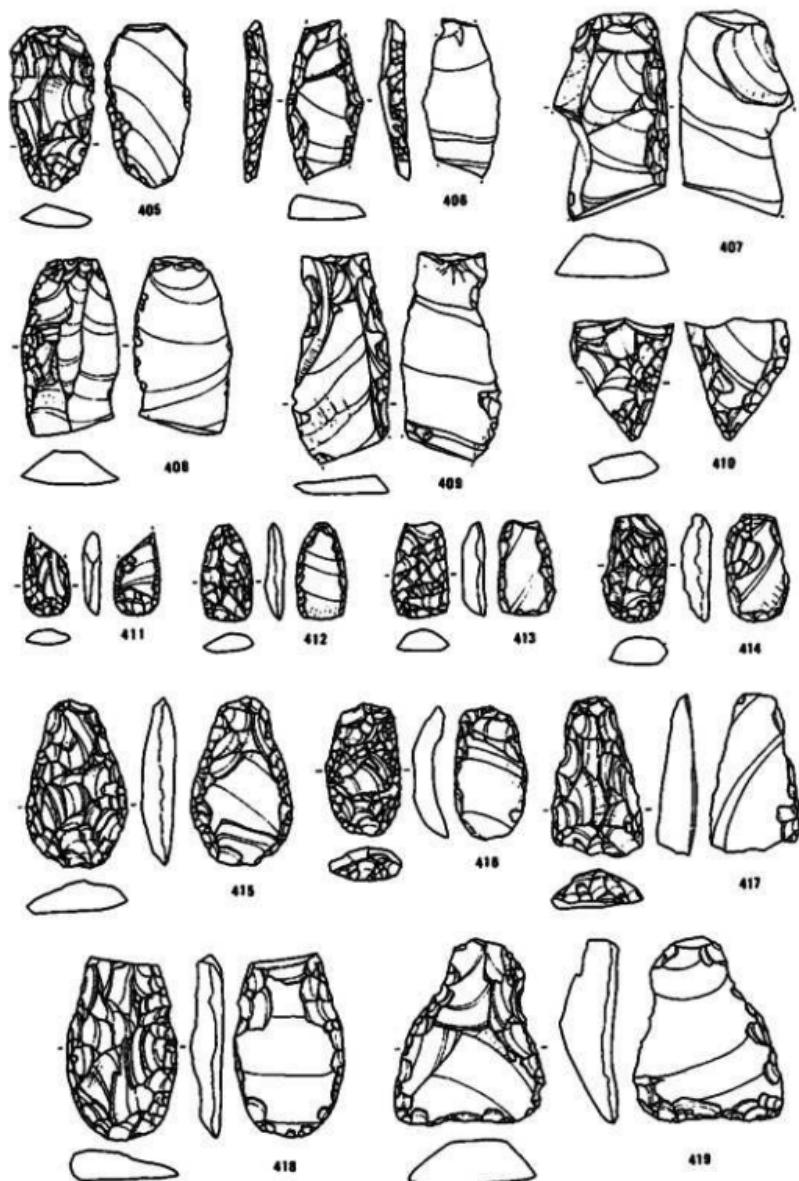


図95 A地点出土のスクレイパー

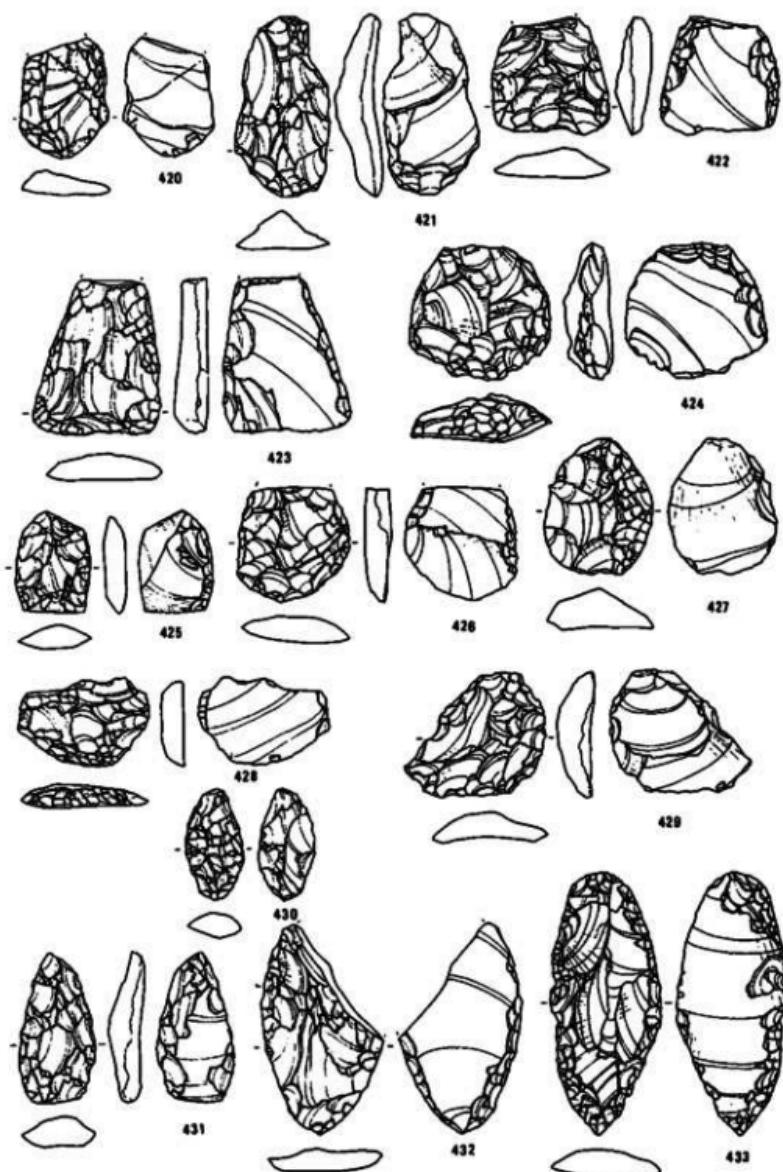


図96 A地点出土のスクレイバー

III A地点の遺構と遺物

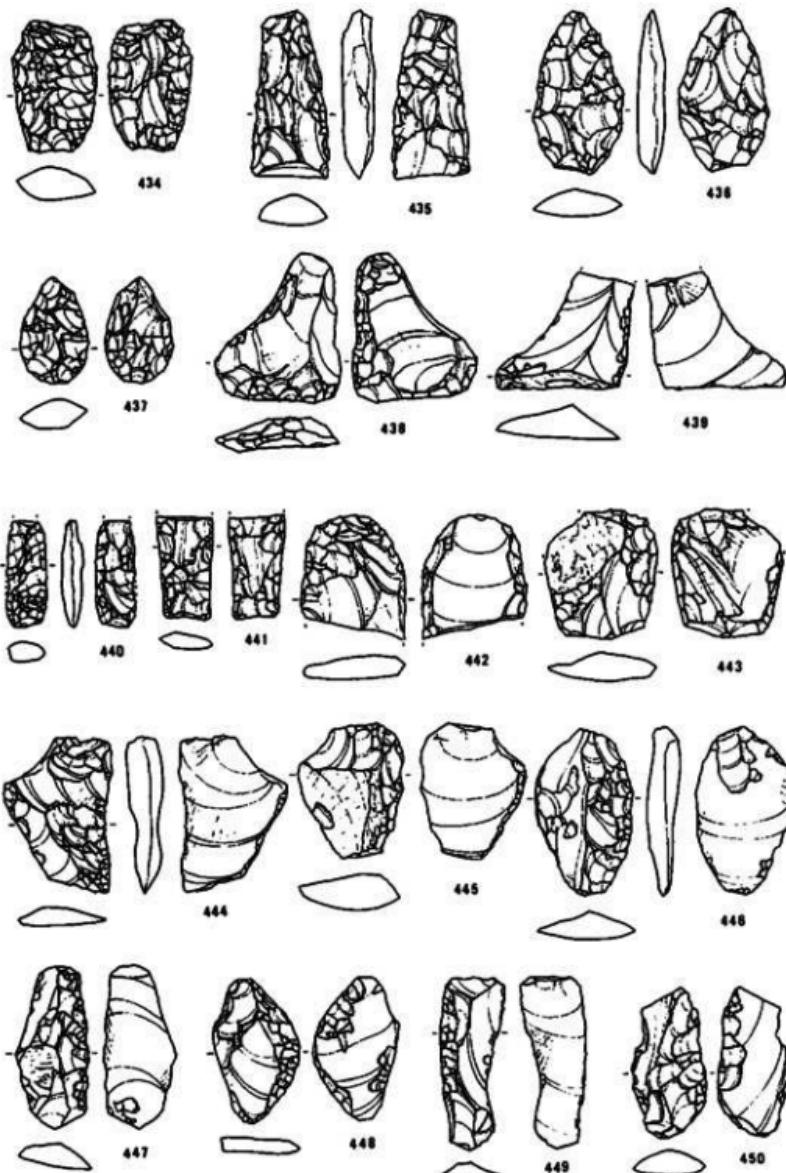


図97 A地点出土のスクレイパー

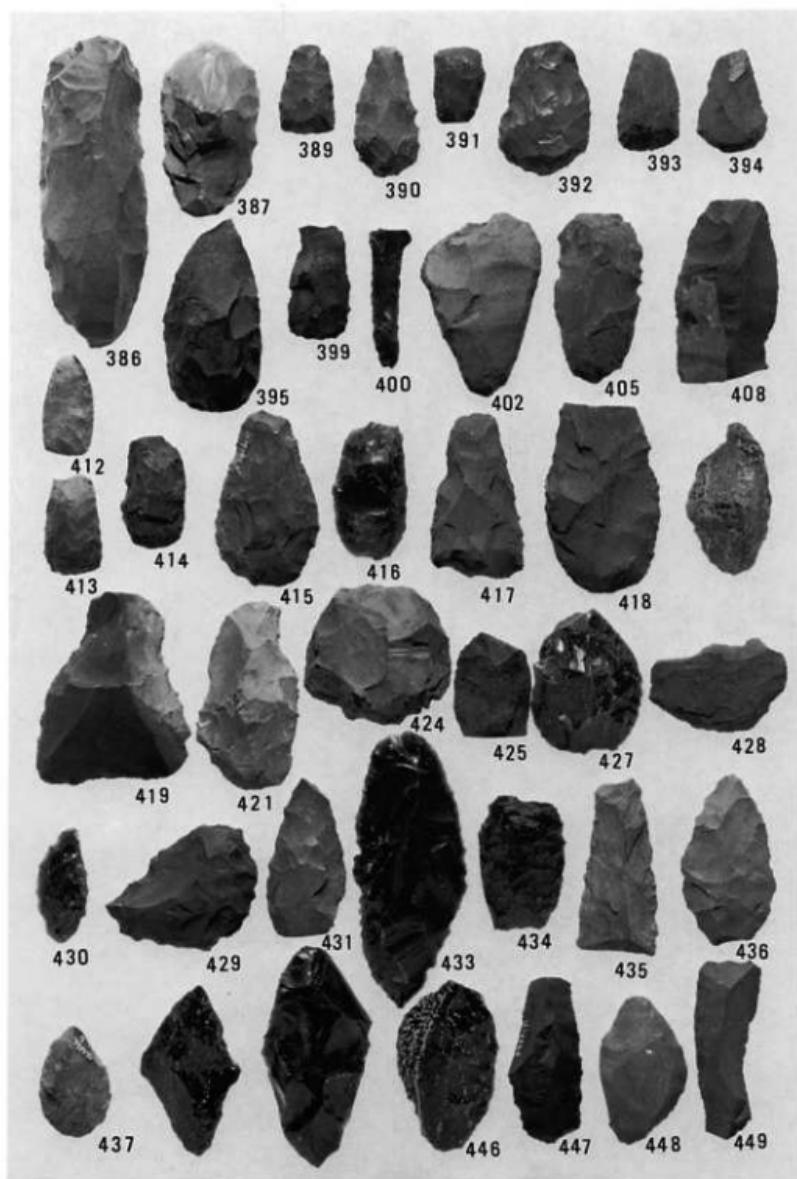


図98 A地点出土のスクレイバー

III A地点の遺構と遺物

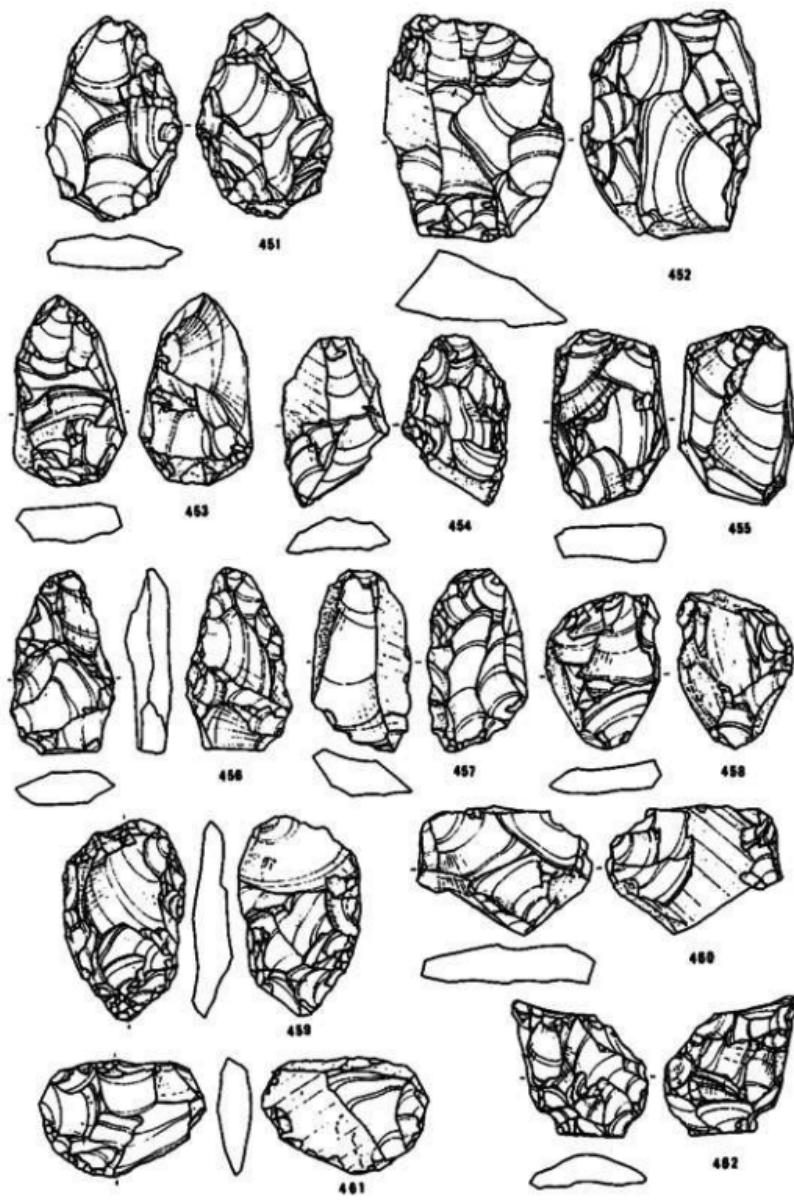


図99 A地点出土の石核

III A地点の遺構と遺物

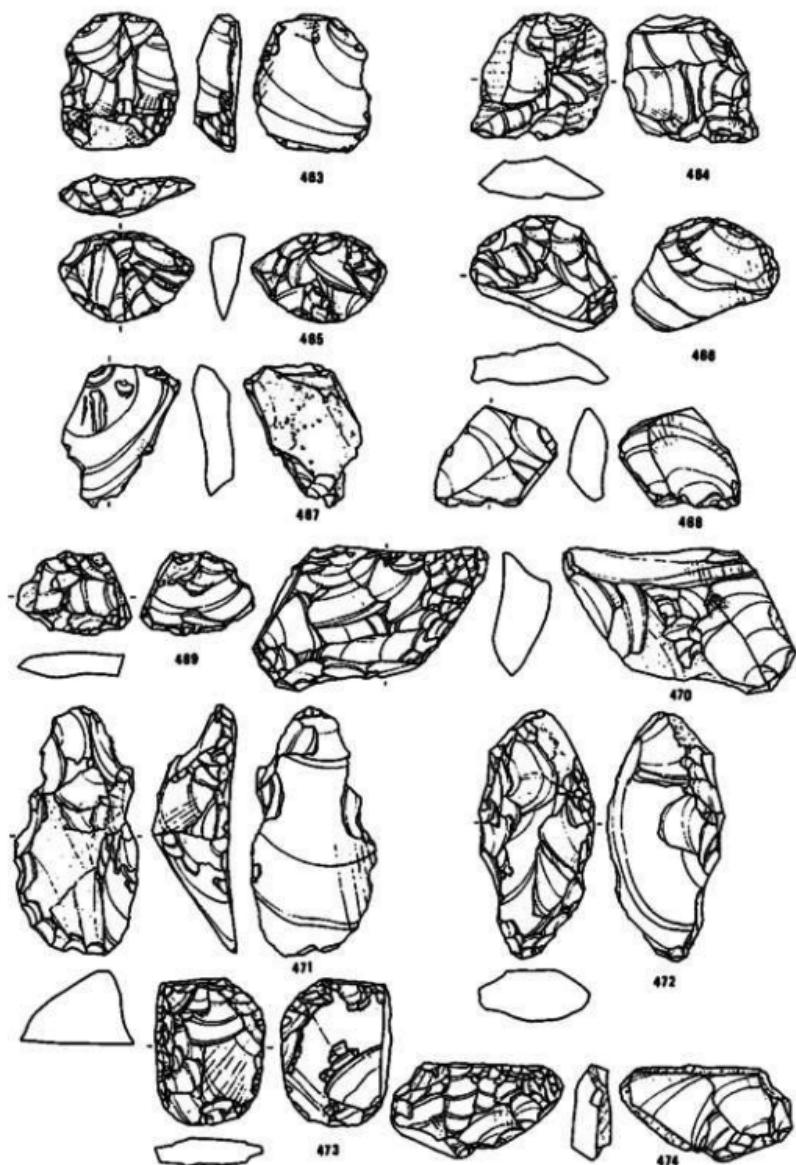


図100 A地点出土の石核

III A地点の遺構と遺物

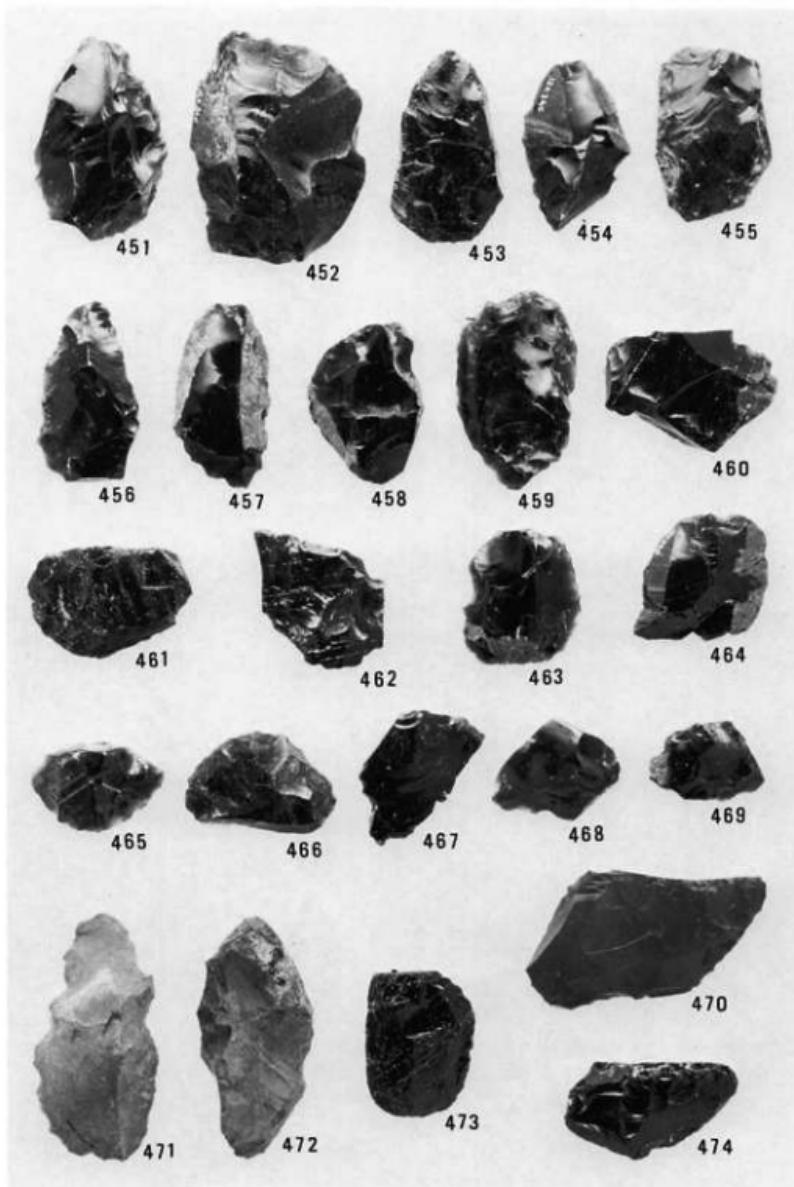


図101 A地点出土の石核

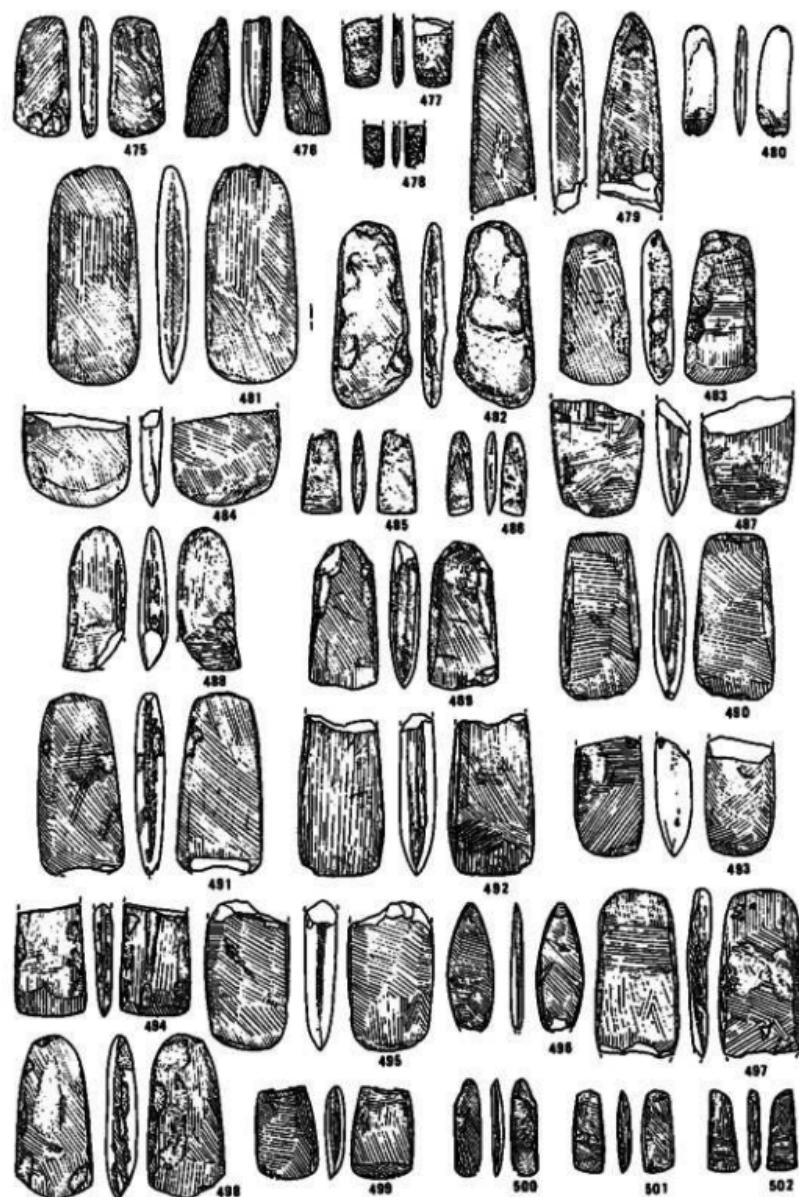


図102 A地点出土の石斧

図 A地点の遺構と遺物

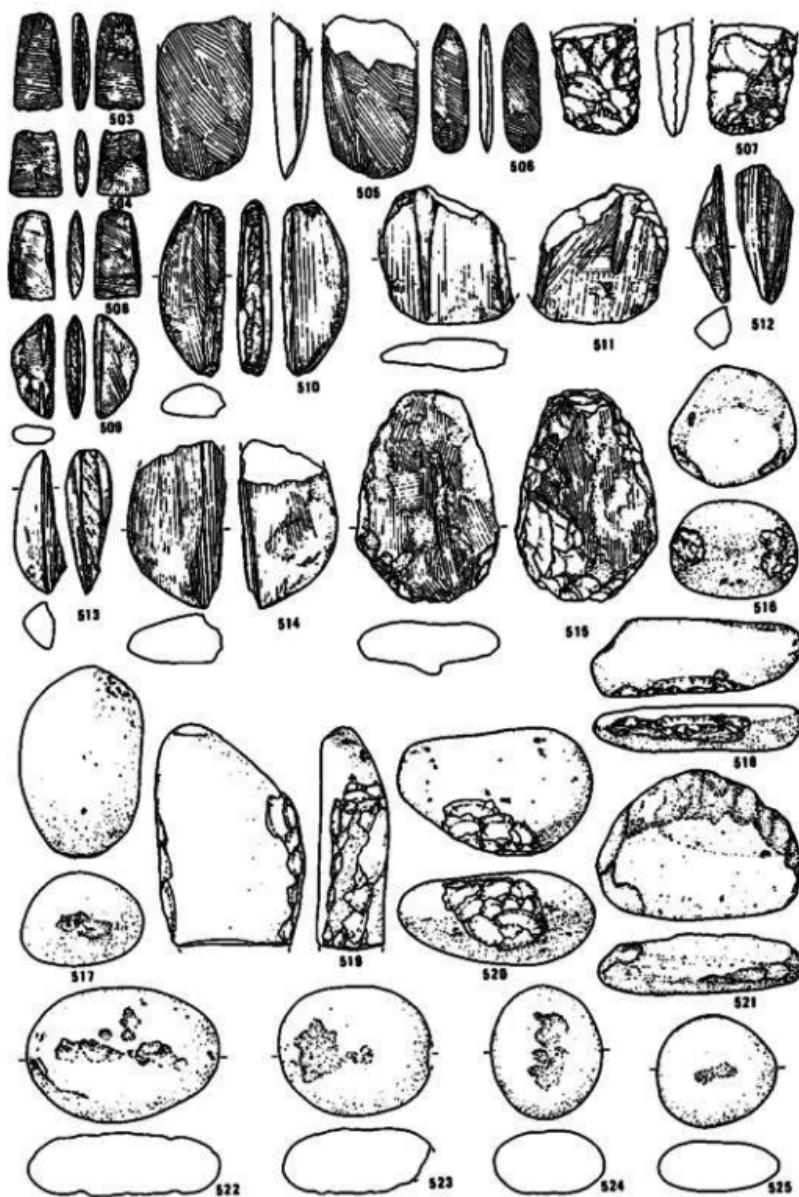


図103 A地点出土の石斧・たたき石

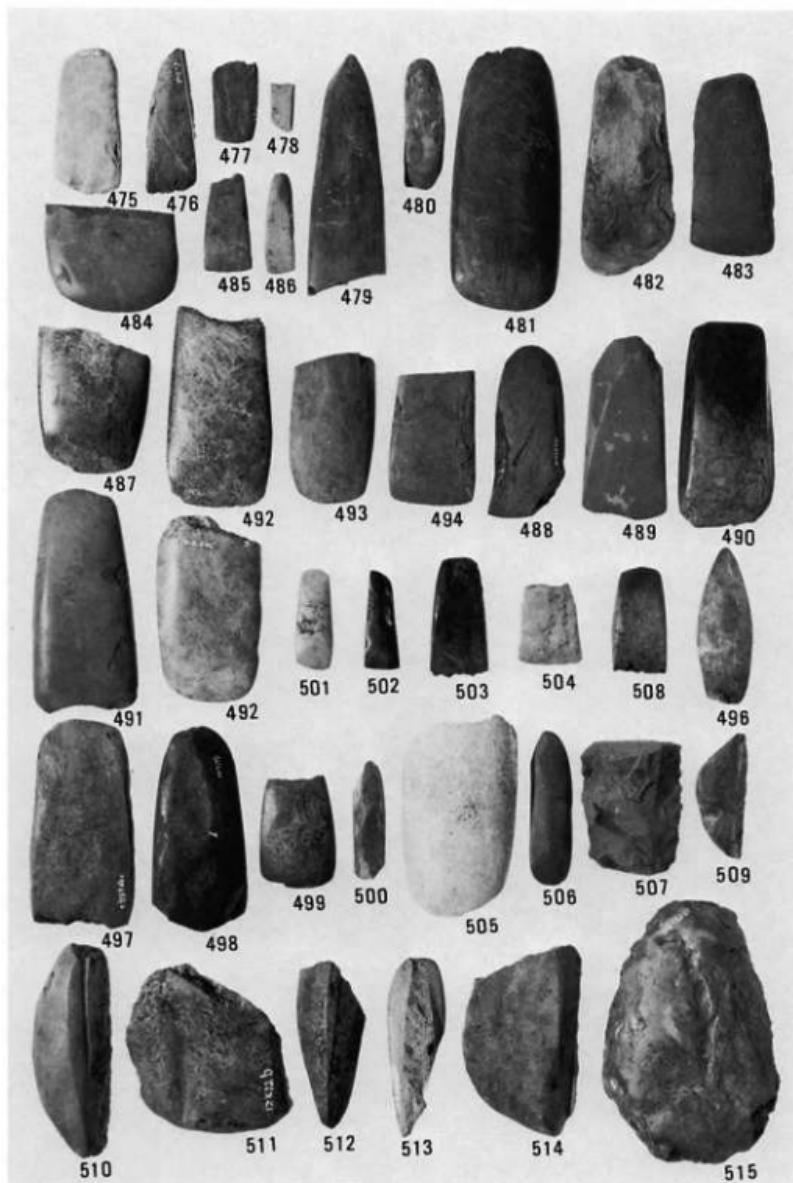


図104 A地点出土の石斧

III A地点の遺構と遺物

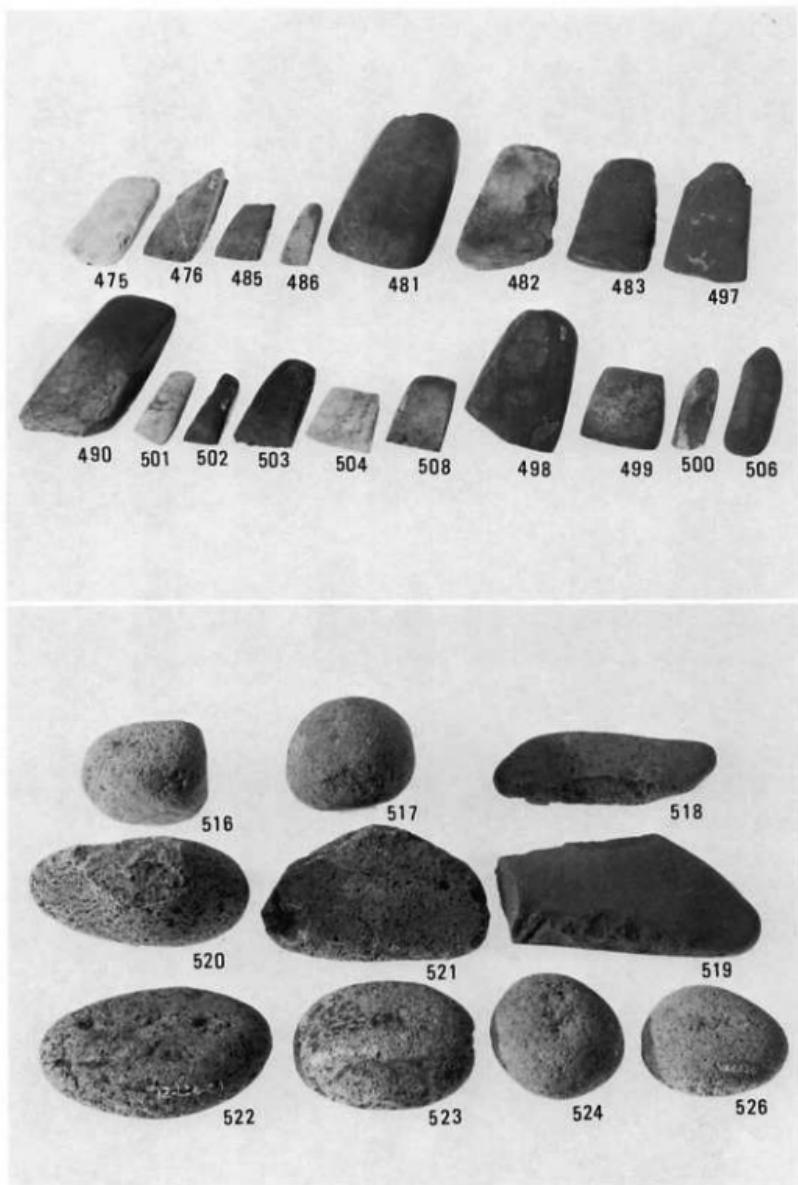


図105 A地点出土の石斧・たたき石

III A地点の遺構と遺物

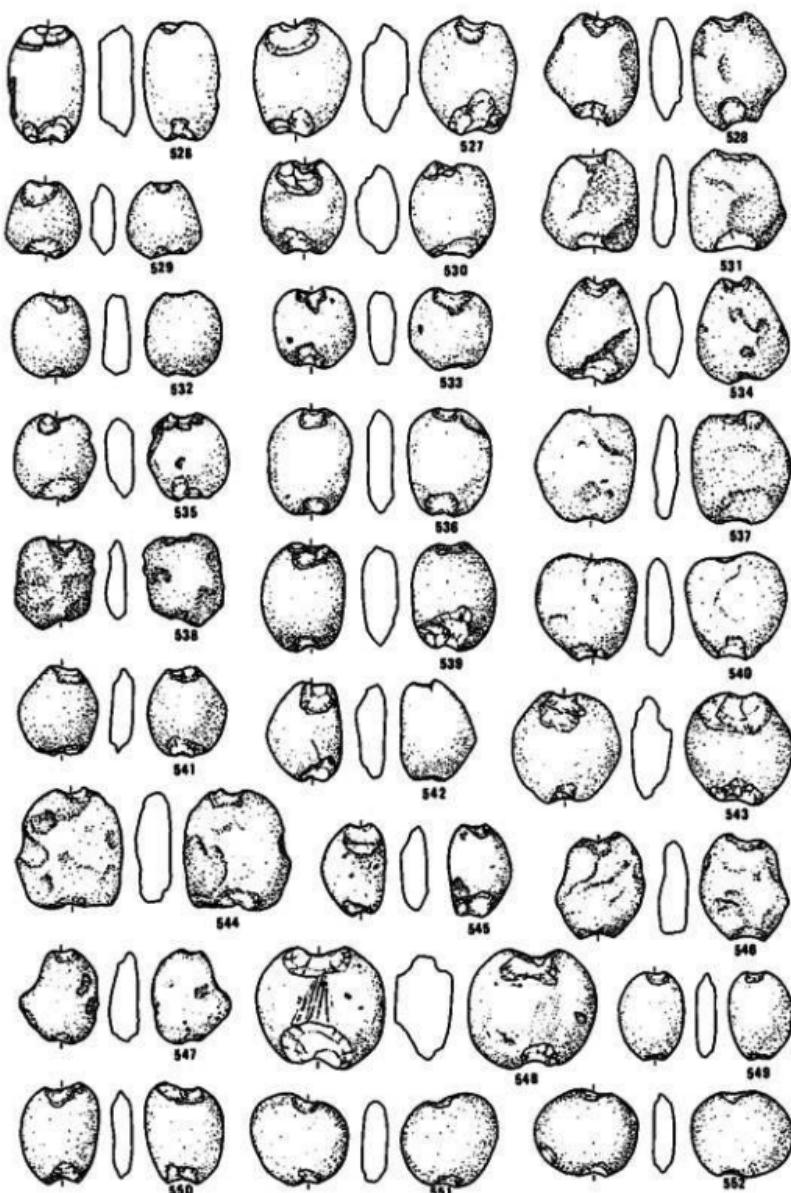


図106 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

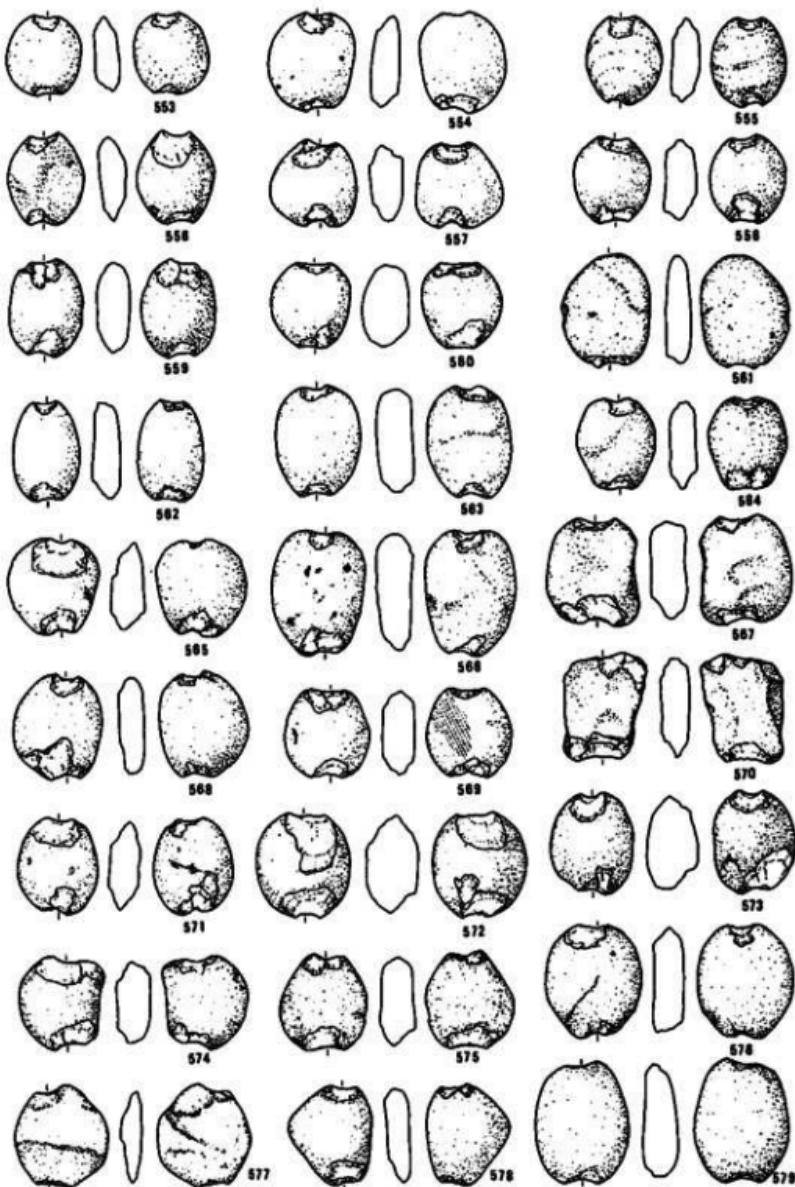


図107 A地点出土の石器

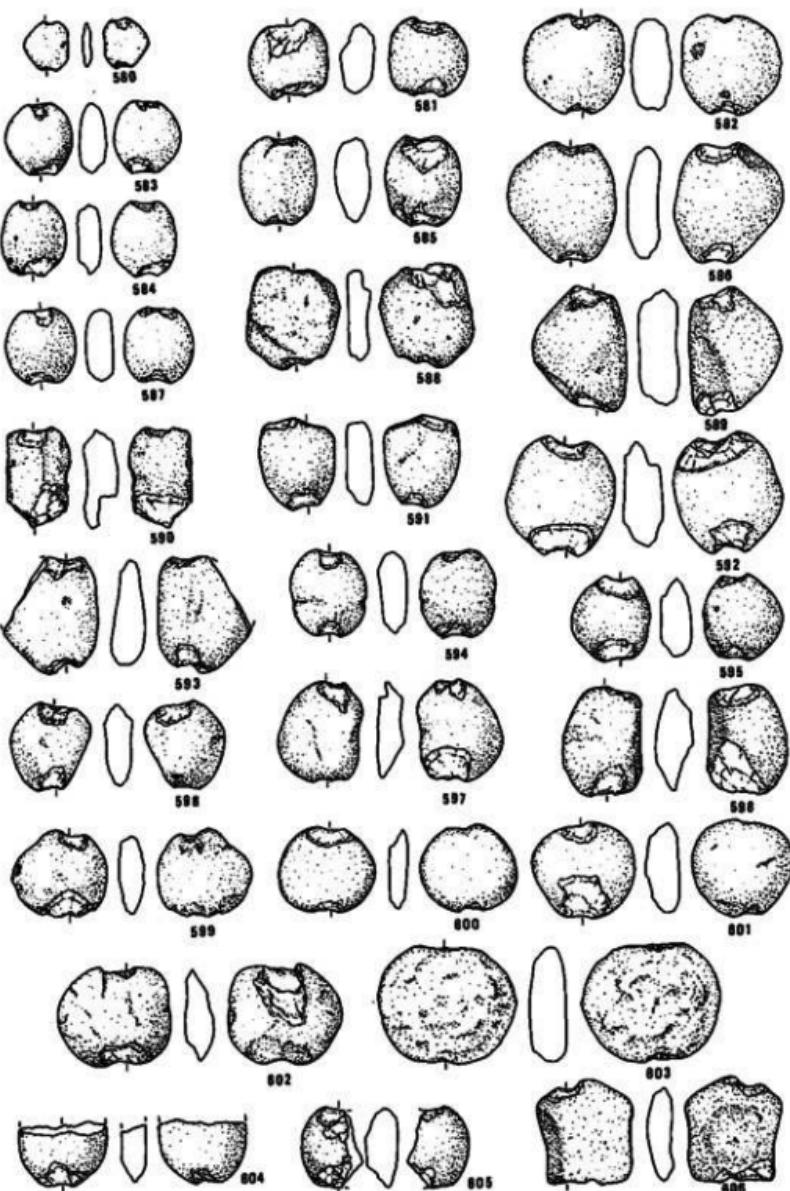


図108 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

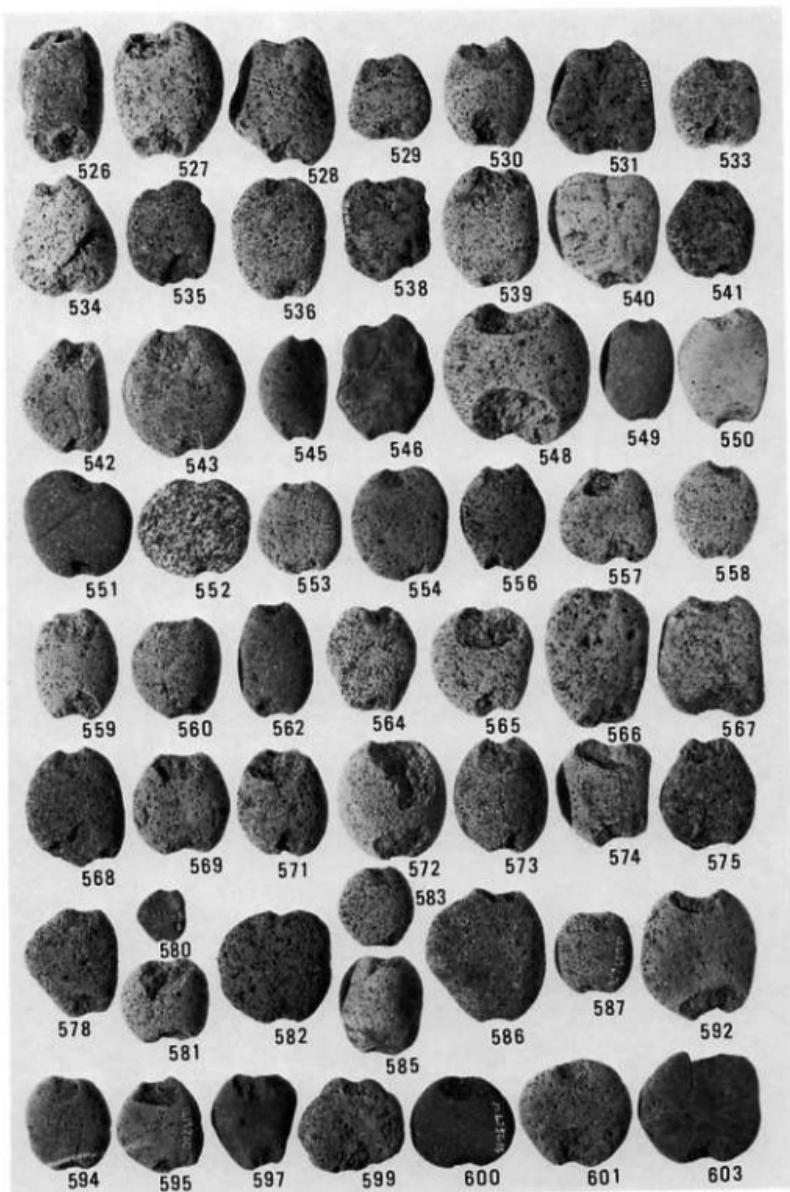


図109 A地点出土の石錐

III A地点の遺構と遺物

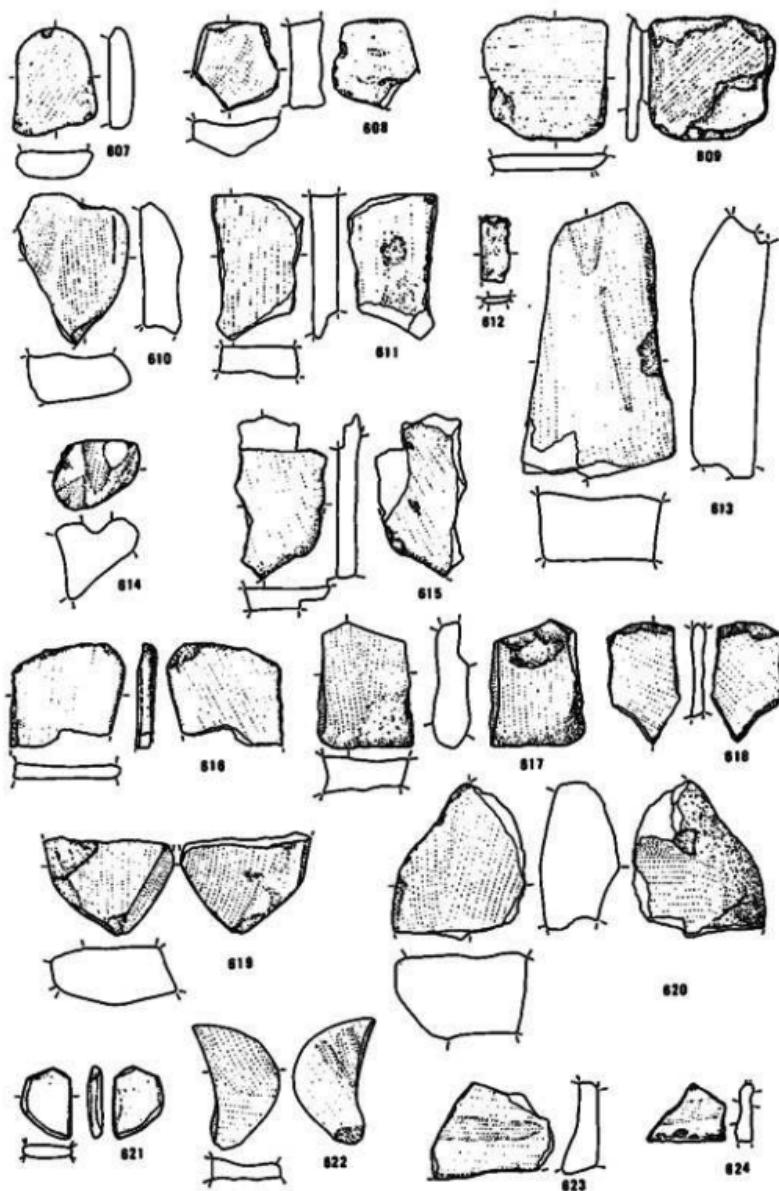


図110 A地点出土の磁石

III A地点の遺構と遺物

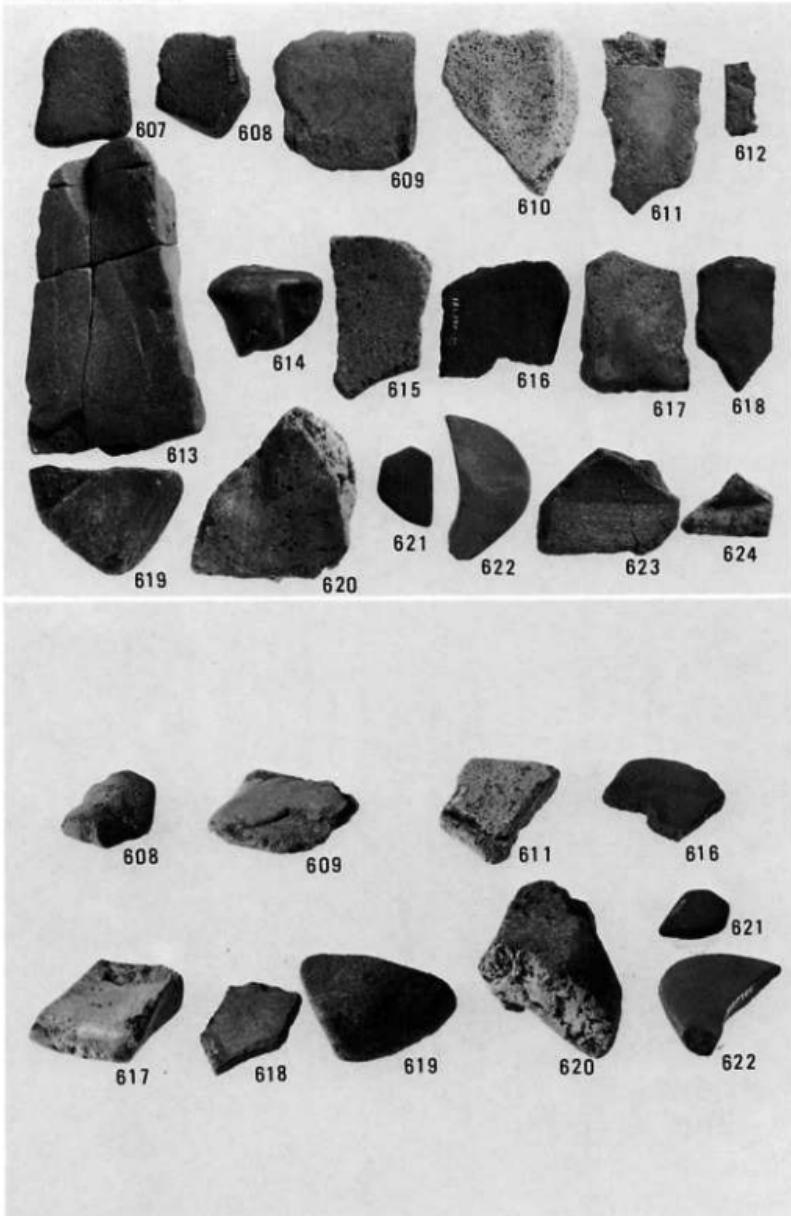


図111 A地点出土の砥石

三 A地点の遺構と遺物

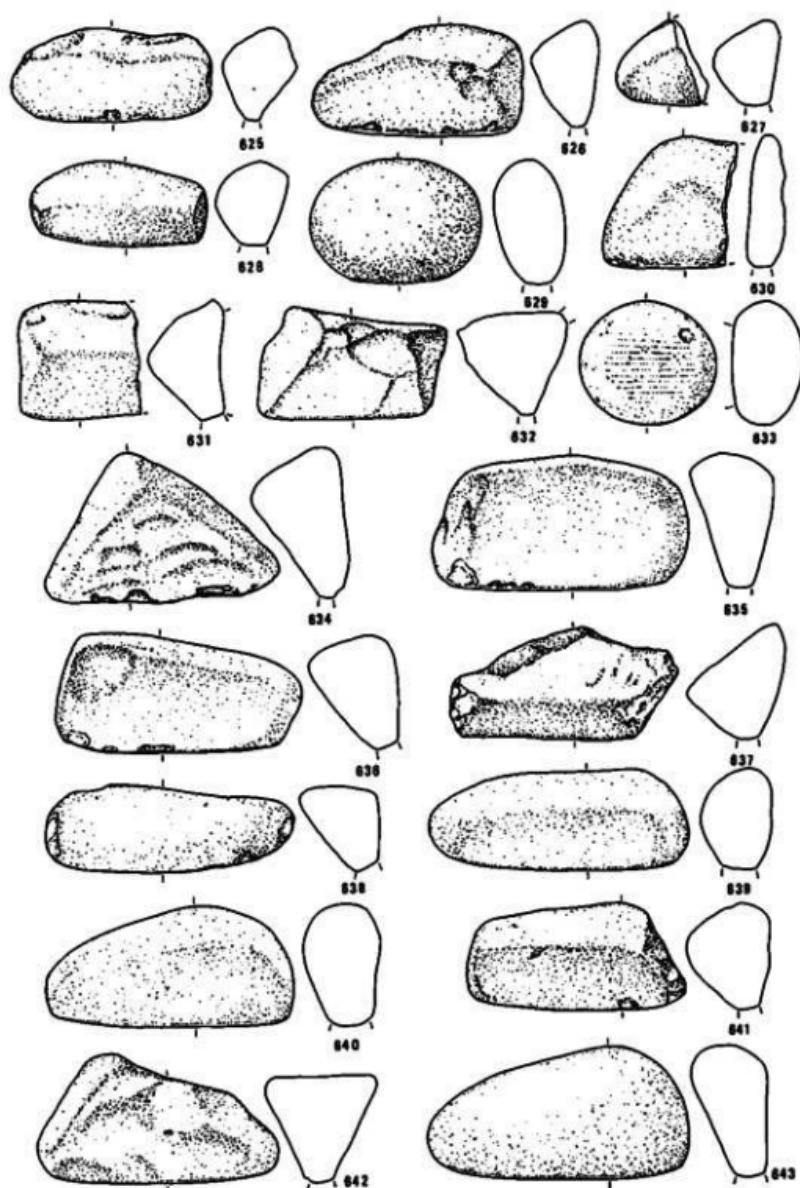


図112 A地点出土のすり石

III A地点の遺構と遺物

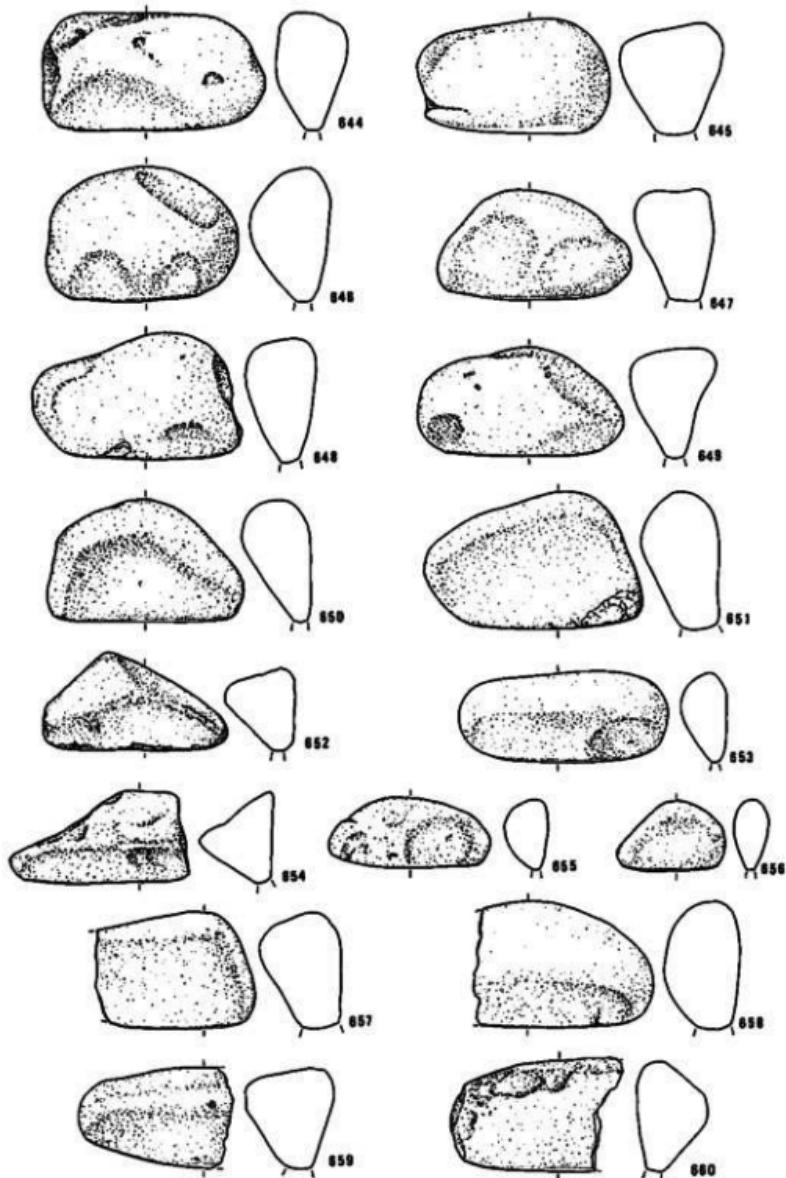


図113 A地点出土のすり石

三 A地点の遺構と遺物

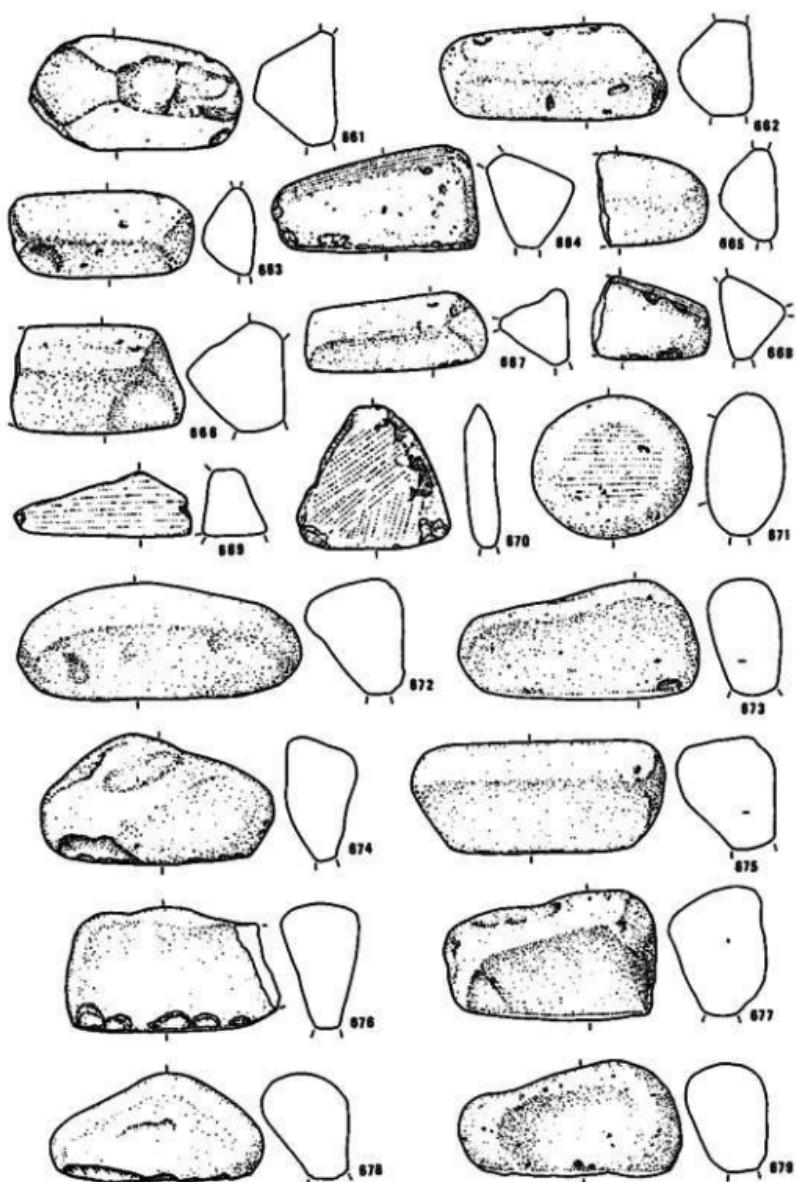


図114 A地点出土のすり石

Ⅳ A地点の遺構と遺物

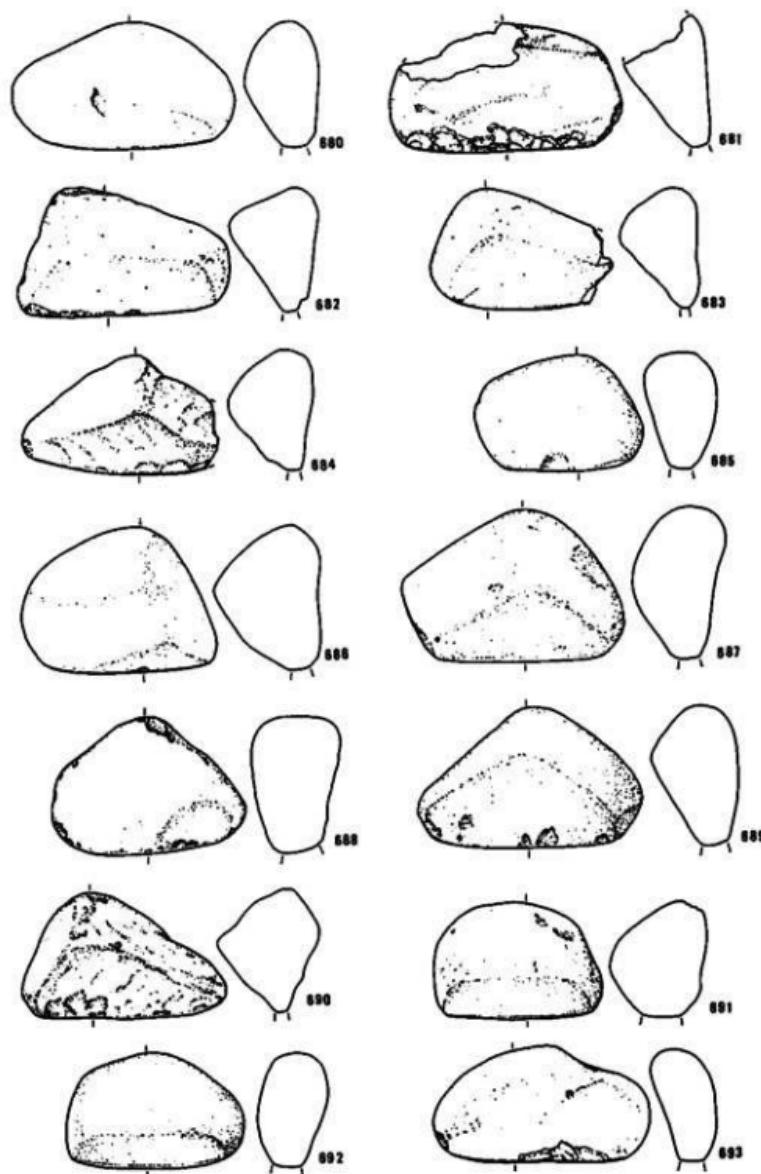
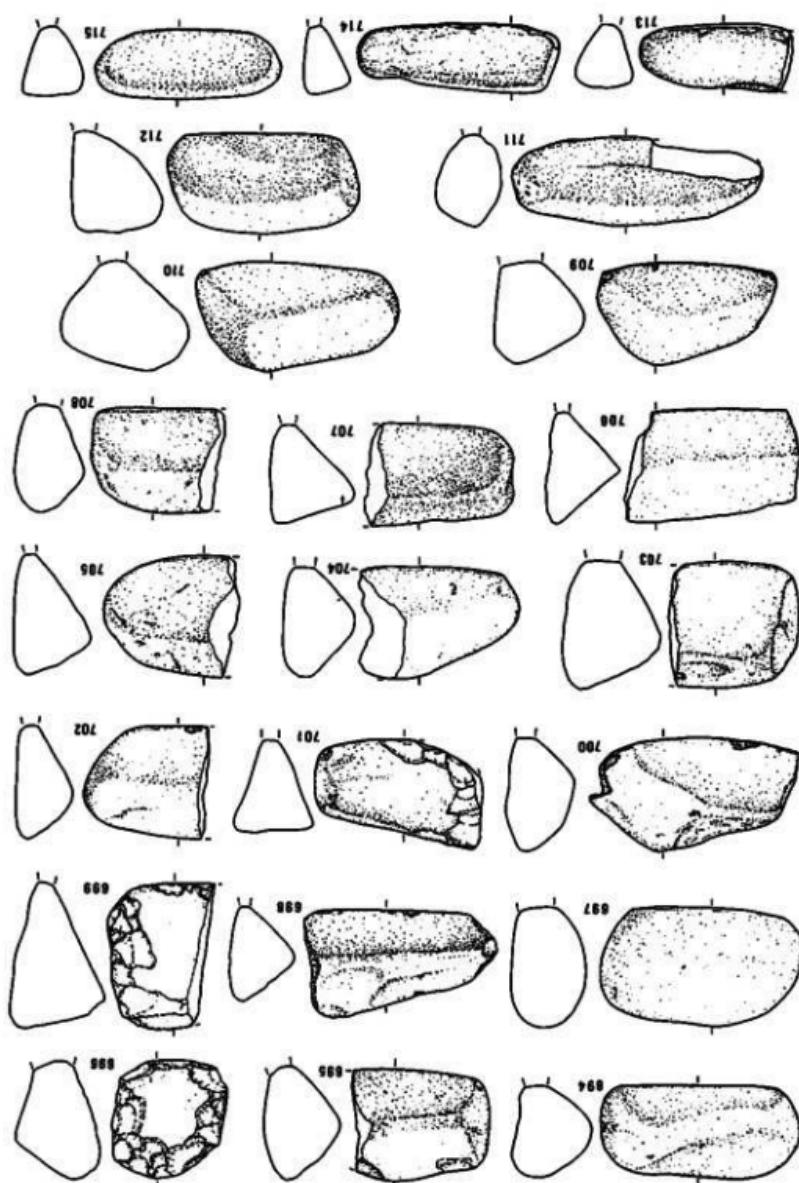


図115 A地点出土の石器

图116 A. 阿拉善毛虫子化石



三 A. 阿拉善毛虫子化石

III A地点の遺構と遺物

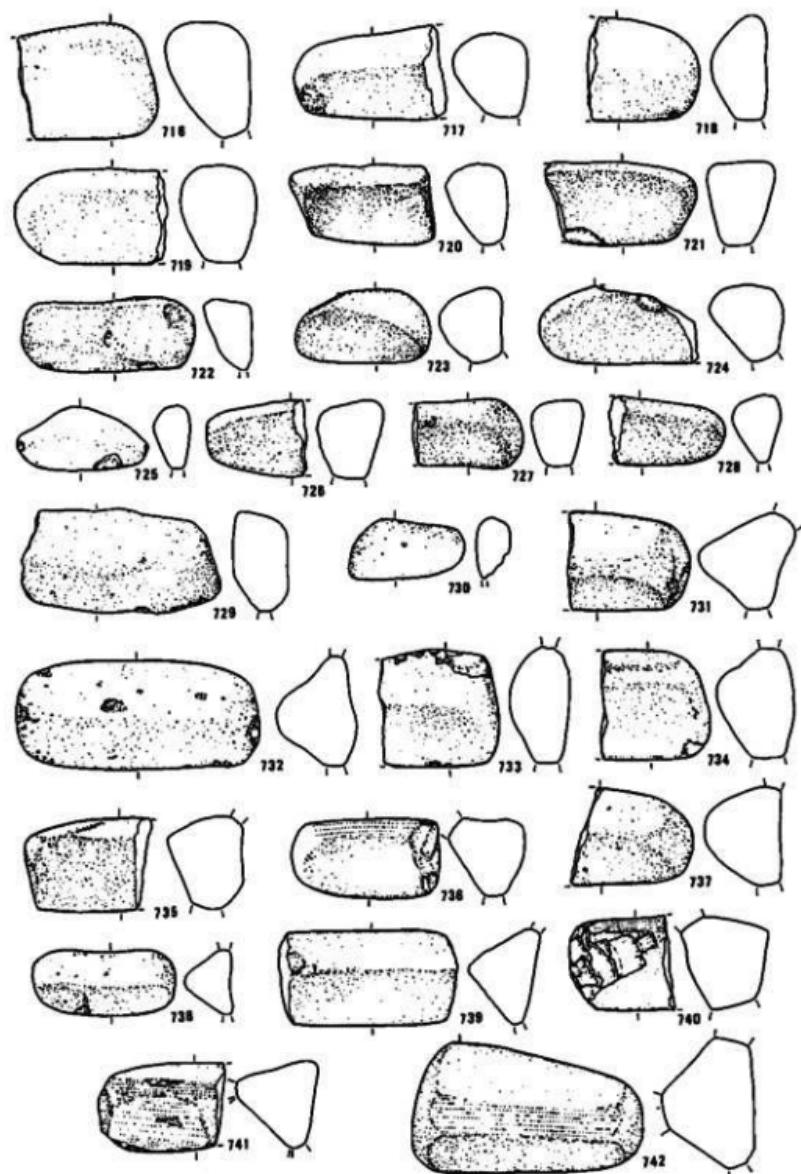


図117 A地点出土のすり石

III A地点の遺構と遺物

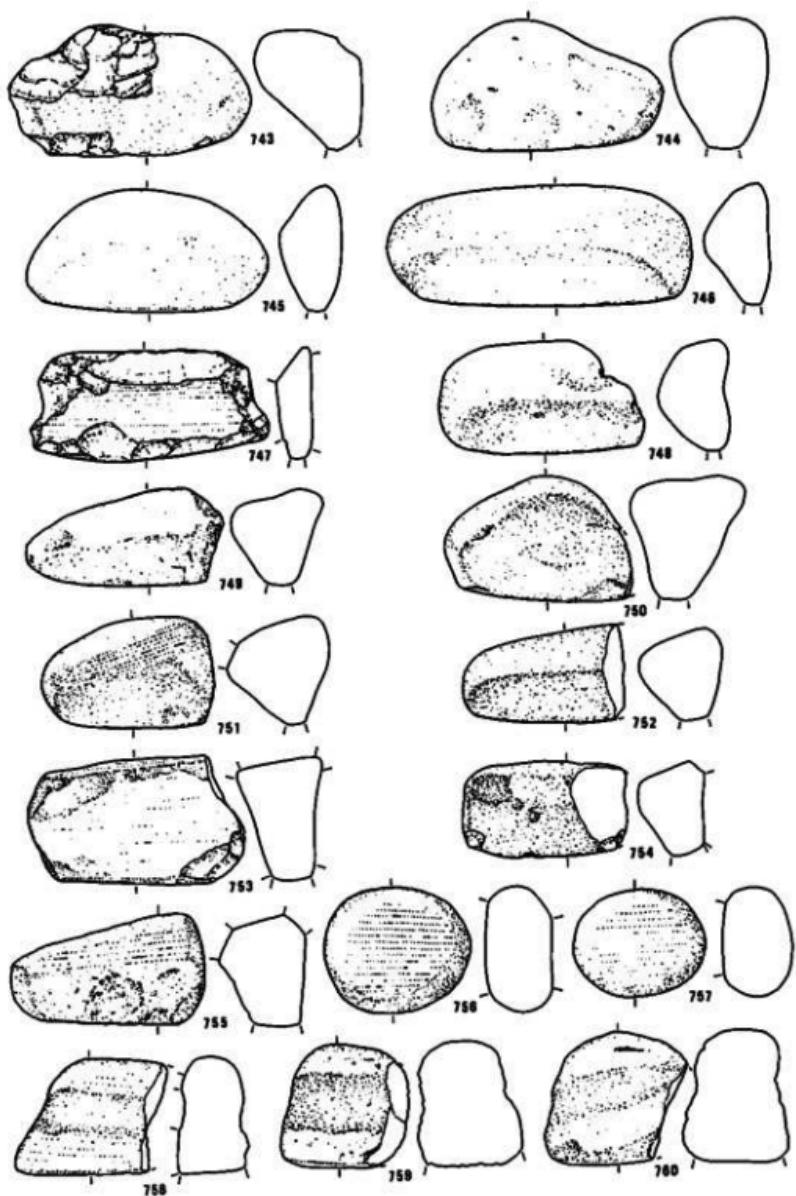


図118 A地点出土のすり石

III A地点の遺構と遺物

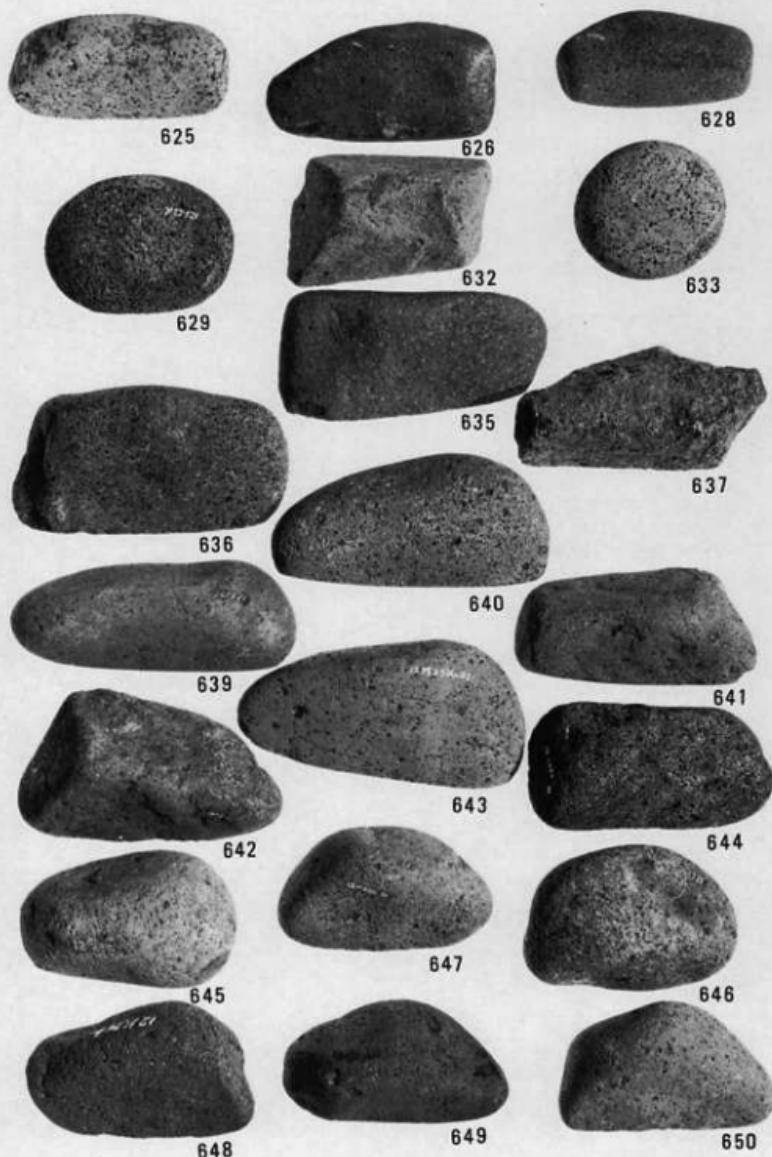


図119 A地点出土のすり石

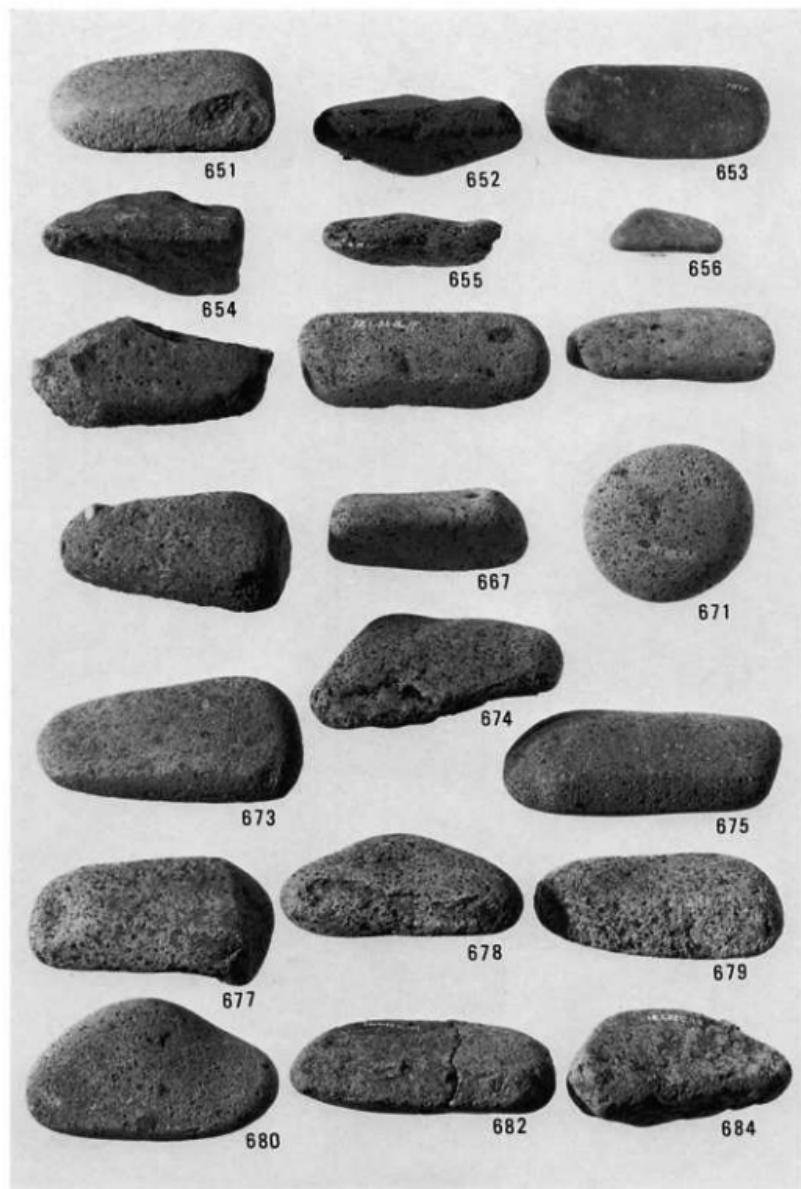


図120 A地点出土のすり石

III A地点の遺構と遺物

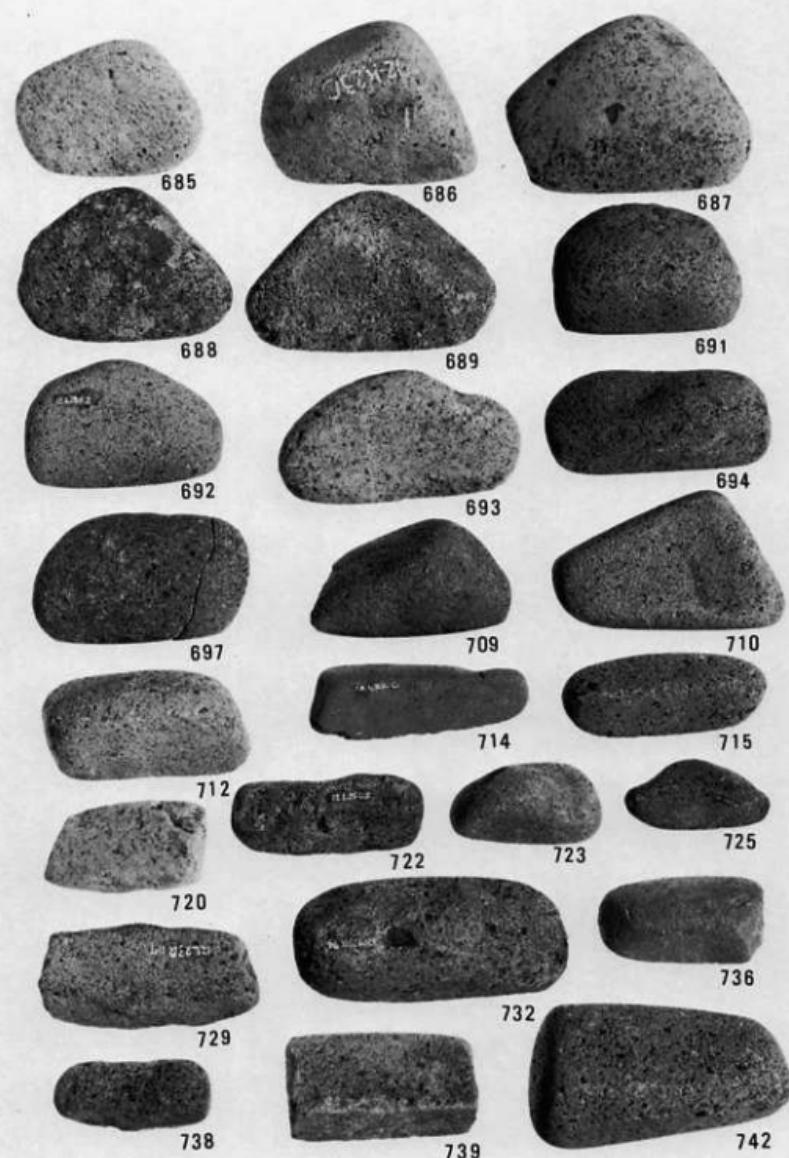


図121 A地点出土のすり石

III A地点の遺構と遺物

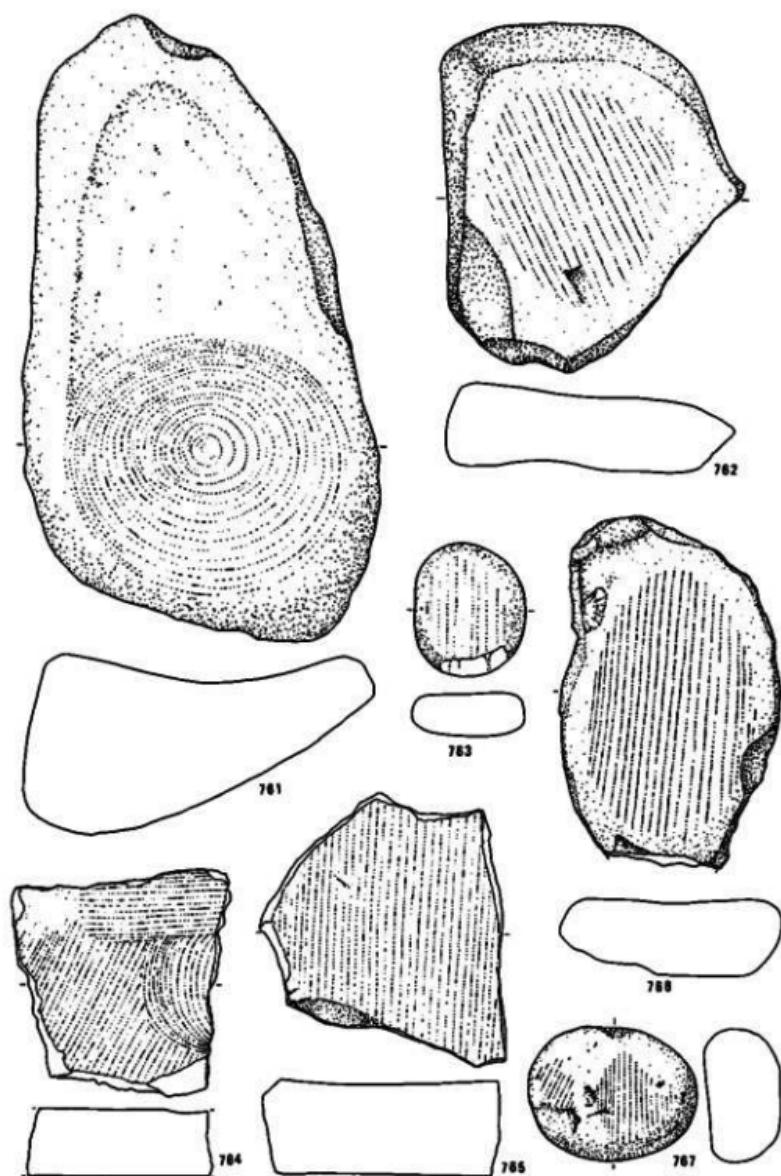


図122 A地点出土の石器

III A地点の遺構と遺物

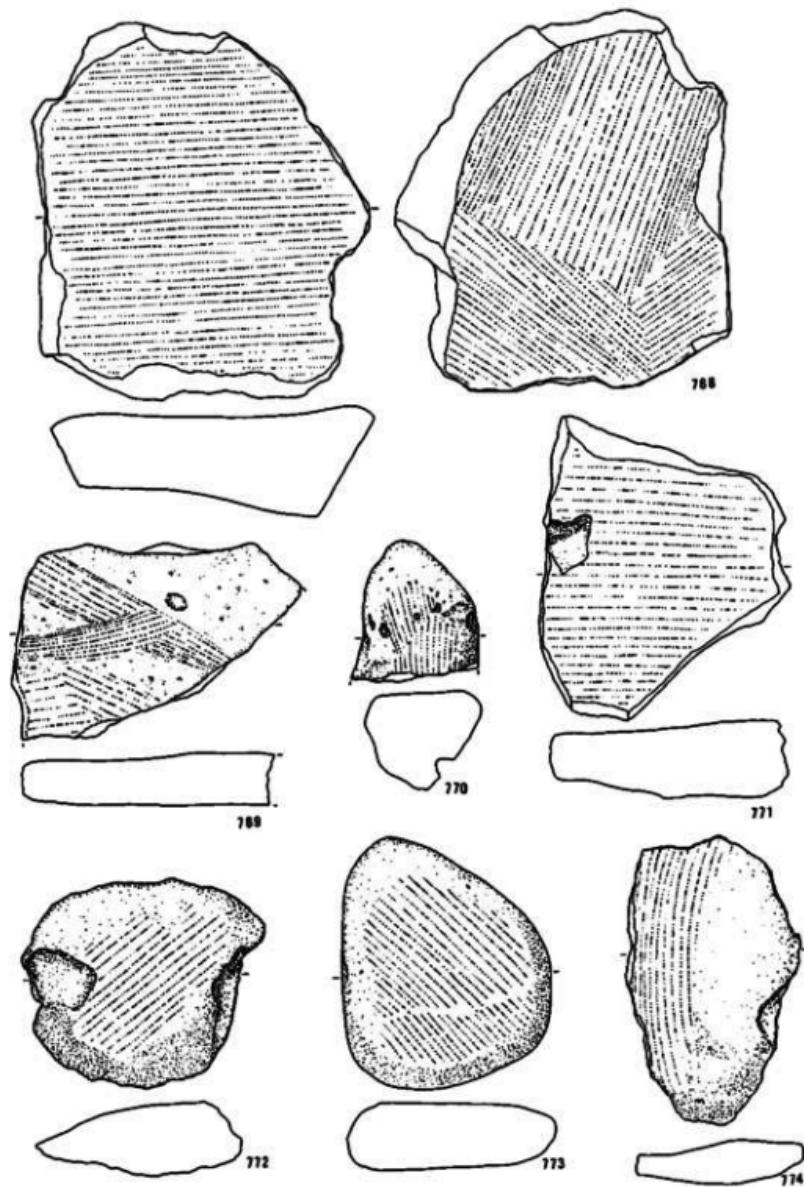


図123 A地点出土の石器

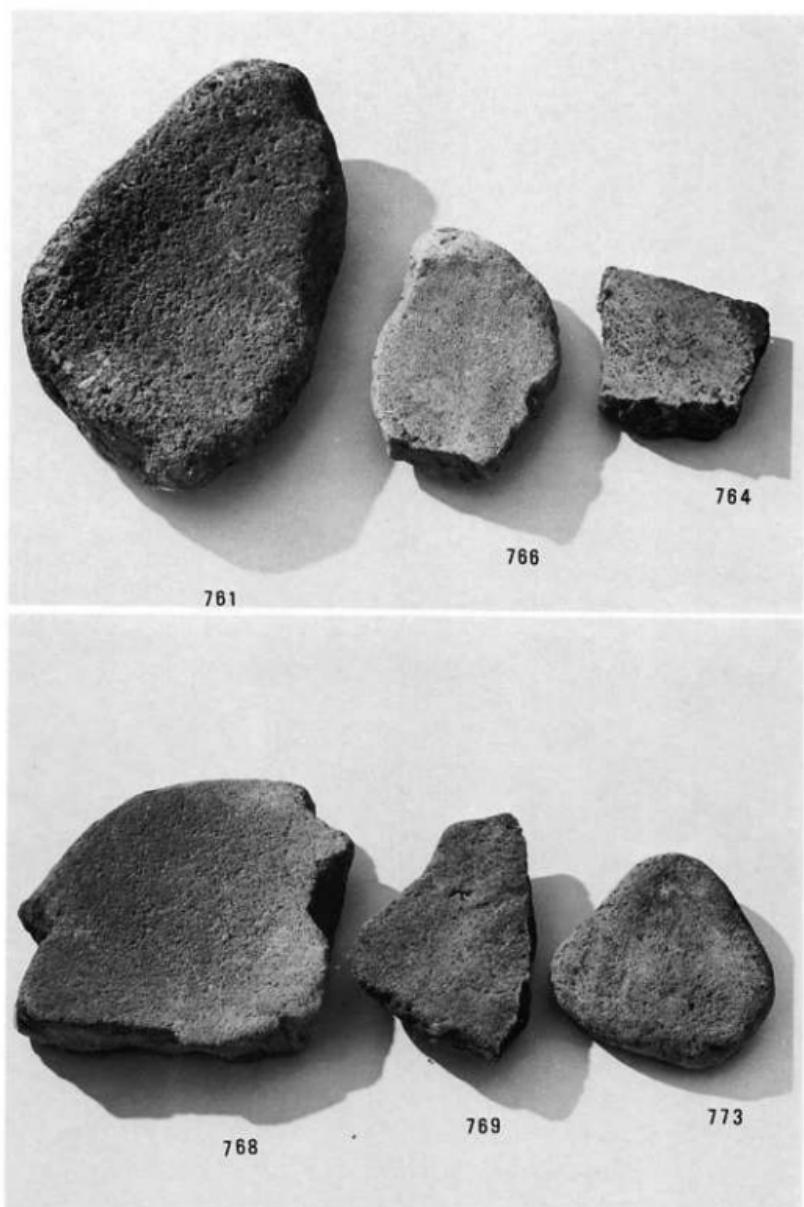


図124 A地点出土の石皿

III A地点の遺構と遺物



図125 発掘状況(上)および完掘状況(下)



図126 潜物出土状況 上：L23a区出土のI群a—3類土器
下：L26a区出土のI群b—1類土器

III A地点の遺構と遺物



図127 遺物出土状況 上：L24d区出土のI群b—3類土器
下：K24c区出土の石斧

表4 A地点出土石器一覧

番号	種	分類	出土地	H	質	発掘区	層位	番号	種	分類	出土地	H	質	発掘区	層位
1 石	塊	I A 5	0.5	Ob.	K23C	E		46 石	塊	I A	(0.7)	Ob.	K23b	N	
2 石	塊	I A 5	0.5	Ob.	K26b	V上		47 石	塊	I A 2b	(0.4)	Ob.	L22d	N	
3 石	塊	I A 5	1.0	Ob.	L22b	E		48 石	塊	I A 4	(0.4)	Ob.	L24a	N	
4 石	塊	I A 5	(1.1)	Ob.	M23b	E		49 石	塊	I A 4	(0.4)	Ob.	L22d	N	
5 石	塊	I A 5	(2.2)	Ob.	K23b	E		50 石	塊	I A 4	(0.4)	Ob.	M22a		
6 石	塊	I A 4	(0.6)	Ob.	L22d	E		51 石	塊	I A	(1.4)	Ob.	L24a	N	
7 石	塊	I A 4	0.6	Ob.	K24b	E-N		52 石	塊	I A 8	(0.8)	Ob.	L22b	N	
8 石	塊	I A 5	0.7	Ob.	K23C	E		53 石	塊	I A 8	0.7	Ob.	M24	N	
9 石	塊	I A 4	0.4	Ob.	K24b	E		54 石	塊	I A 2b	(0.15)	Ob.	L23b	N	
10 石	塊	I A 4	0.6	Ob.	L22b	E		55 石	塊	I A 2b	(0.2)	Ob.	L23b	N	
11 石	塊	I A 6	0.8	Ob.	L22d	E		56 石	塊	I A 4	(0.5)	Ob.	L25b	N上	
12 石	塊	I A 6	1.0	Ob.	L22d	E		57 石	塊	I A 4	(0.6)	Ob.	M24	N	
13 石	塊	I A 6	0.6	Ob.	K23b	E		58 石	塊	I A 2b	0.4	Ob.	M23c	N	
14 石	塊	I A 6	1.4	Ob.	K22C	E		59 石	塊	I A 2b	0.7	Ob.	K23b	N	
15 石	塊	I A 5	(0.5)	Ob.	K24b	E-N		60 石	塊	I A 2b	(0.7)	Ob.	L23d	N	
16 石	塊	I A	(0.3)	Ob.	K23b	E		61 石	塊	I A 2b	(0.8)	Ob.	K24b	N	
17 石	塊	I A	(0.4)	Ob.	K23C	E		62 石	塊	I A 2b	(0.9)	Ob.	K25c	N下	
18 石	塊	I A	(0.3)	Ob.	M22a			63 石	塊	I A 2b	(0.9)	Ob.	L24d	N	
19 石	塊	I A 4	(0.1)	Ob.	L22d	E		64 石	塊	I A 2b	(0.7)	Ob.	L24b	N	
20 石	塊	I A	(0.35)	Ob.	K23b	N		65 石	塊	I A 2b	(0.9)	Ob.	L25a	N上	
21 石	塊	I A	(0.2)	Ob.	K24b	E-N		66 石	塊	I A 2b	0.6	Ob.	M23c		
22 石	塊	I A 3	0.4	Ob.	K24b	E		67 石	塊	I A 2b	(0.5)	Ob.	L23a	N	
23 石	塊	I A 2b	0.2	Ob.	L22d	E		68 石	塊	I A 2b	(2.0)	Ob.	K22c	N	
24 石	塊	I A 7	(2.1)	Ob.	M26a	E		69 石	塊	I A 2b	(0.4)	Ob.	L25d	N下	
25 石	塊	I A 2a	1.0	Ob.	K26c	E-F		70 石	塊	I A 2b	(0.0)	Ob.	L24d	N	
26 石	塊	I A 2a	(0.1)	Ob.	K24b	E		71 石	塊	I A 2b	(0.9)	Ob.	K25b	N	
27 石	塊	I A 2a	(1.2)	Ob.	L22d	E		72 石	塊	I A 2b	(0.7)	Ob.	L25a	N	
28 石	塊	I A 2a	(0.0)	Ob.	M25b			73 石	塊	I A 2b	(1.4)	Ob.	K25c	N下	
29 石	塊	I A 2a	(0.4)	Ob.	M25a	E		74 石	塊	I A 2b	(0.9)	Ob.	K25b	N	
30 石	塊	I A 2a	(0.9)	Ob.	M25b	E		75 石	塊	I A 2b	(0.7)	Ob.	M22d		
31 石	塊	I A 2a	(0.7)	Ob.	K24b	E		76 石	塊	I A 2b	(0.5)	Ob.	M25b	N上	
32 石	塊	I A ?	(1.2)	Ob.	K24b	E-N		77 石	塊	I A 2b	(0.8)	Ob.	M23c	N	
33 石	塊	I A 2a	(0.4)	Ob.	K24b	E-N		78 石	塊	I A 2b	(0.4)	Ob.	M23b	N上V	
34 石	塊	I A 2a	(0.6)	Ob.	K24b	E-N		79 石	塊	I A 2b	(0.5)	Ob.	M22a		
35 石	塊	I A 2a	(1.2)	Ha-Sb.	K24b	E-N		80 石	塊	I A 2b	(0.3)	Ob.	K23b	N	
36 石	塊	I A 4	(0.4)	Ob.	M24b	N		81 石	塊	I A 2b	(0.4)	Ob.	M24	N	
37 石	塊	I A 5	(0.9)	Ha-Sb.	L25c	E		82 石	塊	I A 2b	0.75	Ha-Sb.	L24d	N	
38 石	塊	I A 4	1.1	Ob.	M24d	N		83 石	塊	I A 2b	(1.4)	Ha-Sb.	K23c	N	
39 石	塊	I A 5	(0.3)	Ob.	L23c	E		84 石	塊	I A 2b	1.6	Ha-Sb.	L24d	N	
40 石	塊	I A 7	(0.7)	Ha-Sb.	L23b	N		85 石	塊	I A 5	(0.4)	Ob.	L22d	V	
41 石	塊	I A 3	(0.7)	Ob.	M22a			86 石	塊	I A 2b	(0.6)	Ob.	K26c	V	
42 石	塊	I A 3	(0.9)	Ob.	L23b	E		87 石	塊	I A 4	(0.7)	Ob.	L22c	V	
43 石	塊	I A 3	(0.7)	Ob.	K23b	N		88 石	塊	I A 4	(2.0)	Ob.	L25d	V中	
44 石	塊	I A 3	(0.9)	Ob.	L22c	N		89 石	塊	I A 6	1.0	Ob.	M23c	V	
45 石	塊	I A 3	1.1	Ha-Sb.	K23b	N		90 石	塊	I A 6	1.3	Ob.	L25b	V中	

III A地点の遺構と遺物

測量号	柱	種	分	第	番號	H	質	発見場所	層位	測量号	柱	種	分	第	番號	H	質	発見場所	層位
91	G	灰	IA4	0.3	Ob.s.	L22d	V	141	石	I A2a	(0.7)	Ob.s.	L25a	V/F					
92	G	灰	IA4	0.5	Ob.s.	L25c	V	142	石	I A2a	(1.0)	Ob.s.	M25c	V/F					
93	G	灰	IA4	0.6	Ob.s.	L24d	V	143	石	I A2a	(0.5)	Ob.s.	L25d	V					
94	G	灰	IA4	0.0	Ob.s.	K22c	V	144	石	I A2a	(0.8)	Ob.s.	L25b	V					
95	G	灰	IA4	0.1	Ob.s.	L25d	V	145	石	I A2a	(0.7)	Ob.s.	K25b	V					
96	G	灰	IA2a	0.7	Ob.s.	L25c	V/F	146	石	I A2a	(0.8)	Ob.s.	K25c	V					
97	G	灰	IA2a	0.6	Ob.s.	L25b	V/F	147	石	I A2a	(1.0)	Ob.s.	L25b	V/F					
98	G	灰	IA2a	0.6	Ob.s.	L24c	V/F	148	石	I A2a	(0.7)	Ob.s.	L25d	V					
99	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	M25a	V	149	石	I A2a	(0.9)	Ob.s.	K25c	V					
100	G	灰	IA2a	0.6	Ob.s.	M25d	V/F	150	石	I A2a	(0.7)	Ob.s.	L25b	V					
101	G	灰	IA2a	0.8	Ob.s.	M25d	V	151	石	I A2a	(1.0)	Ob.s.	K25b	V					
102	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	K25b	V	152	石	I A2a	(0.9)	Ob.s.	K25c	V					
103	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	M25d	V	153	石	I A2a	(0.6)	Ob.s.	K27a	V					
104	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	M26a	V	154	石	I A2a	(0.4)	Ob.s.	K25c	V					
105	G	灰	IA2a	0.1	Ob.s.	K25d	V	155	石	I A2a	(0.4)	Ob.s.	K25c	V					
106	G	灰	IA2a	1.1	Ob.s.	L22d	V	156	石	I A2a	(0.8)	Ob.s.	K26b	V					
107	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	L25d	V	157	石	I A2a	(0.4)	Ob.s.	K25c	V					
108	G	灰	IA2a	0.11	Ob.s.	L25c	V	158	石	I A2a	(0.4)	Ob.s.	L25b	V					
109	G	灰	IA2a	0.0	Ob.s.	K28b	V	159	石	I A2a	(0.7)	Ob.s.	K26b	V					
110	G	灰	IA2a	0.0	Ob.s.	L26d	V上	160	石	I A2a	(0.2)	Ob.s.	K25c	V					
111	G	灰	IA2a	0.7	Ob.s.	K25c	V/F	161	石	I A2a	(0.3)	Ob.s.	K24b	V					
112	G	灰	IA2a	1.3	Ob.s.	K25b	V	162	石	I A2a	(0.4)	Ob.s.	K24b	V					
113	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	L25c	V	163	石	I A2a	(0.8)	Ob.s.	K25b	V					
114	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	K25c	V	164	石	I A2a	(0.6)	Ob.s.	K25b	V					
115	G	灰	IA2a	0.1	Ob.s.	K28b	V	165	石	I A2a	(0.8)	Ob.s.	K25c	V					
116	G	灰	IA2a	0.4	Ob.s.	K25b	V	166	石	I A2a	(0.4)	Ob.s.	K26b	V/F					
117	G	灰	IA2a	0.0	Ob.s.	L26a	V	167	石	I A2a	(0.3)	Ob.s.	K25b	V					
118	G	灰	IA2a	0.1	Ob.s.	K25c	V	168	石	I A3	(0.15)	Ob.s.	K24b	V					
119	G	灰	IA2a	0.1	Ob.s.	L28c	V	169	石	I A4	2.9	Ob.s.	L25c	V/F					
120	G	灰	IA2a	0.7	Ob.s.	K25c	V	170	石	I A4	(0.3)	Ob.s.	K25c	H					
121	G	灰	IA2a	0.2	Ob.s.	M21c	V	171	石	I A4	(2.6)	Ob.s.	M25d	V					
122	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	K25c	V	172	石	I A6	1.6	Ob.s.	S25b	M21d					
123	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	K28b	V	173	石	I A2a	(0.5)	Ob.s.	L25b	V					
124	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	K28b	V上	174	石	I A2a	2.1	Ob.s.	M24d	V/F					
125	G	灰	IA2a	0.2	Ob.s.	K25c	V上	175	石	I A2a	(0.9)	Ob.s.	L24c	V					
126	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	L25c	V/F	176	石	I A2a	(0.9)	Ob.s.	M25a	V/F					
127	G	灰	IA2a	0.1	Ob.s.	L25c	V/F	177	石	I A2a	(0.5)	Ob.s.	K25b	V					
128	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	L25b	V	178	石	I A2a	(2.0)	Ob.s.	S25b	L24a					
129	G	灰	IA2a	0.8	Ob.s.	K28b	V/F	179	石	I A4	(0.5)	Ob.s.	M25a	V/E					
130	G	灰	IA2a	0.8	Ob.s.	L28d	V	180	石	I A4	(0.9)	Ob.s.	M26b	V					
131	G	灰	IA2a	0.0	Ob.s.	L25c	V/F	181	石	I A8	0.8	Ob.s.	L25d	V/E					
132	G	灰	IA2a	0.9	Ob.s.	L25c	V/F	182	石	I A8	0.4	Ob.s.	L24d	V/F					
133	G	灰	IA2a	0.6	Ob.s.	K28b	V	183	石	I A8	0.9	Ob.s.	L25a	V/F					
134	G	灰	IA2a	0.4	Ob.s.	K28b	V	184	石	I A4	(2.1)	Ag+Ob.s.	K25c	H					
135	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	K28c	V	185	石	I A5	1.2	Ob.s.	M22a	不明					
136	G	灰	IA2a	0.4	Ob.s.	L25a	V/F	186	石	I A4	(0.7)	Ob.s.	L24c	C					
137	G	灰	IA2a	0.4	Ob.s.	M24d	V	187	石	I A5	(0.8)	Ob.s.	M22a	シラナ					
138	G	灰	IA2a	0.4	Ob.s.	M23b	V	188	石	I A4	(0.8)	Ob.s.	L24a	C					
139	G	灰	IA2a	0.4	Ob.s.	K25b	V	189	石	I A4	0.7	Ob.s.	M22d	不明					
140	G	灰	IA2a	0.5	Ob.s.	M25c	V上	190	石	I A2a	1.3	Ob.s.	L25a	C					

III A地点の遺構と遺物

図面号	番	種	分類	基盤	材質	形	寸法	基盤	番	種	分類	基盤	材質	形	寸法	基盤
191	石	塊	IA2a	(0.5)	H・S・b.	K23e	V	241	石	塊	IA2	(4.1)	H・S・b.	L25e	V	
192	石	塊	IA2a	(1.2)	O・b・s.	K22e	N	242	石	塊	IA2	3.3	H・S・b.	K26b	V上	
193	石	塊	IA2a	(0.9)	O・b・s.	K22e	N	243	石	塊	IA2	(5.3)	H・S・b.	M23d	V	
194	石	塊	IA2a	(0.6)	O・b・s.	M22e	N	244	石	塊	IA2	(5.1)	H・S・b.	M24b	V	
195	石	塊	IA2	(3.2)	O・b・s.	L22e	N	245	石	塊	IA1	3.8	H・S・b.	M25d	V	
196	石	塊	IA2	(2.4)	O・b・s.	M31e	N	246	石	塊	IA1	(2.6)	H・S・b.	L26e	V上	
197	石	塊	IA2	(2.5)	O・b・s.	K22e	V	247	石	塊	IA1	(1.9)	H・S・b.	L26d	V	
198	石	塊	IA2	(2.3)	O・b・s.	L25b	V中	248	石	塊	IA1	(5.6)	H・S・b.	L26b	V下	
199	石	塊	IA2	(0.5)	O・b・s.	M25d	V	249	石	塊	IA2	0.8	O・b・s.	M25b	V上	
200	石	塊	IB2	1.6	O・b・s.	L25e	V上	250	石	塊	IA1	(0.6)	O・b・s.	L26d	V上	
201	G	焰	IB2	4.6	O・b・s.	K22e	V	251	石	塊	IA1	6.8	O・b・s.	M23b	N	
202	G	焰	IB2	6.0	H・S・b.	L25e	V	252	石	塊	IA2	3.9	O・b・s.	L26e	V	
203	G	焰	IB1	(3.3)	O・b・s.	K22e	H	253	石	塊	IA2	1.6	H・S・b.	M25b	V上	
204	G	焰	IB2	12.6	H・S・b.	L23d	N	254	つまみ付ケツ	IA1	16.4	H・S・b.	M23b	H		
205	G	焰	IB2	15.3	H・S・b.	L25b	V中	255	つまみ付ケツ	IA1	4.5	H・S・b.	K23b	H		
206	G	焰	IB2	16.2	H・S・b.	L23d	N	256	つまみ付ケツ	IA3	11.8	H・S・b.	K24b	H		
207	G	焰	IB2	6.5	H・S・b.	K22e	N	257	つまみ付ケツ	IA3	4.1	H・S・b.	M23c	H		
208	G	焰	IB	(5.0)	H・S・b.	L25b	N中	258	つまみ付ケツ	IA1	7.4	H・S・b.	M23a	H		
209	G	焰	IB2	4.1	H・S・b.	L23e	V	259	つまみ付ケツ	IA1	9.1	H・S・b.	L25d	N中		
210	G	焰	IB2	(7.9)	H・S・b.	M25d	V	260	つまみ付ケツ	IA1	11.5	H・S・b.	M25d	N中		
211	G	焰	IB2	8.1	H・S・b.	M22b	V	261	つまみ付ケツ	7.5	7.5	H・S・b.	L23b	N		
212	G	焰	IB2	14.4	H・S・b.	K23e	V	262	つまみ付ケツ	IA1	7.8	H・S・b.	M22c	N		
213	G	焰	IB2	15.4	H・S・b.	K23e	V	263	つまみ付ケツ	IA1	5.6	H・S・b.	M23d	N		
214	G	焰	IB	(22.4)	H・S・b.	L25e	V上	264	つまみ付ケツ	IA1	10.0	H・S・b.	L25b	N中		
215	G	焰	IB1	16.3	H・S・b.	L25b	V上	265	つまみ付ケツ	IA1	9.8	H・S・b.	K23b	N		
216	G	焰	IB	(4.5)	H・S・b.	M23a	V中	266	つまみ付ケツ	IA1	(4.9)	H・S・b.	L23d	N		
217	G	焰	IB2	25.7	H・S・b.	L23e	V	267	つまみ付ケツ	IA1	6.8	H・S・b.	L24d	N		
218	G	焰	IB	(9.9)	H・S・b.	M23a	e 間	268	つまみ付ケツ	IA1	4.6	H・S・b.	M23d	H		
219	G	焰	IB	(4.3)	O・b・s.	L21e	e 間	269	つまみ付ケツ	IA1	6.2	H・S・b.	K24b	N		
220	G	焰	IB2	(35.7)	H・S・b.	L23e	e 間	270	つまみ付ケツ	IA1	3.9	H・S・b.	K25c	N		
221	G	焰	EA3	8.1	O・b・s.	L22d	H	271	つまみ付ケツ	IA1	9.3	H・S・b.	K24b	N		
222	G	焰	EA3	3.7	H・S・b.	L23e	N中	272	つまみ付ケツ	IA1	(3.6)	H・S・b.	M22a	N		
223	G	焰	EA1	(2.0)	H・S・b.	L23e	N	273	つまみ付ケツ	IA1	(3.7)	H・S・b.	K25b	N		
224	G	焰	EA1	2.3	H・S・b.	K23b	N	274	つまみ付ケツ	IA1	2.5	H・S・b.	K25c	N		
225	G	焰	EA3	2.9	H・S・b.	L22e	N	275	つまみ付ケツ	IA1	2.7	O・b・s.	L25c	N中		
226	G	焰	EA2	13.5	H・S・b.	L22b	N	276	つまみ付ケツ	IA1	5.6	H・S・b.	M24b	N		
227	G	焰	EA2	8.2	H・S・b.	L23d	N	277	つまみ付ケツ	IA1	7.5	H・S・b.	K24b	N		
228	G	焰	EA2	(3.0)	H・S・b.	L23e	N	278	つまみ付ケツ	IA1	5.0	H・S・b.	M25d	V上		
229	G	焰	EA2	1.5	H・S・b.	M22d	N	279	つまみ付ケツ	IA1	7.1	H・S・b.	L26d	N		
230	G	焰	EA1	(1.6)	H・S・b.	M23d	N	280	つまみ付ケツ	IA1	13.8	H・S・b.	L26a	N中		
231	G	焰	EA2	(0.6)	H・S・b.	L23e	N	281	つまみ付ケツ	IA1	8.1	H・S・b.	K26c	V上		
232	G	焰	EA1	(4.0)	H・S・b.	L25b	N中	282	つまみ付ケツ	IA1	(3.9)	H・S・b.	K26b	V		
233	G	焰	EA2	(2.0)	H・S・b.	L23b	N	283	つまみ付ケツ	IA1	4.5	H・S・b.	K26c	N中		
234	G	焰	EA1	(2.3)	O・b・s.	L22e	N	284	つまみ付ケツ	IA1	(4.9)	H・S・b.	L26c	N		
235	G	焰	EA2	1.6	H・S・b.	L25b	V	285	つまみ付ケツ	IA1	(3.8)	H・S・b.	M24d	N		
236	G	焰	EA2	(9.0)	H・S・b.	L25b	V	286	つまみ付ケツ	IA1	(3.0)	H・S・b.	K26c	N		
237	G	焰	EA2	8.3	H・S・b.	M23d	V上	287	つまみ付ケツ	IA1	6.4	H・S・b.	L22b	N		
238	G	焰	EA2	(5.1)	H・S・b.	L25d	V上	288	つまみ付ケツ	IA1	2.6	H・S・b.	L22d	N		
239	G	焰	EA2	(2.1)	H・S・b.	L25c	V上	289	つまみ付ケツ	IA1	2.5	H・S・b.	L26b	N中		
240	G	焰	EA2	(1.6)	H・S・b.	L25a	V上	290	つまみ付ケツ	IA1	(3.3)	H・S・b.	M22c	N		

III A地点の遺構と遺物

遺物番号	目	種	分類	量	材質	発掘場所	層位	測定番号	目	種	分類	量	材質	発掘場所	層位
291	つばみけ47	■A1	3.7	Ha-Sh.	M23d	N	341	つばみけ47	■A1	(4.0)	Ha-Sh.	L23d	V		
292	つばみけ47	■A1	3.1	Ha-Sh.	M24b	V	342	つばみけ47	■A1	(5.0)	Ha-Sh.	L25a	N		
293	つばみけ47	■A1	6.2	Ha-Sh.	L25a	N中	343	つばみけ47	■A1	(2.7)	Ha-Sh.	K27b	V		
294	つばみけ47	■A3	6.9	Ha-Sh.	M25d	N中	344	つばみけ47	■A1	(4.5)	Ha-Sh.	K25e	V		
295	つばみけ47	■A1	3.0	Ha-Sh.	M24d	N	345	つばみけ47	■A1	(5.5)	Ha-Sh.	M22d	V		
296	つばみけ47	■A1	3.8	Ha-Sh.	L24b	N	346	つばみけ47	■A3	(4.0)	Ha-Sh.	K25b	V		
297	つばみけ47	■A1	(3.1)	Ha-Sh.	L23d	N	347	つばみけ47	■A1	7.3	Ha-Sh.	M22d	V		
298	つばみけ47	■A1	3.8	Ha-Sh.	M25d	N上	348	つばみけ47	■A1	(3.5)	Ha-Sh.	M25b	V		
299	つばみけ47	■A1	(6.8)	Ha-Sh.	K26c	N下	349	つばみけ47	■A1	7.4	Ha-Sh.	L26d	C上		
300	つばみけ47	■A3	1.4	Ha-Sh.	M21d	N	350	つばみけ47	■A1	6.2	Ha-Sh.	M25d	V		
301	つばみけ47	■A1	3.6	Ha-Sh.	L24a	N	351	つばみけ47	■A1	3.8	Ha-Sh.	L24d	V		
302	つばみけ47	■A1	7.5	Ha-Sh.	L24b	N	352	つばみけ47	■A1	3.3	Ha-Sh.	L24d	V		
303	つばみけ47	■A1	4.9	Ha-Sh.	K26c	N	353	つばみけ47	■A1	(6.0)	Ha-Sh.	K25a	V		
304	つばみけ47	■A1	(2.4)	Ha-Sh.	M23c	N	354	つばみけ47	■A1	8.7	Ha-Sh.	L25c	V		
305	つばみけ47	■A1	(9.5)	Ha-Sh.	L25b	N下	355	つばみけ47	■A1	19.1	Ha-Sh.	L25d	V		
306	つばみけ47	■A4	3.7	Obs.	M23c	N	356	つばみけ47	■A1	8.4	Ha-Sh.	K25c	V		
307	つばみけ47	■A3	1.5	Ha-Sh.	K23b	N	357	つばみけ47	■A1	4.8	Ha-Sh.	L25c	V		
308	つばみけ47	■A3	1.5	Ha-Sh.	K23b	N	358	つばみけ47	■A1	11.0	Ha-Sh.	M21d	V		
309	つばみけ47	■A3	6.1	Mad.	K23b	N	359	つばみけ47	■A1	10.7	Ha-Sh.	L25a	V		
310	つばみけ47	■A3	4.7	Ha-Sh.	M25d	N上	360	つばみけ47	■A1	14.2	Ha-Sh.	L25a	V上		
311	つばみけ47	■A3	7.7	Ha-Sh.	K26c	N	361	つばみけ47	■A1	(3.0)	Ha-Sh.	L24d	V		
312	つばみけ47	■A3	(9.0)	Ha-Sh.	L23d	N	362	つばみけ47	■A3	9.5	Ha-Sh.	L22c	V		
313	つばみけ47	■A1	29.6	Hornet.	K23b	N	363	つばみけ47	■A3	4.2	Ha-Sh.	M25a	V上		
314	つばみけ47	■A3	31.3	Obs.	K24c	V	364	つばみけ47	■A4	1.9	Ha-Sh.	L26a	V		
315	つばみけ47	■A4	2.8	Obs.	K23b	N	365	つばみけ47	■A3	3.0	Ha-Sh.	L25b	V		
316	つばみけ47	■A1	11.4	Ha-Sh.	L24b	V上	366	つばみけ47	■A4	(3.8)	Ha-Sh.	K24b	V		
317	つばみけ47	■A1	10.5	Ha-Sh.	M23d	V下	367	つばみけ47	■A1	15.9	Ha-Sh.	L22d	V		
318	つばみけ47	■A1	8.1	Ha-Sh.	K26c	V上	368	つばみけ47	■A4	12.2	Ha-Sh.	M22d	V		
319	つばみけ47	■A1	6.1	Ha-Sh.	L26d	V上	369	つばみけ47	■A4	4.3	Ha-Sh.	M25d	V上		
320	つばみけ47	■A1	7.1	Ha-Sh.	L25a	V	370	つばみけ47	■A1	2.4	Ha-Sh.	L24d	V		
321	つばみけ47	■A1	6.7	Ha-Sh.	K23c	V	371	つばみけ47	■A3	3.0	Ha-Sh.	L25d	V		
322	つばみけ47	■A1	11.0	Ha-Sh.	K25b	V上	372	つばみけ47	■A3	4.6	Ha-Sh.	M24d	V		
323	つばみけ47	■A1	5.9	Ha-Sh.	K26c	V下	373	つばみけ47	■A3	2.2	Ha-Sh.	M25d	V		
324	つばみけ47	■A1	6.0	Ha-Sh.	L25a	V	374	つばみけ47	■A3	(2.0)	Ha-Sh.	L24d	V		
325	つばみけ47	■A1	4.6	Ha-Sh.	L26c	V上	375	つばみけ47	■A3	(4.9)	Ha-Sh.	M25b	V上		
326	つばみけ47	■A1	7.8	Ha-Sh.	M25d	V上	376	つばみけ47	■A3	(3.6)	Ha-Sh.	M25a	V		
327	つばみけ47	■A1	(3.0)	Ha-Sh.	L25c	V下	377	つばみけ47	■A3	2.3	Ha-Sh.	L25b	V		
328	つばみけ47	■A1	6.3	Ha-Sh.	M25d	V上	378	つばみけ47	■A3	(1.7)	Ha-Sh.	M25b	V上		
329	つばみけ47	■A1	6.2	Ha-Sh.	L25b	V中	379	つばみけ47	■A3	3.4	Ha-Sh.	K25c	V		
330	つばみけ47	■A1	(1.0)	Ha-Sh.	L25c	V中	380	つばみけ47	■A4	(2.6)	Obs.	L24c	V		
331	つばみけ47	■A1	2.4	Ha-Sh.	K26c	V	381	つばみけ47	■A1	9.1	Obs.	L25a	V上		
332	つばみけ47	■A1	(2.5)	Ha-Sh.	L23c	V	382	つばみけ47	■A1	7.3	Obs.	K25b	V上		
333	つばみけ47	■A1	3.0	Ha-Sh.	K27b	V	383	つばみけ47	■A1	1.9	Ha-Sh.	L25a	V		
334	つばみけ47	■A1	(2.0)	Ha-Sh.	K27b	V	384	つばみけ47	■A1	7.3	Ha-Sh.	L25a	C上		
335	つばみけ47	■A1	4.4	Ha-Sh.	L25a	V上	385	つばみけ47	■A1	6.7	Ha-Sh.	L25a	C上		
336	つばみけ47	■A1	8.5	Ha-Sh.	M25c	V下	386	スクレイパー	■B	85.0	Ha-Sh.	L22a	S		
337	つばみけ47	■A1	(11.1)	Ha-Sh.	L25c	V中	387	スクレイパー	■B	27.7	Ha-Sh.	M23b	S		
338	つばみけ47	■A1	8.3	Ha-Sh.	L25c	V下	388	スクレイパー	■B	10.4	Obs.	L24a	S		
339	つばみけ47	■A1	(3.0)	Ha-Sh.	K25b	V	389	スクレイパー	■B	6.8	Ha-Sh.	L25b	N下		

III A地点の遺構と遺物

図面号	層	分	組	高さ(m)	材質	発掘区	層位	回数	層	分	組	高さ(m)	材質	発掘区	層位
391	スケレイバー	BB	3.0	H-a-Sh.	L24a	W	441	スケレイバー	BB	4.0	Ob-s.	L25d	V		
392	スケレイバー	BB	14.4	H-a-Sh.	M24d	W	442	スケレイバー	BB	15.2	H-a-Sh.	L24d	V中		
393	スケレイバー	BB	5.1	H-a-Sh.	L34a	W	443	スケレイバー	BB	15.9	H-a-Sh.	L25c	V上		
394	スケレイバー	BB	4.35	H-a-Sh.	M25b	W上	444	スケレイバー	BB	15.8	Ob-s.	L24e	V		
395	スケレイバー	BB	25.8	H-a-Sh.	L24b	W	445	スケレイバー	BB	18.6	H-a-Sh.	L24e	V中		
396	スケレイバー	BB	11.2	H-a-Sh.	L25a	W下	446	スケレイバー	BB	14.6	Ob-s.	L24d	V		
397	スケレイバー	BB	14.4	Ob-s.	L23a	W	447	スケレイバー	BB	11.3	H-a-Sh.	L25b	V中		
398	スケレイバー	BB	13.8	H-a-Sh.	M23c	W	448	スケレイバー	BB	10.5	H-a-Sh.	M21d	V		
399	スケレイバー	BB	4.35	H-a-Sh.	L24a	W	449	スケレイバー	BB	7.2	H-a-Sh.	M25c	V		
400	スケレイバー	BB	2.0	H-a-Sh.	M24d	W	450	スケレイバー	BB	10.7	H-a-Sh.	M25c	V上		
401	スケレイバー	BB	10.6	H-a-Sh.	M23b	W	451	石	KA	40.6	Ob-s.	K24e	V		
402	スケレイバー	BB	17.0	H-a-Sh.	M24d	W	452	石	KA	108.4	Ob-s.	K24e	V		
403	スケレイバー	BB	12.1	H-a-Sh.	M23d	W	453	石	KA	31.3	Ob-s.	K24c	V		
404	スケレイバー	BB	15.1	Ob-s.	K24b	W	454	石	KA	21.4	Ob-s.	K24e	V		
405	スケレイバー	BB	11.0	H-a-Sh.	K23c	W	455	石	KA	34.9	Ob-s.	K24e	V		
406	スケレイバー	BB	11.5	H-a-Sh.	L27a	W	456	石	KA	(25.5)	Ob-s.	K24e	V		
407	スケレイバー	BB	42.6	H-a-Sh.	L23d	W	457	石	KA	28.7	Ob-s.	K24e	V		
408	スケレイバー	BB	25.1	H-a-Sh.	M23b	W	458	石	KA	25.3	Ob-s.	K24e	V		
409	スケレイバー	BB	22.3	H-a-Sh.	L23c	W	459	石	KA	33.9	Ob-s.	K24e	V		
410	スケレイバー	BB	14.2	H-a-Sh.	M25b	W上	460	石	KA	36.9	Ob-s.	K24e	V		
411	スケレイバー	BB	2.4	H-a-Sh.	L26a	V	461	石	KA	25.7	Ob-s.	K24e	V		
412	スケレイバー	BB	3.2	H-a-Sh.	M24d	V下	462	石	KA	22.3	Ob-s.	K24e	V		
413	スケレイバー	BB	5.4	H-a-Sh.	M25c	V上	463	石	KA	22.3	Ob-s.	K24e	V		
414	スケレイバー	BB	8.1	H-a-Sh.	M24b	V	464	石	KA	27.3	Ob-s.	K24e	V		
415	スケレイバー	BB	21.2	H-a-Sh.	M25a	V上	465	石	KA	13.8	Ob-s.	K24e	V		
416	スケレイバー	BB	9.2	Ob-s.	M25d	V上	466	石	KA	21.5	Ob-s.	K24e	V		
417	スケレイバー	BB	17.7	H-a-Sh.	L24c	V	467	石	KA	18.2	Ob-s.	K24e	V		
418	スケレイバー	BB	38.3	H-a-Sh.	K26a	V	468	石	KA	16.4	Ob-s.	K24e	V		
419	スケレイバー	BB	46.2	H-a-Sh.	M25b	V中	469	石	KA	10.4	Ob-s.	K24e	V		
420	スケレイバー	BB	13.6	H-a-Sh.	M21d	V	470	石	KA	64.4	Ob-s.	K25b	V上		
421	スケレイバー	BB	21.0	H-a-Sh.	L25d	V上	471	G	KA	72.6	H-a-Sh.	K25c	VF		
422	スケレイバー	BB	16.3	H-a-Sh.	M25d	V上	472	石	KA	65.2	H-a-Sh.	M25c	V		
423	スケレイバー	BB	26.2	H-a-Sh.	K27c	V	473	石	KA	20.6	Ob-s.	M22a			
424	スケレイバー	BB	35.1	H-a-Sh.	L25d	V	474	G	KA	22.3	Ob-s.	M22a			
425	スケレイバー	BB	6.1	H-a-Sh.	L23d	V	475	石	N	49.5	Mud.	L23b	■		
426	スケレイバー	BB	15.4	H-a-Sh.	M25b	V上	476	G	N	53.2	T-s.	L24a	■		
427	スケレイバー	BB	18.7	Ob-s.	L24d	V中	477	石	N		Rhy.	M24d	■		
428	スケレイバー	BB	32.1	H-a-Sh.	L24a	V	478	G	N	(3.0)	Rhy.	L24a	■		
429	スケレイバー	BB	19.3	H-a-Sh.	M25a	V中	479	石	N	62.0	Mud.	L23d	■		
430	スケレイバー	BB	4.8	Ob-s.	M25d	V	480	石	N	69.3	Mud.	L24b	■		
431	スケレイバー	BB	13.3	H-a-Sh.	K25d	V	481	石	N	340	Rhy.	L24a	N		
432	スケレイバー	BB	21.0	H-a-Sh.	M23c	V上	482	石	N	155	Sch.	M21d	N		
433	スケレイバー	BB	28.8	Ob-s.	M24d	V下	483	石	N	180	Gr-Mud.	M25d	N中		
434	スケレイバー	BB	14.0	Ob-s.	M22a	V	484	G	N	(65.6)	Gr-Mud.	M23d	N		
435	スケレイバー	BB	15.7	H-a-Sh.	M23d	V	485	G	N	(21.3)	Rhy.	L22d	N		
436	スケレイバー	BB	12.7	H-a-Sh.	K27b	V	486	G	N	10.7	Rhy.	K27b	N		
437	スケレイバー	BB	7.7	H-a-Sh.	L25a	V	487	石	N	(150)	Rhy.	K22c	N		
438	スケレイバー	BB	17.2	Age-Sh.	L26d	V上	488	G	N	(110)	Rhy.	L25d	N下		
439	スケレイバー	BB	6.9	H-a-Sh.	L25c	V下	489	G	N	(32.7)	Gr-Mud.	L25d	V中		
440	スケレイバー	BB	3.3	H-a-Sh.	L25c	V下	490	G	N	(300)	Rhy.	K24c	V		

III A地点の構造と造物

固有番号	岩種	分類	平均粒径	H	T	光澤度	W	方位	固有番号	岩種	分類	平均粒径	H	T	光澤度	W	方位
491	G	角	N	(230)	Gr-Mud.	K24c	V	501	G	角	WA2	55	A.n.d.	L21b	S		
492	G	角	N	(250)	Rhy.	M25a	V.F.	502	G	角	WA2	95.7	A.n.d.	L23c	S		
493	G	角	N	(140)	Gr-Mud.	M22b	V	503	G	角	WA2	105.5	A.n.d.	L23c	S		
494	G	角	N	(71.9)	Gr-Mud.	L26a	V.E.	504	G	角	WA2	100	A.n.d.	M23c	S		
495	G	角	N	(97.9)	Rhy.	K24c	V	505	G	角	WA2	105.5	A.n.d.	L23c	S		
496	G	角	N	61.0	Rhy.	L26d	V.E.	506	G	角	WA2	106.7	A.n.d.	L23b	S		
497	G	角	N	044.5	Rhy.	K25a	V	507	G	角	WA2	61.8	A.n.d.	M23c	S		
498	G	角	N	180	Sch.	M22b	V	508	G	角	WA2	30	A.n.d.	L23b	S		
499	G	角	N	60.0	Rhy.	K24c	V	509	G	角	WA2	50	S.s.	K27b	S		
500	G	角	N	044.1	Gr-Mud.	L26b	V.F.	510	G	角	WA2	70	S.s.	M23c	S		
501	G	角	N	17.5	Rhy.	K23b	V	511	G	角	WA3	115	A.n.d.	M23a	S		
502	G	角	N	13.7	Rhy.	L25d	V.F.	512	G	角	WA3	90	A.n.d.	M22c	S		
503	G	角	N	05.2	Rhy.	K22c	V	513	G	角	WA3	51	A.n.d.	L23a	V.F.		
504	G	角	N	22.3	Rhy.	M22c	V	514	G	角	WA3	103.7	A.n.d.	L23c	V		
505	G	角	N	(240)	Rhy.	K26c	V	515	G	角	WA3	75	A.n.d.	M25d	V.F.		
506	G	角	N	25.8	Gr-Mud.	M22d	V	516	G	角	WA3	63.7	A.n.d.	M23a	V.F.		
507	G	角	N	1130	Gr-Mud.	M22a	V	517	G	角	WA3	89.8	A.n.d.	M23d	V.F.		
508	G	角	N	31.2	Rhy.	M22d	V	518	G	角	WA3	91.0	A.n.d.	L25b	V.F.		
509	ナリ切端片	N			Rhy.	L23d	N	519	G	角	WA3	90.9	A.n.d.	L25c	V		
510	ナリ切端片	N		(15)	Rhy.	K24b	V	520	G	角	WA3	133.6	A.n.d.	M25a	V.F.		
511	ナリ切端片	N		25	Rhy.	K22b	V	521	G	角	WA3	105	A.n.d.	M23d	V		
512	ナリ切端片	N		60.4	Rhy.	M25b	V	522	G	角	WA3	80	A.n.d.	M25b	V.F.		
513	ナリ切端片	N		69.5	Rhy.	K25b	V	523	G	角	WA3	157.8	A.n.d.	L22c	V		
514	ナリ切端片	N		(327)	Rhy.	M25d	V	524	G	角	WA3	74.1	A.n.d.	K26c	V.F.		
515	ナリ切端片	N		500	Rhy.	L23a	V	525	G	角	WA3	103.1	A.n.d.	M25b	V.F.		
516	た	た	3G	VA1	60	And.	L23d	III	526	G	角	WA3	150	A.n.d.	M23a	V	
517	た	た	3G	VA1	90	And.	L23d	N	527	G	角	WA3	172.0	A.n.d.	L23c	V.F.	
518	た	た	3G	VA2	205	And.	K23c	V	528	G	角	WA3	108.8	A.n.d.	K26b	V	
519	た	た	3G	VA2	180	S.s.	M23d	V	529	G	角	WA3	91.1	A.n.d.	M23a	V	
520	た	た	3G	VA1	80	And.	M25a	V.F.	530	G	角	WA3	125	A.n.d.	M23a	V.F.	
521	た	た	3G	VA2	60	And.	L22c		531	G	角	WA3	88.9	A.n.d.	L25a	V.F.	
522	た	た	3G	VA3	20	And.	L23c	N	532	G	角	WA3	305	A.n.d.	L23a	V	
523	た	た	3G	VA3	50	And.	L23d	V	533	G	角	WA3	157.2	A.n.d.	K26d	V	
524	た	た	3G	VA3	20	And.	L24b	V	534	G	角	WA3	94	A.n.d.	M23d	V	
525	た	た	3G	VA3	30	And.	K23c		535	G	角	WA3	98.9	A.n.d.	L23a	V	
526	G	純	WA2	110	And.	M23a	III	536	G	角	WA2	130	A.n.d.	M22b	V		
527	G	純	WA2	191.4	And.	L23b	N	537	G	角	WA2	90.1	A.n.d.	K26b	V		
528	G	純	WA2	107.4	And.	L23b	N	538	G	角	WA2	75	A.n.d.	M23b	V		
529	G	純	WA2	51.8	And.	K27c	N	539	G	角	WA2	165	A.n.d.	L26c	V.F.		
530	G	純	WA2	140	And.	L24b	N	540	G	角	WA2	4.7	A.n.d.	M23a	V		
531	G	純	WA2	95.5	And.	M23d	N	541	G	角	WA2	81.9	A.n.d.	L25c	V.F.		
532	G	純	WA2	87.2	And.	L23b	N.F.	542	G	角	WA2	165.4	A.n.d.	L25b	V		
533	G	純	WA2	75.0	And.	L23b	N	543	G	角	WA2	54.5	A.n.d.	L21c	V.F.		
534	G	純	WA2	138	And.	K23c	N	544	G	角	WA2	43.9	A.n.d.	L22c	V		
535	G	純	WA2	66.4	And.	M23a	N	545	G	角	WA2	84.2	A.n.d.	L25a	V.F.		
536	G	純	WA2	100.3	And.	L23b	N	546	G	角	WA2	194	A.n.d.	M23b	V		
537	G	純	WA2	-116.7	And.	K23c	N	547	G	角	WA2	68.0	A.n.d.	L25c	V		
538	G	純	WA2	49.1	And.	L23b	N	548	G	角	WA2	78	A.n.d.	L25a	V.F.		
539	G	純	WA2	161	And.	M23b	N	549	G	角	WA2	155.6	A.n.d.	K24c	V		
540	G	純	WA2	109.7	And.	L23b	N	550	G	角	WA2	65	A.n.d.	L25d	V		

III A地点の遺構と遺物

測量分類	層	分類	組成	H	D	施設区分	層	組成	E	層	分類	組成	H	D	施設区分	層	組成
501 G	36	壁A2	80.3	A+ d.	K25 c	V	60	+	0	石	MA1	800	A+ d.	L25 a	N/E		
502 G	36	壁A2	126.4	A+ d.	K25 c	V	62	+	0	石	MA1	1,280	A+ d.	M23 c	N		
503 G	36	壁A2	145	A+ d.	M23 c	V	63	+	0	石	MA1	1,070	A+ d.	M25 d	K/C		
504 G	36	壁A2	76.0	S+ s.	L22 c	V	64	+	0	石	MA1	780	A+ d.	L23 b	N		
505 G	36	壁A2	67.3	S+ s.	M23 c	V	65	+	0	石	MA1	860	A+ d.	K23 c	N		
506 G	36	壁A2	70.1	S+ s.	L23 d	V/F	66	+	0	石	MA1	960	A+ d.	L23 c	N		
507 G	36	壁A2	90	M+ d.	M25 b	V/F	67	+	0	石	MA1	700	A+ d.	K22 c	N		
508 G	36	壁A2	115	O+ s.	K26 b	V	68	+	0	石	MA1	780	A+ d.	K24 b	N		
509 G	36	壁A3	82	A+ d.	M23 d	V	69	+	0	石	MA1	670	A+ d.	L23 b	N		
600 G	36	壁A3	70	A+ d.	L25 c	V/F	70	+	0	石	MA1	660	A+ d.	L24 b	N		
601 G	36	壁A3	120	A+ d.	M25 a	V	71	+	0	石	MA1	1,050	A+ d.	L22 c	N		
602 G	36	壁A3	142	A+ d.	M22 c	V	72	+	0	石	MA1	410	A+ d.	L25 b	N/E		
603 G	36	壁A3	325	S+ s.	L26 c	V/E	73	+	0	石	MA1	410	A+ d.	L23 d	N		
604 G	36	壁A2	(54.8)	A+ d.	K23 b	V	74	+	0	石	MA1	400	A+ d.	L23 c	N		
605 G	36	壁A2	49	A+ d.	M23 d	V	75	+	0	石	MA1	210	A+ d.	L24 d	N/F		
606 G	36	壁A2	99.3	A+ d.	K24 c	V	76	+	0	石	MA1	100	A+ d.	M22 c	N		
607 G	36	壁B2	(65)	S+ s.	M23 b	B	77	+	0	石	MA1	(715)	A+ d.	L23 d	N		
608 G	36	壁B2	(195)	S+ s.	M25 a	B	78	+	0	石	MA1	(790)	A+ d.	L24 d	N		
609 G	36	壁B2	104.3	S+ s.	L26 d	B	79	+	0	石	MA1	540	A+ d.	L24 d	N		
610 G	36	壁B2	(190)	A+ d.	L25 c	B/F	80	+	0	石	MA1	580	A+ d.	L23 d	N		
611 G	36	壁B2	(190)	A+ d.	L24 b	B	81	+	0	石	MA1	730	A+ d.	L24 d	N		
612 G	36	壁A1	(4.8)	S+ s.	M23 c	B	82	+	0	石	MA1	780	A+ d.	L25 a	N/F		
613 G	36	壁B1	(1,125)	S+ s.	K24 b	B	83	+	0	石	MA1	400	A+ d.	L23 a	N		
614 G	36	壁B1	131.9	S+ s.	M22 c	B	84	+	0	石	MA1	370	A+ d.	L23 c	N		
615 G	36	壁B2	(110)	S+ s.	L26 b	V/F	85	+	0	石	MA1	260	A+ d.	M26 b	N/E		
616 G	36	壁B2	78.0	S+ s.	L25 c	V/F	86	+	0	石	MA1	1,040	A+ d.	L26 b	N		
617 G	36	壁B2	170.8	S+ s.	L24 d	V	87	+	0	石	MA1	425	A+ d.	K22 c	N		
618 G	36	壁B2	(40.0)	S+ s.	M25 a	V	88	+	0	石	MA1	250	A+ d.	M25 d	N/F		
619 G	36	壁B2	S+ s.	K24 b	V	89	+	0	石	MA1	310	A+ d.	M24 d	N			
620 G	36	壁B2	(425)	S+ s.	L25 a	V	90	+	0	石	MA2	270	S+ s.	L23 d	N		
621 G	36	壁B1	19.2	S+ s.	L25 d	V	91	+	0	石	MA1	680	A+ d.	M24 a	N		
622 G	36	壁B1	62	S+ s.	L25 a	V/F	92	+	0	石	MA1	1,430	A+ d.	L21 c	V		
623 G	36	壁B1	(120)	S+ s.	K27 c	V	93	+	0	石	MA1	980	A+ d.	L23 a	N		
624 G	36	壁B1	(15)	S+ s.	K24 b	V	94	+	0	石	MA1	850	A+ d.	K25 b	V/F		
625 T	9	G MA1	590	A+ d.	M23 c	B	95	+	0	石	MA1	1,415	A+ d.	M26 a	V/F		
626 T	9	G MA1	600	A+ d.	L23 d	B	96	+	0	石	MA1	825	A+ d.	L25 c	V/F		
627 T	9	G MA1	170	A+ d.	M25 b	B	97	+	0	石	MA1	1,075	A+ d.	L25 a	V/F		
628 T	9	G MA1	480	A+ d.	L24 b	B	98	+	0	石	MA1	695	A+ d.	M25 a	V/F		
629 T	9	G MA2	610	A+ d.	L23 d	B	99	+	0	石	MA1	835	A+ d.	M24 a	V		
630 T	9	G MA2	280	A+ d.	K23 c	B	100	+	0	石	MA1	890	A+ d.	L25 b	V/F		
631 T	9	G MA1	550	A+ d.	M24 b	B	101	+	0	石	MA1	940	A+ d.	L22 c	N		
632 T	9	G MA1	845	A+ d.	K22 c	B	102	+	0	石	MA1	850	A+ d.	M23 b	V		
633 T	9	G MA1	500	A+ d.	M23 d	B	103	+	0	石	MA1	680	A+ d.	L25 b	V		
634 T	9	G MA1	910	A+ d.	L24 d	B	104	+	0	石	MA1	800	A+ d.	L25 b	V		
635 T	9	G MA1	1,300	A+ d.	K22 c	B	105	+	0	石	MA1	520	A+ d.	M26 a	V		
636 T	9	G MA1	1,030	A+ d.	L22 c	B	106	+	0	石	MA1	1,030	A+ d.	K23 c	V		
637 T	9	G MA1	670	A+ d.	L23 c	B	107	+	0	石	MA1	1,220	A+ d.	K24 b	V		
638 T	9	G MA1	(705)	A+ d.	L24 d	B	108	+	0	石	MA1	810	A+ d.	L25 a	V/F		
639 T	9	G MA1	995	A+ d.	L23 c	B	109	+	0	石	MA1	960	A+ d.	M23 a	V		
640 T	9	G MA1	910	A+ d.	M23 a	B	110	+	0	石	MA1	750	A+ d.	L22 c	V		

III A地点の遺構と遺物

遺構番号	ID	種	分類	量	地質	材	質	発掘区分	層位	遺構番号	ID	種	分類	量	地質	材	質	発掘区分	層位
691	†	リ	石	UAI	430	A+d.	L24d	V/F		741	†	リ	石	UAI	400	A+d.	L26d	V上	
692	†	リ	石	UAI	650	A+d.	L25b	V	742	†	リ	石	UAI	1,318	A+d.	L26d	V		
693	†	リ	石	UAI	600	A+d.	L22c	V	743	†	リ	石	UAI	1,030	A+d.	L25a			
694	†	リ	石	UAI	780	A+d.	K26d	V	744	†	リ	石	UAI	1,220	A+d.	K23a			
695	†	リ	石	UAI	500	A+d.	M25b	V	745	†	リ	石	UAI	730	A+d.	L24a			
696	†	リ	石	UAI	460	A+d.	L27a	V	746	†	リ	石	UAI	1,240	A+d.	L22c			
697	†	リ	石	UAI	340	A+d.	L23c	U	747	†	リ	石	UAI	440	S+	M22a			
698	†	リ	石	UAI	430	A+d.	L24c	V中	748	†	リ	石	UAI	650	A+d.	L23d			
699	†	リ	石	UAI	315	A+d.	L24d	V	749	†	リ	石	UAI	640	A+d.	M24c			
700	†	リ	石	UAI	670	A+d.	M23d	V	750	†	リ	石	UAI	780	A+d.	L22a			
701	†	リ	石	UAI	485	A+d.	M23c	V	751	†	リ	石	UAI	970	A+d.	M22d			
702	†	リ	石	UAI	351	A+d.	M23b	V	752	†	リ	石	UAI	600	A+d.	L23a			
703	†	リ	石	UAI	745	A+d.	K26c	V上	753	†	リ	石	UAI	1,180	A+d.	L22d			
704	†	リ	石	UAI	490	A+d.	M24b	V	754	†	リ	石	UAI	470	A+d.	M24d			
705	†	リ	石	UAI	460	A+d.	M25d	V	755	†	リ	石	UAI	820	A+d.	L22a			
706	†	リ	石	UAI	565	A+d.	K23b	V	756	†	リ	石	UB1	620	A+d.	M22d	不明		
707	†	リ	石	UAI	470	A+d.	L26b	V	757	†	リ	石	UB1	482	A+d.	L22a			
708	†	リ	石	UAI	430	A+d.	M24a	V	758	†	リ	石	UA4	(509)	A+d.	L22b	不明		
709	†	リ	石	UAI	700	A+d.	K24c	V	759	†	リ	石	UA4	(575)	A+d.	L22c			
710	†	リ	石	UAI	979	A+d.	L25b	V/F	760	†	リ	石	UA4	(600)	A+d.	L22c	不明		
711	†	リ	石	UAI	538	A+d.	M24a	V	761	石	■	UB1	35,600	A+d.	K23a	■			
712	†	リ	石	UAI	800	A+d.	M25a	V	762	石	■	UB1	12,400	A+d.	K24b	■			
713	†	リ	石	UAI	280	A+d.	L25a	V/F	763	石	■	UB1	760	A+d.	L23d	■			
714	†	リ	石	UAI	240	A+d.	L23c	V	764	石	■	UB1	4,800	A+d.	L22b	■			
715	†	リ	石	UAI	380	A+d.	L26d	V上	765	石	■	UB1	6,700	A+d.	L21c	■			
716	†	リ	石	UAI	610	A+d.	K26b	V	766	石	■	UB1	8,300	A+d.	L24a	■			
717	†	リ	石	UAI	490	A+d.	K25a	V	767	石	■	UB1	1,750	A+d.	K25c	■			
718	†	リ	石	UAI	315	A+d.	M24a	V	768	石	■	UB1	14,600	A+d.	K25c	■			
719	†	リ	石	UAI	552	A+d.	M22c	V	769	石	■	UB1	3,000	A+d.	L24c	■			
720	†	リ	石	UAI	291	A+d.	L22c	V	770	石	■	UB1	1,650	A+d.	M24c	V/F			
721	†	リ	石	UAI	420	A+d.	K23c	V	771	石	■	UB1	5,200	A+d.	K26b	V			
722	†	リ	石	UAI	300	A+d.	L26c	V上	772	石	■	UB1	3,300	A+d.	K26b	V			
723	†	リ	石	UAI	290	A+d.	L25c	V	773	石	■	UB1	4,200	A+d.	M25d	V/F			
724	†	リ	石	UAI	400	A+d.	M23c	V	774	石	■	UB1	2,100	A+d.	M24d				
725	†	リ	石	UAI	130	A+d.	M22a	V											
726	†	リ	石	UAI	208	A+d.	K26c	V中											
727	†	リ	石	UAI	210	A+d.	M24d	V/F											
728	†	リ	石	UAI	170	A+d.	M25b	V中											
729	†	リ	石	UAI	375	A+d.	L23a	V											
730	†	リ	石	UAI	90	A+d.	L26d	V											
731	†	リ	石	UAI	450	A+d.	K26b	V											
732	†	リ	石	UAI	1,000	A+d.	M23a	U											
733	†	リ	石	UAI	430	A+d.	K26b	V											
734	†	リ	石	UAI	460	A+d.	M23d	V											
735	†	リ	石	UAI	460	A+d.	M24a	V											
736	†	リ	石	UAI	410	A+d.	K24c	V											
737	†	リ	石	UAI	390	A+d.	M22a	V											
738	†	リ	石	UAI	200	A+d.	L25d	V											
739	†	リ	石	UAI	560	A+d.	L23a	V											
740	†	リ	石	UAI	400	A+d.	L25c	V											

IV B地点の遺構と遺物



B地点の調査状況

IV B地点の遺構と遺物

1 遺構の分布

B地点は俱多楽カルデラの外輪山からなる舌状の丘陵が南方に突出し、その西斜面の緩傾斜地に位置する。

確認された遺構は、住居跡1、住居的施設2、墓1、Tピット1、土壙4、焼土4。

住居跡（H-1）は後述するとおり縄文時代後期初頭の所産で、L・M-35区から検出された。一部は調査区外にかかるため、完掘できなかった。

住居的施設は（P-1・2）、住居跡と同じ立地環境にあり、時期も縄文時代後期初頭であることから、住居跡と付随する施設なのかもしれない。

墓（P-3）は縄文時代後期の所産で、墳口・中に焼土に伴っている。墓周辺に多数の礫群があり、何らかの関連があるものかもしれない。

Tピット（P-7）は小川の縁辺部の平坦面にあり、長軸は、等高線と直交する。

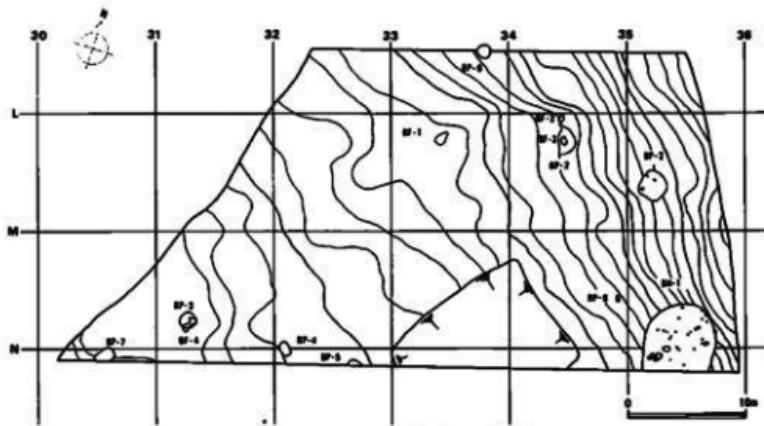
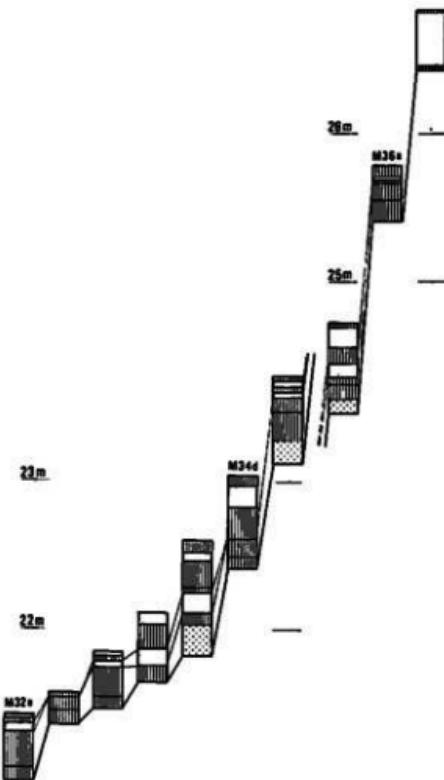


図128 B地点の遺構分布と土層柱状図

2 遺構

H-1 (図129~133)

M・N-35区にある。覆土は9層に分けられる。I層は暗褐色土の基本層序のIV層に対比。II層は黒褐色土。基本層序のV層に対比。III層は黄褐色ローム。IV層は黒色土。II層よりも黒味が強く粘性もある。覆土は基本層序のV層に対比しうるが、細かいローム粒を含む。V層よりも粘性が強い。VI層は黒褐色土。V層と類似するが、より黒味が強く、粘性もある。VII層は褐色土。多量の細かいローム粒を含み、少量ではあるが炭化物を含む。VIII層は黒色土。多量の炭化物を含み粘性も強い。IX層は多量の細かいローム粒と炭化物を含む粘性の強い土層。壁の立ち上がり付近にごく少量の焼土が確認された。平面形は一部が調査区外となっているため明らかではないが、おそらく長円形と思われる。長径(推定)8.10m、短径4.80m。炉跡は南壁よりにあり、6個の環で囲まれている。また、その周辺からも焼土が4か所検出された。石圓い、炉の土層は3層に分けられる。I層は赤褐色の焼土。II層は若干褐色がかっており、火熱の影響を受けた土。III層は基本層序のIV層である。東壁からは多量の炭化材が検出された。そのほとんどが覆土中であり、近くに柱穴があることから、構造材かもしれない。また、覆土中からは点々と焼土が認められ、廃棄後、火災に遭遇した可能性も考えられる。柱穴は土中に炭化材のある東壁周辺から検出された。確かに柱穴と考えられるのはa~Pの16個、その他不明のものが10個である。それぞれの柱穴の床面からの深さは、aが27cm、bが44cm、cが15cm、dが33cm、eが23cm、fが26cm、gが18cm、hが20cm、iが23cm、jが33cm、kが25cm、lが22cm、nが25cm、oが16cm、pが20cm、qが36cmである。柱穴a・d・jは壁に設けられ、壁の傾斜に対してほぼ垂直である。柱穴配置の特徴は、主柱穴が明瞭ではなく、径の小さな柱穴がd・e・f・g・h・k・l・mのように直線的に設けられていることと、柱穴群が炭化材のある東壁側に偏っていることである。

遺物 覆土・床面とともに遺物の出土量は少ない。14は南側の柱穴P近傍から出土した土器。口径36.4cm。口縁部に平たい貼付帯が2段に付いている。器面にはR Lの斜繩文が密に施され、貼付带上にも回転方向を変えて同原体で施文されている。炭化物が器外面上半部に多量に付着している。床面の数cm上層から出土。15も14と同一個体と思われるが、接合できない口縁部破片。北西壁近くで出土。16・17は覆土出土のV群b類の胴部破片。16は結束第1種の羽状繩文。器厚は11mm。17はT字状の貼付帯がある。貼付帯の幅は6mm。その上に竹管状の工具による刺突文が施されている。地文はR L斜繩文。1~4・6~8は右鎖、5は右鎖、9~11はスクレイバー、12は石核、13はたたき石である。石質は1~12が黒曜石、13が安山岩である。石器の重量は1:0.9g、2:1.1g、3:2.2g、4:2.9g、5:1.4g、6:(1.1)g、7:(5.3)g、8:(3.5)g、9:4.5g、10:11g、11:15.2g、12:25g、13:770gである。

小括 床面以上の土器がV群a類であることから繩文後期の住居跡である。

炭化材の¹⁴C年代は、3.740±40年B.P. (KSU-559)である。

IV B地点の遺構と遺物

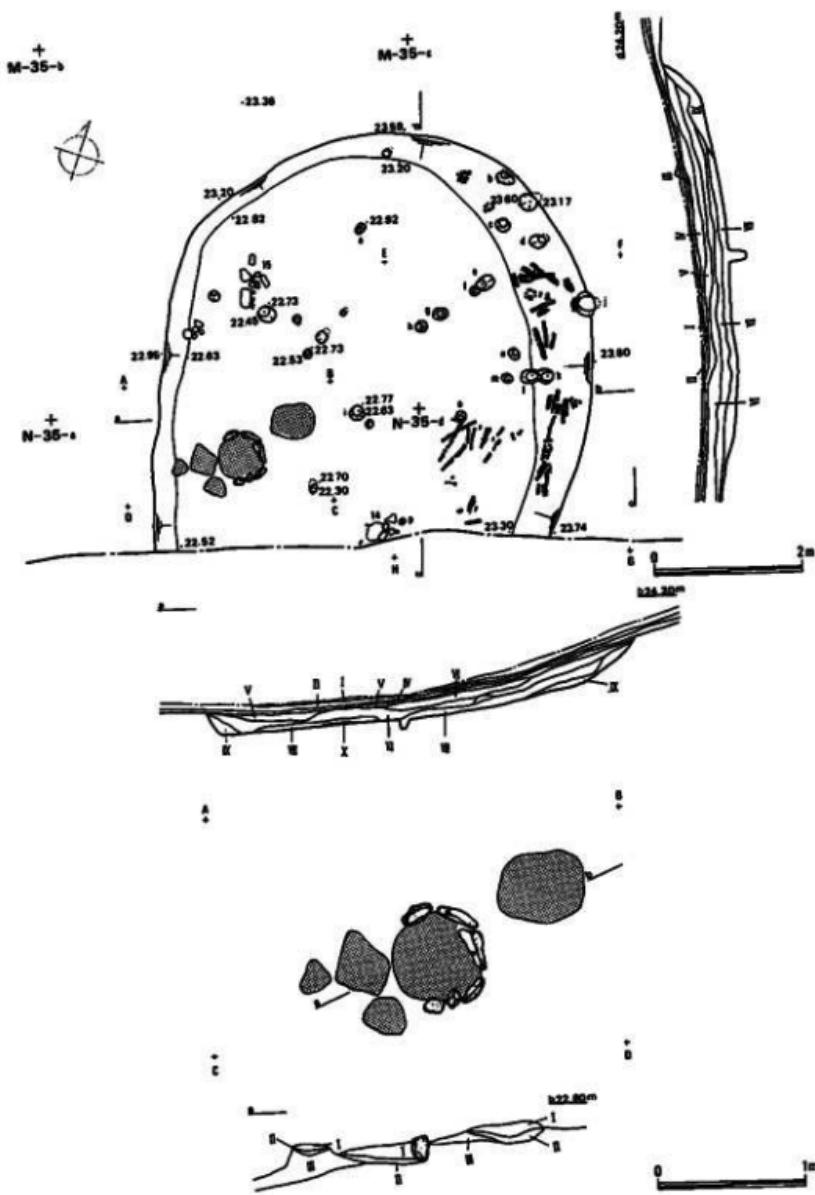


図129 H-1

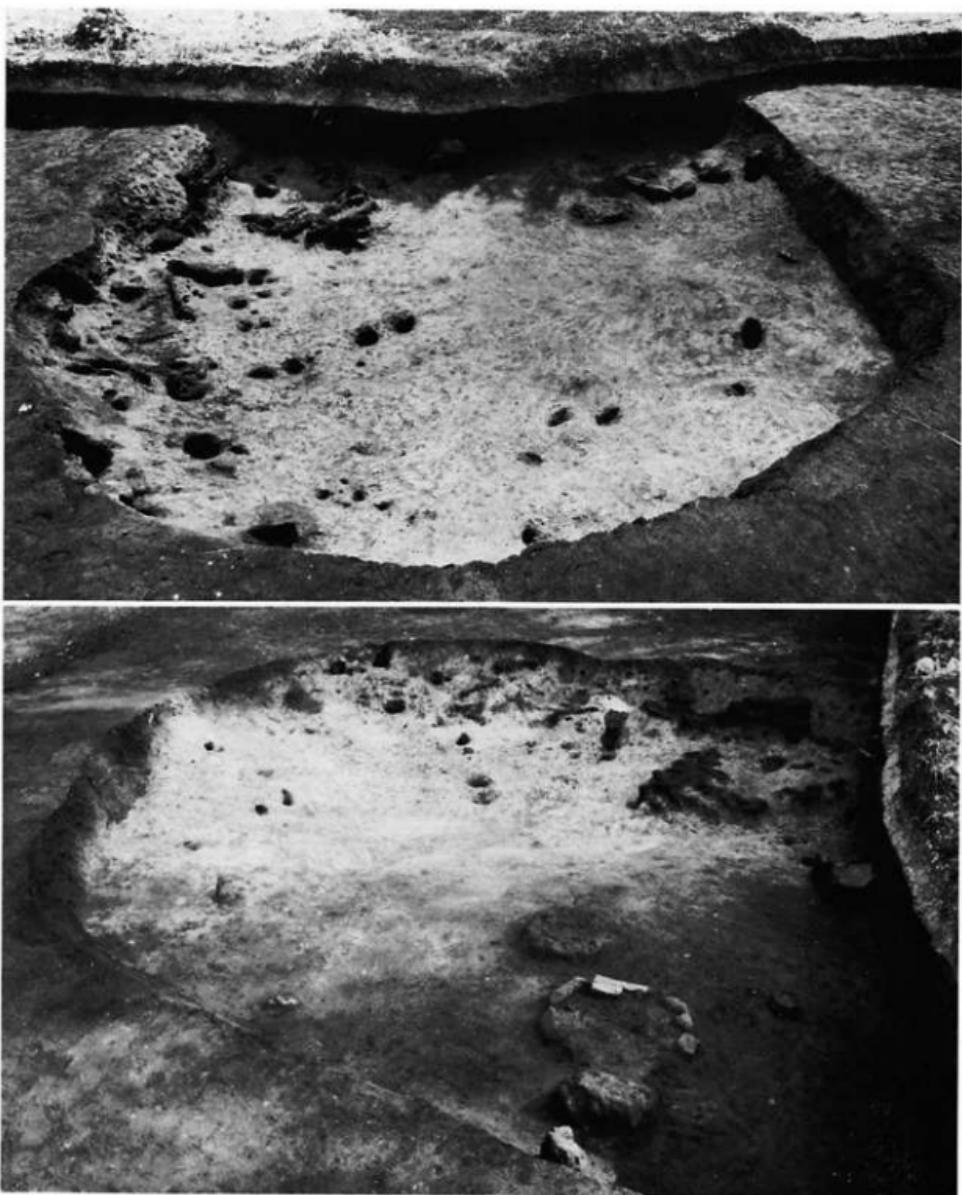


図130 H-1

IV B地点の遺構と遺物



図131 H-1

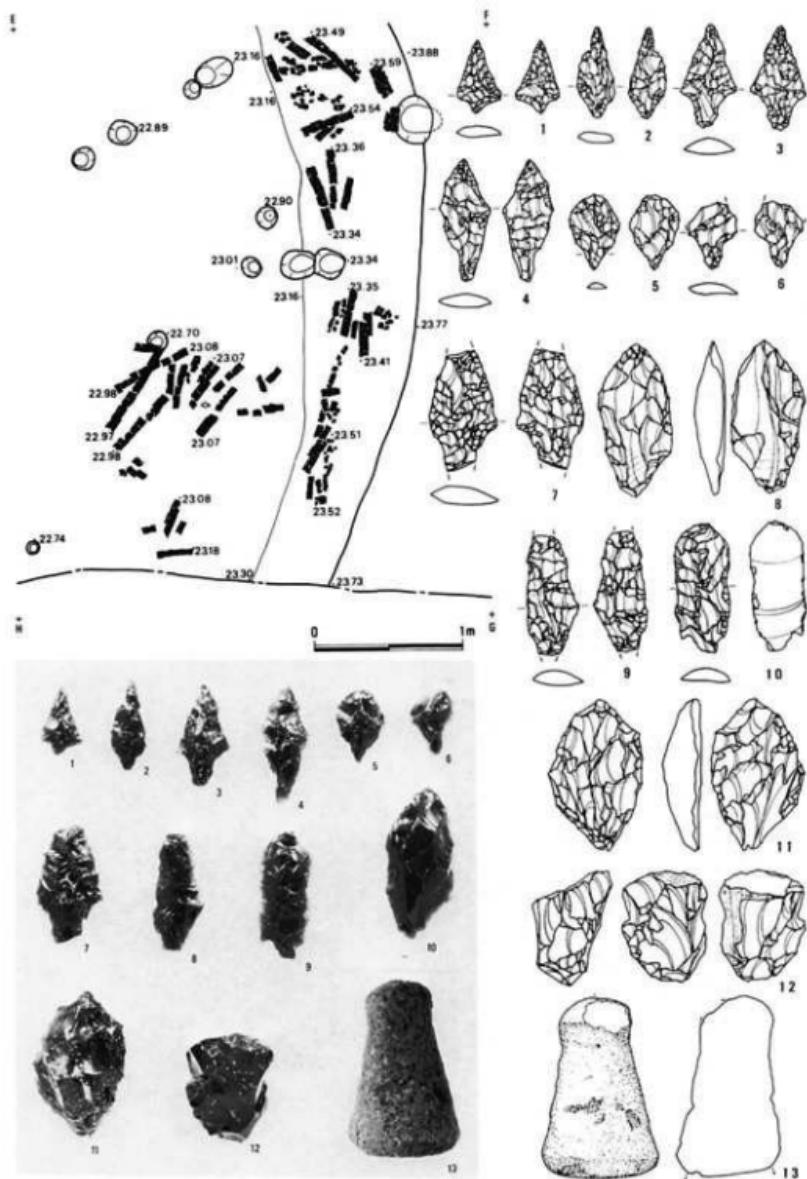


図132 H-1と出土遺物

IV B地点の遺構と遺物

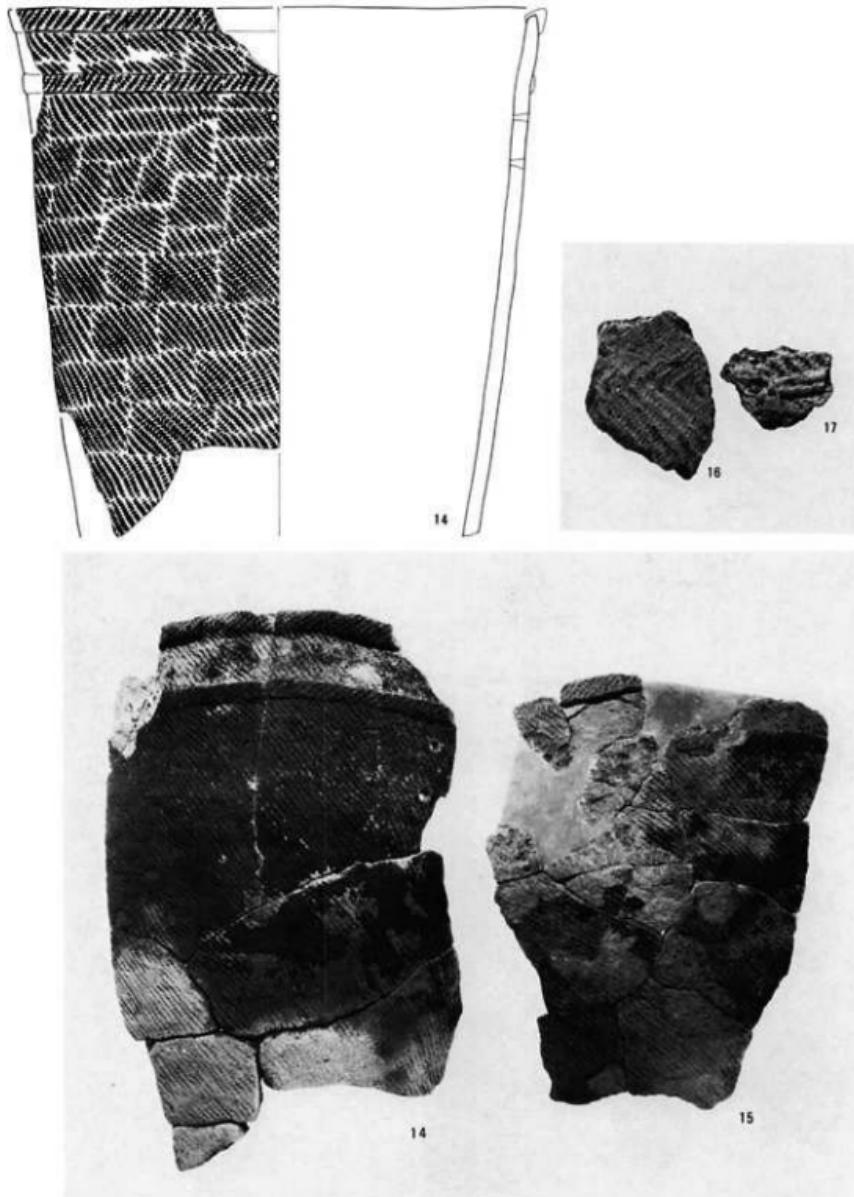


図133 H-1出土の土器

P-1

L-34区にある。土層は9層に分けられ、このうちのI・VII～IX層が覆土である。I～VI層は基本層序のIV～IX層に対比できる。VII層は黒褐色土。II層とはほぼ同じであるが、炭化粒が混入して区別される。III層は茶褐色土。III層と同一層の二次堆積である。V層は黒褐色土。II層と同じだが、VI層の黄褐色ローム粒が混入する。この遺構は掘り込み面が基本層序のV層中であり、しかも床面がVI層を切ってVII層中に構築されていたため、確認に困難を極め、結局、土層断面精査において確認された遺構である。したがって、平面形は不明である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。東壁ちかくの床面に径0.3mの焼土がある。南東壁よりに径0.14m、深さ0.10mの小穴が検出されたが、この遺構に伴うものは判別できなかった。

遺物 18～19は覆土出土。18はR L斜縫文のある胸部破片。器厚は10mm。17は石鏃。20はスクレイバーである。いずれも黒曜石製である。重量は19:6.2g、20:18.4g。

小括 時期を決定できる資料に欠けるが、遺構の掘り込み層位がV層中であること、覆土中から、IV群a類が出土していることから、おそらく、縄文時代後期初頭の住居的施設と考えられる。

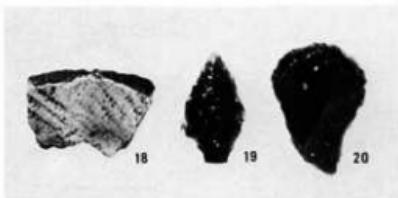
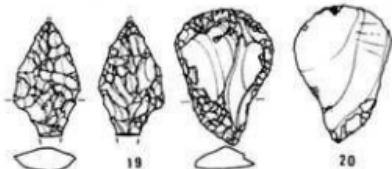
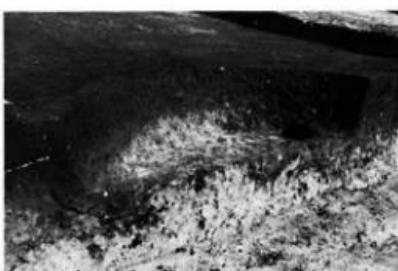
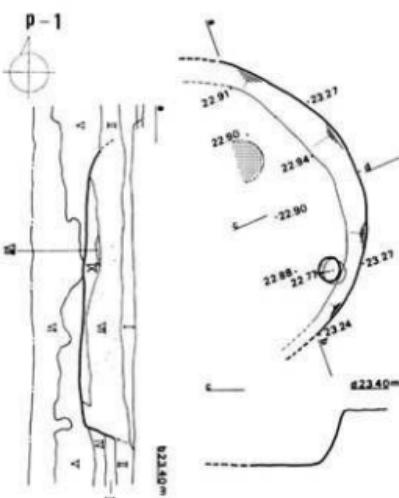


図134 P-1と出土遺物

IV B地点の遺構と遺物

P-2 (図135・136)

L35 d区にある。覆土は6層に分けられる。I層は暗褐色土で多数のローム粒を含む。II層は黒褐色土。III層は黒褐色土で多量のロームを含む。上質はI層に類似するが、堅くしまっている。IV層は墨褐色土。土質はII層に類似するが、粘性を帯びる。V層は基本層序の細層に類似する。掘りすぎの疑いがある。VI層は暗黄褐色土。木の根による搅乱の可能性あり。平面形は西壁が不鮮明であるが、長径2.27m、短径約2.25mの橢円方形。壁の立ち上がりはゆるやかである。床面は凸凹であるが堅くしまっている。南西コーナー寄りに長径0.43m、短径0.33mの撲土がある。柱穴状の小穴は三つあり、aは径22cm、深さ8cm、bは径17cm、深さ39cm、cは長径30cm、短径18cmの長円形で深さ28cmである。

遺物 21~26は床面ちかくの覆土中から出土した。21・22はLR斜縞文を施した胴部破片。21の器厚は11mm、22の器厚は10mm。23~24は茎をもつ石鐵。いずれも墨褐色土製である。26は扁平な円盤を用いたすり石で側縁の一端にすり面をもつ。重量は23:2.3g、24:1.79g、24:1.7g、25:(1.9)g、26:510gである。

小括 土器はIV群a類に属する。覆土中とはいえ、床面ちかくからの出土であり、この遺構に伴う蓋然性が高い。石鐵・すり石を伴う可能性が強い。焼土を伴い、形態・規模・出土遺物に共通があることから、P-1と同じ施設と考えて大過なかろう。

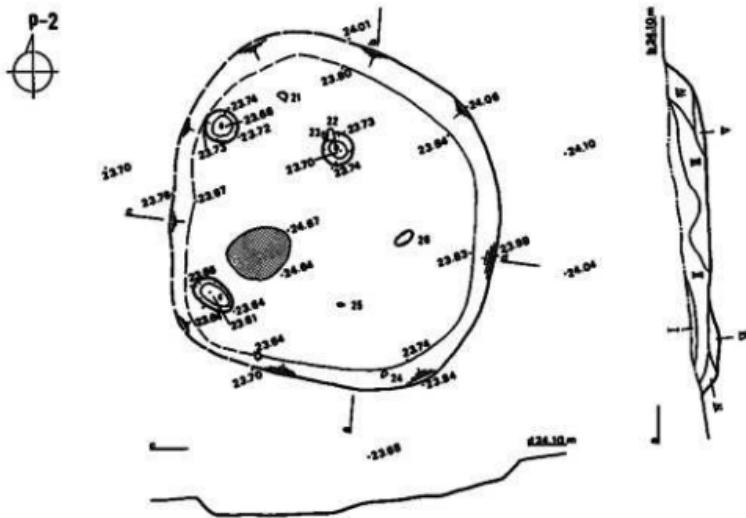


図135 P-2

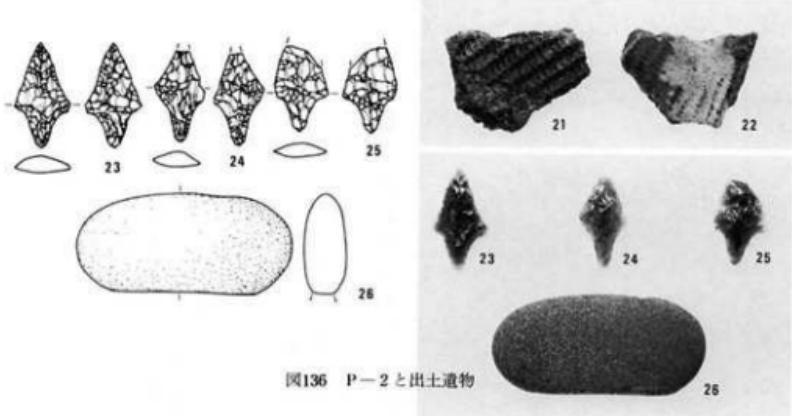


図136 P-2と出土遺物

P-3 (図137) M31 b区にある。覆土は9層に分けられる。I・II・V・VII層はそれぞれ基本層序のIV・V・VI・VII層に対比される。III層は暗褐色土で、多量の礫を含み粘性が強い。IV層は黒色土に若干のローム粒を含む。VI層は暗黄褐色土。多量のロームと黒色土が混在する。VII層は暗黄褐色土で、壁の崩落した土。IX層は黒褐色土。ローム粒と礫がまじり、焼土の小ブロックが混入する。覆土は明らかに埋土であり、堅くしまった土層である。平面形は長径1.40m、短径1.32mの円形である。壁はほぼ垂直に立ち上がる。掘り込み面は、V～VII層が土壤内に流入し明瞭な線引きができなかったが、V層中であることは確実である。壙口部に図示したような焼土の広がりが確認でき、同様のものは南側壁面から底面にかけてもみられた。

N B地点の構造と遺物

遺物 27が壙口および覆土N層中から出土した鉢形土器。口縁部が外反し胴下半から底部にかけてすぼまってほぼ垂直になる。底角は丸味をもち、底面は若干凹入する。口縁は五つの大きな波状となる。口径28.3cm、器高18.6cmである。胴部に文様が施される。地文はLR斜櫛文。沈線が平行して7本描かれ最上部の沈線上に刻目が施されている。下位の平行沈線上には「S」字状の沈線が縱位に描かれる。口縁部および胴下半から底部にかけては無文。

小括 土器はN群b類。縄文時代後期に属する。規模、形態から墓である。副葬品は土器1個体であるが、焼土が壙口から底部にかけてみられ、覆土と混在することからこの墓に伴うものである。周辺に大きな砾がこの墓をとりまくような形で出土しているが、その関連性は明らかでない(図141参照)。

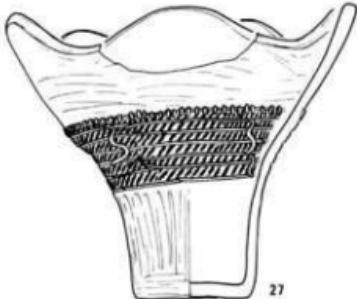
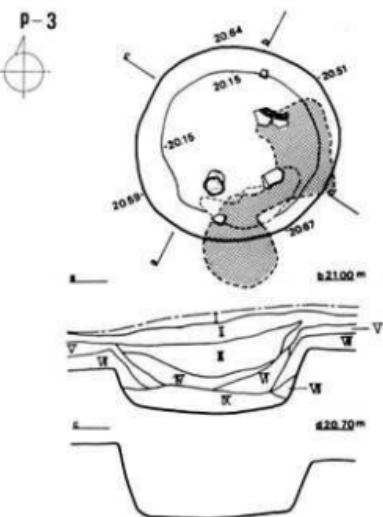
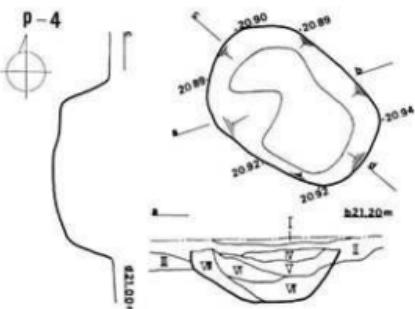


図137 P-3と出土遺物

P-4

M32 b・N32 a区にある。覆土は7層に分けられる。I～III層は基本層序のVI・VII・K層に対比する。IV層は暗褐色土で、ロームを少量含む。V層は黄褐色土で、ロームを少量含み粘性が強い。VI層は黒褐色土で、ロームを少量含む。VII層は黒褐色土。多量のローム粒を含み、粘性が強い。VIII層は黄褐色土。壁の崩落土である。平面形は長径1.22m、短径0.86mの隅丸長方形である。底面はややいびつであるが、堅くしまっている。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明である。



P-5

N32 d区にある。覆土は6層に分けられる。I～III層は基本層序のVI～VIII層に対比。IV層は黒色土。粘性が強い。少量のローム粒を含む。V層はローム粒のブロック、VI層は壁の崩落土。VII層は黒褐色土でロームを多量に含む。平面形は一部が調査区外であるため不明である。確認できる大きさは長径1.31m、短径は不明。壁の立ち上がりは東壁が垂直であるが、西壁は緩やかな立ち上がりである。遺物は出土していない。

小括 時期・用途ともに不明。

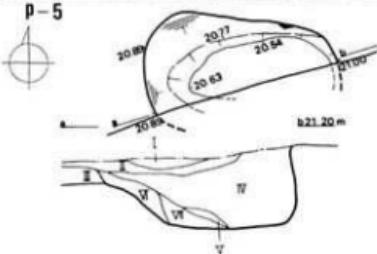


図138 P-4・5

N B地点の遺構と遺物

P-6

K33d区にある。覆土は7層に分けられる。

I～V層は基本層序のIV～VI層に対比。VI層は暗褐色土で、土質はIV層に類似するが、炭化物を少量含み、粘性が強い。VI層は暗黄褐色土でローム粒を含む。VII層は褐色土で少量のローム粒を含む。VIII層は黄褐色土。壁の崩落土である。平面形は長径1.14m、短径1.10mの円形である。壁はゆるやかに立ち上がる。底部は軟弱である。

遺物 境口から土器1個体出土した(28)。口径は推定で29.0cmである。器形は口縁下部がくびれ外反し、胴下半部が急角度ですぼまる。口縁形態は四つの小突起をもつ。地文はL.R斜縞文である。口唇には刺突列がある。

小括 この遺構は規模・形態からすれば、墓とするのは難しい。土器はIV群b類に属し、この遺構に伴う可能性が大きい。

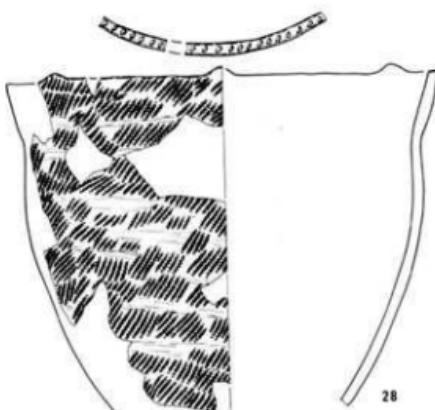
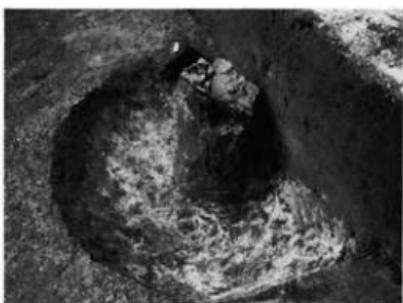
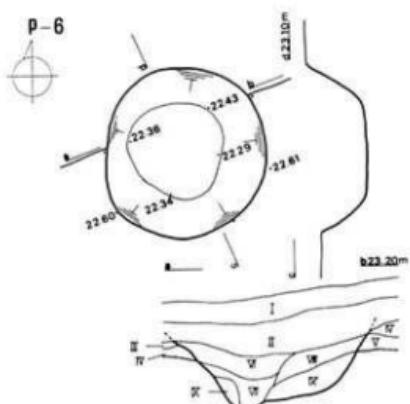


図139 P-6と出土遺物

P-7

N30d区にある。覆土は13層に分かれる。I～VI層は基本層序のII・IV～X層に対比。VII層は黒褐色土。上質はIII層に類似するが、若干のローム粒を含む。VIII層は黑色土で粘性が強い。IX層は黒褐色土。径1～1.5mmの火山灰のようなものを多量に含む。粘性は強い。X層は茶褐色土。若干のローム粒を含む。XI層は褐色土。基本層序X層の崩落土。XII層は黑色土。XIII層は基本層序X層の壁の崩落土。XIV層は黑色土。基本層序X層のロームがブロック状に混入する。XV層は茶褐色土で粘性が極めて強い。平面形は、開口面で長径1.70m、短径1.14mの小判形、底面で1.30m×0.33mの隅丸長方形。断面形は、下半はほぼ直立であるが、上半は崩落のために、著しく広がっている。底面からは3つの杭穴が確認された。杭穴の深さは北東から19、13、20cmである。遺物は出土していない。

小括 平面形小判形で、底面に杭穴をもつTピットである。底面の長幅比は3.9。時期は不明である。

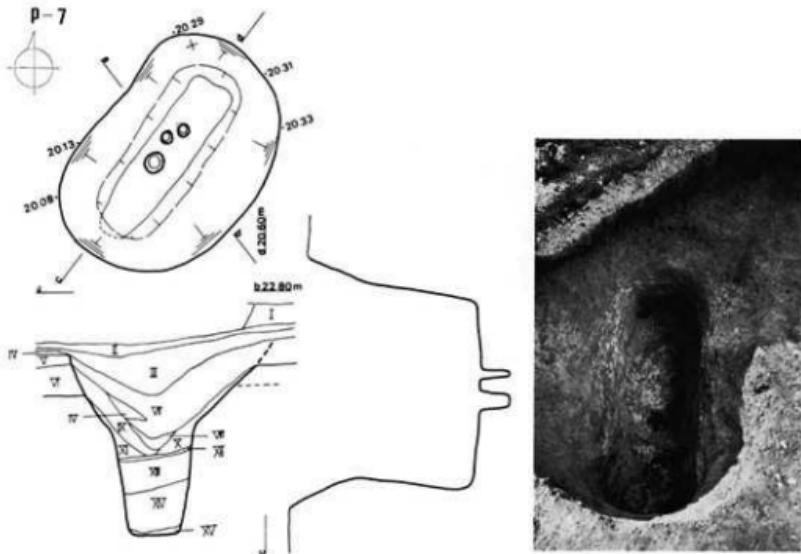


図140 P-7

IV B地点の遺構と遺物

P-8

M34 c区にある。覆土は1層でソフトな黒色土である。平面形は長径0.44m、短径0.26mの長円形。壙口部は広がり、底面にいくにしたがってすぼまり、柱穴状となっている。

遺物 覆土中からチップが406点が出土した。そのうち403点が黒曜石である。

小括 時期・用途ともに不明である。

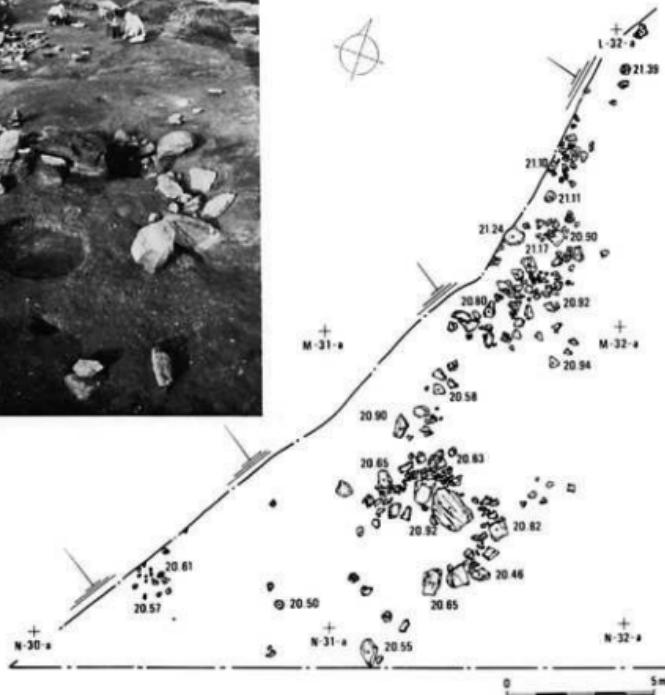
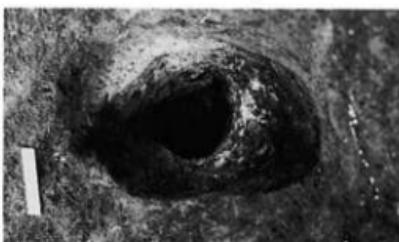


図141 P-8・種群

3 遺物

(1) 土器群

B地点から出土した土器群はI群a-2類、I群b-1~4類、III群b類、IV群a+b類があり、縄文時代早期・中期および後期に所属する。

I群a-2類（図142・143-1~4・8~15）

1は口縁が平縁の筒形の深鉢で、口径18.6cm。無文であるが横位の調整痕がみられる。胎土には白色不透明の混和物が多量に混入している。2は推定口径17.5cmである。貝殻腹縁文が横位にまばらに施されている。縦位に調整痕がみられる。貝殻によるものかもしれない。3は小型土器で横位の条痕が施されている。4は器内外に貝殻条痕が施されている。とくに内面が顕著である。8・10~12は無文。13は横位に貝殻条痕が施されている。14は器内外とも浅い条痕が付けられている。15は乳房状尖底。

I群b-1類（図143-16~18）

16は組紐圧痕文が施されている。17は短縄文・LR斜縄文が施されている。18は短縄文が施されている。

I群b-2類（図144-19~30、34・35）

19は口縁に平行して2段の貼付帯が回続する。貼付帯上にはヘラ状の工具による刺突がある。地文はRL・LR斜縄文による結束第1種の羽状縄文。20は口縁上部に無文帯があり、下位にRL斜縄文が施された例。21~23・25・26・28・29・34・35は貼付帯上に繩が押圧された例。21はLR斜縄文。22・25・26・28・29・34・35はRL・LR斜縄文による羽状縄文。23は「U」字状の貼付帯、RL斜縄文が施される。24はRL・LR斜縄文による羽状縄文。30は繩の押圧を基線としてLR・LR斜縄文による羽状縄文の施された例。27はRL斜縄文が施されている。

I群b-3類（図144-31~33、36~38）

31は口縁に平行した2段の貼付帯のある例で貼付帯上は繩が押圧されている。地文にはRL斜縄文が施されている。31はI群b-2類にちかいが縦の燃糸文がみられるので一応この類とした。32は3段の隆起線のある例。隆起線間に縱の燃糸文が施されている。口唇にはLR斜縄文が施されている。33は2段の隆起線のある例。燃糸文が施されている。隆起線間に無文である。36~38は縦条体圧痕文のある例。36は側位の縦条体圧痕文が「ハ」の字状のモチーフを構成している。37は縦条体圧痕文・燃糸文のあるもの。横位の隆起線を基線として「Y」字状の隆起線が構成されている。38は隆起線間に縦条体圧痕文と燃糸文が交互に施される。

I群b-4類（図144-39）

LR・RL斜縄文による羽状縄文が施された例。口唇および器内面がていねいに調整され光沢がある。I群b-1類の可能性もあるが、焼成・調整などからこの類に区別した。

III群b類（図145-40~47）

40は口縁上部が若干肥厚し、口唇及び肥厚帯上に半截竹管状の工具による刺突列が施されている。肥厚帯下位には、径8mmの円形刺突列がめぐる。地文はLR斜縄文。41には肥厚帯がな

IV B地点の遺構と遺物

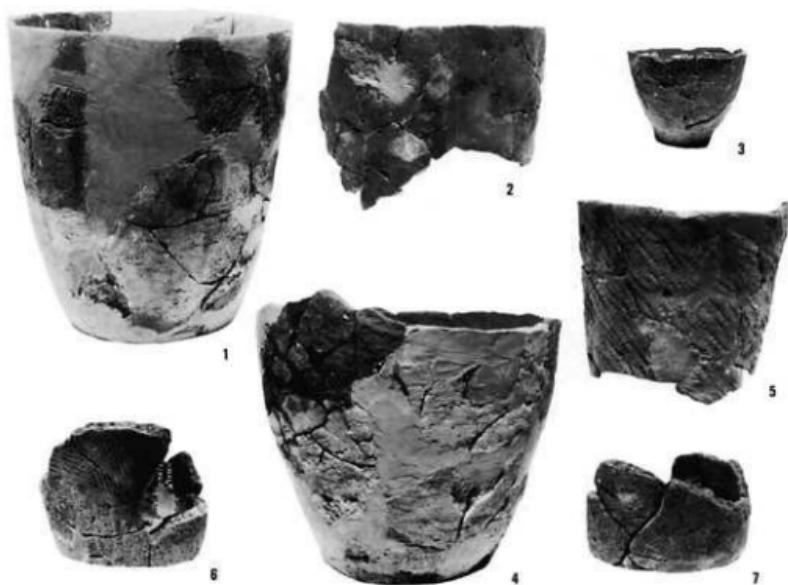
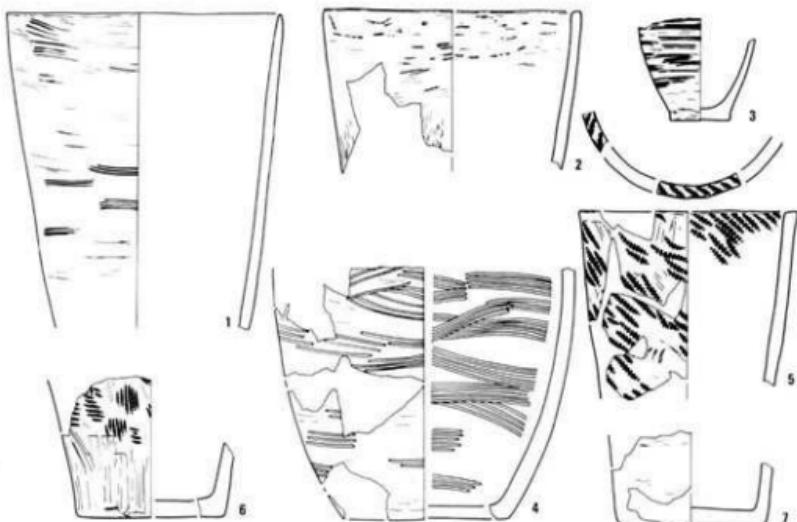


図142 B地点出土の土器群（I群・IV群）

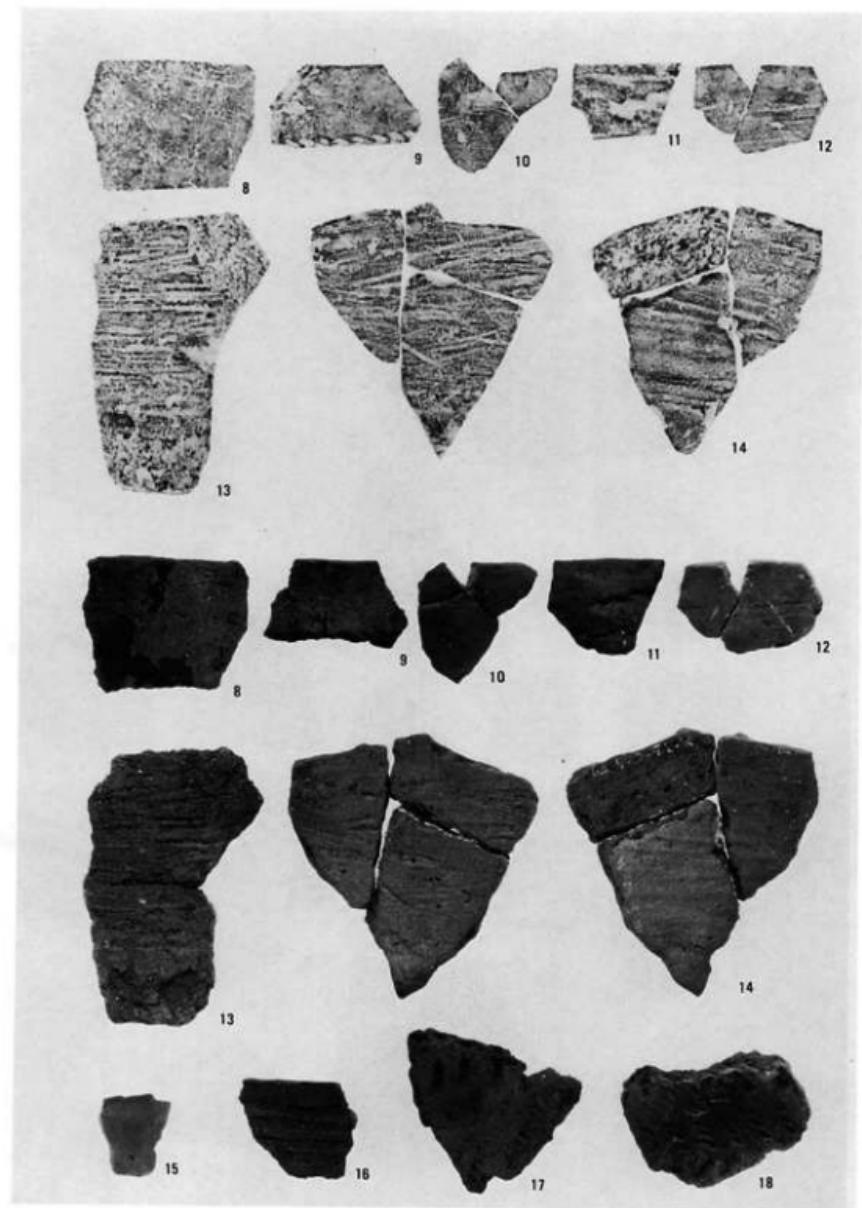


図143 B地点出土の土器群（I群 a類）

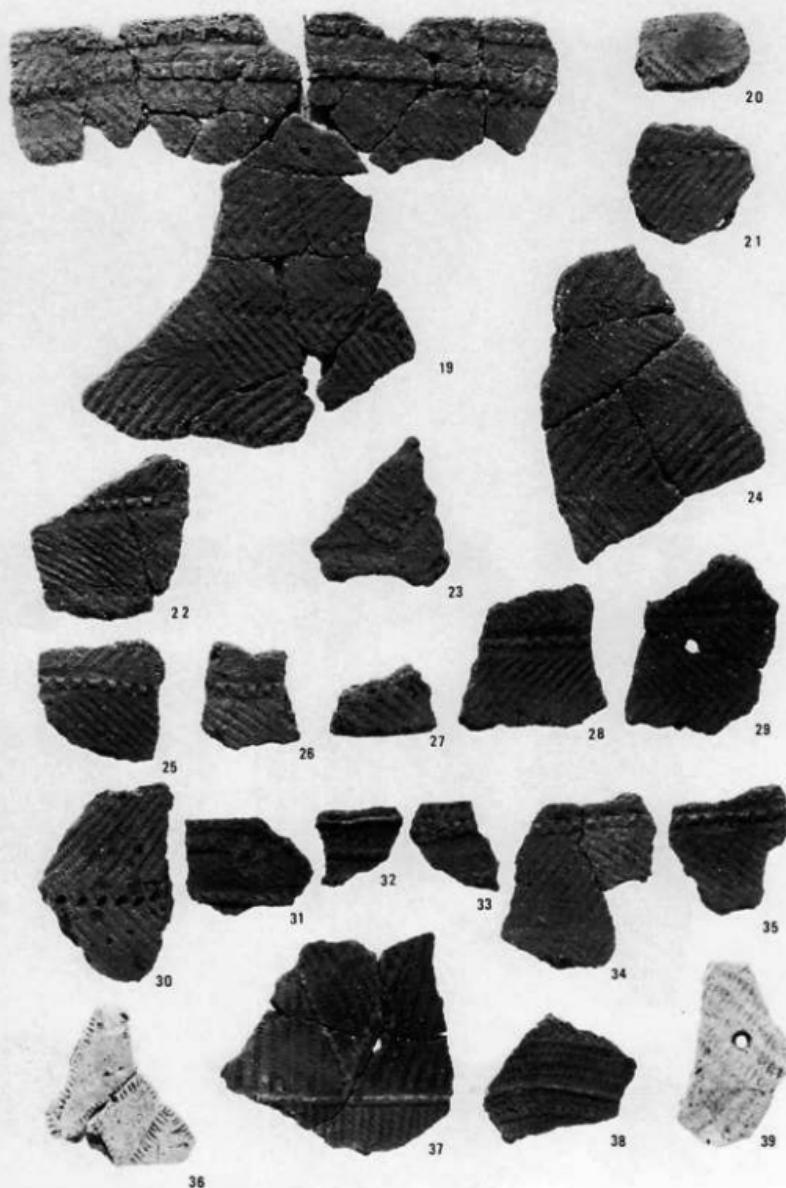


図144 B地点出土の土器群（I群 b類）

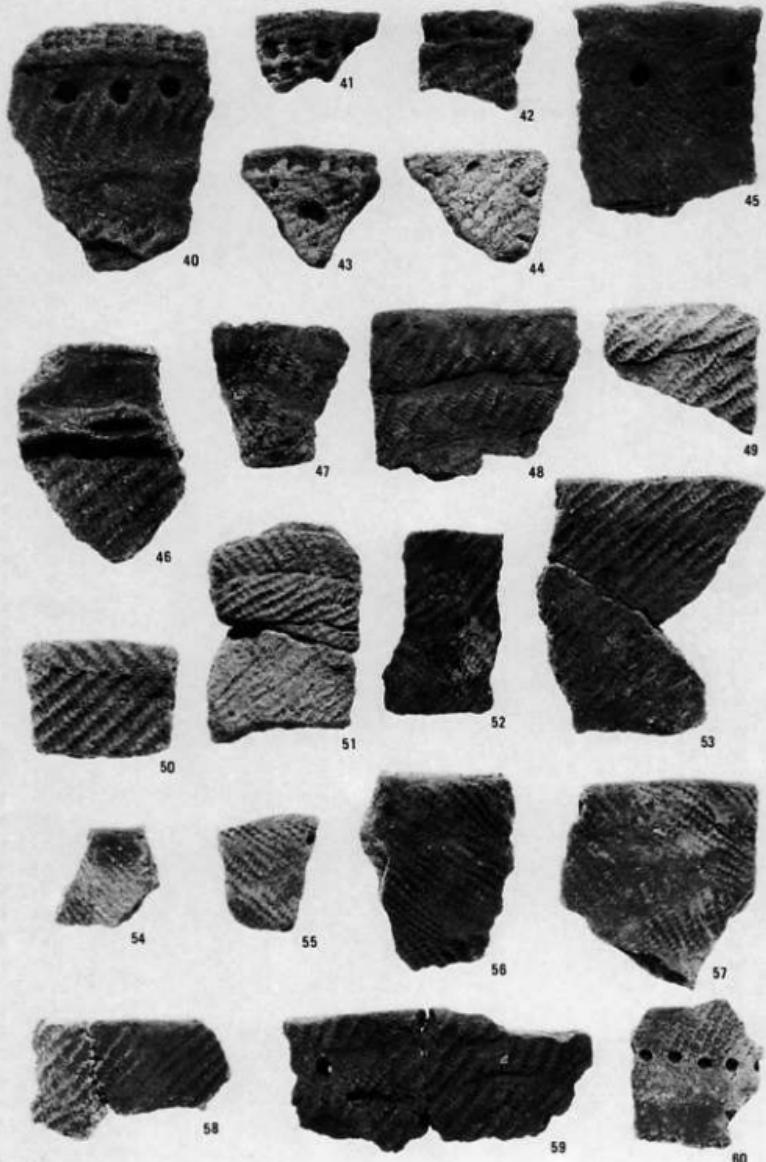


図145 B地点出土の土器群（Ⅲ群・Ⅳ群）

表5 B地点出土土器一覧

器番号	分類	部位	口縁・底・底部形状	外面文様	口縁部文様	口縁部内縁	内縁	底	高さ(cm)	底径(cm)	部位
1	Ia 2	口	II - e	Ie					11-51	7	L32d
2	Ia 2	口	II - a	Ie - 3a					8	M31b	V
3	Ia 2	底	X4a	Ib					5	L31b	V
4	Ia 2	底	X1a - 1a				3a		10	L32c	V
5	Na	口	II - c	7d		7d	7d		9	M32d	V
6	Nb	底	X4a	7d					9	M33d	V
7	Nb	底	X1a	0					8	M31b	V
8	Ia 2	側		0					6	M32c	V
9	Nb?	口	II - a	0 - 6d					6	L34b	V
10	Ia 2	口	II - d	0					7	M32a	V
11	Ia 2	口	II - c	0					5	M32c	V
12	Ia 2	口	II - d	0					6	M31d	V
13	Ia 2	側		Ia					6	M33d	V
14	Ia 2	側		Ia			1a		10	M32c	V
15	Ia 2	底	X5	0					4	L35b	V
16	Ib 1	口	II - i	8e					5	M31c	V
17	Ib 1	側		7e - 8e					6	K32a	V
18	Ib 1	側		8e					7	M33a	V
19	Ib 2	口	II - a	6b - 2d					6	L33a	V
20	Ib 2	口	II - a	7e					4	K33b	V
21	Ib 2	側		6b - 8e - 7c					5	K33b	V
22	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					5	K33b	V
23	Ib 2	側		6b - 8e - 7c					7	K33b	V
24	Ib 2	側		7f					6	K33b	V
25	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					6	K33b	V
26	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					5	K33b	V
27	Ib 2	底	X3a - 7d						7	K33b	V
28	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					5	K33b	V
29	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					5	K33c	V
30	Ib 2	側		8e - 7f					8	K33b	V
31	Ib 3	口	II - a	6b - 7d - 7g					4	L34b	V
32	Ib 3	口	II - a	6b - 7g					4	L33b	V
33	Ib 3	口	II - a	6b - 7g - 0					4	L33b	V
34	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					5	K33b	V
35	Ib 2	側		6b - 8e - 7f					4	K34b	V
36	Ib 3	側		8a					6	K34c	V
37	Ib 3	側		6b - 7g - 8a					6	K33b	V
38	Ib 3	側		6b - 7g - 8a					6	M34c	V
39	Ib 4?	口	II - d	7f					7	M31c	V
40	Bb	口	I3 - a	5d - 5f - 7c				5d	9	L34a	V
41	Bb	口	I3 - a	5d - 7c					7	L33a	V
42	Bb	口	I3 - a	5d - 7c					9		V
43	Bb	口	I3 - a	5d - 7c					8	L33d	V
44	Bb	口	I3 - b	5a - 7c					8	K34c	V
45	Bb	口	I3 - a	5f - 7d				5d	15		V

器番号	分類	部位	口縁・斜・底部形状	外縁文様	口縁部文様	口縁部文様 文・形・空間	表面	裏面	化物	厚さ (mm)	発見場所	解説
46	Ⅳb	口	13・b	6a・2a・7c・0						8	M33e	V
47	Ⅳb	口	13・a	7c	5f					5	K34e	V
48	Ⅳa	口	11・a	6c・7c						8	L34d	V
49	Ⅳa	口	11・a	6c・7c						7	L35a	N
50	Ⅳa	口	11・e	6c・7d・7e						9	M33d	V
51	Ⅳa	口	11・e	6a・7c・7f						10	M34b	V
52	Ⅳa	口	11・a	7c						5	L34b	V
53	Ⅳa	口	13・a	7c						10	L34a	V
54	Ⅳa	口	11・a	7d						5	M33c	V
55	Ⅳa	口	11・a	7d	7d					10	K34c	V
56	Ⅳa	口	11・a	7d	7d					10	M34a	V
57	Ⅳa	口	11・a	7d	7d					11	L33e	V
58	Ⅳa	口	11・b	7c						8	L33d	V
59	Ⅳa	口	13・c	7c						9	L33c	V
60	?	口		5f・7c・0						4	L35a	V

く、2段の刺突列が施されている。地文はLR斜縞文。42・43は口縁上部が若干肥厚する。肥厚帯上に刺突列がめぐる。地文はLR斜縞文。44は口縁上部に刺突列がめぐる例。地文はLR斜縞文。肥厚帯がなく、口唇の調整も平坦であり、この類に属せしめるには、少々疑問が残る。45は口唇に刺突列をもつ。口縁部には、径7mmの円形刺突列がめぐる。地文は細かなRL斜縞文。46には幅広の貼付帯がある。貼付帯には、円形刺突文と同じ施文具で短い沈線が施されている。貼付帯下位には、径9mmの円形刺突列がめぐる。地文はLR斜縞文。口縁上部と貼付帯間は、無文である。円形刺突文があるので、一応この類に含めたが、特異な土器である。46は口唇に円形刺突列のある例。地文はLR斜縞文。

IV群a類 (図142-5・6、図145-48~59)

5は推定口径14.8mmのRL斜縞文が器内外に施されたもの。口唇にも斜縞文が施されている。6は、RL斜縞文の施された底部破片。48~50は折り返し口縁で、口縁上部が肥厚するもの。48・49の地文はLR斜縞文。50は肥厚帯上にRL斜縞文があり、地文はLR・RL斜縞文による羽状縞文。52・53・58・57にはLR斜縞文、54~57にはRL斜縞文が施されている。

その他、9、60は、時期不詳である。9は無文であるが下位に縞線文(?)がみられる。60には竹管による円形刺突列がみられ、円形刺突の上位は無文、下位はLR斜縞文。

IV群b類 (図142-7)

無文の底部破片。P-3の近くから出土した。

注 60の写真は、上下が逆。

B地点の遺構と遺物

(2) 石器群

B地点から出土した石器・フレイク・石核・礫の総数は 1,618点を数える。器種は、石鎌・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイバー・石刃・石核・石斧・石錐・砥石・すり石がある。

石鎌 (図146、147、150—1~57)

1~8はⅣ層出土。6・7を除いて、すべて茎をもつ。8は9と同じように、鎌の未製品と思われる。9~36はV層出土で、ほとんどの鎌が茎をもつ。9・19は片側のみにかえしが作り出されている。33~36は、I群b類に伴う鎌で、細身で薄く作られている。37は基部が彎入した三角形のもの。38~55はⅤ層出土。Ⅵ層は、I群a・b類の包含層であることから、これらは縄文時代早期の鎌とみて間違いないであろう。42は茎のある例。茎のある鎌のなかでも入念な加工が施され、ていねいな作りである。45は37と同じ基部の彎入した三角形の鎌。47~53は細身で薄く作り出された鎌でI群b類に伴うもの。56・57はⅦ層出土。57は薄身に作り出された三角形の鎌で、入念な加工が施されている。

石槍 (図147・150~58~64)

58はⅣ層、59~63はⅤ層、64はⅦ層からそれぞれ出土。60~62は、明顯なかえしを持つ。58・59・60~62は、Ⅲ群b類ないしⅣ群a類に伴うものである。64は入念な両面加工の施されたもので、薄身に作り出されている。A地点P-2・20から出土している石槍と形態的に同一であり、I群b-1類に伴う可能性が強い。

石錐 (図147・150~65~68)

65~67は、棒状の刺突部を作り出したもの。67にはつまみ部がある。68は、スクレイバーの末端に刺突部を作り出したもの。

つまみ付きナイフ (図147・150~69~72)

69は幅広で大型のナイフで、扁平に作られており急角度の刃部をもたない。70の表面右側縁には、急角度の刃部が作り出されている。

スクレイバー (図148・150~73~80)

73はV層出土、74~80はⅦ層出土。73には幅広の刃部が急角的に作り出されている。74は、表面右側縁に二次加工がある。75は部厚いフレイクを素材とし、全周に二次加工が施され、急角度の刃部が作り出されている。76は両側縁から先端にかけて二次加工を施したもの。77は表面左側に、78は表面両側縁に刃部がある例。79は粗雑なフレイクの表面両側に細かな二次加工を施したもの。80は表面右側縁に刃部を作り出したもの。

石刃 (図148・150~81)

Ⅶ層から出土した。中央で折れており接合したもの。この石刃は、縄文時代早期の石刃鎌文化期の所産である。周辺を精査したが、伴出土器は確認できなかった。

石核 (図148・150~82)

Ⅶ層出土。剥離方向は一定せず、規則性は認められない。

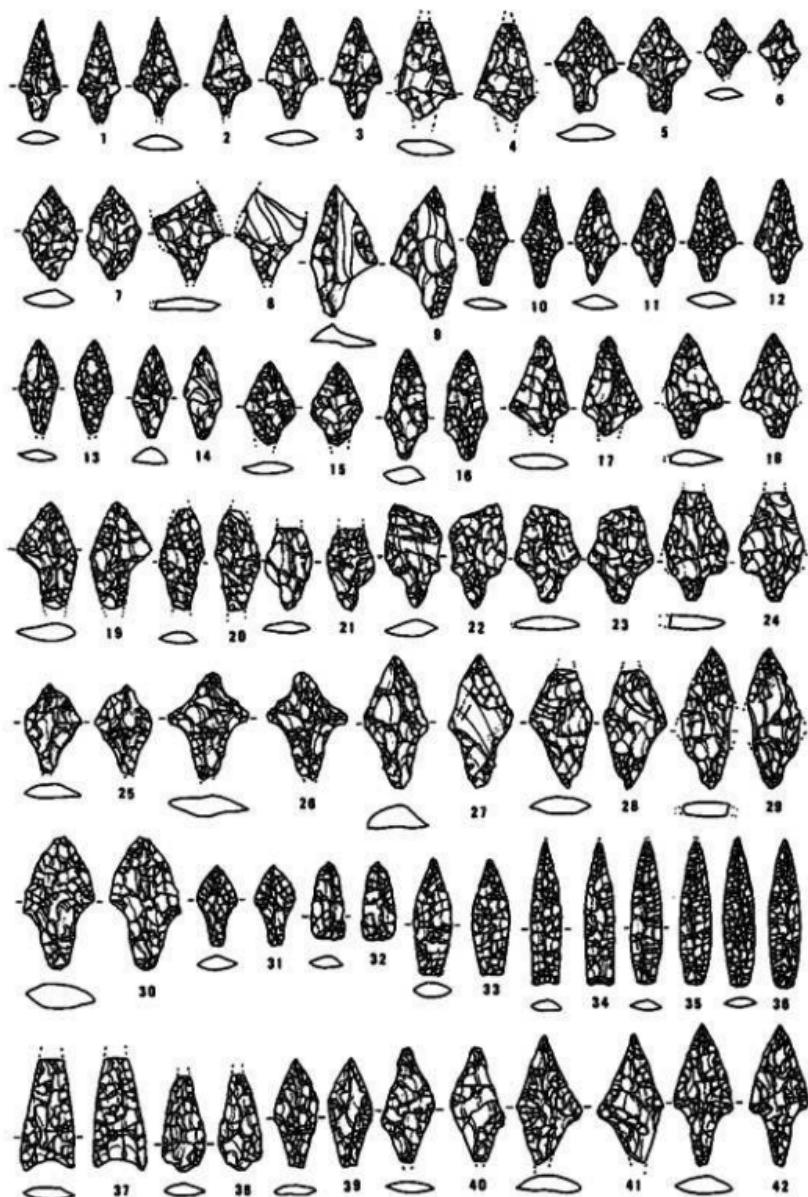


図146 B地点出土の石器

IV B地点の遺構と遺物

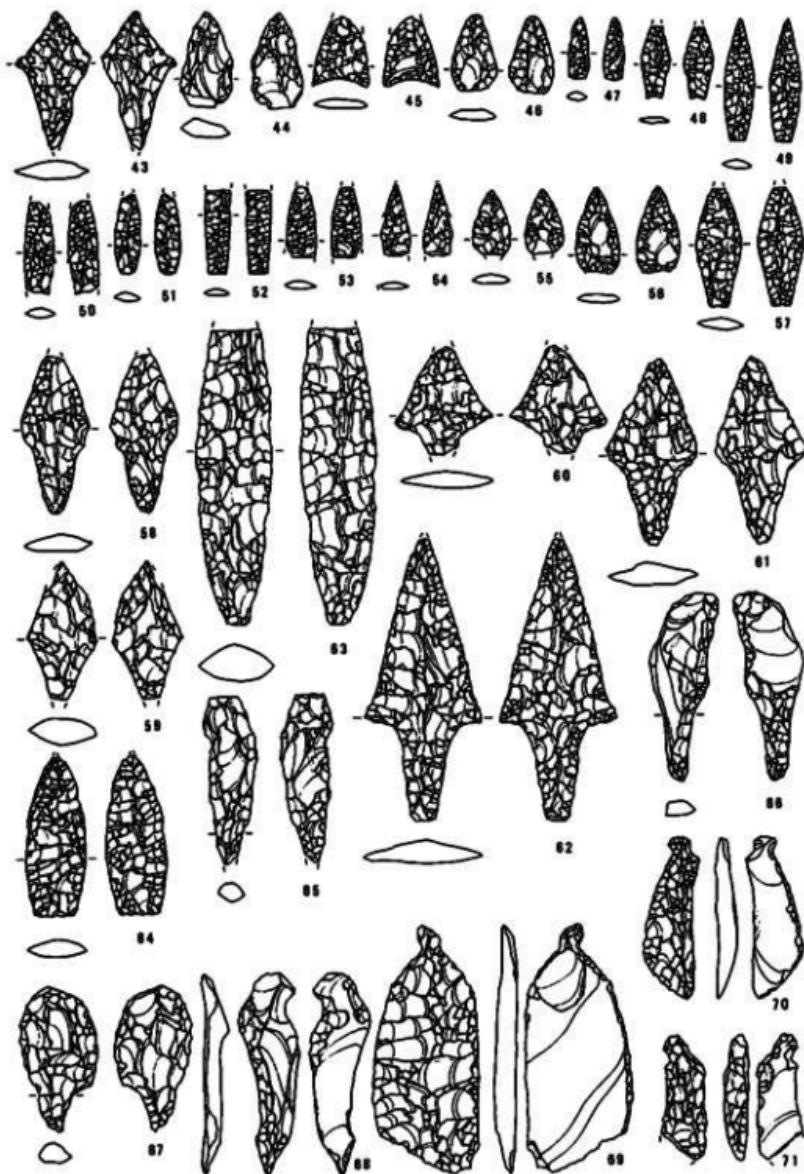


図147 B地点出土の石核・石片・石錐・つまみ付きナイフ

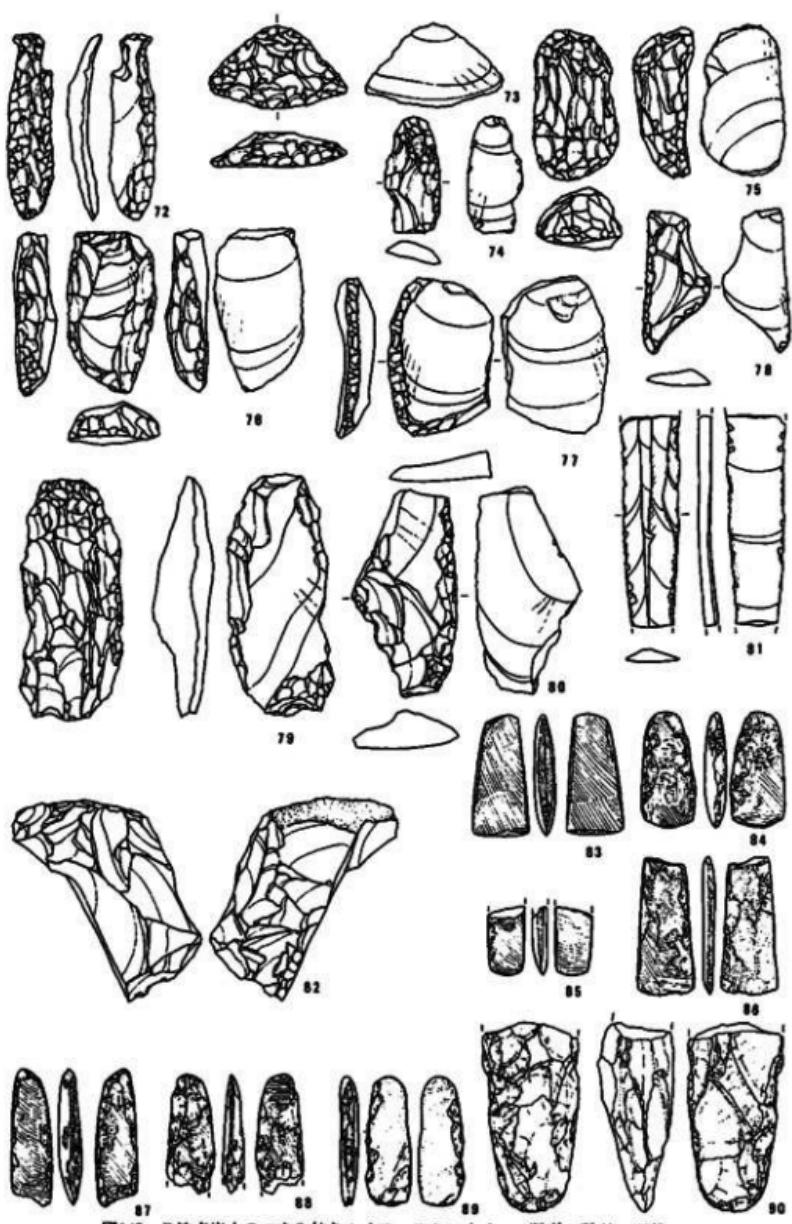


図148 B地点出土のつまみ付きナイフ・スクレイパー・石刃・石核・石斧

Ⅴ B地点の遺構と遺物

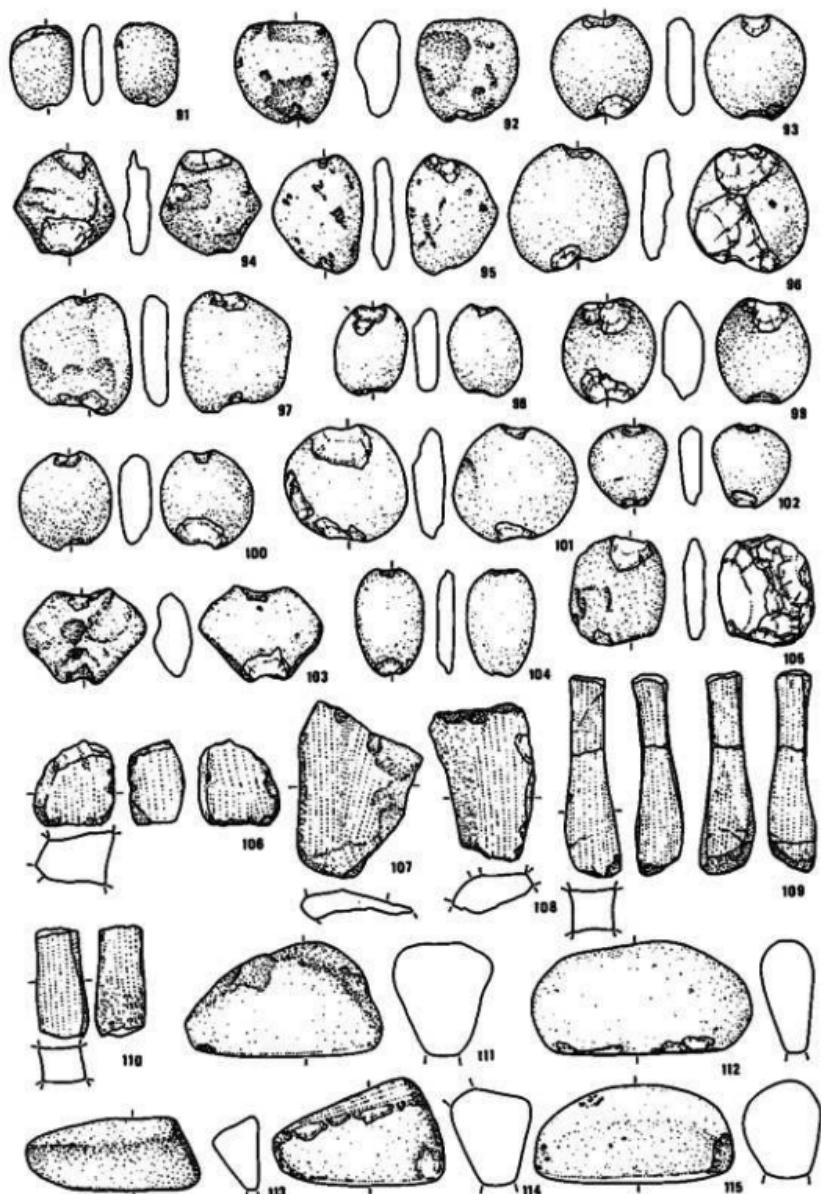


図149 B地点出土の石錐・砥石・すり石

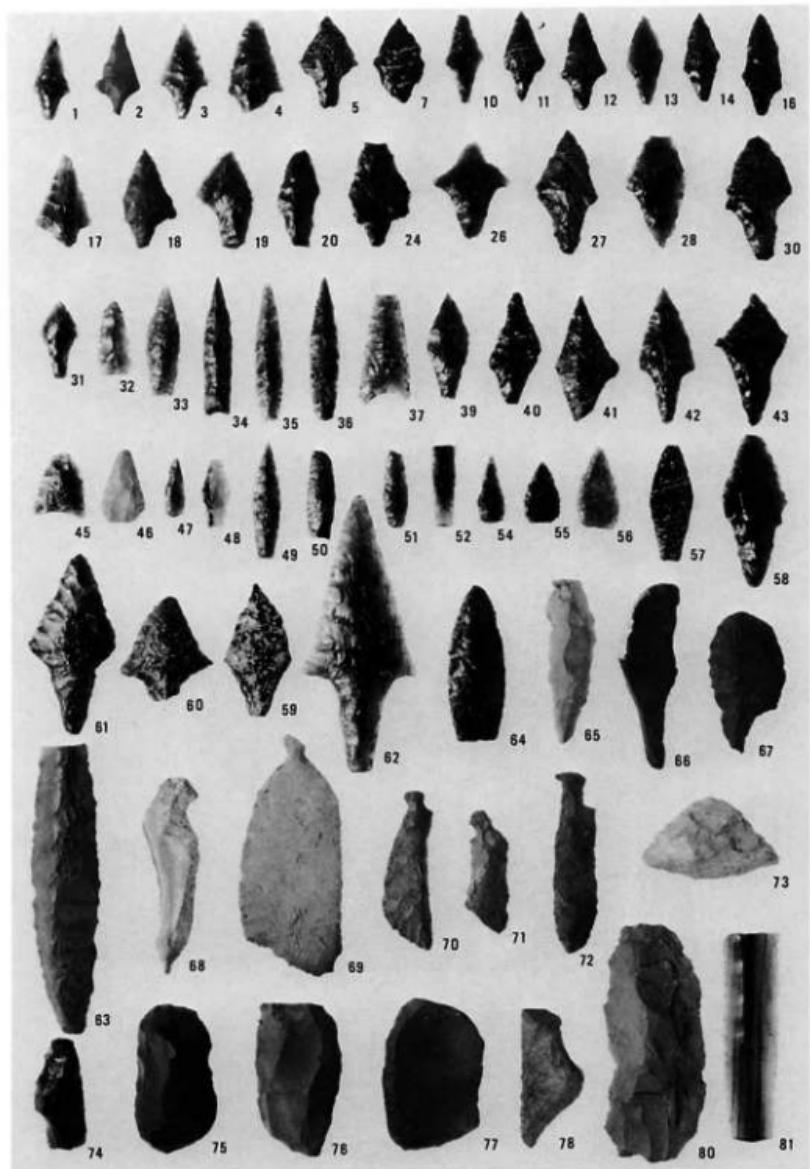


図150 B地点出土の石簇・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー・石刃

N B地点の遺構と遺物

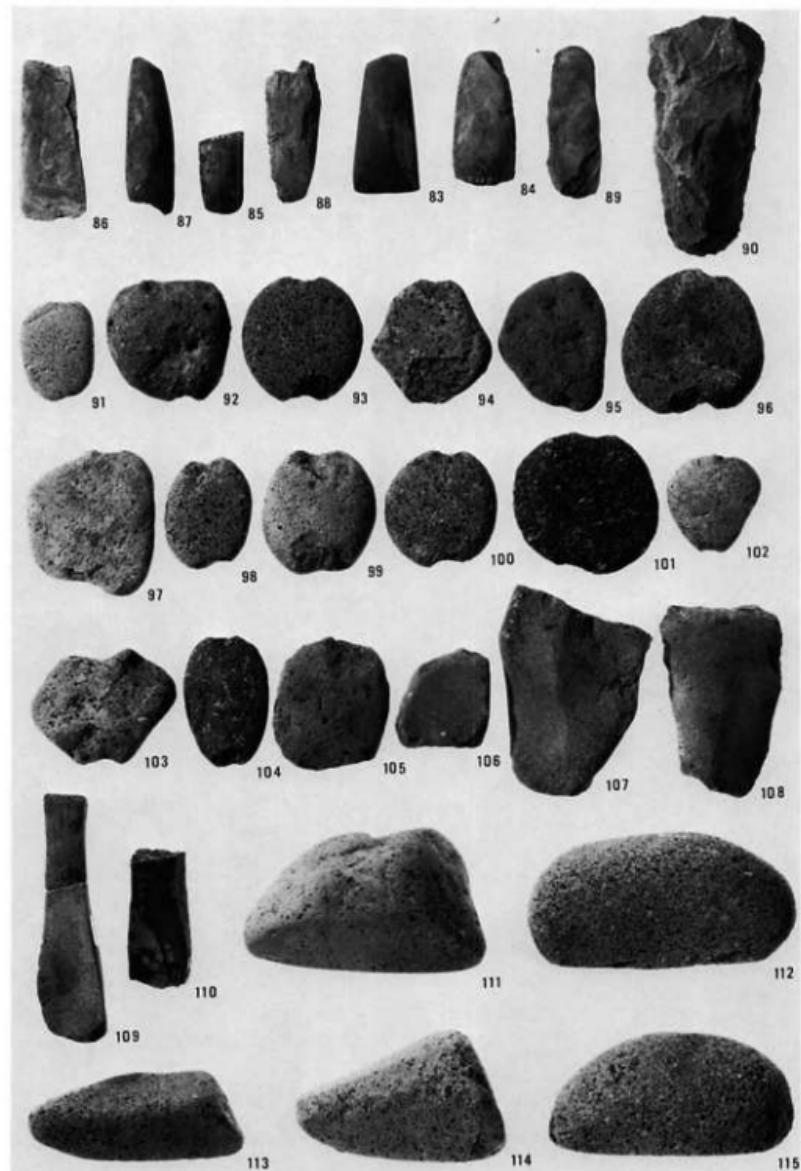


図151 B地点出土の石斧・石錐・砥石・すり石

表6 B地点出土石器一覧

回数	器	種分	直径	H	質	発掘区	層位	回数	器	種分	直径	H	質	発掘区	層位
1	石	板	IA5	1.2	Ob.s.	L34a	H	46	石	板	IA4	1.6	Ha-S.b.	L31d	H
2	石	板	IA5	1.4	Ha-S.b.	L34a	H	47	石	板	IA2a	0.4	Ob.s.	K34b	V
3	石	板	IA5	1.7	Ob.s.	L34a	H	48	石	板	IA2a	0.5	Ob.s.	K33c	V
4	G	板	IA5	2.7	Ob.s.	L33d	H	49	石	板	IA2a	1.5	Ob.s.	L31c	V
5	G	板	IA5	2.1	Ob.s.	L34c	H	50	石	板	IA2a	1.1	Ob.s.	L32a	V
6	G	板	IA4	2.3	Ob.s.	M34d	H	51	石	板	IA2a	0.8	Ob.s.	M32d	V
7	石	板	IA4	2.3	Ob.s.	L34a	H	52	石	板	IA2a	0.6	Ob.s.	L34c	V
8	石	板	IA5	3.4	Ob.s.	L34c	H	53	石	板	IA2a	0.8	Ob.s.	M33d	V
9	G	板	IA5	3.8	Ob.s.	L34c	V	54	石	板	IA2a	0.5	Ob.s.	L32d	V
10	石	板	IA5	1.0	Ob.s.	K31a	V	55	G	板	IA4	0.8	Ob.s.	L33b	V
11	G	板	IA5	1.5	Ob.s.	M33a	V	56	石	板	IA4	1.1	Ob.s.	L33b	V
12	石	板	IA5	1.7	Ob.s.	L35b	V	57	石	板	IA2b	2.2	Ob.s.	L33b	V
13	石	板	IA4	1.4	Ob.s.	M31b	V	58	G	板	IB1	6.1	Ob.s.	L33d	V
14	石	板	IA4	1.1	Ob.s.	M34c	V	59	G	板	IB1	6.1	Ob.s.	M34c	V
15	石	板	IA5	2.2	Ob.s.	L35b	V	60	石	板	IB1	3.9	Ob.s.	L35b	V
16	G	板	IA5	2.2	Ob.s.	M35d	V	61	石	板	IB1	9.0	Ob.s.	M33b	V
17	G	板	IA5	2.0	Ob.s.	L34d	V	62	G	板	IB1	16.5	Ob.s.	M33a	V
18	G	板	IA5	2.2	Ob.s.	L34b	V	63	石	板	IB2	35	Ha-S.b.	L34a	V
19	G	板	IA5	3.0	Ob.s.	K33c	V	64	石	板	IB2	6.1	Ob.s.	M32d	V
20	G	板	IA5	1.9	Ob.s.	M34d	V	65	石	板	IB2	10.4	Ha-S.b.	M	V
21	G	板	IA5	2.2	Ob.s.	L35b	V	66	石	板	IB2	8.3	Ha-S.b.	M	V
22	G	板	IA5	3.1	Ob.s.	L35b	V	67	石	板	IB3	9.6	Ha-S.b.	M	V
23	G	板	IA5	3.0	Ob.s.	L35b	V	68	石	板	IB1	7.8	Ha-S.b.	L34a	V
24	G	板	IA5	2.9	Ob.s.	L35b	V	69	つまみ付ナイフ	板	A1	20	Ha-S.b.	M33d	V
25	G	板	IA4	1.7	Ob.s.	N34d	V	70	つまみ付ナイフ	板	A1	5.6	Ha-S.b.	L31c	V
26	G	板	IA5	4.5	Ob.s.	L33c	V	71	つまみ付ナイフ	板	A1	5.4	Ha-S.b.	K33b	V
27	G	板	IA5	5.3	Ob.s.	M36c	V	72	つまみ付ナイフ	板	A1	6.6	Ha-S.b.	M34d	V
28	G	板	IA5	3.6	Ob.s.	K34b	V	73	スケレイバー	板	B	15	Ha-S.b.	K34b	V
29	G	板	IA5	3.2	Ob.s.	L35b	V	74	スケレイバー	板	B	5.6	Ha-S.b.	L31b	V
30	G	板	IA5	7.0	Ob.s.	M34a	V	75	スケレイバー	板	B	30	Ha-S.b.	M34c	V
31	G	板	IA5	1.1	Ob.s.	L34a	V	76	スケレイバー	板	B	25	Ha-S.b.	M31c	V
32	G	板	IA4	1.2	Ob.s.	M32c	V	77	スケレイバー	板	B	20	Ha-S.b.	M31c	V
33	G	板	IA2a	2.3	Ob.s.	L34c	V	78	スケレイバー	板	B	48	Ha-S.b.	M32b	V
34	G	板	IA2a	1.9	Ob.s.	L35b	V	79	スケレイバー	板	B	40	Ha-S.b.	L31c	V
35	G	板	IA2a	1.5	Ob.s.	L32b	V	80	スケレイバー	板	B	34	Ha-S.b.	K31d	V
36	石	板	IA2a	1.0	Ob.s.	K32c	V	81	石	刃	X	75	Ob.s.	L34d	V
37	G	板	IA3	3.0	Ob.s.	M36c	V	82	石	核	X	62	Ha-S.b.	L32c	V
38	G	板	IA5	2.1	Ob.s.	L34b	V	83	石	斧	W A	60	Gr-Med.	M35a	V
39	G	板	IA5	2.0	Ob.s.	M33c	V	84	石	斧	W A	60	Gr-Med.	M31d	V
40	G	板	IA5	2.1	Ob.s.	M35a	V	85	石	斧	W A	20	Sch.	M33d	V
41	G	板	IA5	2.5	Ob.s.	L34b	V	86	石	斧	W A	85	Mud.	M34a	V
42	G	板	IA5	3.3	Ob.s.	L34a	V	87	石	斧	W A	60	Sch.	L34a	V
43	G	板	IA5	4.2	Ob.s.	L34a	V	88	石	斧	W A	45	Mud.	K33c	V
44	G	板	IA4	2.2	Ob.s.	L32c	V	89	石	斧	W A	45	Mud.	L33b	V
45	G	板	IA3	1.3	Ob.s.	K33b	V	90	石	斧	W A	435	Gr-Med.	L34d	V

V B地点の遺構と遺物

図番号	目	種	分類	基盤	H	質	発掘区	層	地	図番号	目	分類	基盤	H	質	発掘区	層	地
91	石	錐	ⅥA 2	45	A + d.	V	M31 c	V		104	G	錐	ⅦA 3	60	G + e.	M32 d	V	
92	石	錐	ⅦA 2	150	A + d.	V	X31 a	V		105	石	錐	ⅦA 2	80	A + d.	M32 c	V	
93	石	錐	ⅦA 2	135	A + d.	V	M33 d	V		106	錐	石	ⅧB 2	80	S a.	K33 c	V	
94	石	錐	ⅦA 2	80	A + d.	V	M30 c	V		107	錐	石	ⅧB 2	100	S a.	L32 c	V	
95	石	錐	ⅦA 2	75	A + d.	V	L32 c	V		108	錐	石	ⅧB 2	100	S a.	M35 a	V	
96	石	錐	ⅦA 2	175	A + d.	V	L33 d	V		109	錐	石	ⅧB 2	170	S a.	L35 a	V	
97	石	錐	ⅦA 2	125	A + d.	V	L32 c	V		110	錐	G	ⅧB 2	100	S a.	L34 d	V	
98	石	錐	ⅦA 2	70	A + d.	V	L32 c	V		111	ナリ	石	ⅨA 1	800	A + d.	L34 c	V	
99	石	錐	ⅦA 2	110	A + d.	V	L32 c	V		112	ナリ	石	ⅨA 2	535	A + d.	M31 c	V	
100	石	錐	ⅦA 2	120	A + d.	V	L33 b	V		113	ナリ	石	ⅨA 1	230	A + d.	M32 c	V	
101	G	錐	ⅦA 2	210	G + e.	V	M32 d	V		114	ナリ	石	ⅨA 1	500	A + d.	L31 c	V	
102	石	錐	ⅧA 3	55	S a.	V	L35 b	V		115	ナリ	G	ⅨA 2	600	A + d.	M32 d	V	
103	石	錐	ⅧA 2	150	A + d.	V	M32 c	V										

石斧 (図148・151-83~90)

刃部の残っているものは、すべて両刃である。84・86は刃部が磨滅している。84には基部内面に細かなキズがみられ、若柄の痕跡かもしれない。86は扁平な石斧である。84・89の側縁には敲打痕が残っている。90は打製石斧。

石鎌 (図149・151-91~105)

91・92はV層、93~105はVI層出土。92・100・101・103は、短軸に打ち欠きのあるもので、その他は長軸に打ち欠きである。

砥石 (図149・151-106~110)

105・106・110は、4面に砥面を持つもの。109・110は、砥面が若干くぼんでいる。

すり石 (図149・151-111~115)

111・113・114は断面三角形の稜を擦面としている。114は2か所に擦面を持つ。112・115は、扁平な円錐の側縁に擦面のあるもの。

V C地点の遺構と遺物



V C地点の遺構と遺物

1 遺構の分布

C地点の南側をアヨロ川が西から東へ流下し、調査区中央および東側18ラインに小川が南流してアヨロ川にそそいでいる。したがって、調査区は中央の小川により区分される。L・M-13・14区にある調査区は、K-M-15~18区よりも一段低位にあり、遺構は検出されず遺物の出土量も多くはない。東側の調査区からはTピットが1個、焼土が1か所検出された(図152)。

2 遺構

P-1 (図153)

L16d区にある。覆土は9層に分けられる。I・II層は基本層序のⅣ・V層に対比。III層は暗褐色土。径0.5~1.5mmのローム粒が混入し、粘性が強く堅くなっている。IV層は黄褐色ロームブロックが混入する。基本層序のⅣと同じ土層である。V層は褐色土で粒子の細かいローム粒を多量に含み、粘性が強い。VI層は黒褐色土で、多量の礫を含む。VII層は暗褐色土で、礫とローム粒を多量に含む。VIII層は黄褐色土。礫の崩落土である。IX層は黑色土。平面形は長辺3.4m、短辺1.0mの溝状である。開口部は幅広で、底面が溝状に構築されている。遺物は出土していない。

小括 溝状のTピットである。底面の長幅比は29.5。時期は不明。

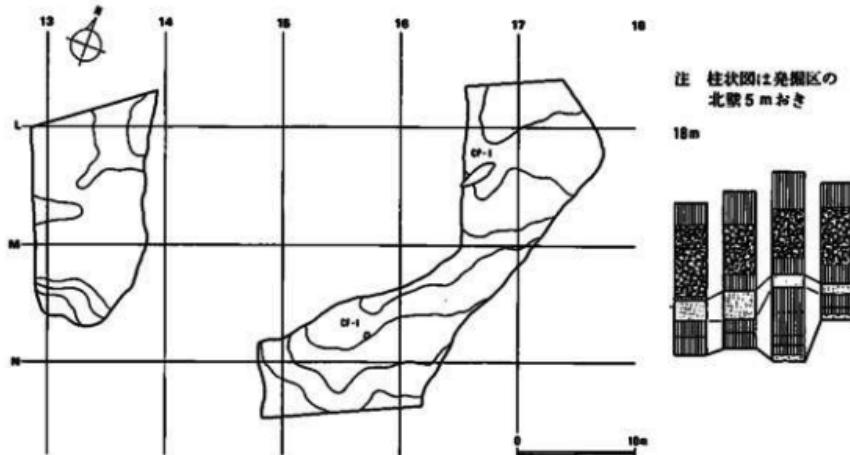


図152 C地点の遺構分布と土壠柱状図

2 遺物

(1) 土器群

C地点から出土した土器群はI群a類、I群b類、Ⅲ群a類があり、縄文時代早期・中期に所属する。

I群a-1類 (図154・155-8、図156-1
57-12~20)

I群a-1類は無文・沈線を主要な文様要素とし、稀に纖維を含む土器群である。12は無文地に沈線文を施した例。口縁に平行する2本の沈線と、それを結ぶ縦位の沈線で構成されている。沈線は植物質のもので描かれている。13~16は無文。器内外とも凹凸が著しい。16には指状の痕跡が認められる。13・15・16は纖維を含む。とくに15は多量に含有する。17~19には縦位の調整痕が認められる。原体は植物質と思われるが、17は貝殻?の可能性もある。20には格条体压痕文が施されている。8は底角の張り出した底部破片。縦位の調整痕が認められる。

I群a-2類 (図154・155-1~7・9~
11、図156~158-21~42)

21・22は無文。21の器内面は凸凹ではあるが、ていねいに調整され光沢がある。23の口縁上部には外→内の円形刺突列がめぐる。地文は無文。24は口唇に爪形の刻目が施されている。地文は無文。1は口径20.4cm、器高26.5cmの平底深鉢である。口縁は四つの大きな波状をなす。横位の貝殻条痕が器全面を被覆している。貝殻腹縁文が口唇および表面胴上半部にまばらに施され、口縁内面にもみられる。2も口径16.1cm、器高15.5cmの深鉢。口縁は四つの突起状の波状で、器全面に貝殻条痕と貝殻押し引き文が施されている。貝殻腹縁文が口縁内外にまばらに施される。口縁

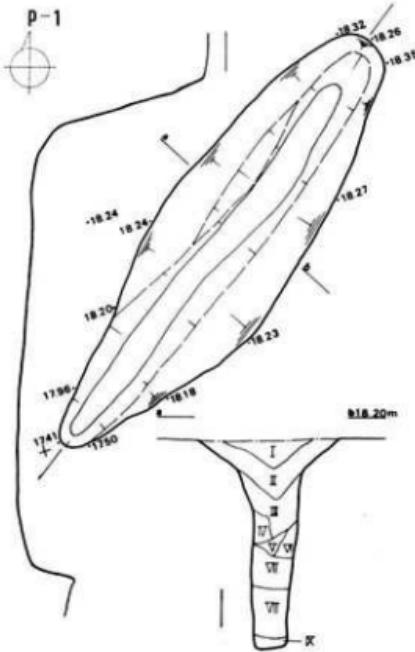


図153 P-1

V C地点の遺構と遺物

上部と胴上半部に山形沈線文が描かれる。その間に波頭部を基線として沈線文によるひし形のモチーフが描かれ、その交点に円形刺突文が施されている。3は山形沈線文で区画され、区画上位に貝殻腹縁文が充填され、刺突列が波頭部から垂下している。胴部には貝殻殻表圧痕文が施されている。4には口縁に平行して2本の沈線文が描かれ、沈線間に爪形の刺突文が施されている。同じ構成は胴部にもみられる。口唇には刻目が施されている。地文には貝殻条痕文が施され、浅い長円形の調整痕が認められる。貝殻によるものかもしれない。5は口径21.2cm。口縁部には細い沈線文が格子目に描かれ、下位には貝殻条痕文が施されている。6・7は貝殻条痕文を器全面に施したもの。25・27には沈線状にまばらな条痕が施されている。25は小突起をもつ波状口縁。いずれも口縁内面上部に貝殻条痕が施されている。26・28は貝殻条痕文の施された例。28の口唇には内外に貝殻腹縁文が施されている。29には貝殻腹縁文が横・斜位に施され、器内面にも斜位に施されている。30は山形の沈線により口縁部と胴部が区画され、区画内には貝殻腹縁文が充填される。31は斜位・横位に沈線が描かれ、その間に刺突列が施されている。32は原体を縱にして貝殻押し引き文を施したもの。33は刺突と沈線により文様構成されている。口縁上部から横位の刺突列、平行沈線、山形沈線が描かれ、さらに大きな山形の沈線が3段、2本の平行線があり、その内に刺突列、山形沈線が施される。地文には貝殻？押し引き文が施されている。34には2本単位の沈線が施されている。地文は縦位の細かな貝殻腹縁文である。35は尖底土器で、底部は砲弾形。36には横位の細かな貝殻腹縁文が施されている。37には斜位・横位の沈線が描かれ、平行沈線の中位には刺突列が施されている。9～10、38～42は底部破片。9の器外面は無文であるが、縦位の調整痕が残り、内面には貝殻条痕文が横位・斜位に施されている。38の底部内面には指頭の押圧がみられ、凸凹している。10・11・39～42は無文である。

1とともに検出された木炭の¹⁴C年代は、8,270±850年B.P. (KSU-583) である。

I群b-1類 (図158-43～45)

43にはR L・L R斜縞文による羽状縞文が施されている。44にはL R斜縞文がまばらに施されている。45は短縞文が施されたもの。

I群b-4類 (図158-46～48・51)

46・47には横位に数段の撚糸文、48には羽状の撚糸文、51には結束第2種のあるR L斜縞文が施されている。

II群a類 (図158-49・50・52・53)

II群a類は円筒土器上層式土器である。しかし、資料が少ないため、その詳細は不明である。49・50には横位の隆起線があり、刺突文が施されている。52には細かなL R斜縞文が施されている。53は有孔円盤。平行沈線が施されている。孔は焼成前に穿たれている。いずれも、器内面には「ミガキ」が明瞭に残っている。

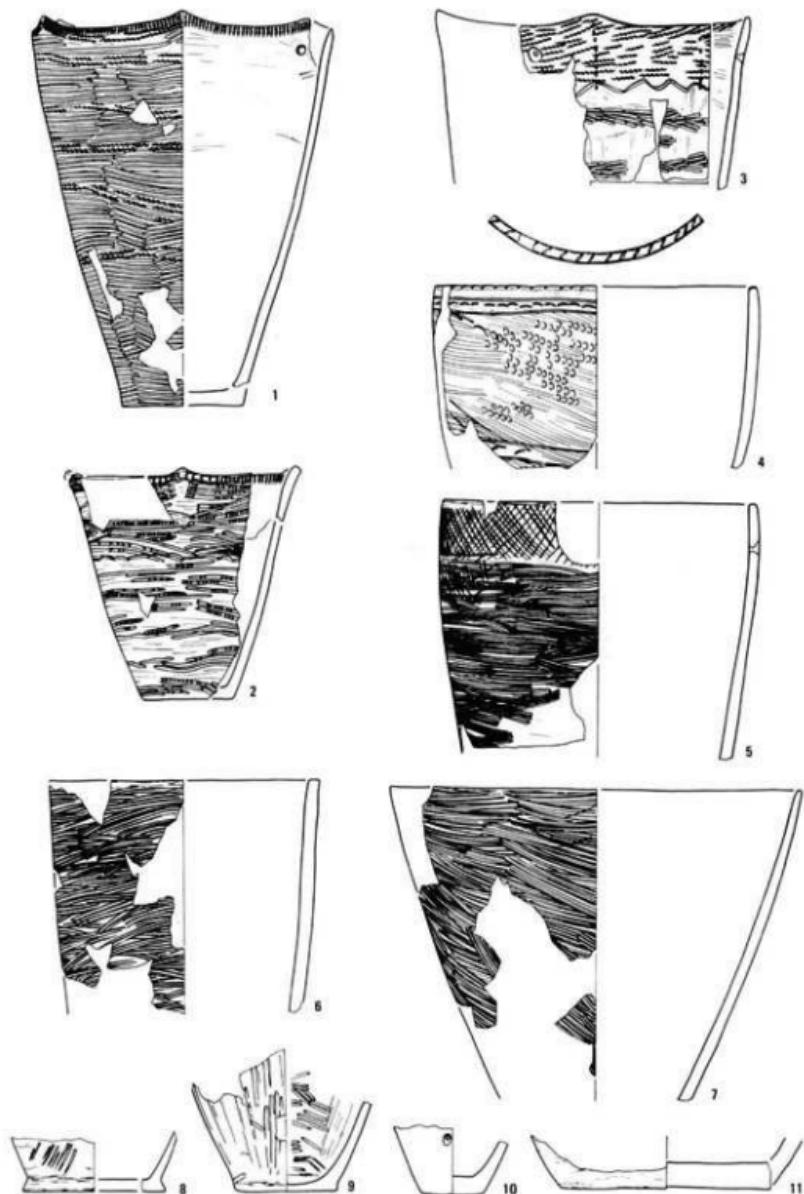


図154 C地点出土の土器群（I群 a類）



図155 C地点出土の土器群（I群a類）



図156 C地点出土の土器群（I群a類）

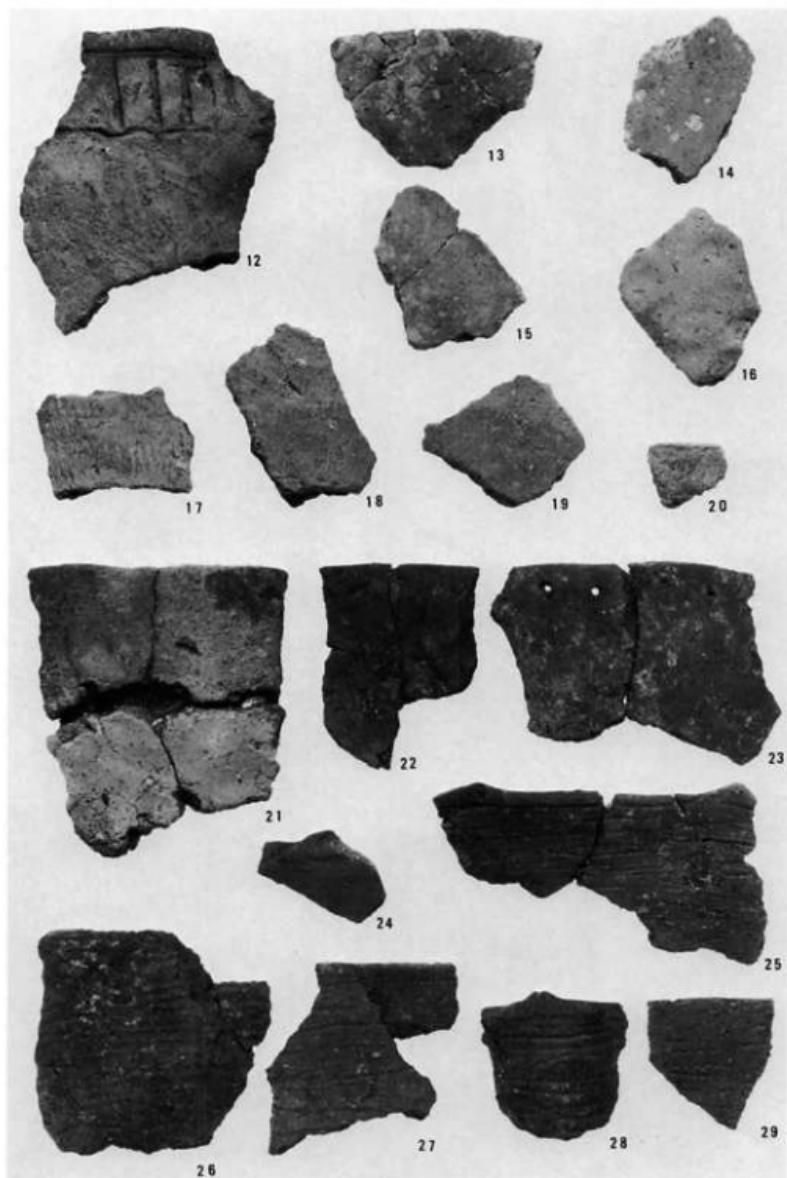


図157 C地点出土の土器群（I群a類）

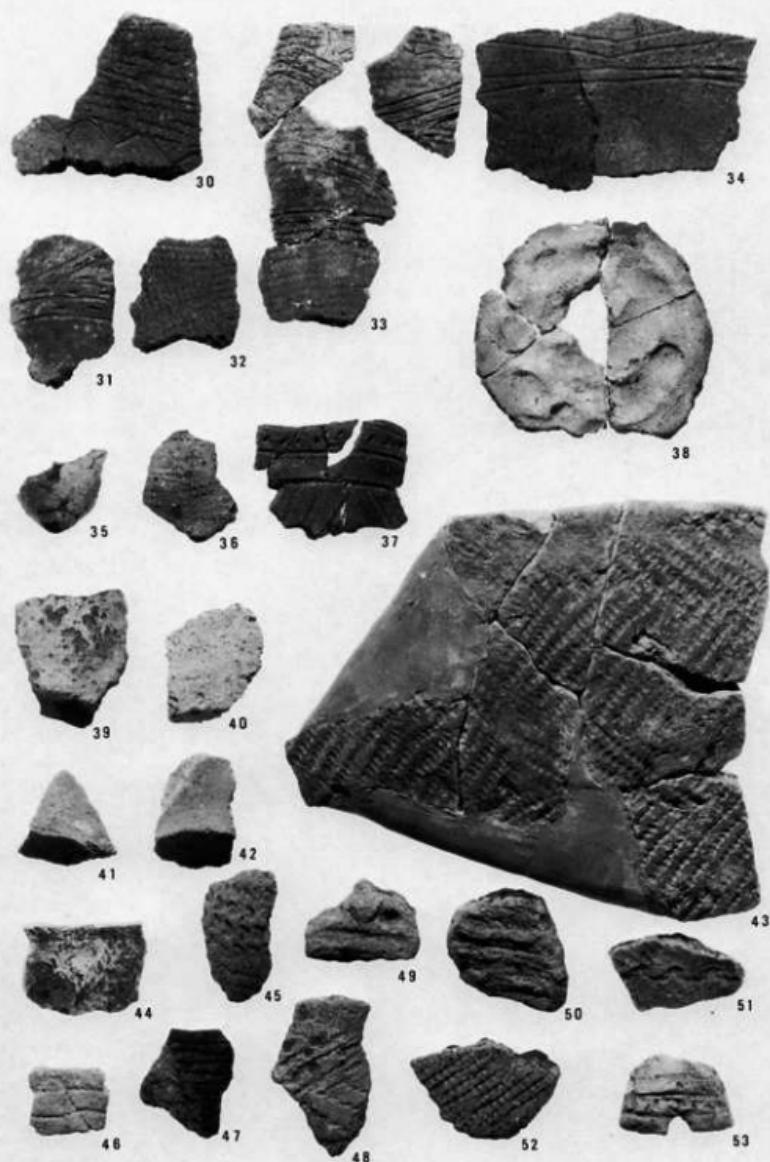


図158 C地点出土の土器群（I群a・b類・II群）

表7 C地点出土土器一覧

図面番号	分類	基盤	U字・棒・筒部形状		外觀文様		U字部文様		寸法 cm	穴開き	位置	炭化物	厚さ mm	発掘区	層位
			U字	棒	X1a	Xa・3a	3a	3a							
1	I・2	個体	U1-c	X1a	1a・3a		3a	3a				a1-b1-b2	6	M16d	V
2	I・2	個体	U3-c-f	X1a	1a・4a・2a・5b		3a	3a				a1-b1-b2	5	L17a	V
3	I・2	口	U1-c		5a		3a・2a・5b	2d				a1-b1	5	M15c	V
4	I・2	口	U2-c		2a・5c・1a		2a・5c						7	K17b	V
5	I・2	口	U2-c		1a		2a					a1-b1-2	8	M16a	V
6	I・2	口	U1-b		1a							a1	8	K17c	V
7	I・2	口	U1-c		1a							a1-b1-2	8	M16b	V
8	I・1	底		X4a	1c								5	N15d	V
9	I・2	底		X3a	0								5	L15d	V
10	I・2	底		X1a	0							a1-b3	5	K17b	V
11	I・2	底		X1a	0								8	L17b	V
12	I・1	口	U1-c				0-2a						7	L16c	V
13	I・1	口	U2-c		0								6	L16d	V
14	I・1	口			0								4	L17b	V
15	I・1	口			0								5	L17b	V
16	I・1	口			0								7	L17b	V
17	I・1	口			1c								5	L16d	V
18	I・1	口			1c								7	L16d	V
19	I・1	口			1c								5	M15e	V
20	I・1	口	U1-b				2a						7	L17b	V
21	I・2	口	U1-c		0								12	L17a	V
22	I・2	口	U1-c		0							a1	5	M16d	V
23	I・2	口	U1-c		0		5f					a1-b1	4	N15d	V
24	I・2	口	U1-c				2d						6	K17c	V
25	I・2	口	U1-c		1a								5	L16d	V
26	I・2	口	U1-c				1a					a1-b1	6	M15c	V
27	I・2	口	U1-d				1b						6	L16d	V
28	I・2	口	U1-c				1b		3a	3a		a1-b1	5	M15c	V
29	I・2	口	U1-c				3a		3a				5	M15c	V
30	I・2	口	U1-c		0		2a-3a						5	N15a	V
31	I・2	口			2a-5a-0								6	K17b	V
32	I・2	口			4a-5b								5	K16d	V
33	I・2	口	U1-c		4a?		2a-5a						5	M15b	V
34	I・2	口			2a-3b								5	L17a	V
35	I・2	底		X5a	0								3	K17b	V
36	I・2	底			3a									K16c	V
37	I・2	口	U1-d				1c-2a-5a						4	L16c	V
38	I・2	底		X1a									5	L16d	V
39	I・2	底		X1a	0								9	L17a	V
40	I・2	底		X1a	0								5	L16d	V
41	I・2	底		X3a	0								7	L16d	V
42	I・2	底		X3a	0								6	L17b	V
43	I・1	口	U1-c				7a						10	M15d	V
44	I・1	口	U1-c		7a								6	N15a	V
45	I・1	口					8a						8	L16c	V

図番号	分類	部位	口縁・柄・底部形状	外観文様	口縁部文様	内面	裏面	断面	器種	化物	厚さ(mm)	発掘場所	層位
46	I b 4	口	I I - c		7 x					4	L17a	電	
47	I b 4	口	I I - c		7 x		x 1			6	L16d	V	
48	I b 4	柄			7 x					5	L17b	V	
49	II a			5 a - 6 b						6	M16c	V	
50	II a			6 b						10	M16d	II	
51	I b 4 7			7 a - 7 d						6	L16c	V	
52	II a			7 c			ミガキ			8	L16d	V	
53	II a	有孔円盤		2 a			ミガキ			10	M16b	V	

(2) 石器群

C地点から出土をした石器・フレイク・石核・礫の总数は695点である。石器の種類は、石鎌・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイバー・石斧・たたき石・石錐・砥石・すり石・石皿である。以下、器種について記述するが、詳細については表8を参照されたい。

石鎌 (図159・163-1~4)

1は細身に作り出された鎌。2・3は基部が平坦もしくは若干鷲入した三角形鎌である。いずれも薄く作り出されている。4はやや大型で肩の張る五角形鎌。石質はいずれも黒曜石。

石槍 (図159・163-5~6)

5はかえし部が明瞭に作り出されていて、柄部は大きく、断面は全体的に丸味がある。6は槍の尖頭部の破片である。いずれも黒曜石製。

つまみ付きナイフ (図159・163-8~19)

8は、つまみという程ではないが、表面右側にえぐりを入れ柄部を作り出したもの。裏に細かな二次加工が施され、尖頭状となっている。鍼として使用していた可能性もある。10~15には二次加工が表面全体に施され、15の右側縁には急角度の刃部が作り出されている。いずれも裏面右側縁に細かな剝離が施されている。9・16~19は両面加工のナイフ。9・18・19は柄部および尖頭部は入念な二次加工が施されているが、表面の加工は粗雑である。16の断面は全体的に丸味をもっているが、柄部の作り出しはさほど明瞭ではない。17は、見事な両面加工のナイフである。大きく剥離されているわりには非常に薄く作られている。石質は、19がメノウ製のほか、すべて頁岩である。

スクレイバー (図159・160・163-7・20~28)

7は原石面を残した両面加工のスクレイバー。20~22は周縁に二次加工のある円形のスクレイバー。21の裏面右側縁には細かな加工を施してあり、つまみ付きナイフの未完成かもしれない。23~28は片側縁に刃部をもつもの。7・22・25・26が黒曜石製、そのほかは頁岩製である。

石斧 (図160・163-29~33)

29は長さ18.9cmの大型石斧で、擦り切り痕がみられる。30・32は縱断面において刃部が彎曲しており、片刃状となるが明瞭な片刃斧ではない。31は刃部および裏面平坦部に部分的な研磨が施されている。32・33の側縁には敲打痕が残っている。

V C地点の遺物と遺物

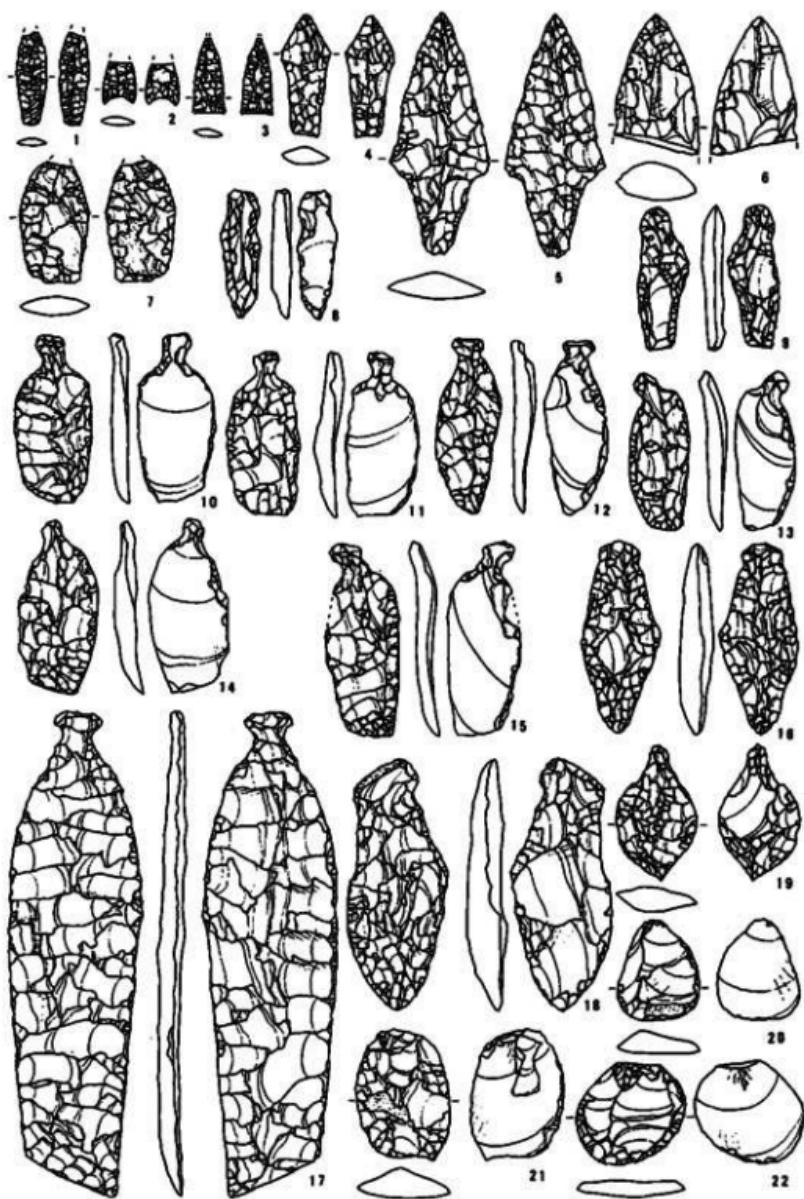


図159 C地点出土の石器・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイパー

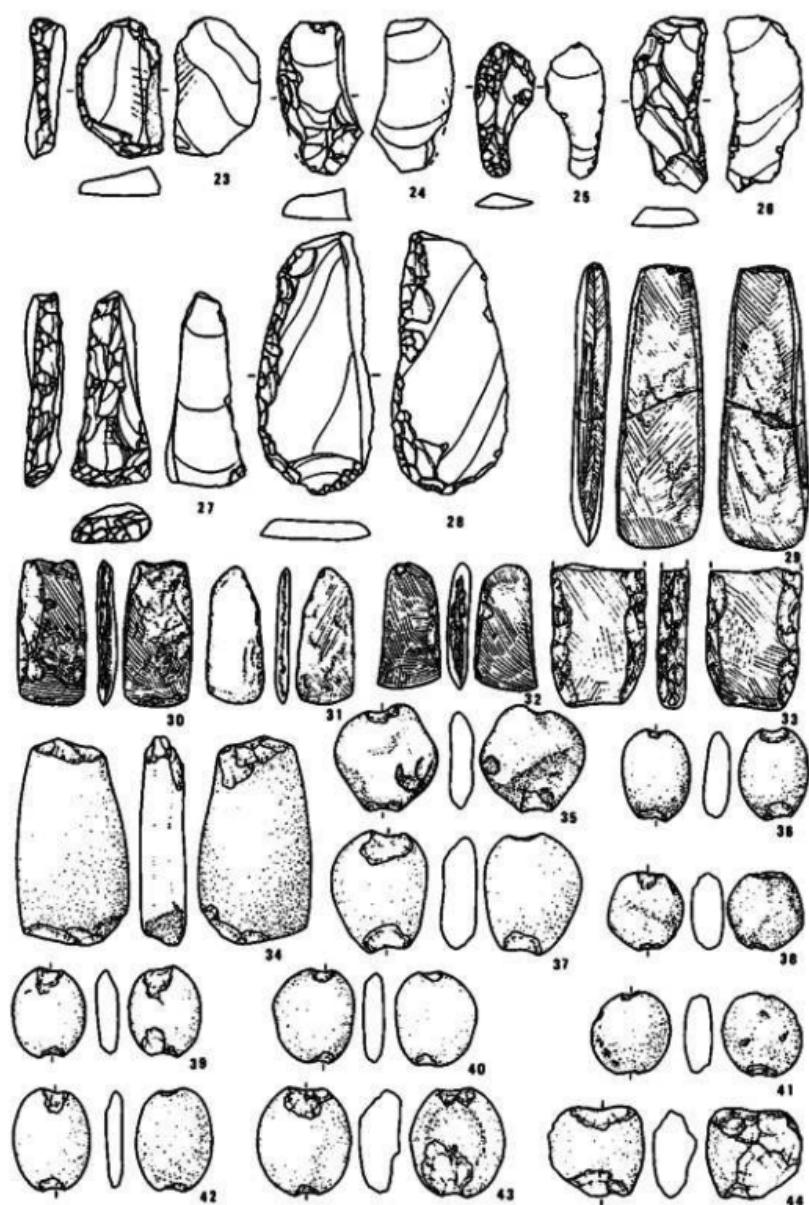


図160 C地点出土のスクレイパー・石斧・石鎌

V C地点の遺構と遺物

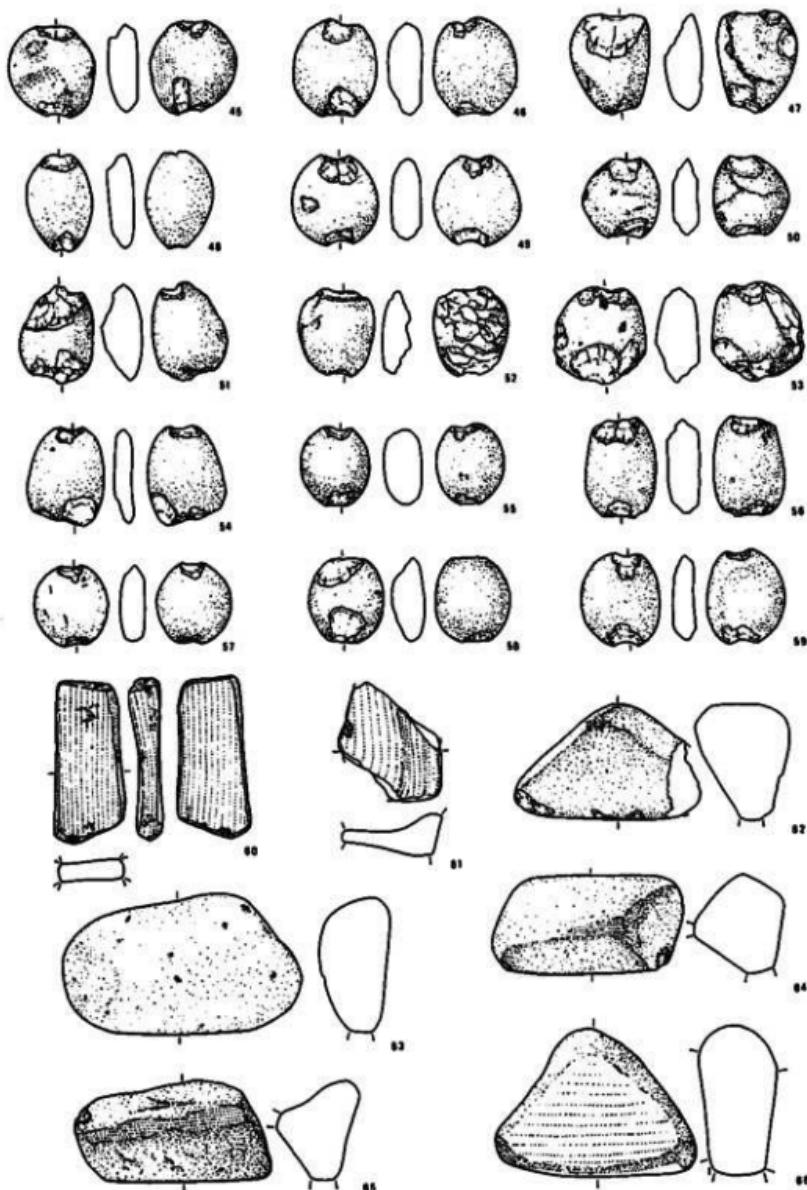


図161 C地点出土の石器・砥石・ナリ石

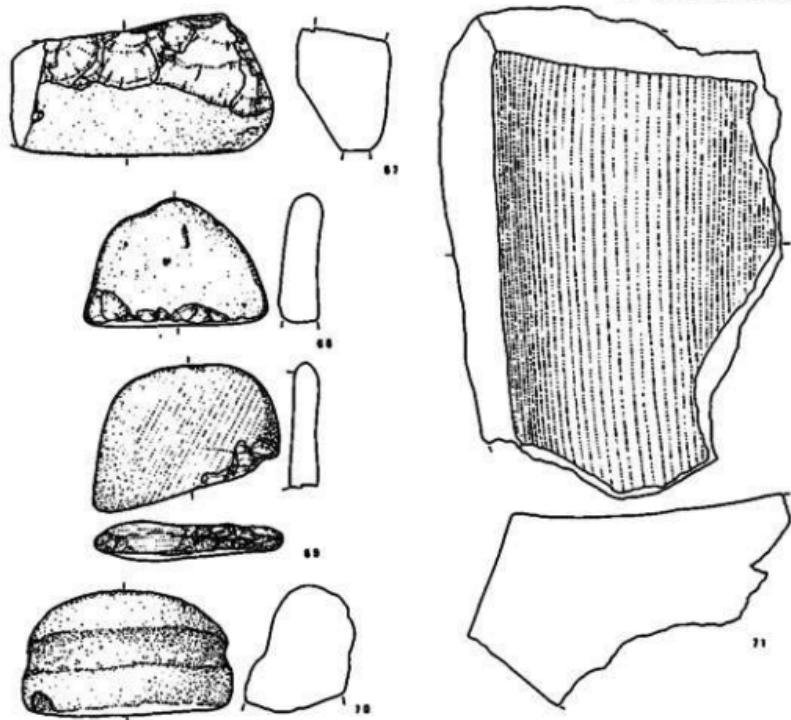


図162 C地点出土のすり石・石皿

たたき石（図160・163-34）

扁平な砾を素材とし、両端に大きな剥離痕がある。

石鎌（図160・161・163・164-35~59）

すべて長軸両端に打ち欠きがあるものである。45の裏面の一部には研磨の痕が認められる。

36・37のはかはすべて直眉一括資料であり、I群a類に伴うものである。

砥石（図161・163-60・61）

いずれも板状の砂岩を用いている。60は両側縁および両平坦部に砥面をもち、平坦部は凹面をなしている。61は両平坦部に砥面をもち、両面とも凹面。

すり石（図161・162・164-62~70）

62・64・65・67は断面三角形の砾の縁を擦面としている。62は一縁を擦面とし、64・65・67は二後に擦面がある。67には敲打による剥離痕があり、たたき石としても利用されたものと思

V C地点の遺構と遺物

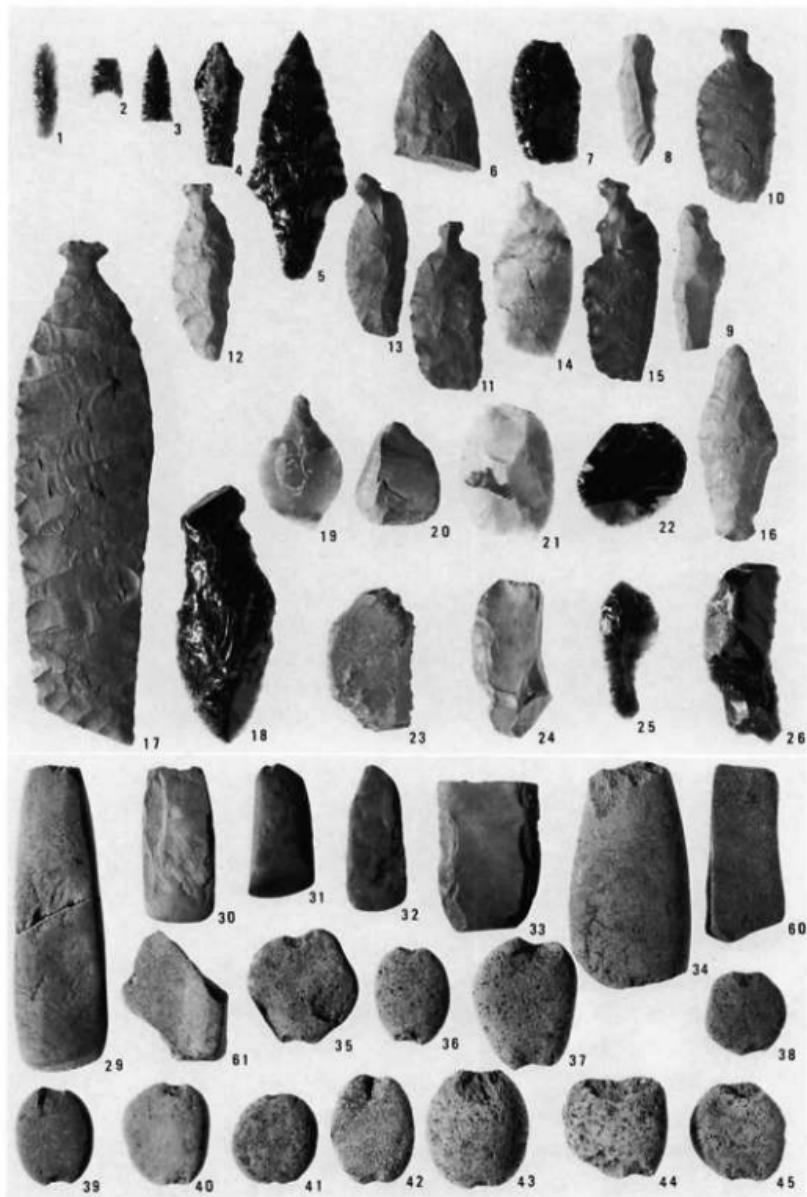


図163 C地点出土の石器群

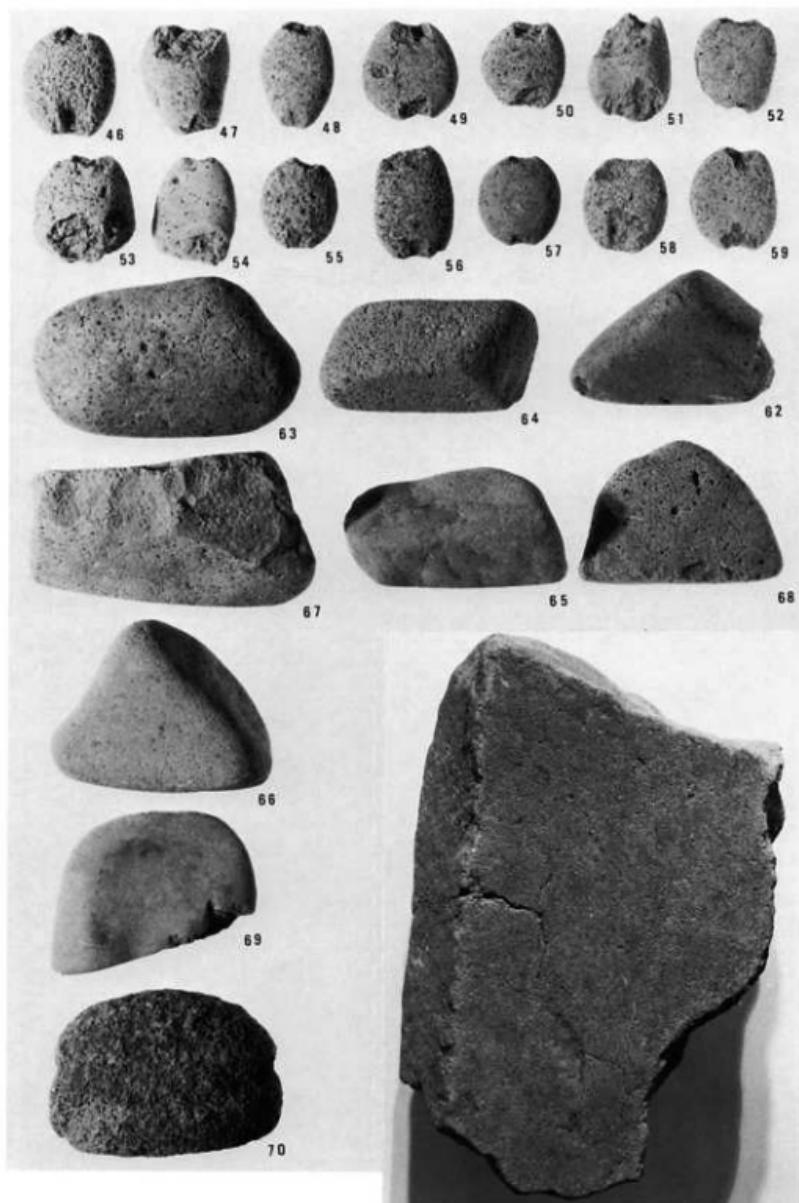


図164 C地点出土の石錘・すり石・石皿

71

V C 地点の遺構と遺物

われる。66・68・69の扁平な砾の側縁ないしは平坦面に擦面がある。70は幅広の擦面をもち、砾中央に敲打によって溝を作り出し握部としている。

石皿 (図162・164-71)

大きな角砾の平坦な面を使用面としている。

表8 C 地点出土石器一覧

回収番号	石種	分類	重(mg)	材質	発掘場所	形状	回収番号	石種	分類	重(mg)	材質	発掘場所	形状
1	石 砂	IA2	(0.7)	Ob.s.	M15e	V	37	石 砂	VA2	145	A.n.d.	M15e	V
2	石 砂	IA2	(0.4)	Ob.s.	K17e	V	38	石 砂	VA2	75	A.n.d.	M16b	V
3	石 砂	IA2	(0.6)	Ob.s.	1.17b	V	39	石 砂	VA2	65	A.n.d.	N16a	V
4	石 砂	IA2b	2.4	Ob.s.	M16a	V	40	石 砂	VA2	75	A.n.d.	N16a	V
5	石 砂	IB1	11.9	Ob.s.	M15e	V	41	石 砂	VA2	80	A.n.d.	N16a	V
6	石 砂	IB1	(13.6)	Ob.s.	M15e	V	42	石 砂	VA2	65	S.a.	N16a	V
7	スレーブバー	ⅢB	6.6	Ob.s.	1.16b	V	43	石 砂	VA2	75	A.n.d.	N16a	V
8	つまみ付きナイフ	IA1	4.2	Ob.s.	1.17a	V	44	石 砂	VA2	110	A.n.d.	N16a	V
9	つまみ付きナイフ	IA1	(5.4)	Ha-S.h.	K16e	V	45	石 砂	VA2	90	A.n.d.	N16a	V
10	つまみ付きナイフ	IA1	9.1	Ha-S.h.	1.16d	V	46	石 砂	VA2	115	A.n.d.	N16a	V
11	つまみ付きナイフ	IA1	9.2	Ha-S.h.	1.16e	V	47	石 砂	VA2	105	A.n.d.	N16a	V
12	つまみ付きナイフ	IA1	7.2	Ha-S.h.	M16d	V	48	石 砂	VA2	65	A.n.d.	N16a	V
13	つまみ付きナイフ	IA1	7.4	Ha-S.h.	1.16e	M	49	石 砂	VA2	85	A.n.d.	N16a	V
14	つまみ付きナイフ	IA1	9.5	Ha-S.h.	M16d	M	50	石 砂	VA2	60	A.n.d.	N16a	V
15	つまみ付きナイフ	IA1	9.7	Ha-S.h.	1.17a	V	51	石 砂	VA2	95	A.n.d.	N16a	V
16	つまみ付きナイフ	IA4	15.9	Ha-S.h.	M16e	V	52	石 砂	VA2	65	A.n.d.	N16a	V
17	つまみ付きナイフ	IA4	55	Ha-S.h.	M16e	V	53	石 砂	VA2	90	A.n.d.	N16a	V
18	つまみ付きナイフ	IA4	30	Ha-S.h.	1.16e	V	54	石 砂	VA2	60	A.n.d.	N16a	V
19	つまみ付きナイフ	IA4	8.3	Ag.s.	N16a	V	55	石 砂	VA2	75	A.n.d.	N16a	V
20	スレーブバー	ⅢB	6.3	Ha-S.h.	K17b	V	56	石 砂	VA2	105	A.n.d.	N16a	V
21	スレーブバー	ⅢB	14.3	Ha-S.h.	1.16e	V	57	石 砂	VA2	75	A.n.d.	N16a	V
22	スレーブバー	ⅢB	8.1	Ob.s.	M16b	V	58	石 砂	VA2	65	A.n.d.	N16a	V
23	スレーブバー	ⅢB	15.4	Ha-S.h.	N16a	V	59	石 砂	VA2	85	A.n.d.	N16a	V
24	スレーブバー	ⅢB	14.9	Ha-S.h.	K17b	V	60	砥 石	VA2	85	S.a.	M16a	V
25	スレーブバー	ⅢB	3.2	Ob.s.	M16b	V	61	砥 石	VA2	105	S.a.	K17b	V
26	スレーブバー	ⅢB	10.3	Ob.s.	1.17a	V	62	半 珍 石	VA1	650	A.n.d.	M16d	V
27	スレーブバー	ⅢB	27	Ha-S.h.	K17b	V	63	半 珍 石	VA1	970	A.n.d.	N15d	V
28	スレーブバー	ⅢB	36.5	Ha-S.h.	1.16d	V	64	半 珍 石	VA1	750	A.n.d.	M16b	V
29	石 砂	VA	600	Mud.	N16a	V	65	半 珍 石	VA1	680	A.n.d.	1.17a	V
30	石 砂	VA	80	Sch.	N17a	V	66	半 珍 石	VA1	965	A.n.d.	1.17a	V
31	石 砂	VA	45	Mud.	M16a	V	67	半 珍 石	VA1	1,425	A.n.d.	K17b	V
32	石 砂	VA	80	Mud.	N15a	V	68	半 珍 石	VA2	395	A.n.d.	M16e	V
33	石 砂	VA	225	Mud.	1.16e	V	69	半 珍 石	VA2	315	S.a.	1.17a	V
34	たたら石	VA1	500	A.n.d.	1.13a	V	70	半 珍 石	VA4	870	A.n.d.	M16b	V
35	石 砂	VA2	100	A.n.d.	M16b	V	71	石 砂	VA2	34,200	A.n.d.	M16a	V
36	石 砂	VA2	65	A.n.d.	M16a	V							

VI D地点の遺構？と遺物



D地点の調査状況

V D地点の遺構？と遺物

1 遺構？の分布

D地点は施工範囲の関係から二つの地区に分かれている。M・N-1～3区は北に面した急斜面上にある。この地区的ほぼ中央が沢状に凹んでいる。西側の尾根状の斜面から焼土が1個検出された。遺物は頁岩のフレイクが1点のみである。

O・P-3～8区は、さきの地区的東側で、沢の出口にある台地状のところに位置している。

N・O-7区から土壤樣のものが2個見つかったが、調査の結果、自然の營力によるものであることが判明した。七器片の集中が数か所で確認された。

注 柱状図は発掘区の南壁5mおき

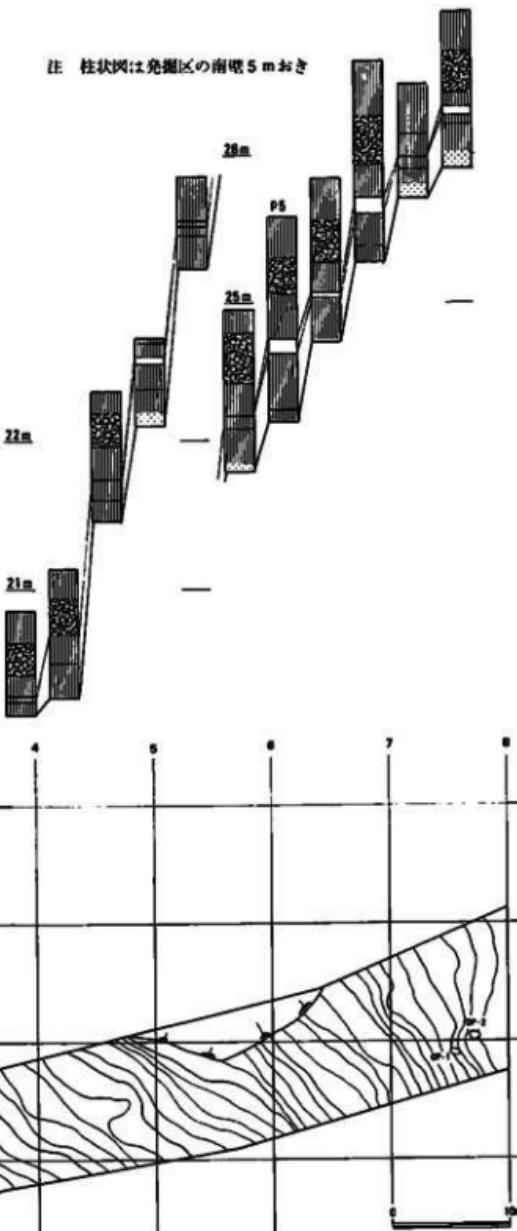


図165 D地点の遺構？分布と土壠柱状図

2 遺構(?)

P-1

O 7 d 区にある。平面形は長径0.90m、短径0.52mの長円形である。底は開口部よりも大きく、断面はオーバーハンプしている。内部に空洞があった。出土遺物はない。

小括 形状、堆積物からみて、人為的なものではなく、地すべりまたは地下水の作用による穴と思われる。

P-2

N 7 c 区にある。平面形は長径推定1.44m、短径1.20m のややいびつな円形である。西壁はオーバーハンプする。底面には、小さな孔がある。遺物はない。

小括 P-1同様、自然の蓄力による穴と思われる。

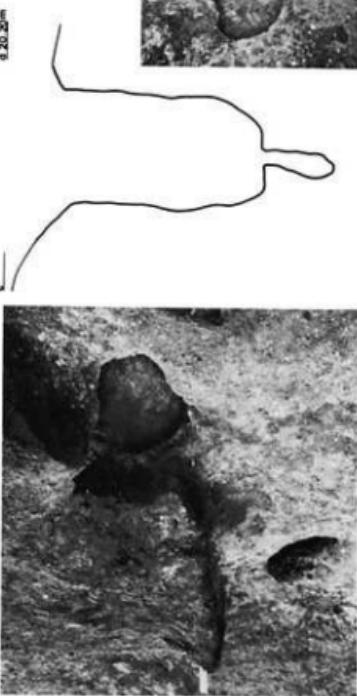
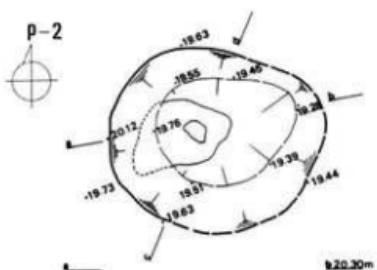
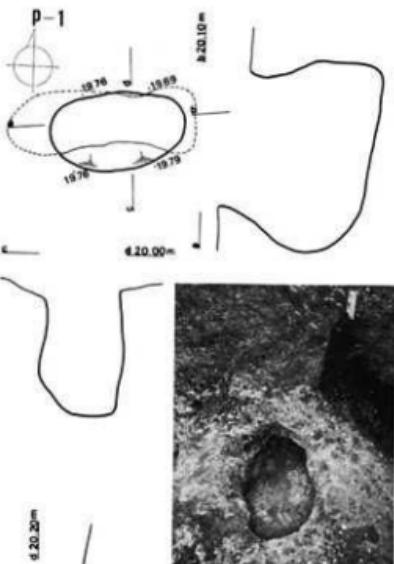


図166 P-1・2

V D地点の遺物と遺物

3 遺物

(1) 土器群

I群 a - 2類 (図168-1~3)

1は無文の胴部破片。横位の調整痕がみられる。2・3は底部破片

I群 b - 1類 (図167~168-4~23)

4・5は同一個体。口縁部から胴部にかけて数段の短縄文が施され、下位には羽状縄文が施されている。6はゆるやかな波状口縁となる。口縁に平行して9本の組紐圧痕文が施されている。組紐圧痕文は縦位にも3本施され、組紐圧痕文の交点にはボタン状の貼付がある。また、組紐圧痕文間には短縄文が数段施され、下位は短縄文が施される。8~12は6と厚さ焼込など類似するが同一個体ではない。縄線文が数段施され、下位は短縄文が施される。8~12は隆帯のあるもの。8には数本の組紐圧痕文と縦位の縄線文が施されている。9・10は組紐圧痕文と短縄文のある例。11・12には組紐圧痕文がある。13は組紐圧痕文と縦位の縄線文のある例。14・16・17・19は組紐圧痕文と短縄文のある例。15は組紐圧痕文のある例。18はL R斜縄文とループ状縄文の押圧のある例。20はR L斜縄文のある例。21は縄線文と短縄文のある例。22は横位の格条体圧痕文のある例。23は格条体圧痕文とループ状縄文の押圧のある例。24~26は底部破片。24・25には組紐圧痕文、26はL R斜縄文が施されている。

II群 a類 (図169-27~33・36)

27~33は同一個体と思われる。図示していないが平底の底部破片も出土している。27・28は口縁部に近い破片で、肥厚帯がみられ、4本単位の撲糸文が横位・斜位に施されている。短縄文が肥厚帯および撲糸文の下位に施されている。29・31・32は隆帯のあるもの。29には短縄文がある。31~33は撲糸文と短縄文のある例。30はR L・L R斜縄文による羽状縄文。36は土器の脚部の破片である。外径約8.5cm、脚部の幅1.5cm、厚さ1.2cmで、現存する高さは3.5cmである。

II群 c類 (図169-34・35・37・38)

II群 c類は縄文時代後期の土器群のうち、縄文・いわゆる突こぶ文などの文様をもった土器群である。34は口縁部破片で、口縁に平行して刻目が施され、下位は無文。35も同じである。37には口縁に平行して内→外の突こぶ文が施され、地文はL R斜縄文。38の地文はR L斜縄文。

III群 (図169-39)

III群は統縄文時代の土器群である。39は口縁に平行する沈縫と刻目および縞縄文が施されている。

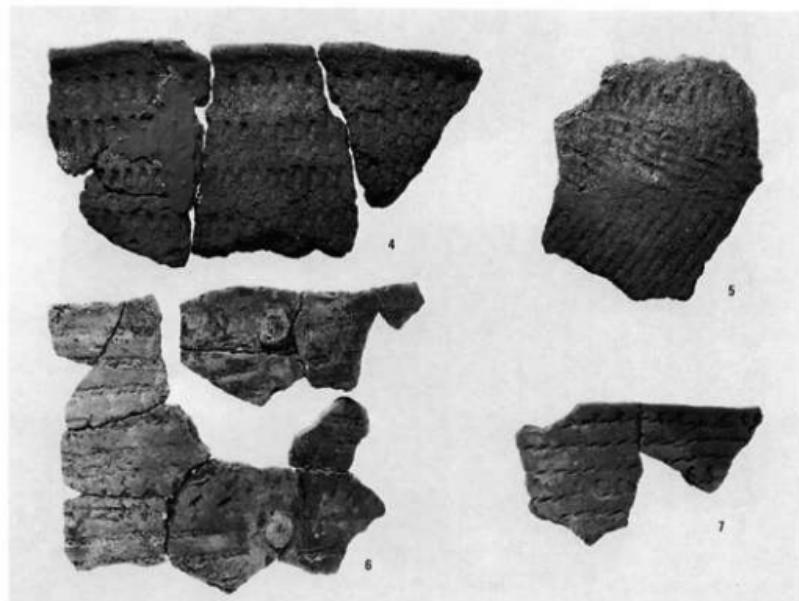
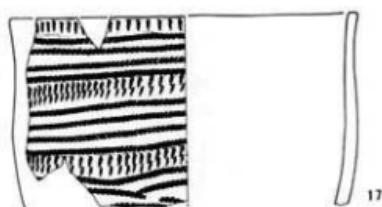


図167 D地点出土の土器群（I群b類）

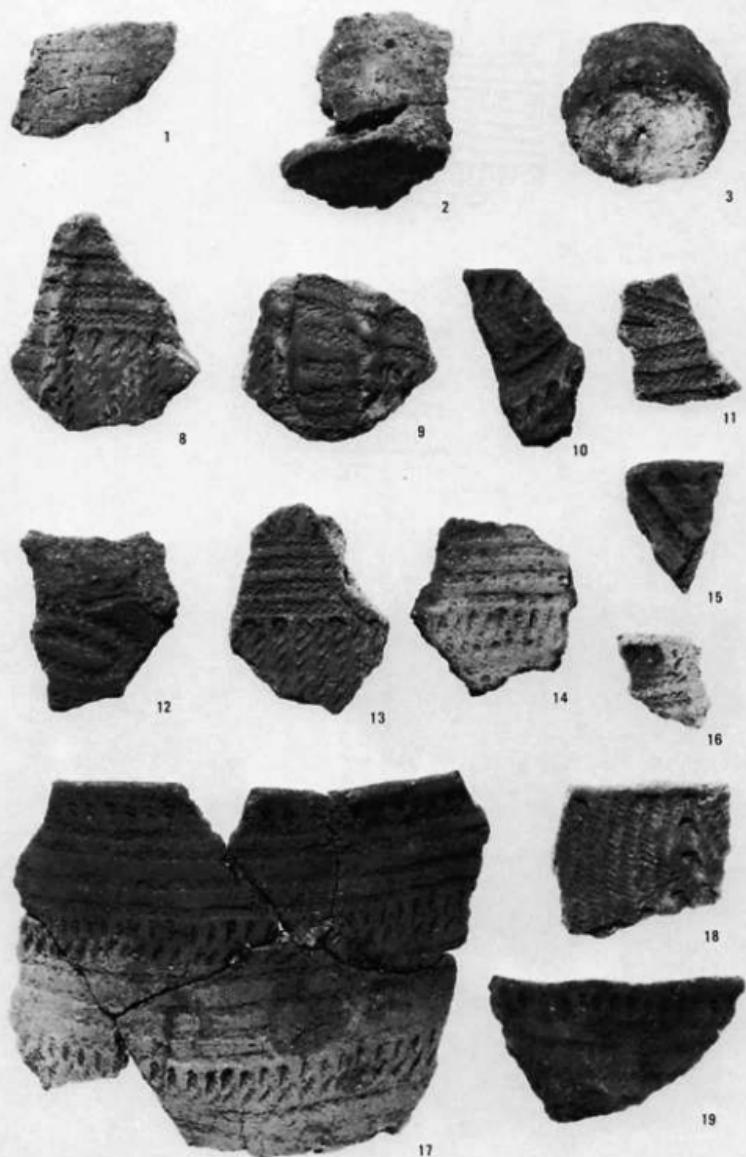


図168 D地点出土の土器群（I群a・b類）

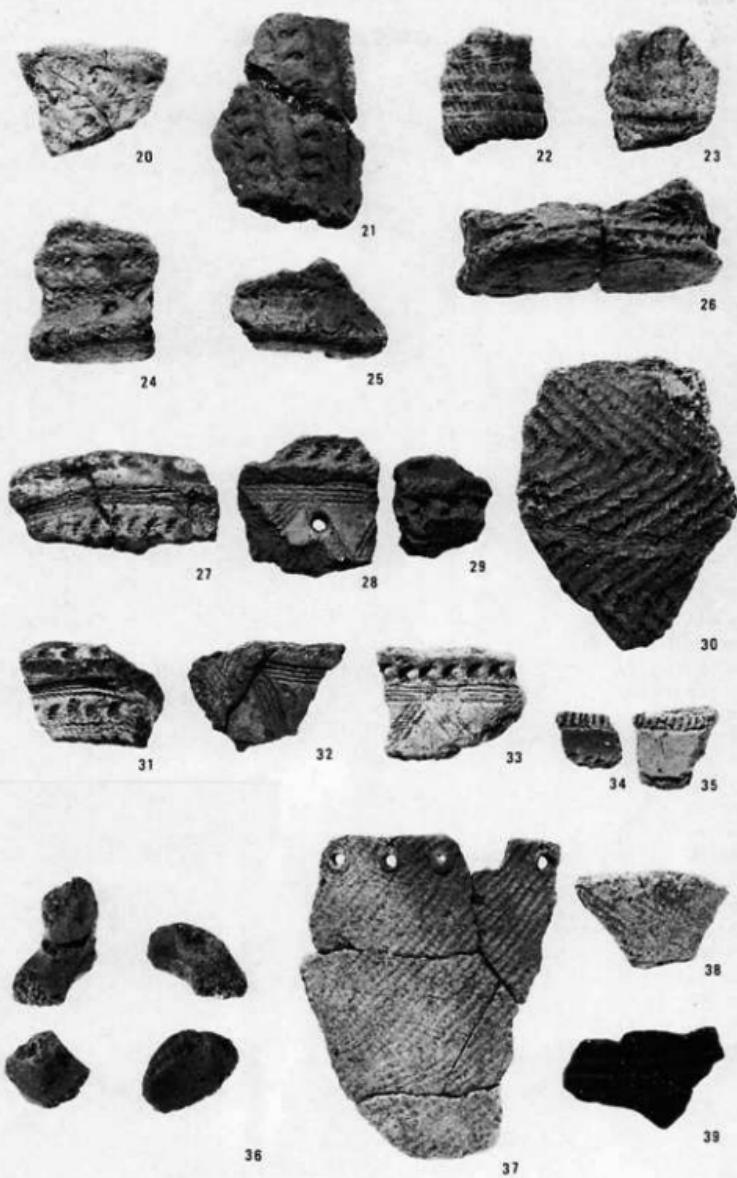


図169 D地点出土の土器群（I群・III群・IV群・V群）

表9 D地点出土土器一覧

図版番	分	基部形状	口縁・脚・底部形状	外 面 文 様	口縁部文様	口縁 文様	支脚	底面	底面 処理	寸 法 (cm)	発 見 所	形 状	
1	I-2	脚		1e						8	0.5b	V	
2	I-2	底	X1a	0						8	P3d	V	
3	I-2	底	X2a	0						5	P3d	V	
4	I-1	口	I3-a	8e						7	X6c	V	
5	I-1	脚		8e+7e						8	X6c	V	
6	I-1	口	I3-f	6d+8c+8e		7g				5	P3a	V	
7	I-1	口	I3-f	8d+8e						5	0.4b	V-H	
8	I-1	脚		6a+8e+8d						7	0.4c	H-V	
9	I-1	脚		6a+8e+8c						6	0.4c	H-V	
10	I-1	口	I1-f	6a+8e+8c						7	0.5c	V-H	
11	I-1	脚		6a+7e+8c						7	0.4c	H-V	
12	I-1	脚		6a+7e+8c						5	0.5c	V-H	
13	I-1	脚		8c+8d						8	0.4c	V-H	
14	I-1	脚		8c+8e			b2			7	0.4c	V-H	
15	I-1	口	I2-f	8e						6	0.5c	V-H	
16	I-1	口	I3-f	8c+8e						5	0.5b	V	
17	I-1	口	I3-f	8e+8e						7	0.4b	V	
18	I-1	口	I1-f	7e+8f						ab-h12	7	0.4c	H-V
19	I-1	口	I1-e	8e+8e						ab-h12	7	0.4c	H-V
20	I-1	口	I3-f	7d						6	0.4b	V	
21	I-1	脚		8d+8e						7	0.5b	V	
22	I-1	口	I1-e	8e						6	0.5b	V	
23	I-1	脚		8a+8f						7	0.5b	V	
24	I-1	底	X4a	8c						8	0.4c	H-V	
25	I-1	底	X4a	8c						8	0.4c	H-V	
26	I-1	底	X4a	7c						6	0.3c	V	
27	II-a	口?			6c+7g+8e					6	0.64	V	
28	II-a	口?			6c+7g+8e					6	0.64	V	
29	II-a	脚		6a+8e						6	0.64	V	
30	II-a	脚		7f						6	0.64	V	
31	II-a	脚		6a+8e+8e						6	0.64	V	
32	II-a	脚		6a+8e+8e						6	0.64	V	
33	II-a	脚		8c+8e						6	0.64	V	
34	II-c	口	I3-d	0			2d			5	0.64	V	
35	II-c	脚		0+24						6	X7b	V	
36	II-c?	脚		0						9	0.64	V	
37	II-c	口	I3-e	5g+7e			2a			8	L7b	V	
38	II-c	口	I3-e	7d						5	L7b	V	
39	II	口	I3-e	2a+2d+7k						5	0.5b	V	

(2) 石器群

D地点から出土した石器・フレイク・石核・礫の总数は557点である。そのうち礫は海岸から持ち込まれたものである。石器の器種には石鎌・石槍・つまみ付きナイフ・スクレイバー・石斧・すり石がある。

石鎌 (図170・171-1~8)

1~4・6は茎のある鎌。1・6は小さな鎌で、かえし部が明瞭である。4は基部である。5はやや胸張りの三角形鎌で、基部は平坦である。7は細身で薄く作り出されている。8は茎が明瞭でない御葉形の鎌である。石質は頁岩の5以外は黒曜石。

石槍 (図170・171-9)

かえし部は明瞭でない。断面は全体が丸味をもっている。頁岩製。

つまみ付きナイフ (図170・171-12~17)

10・12~13・15・16の表面には人念な二次加工が施され、裏面の一側縁にも細かな加工が加えられたものである。11はつまみ付きナイフかどうか判断が難しい。スクレイバーとすべきかもしれない。14はつまみというより柄が作り出されたもので、内側縁に二次加工が施されている。時代の降るものであろう。15は幅広で御葉形の両面加工のナイフである。石質は11・14が黒曜石、ほかすべて頁岩である。

スクレイバー (図170・171-18)

断面三角形に作られており、表面左側に細かな加工がある。石質は黒曜石。

石斧 (図176・171-19~22)

19は小型の扁平な両刃の石斧。20は板状の礫を素材とし擴長に作り出されたもので、側縁には調査による敲打痕が残っている。刃部は研磨されている。21は全面研磨された両刃の石斧である。22は擦り切りの溝を残している。

すり石 (図170・171-23~25)

23・24は礫の側縁に擦面をもつもので、23の断面は三角形である。25は敲打調整され握部をもつすり石で、擦面の側縁には敲打痕がある。

V D地点の遺物？と遺物

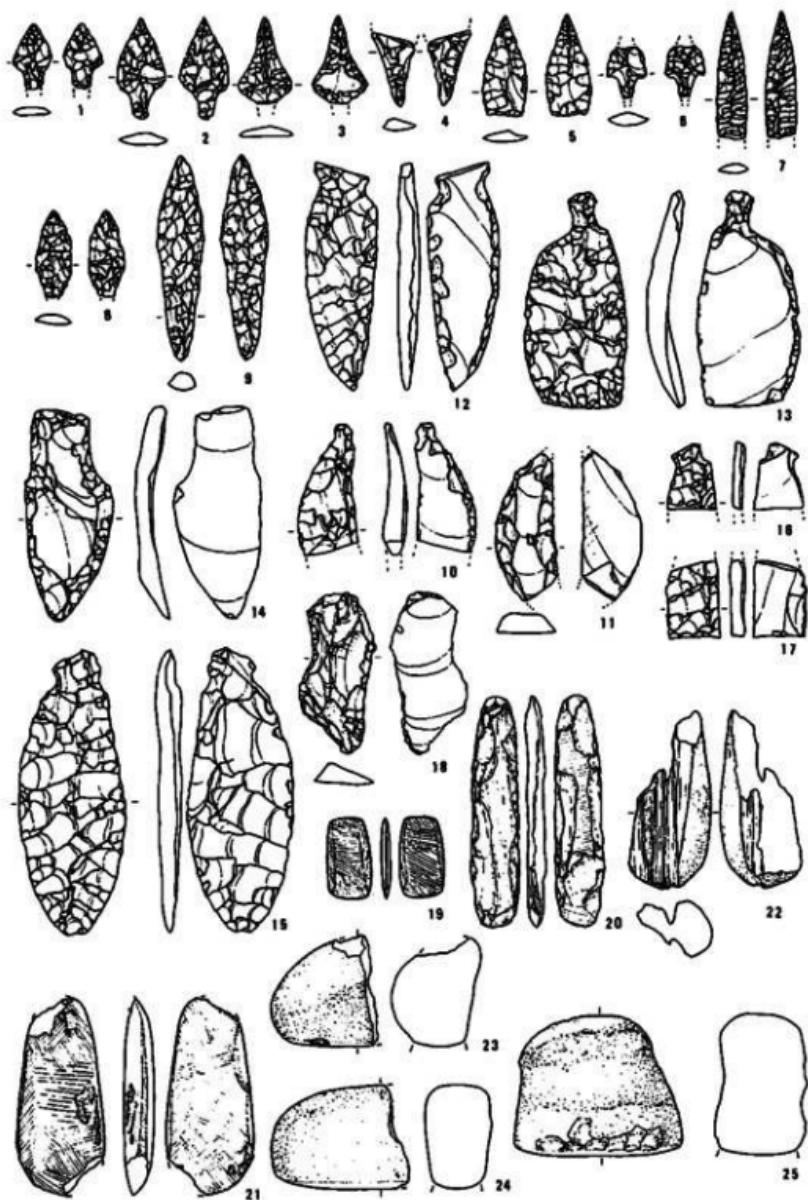


図170 D地点出土の石器群

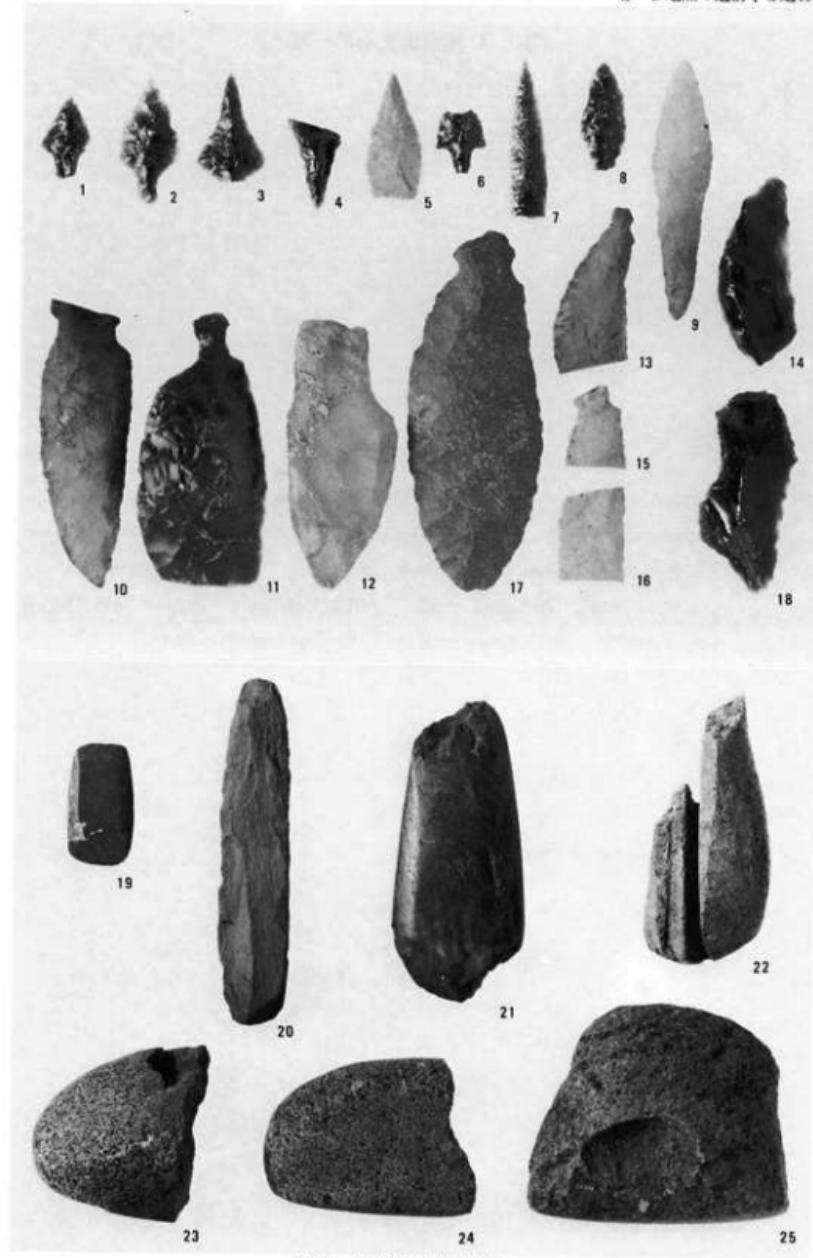


図171 D地点出土の石器群

表10 D地点出土石器一覧

図版号	器種	分類	重さ(g)	材質	断面(×)	層位	図版号	器種	分類	重さ(g)	材質	断面(×)	層位
1	石 鋸	IA5	(0.8)	Obs.	O 3 c	▼	14	つまみ付きナイフ	IBA2	(7.7)	Obs.	O 3 c	▼
2	石 鋸	IA5	1.4	Obs.	O 6 d	▼	15	つまみ付きナイフ	IBA2	(1.3)	Ha-Sch.	P 3 a	▼
3	石 鋸	IA5	(1.3)	Obs.	P 4 a	▼	16	つまみ付きナイフ	IBA1	(1.30)	Ha-Sch.	O 4 c	■
4	石 鋸	IA5	(0.9)	Obs.	O 5 c	▼	17	つまみ付きナイフ	IBA1	25	Ha-Sch.	O 4 c	■
5	石 鋸	IA5	1.6	Ha-Sch.	N 7 b	▼	18	スクレーパー	IBB	9.4	Obs.	O 6 d	▼
6	石 鋸	IA5	(0.8)	Obs.	O 4 c	W-W	19	石 帽	WA	13.8	Rh.v.	O 3 c	■
7	石 鋸	IA2	(1.2)	Obs.	O 4 d	▼	20	石 帽	WA	75	Sch.	O 3 c	▼
8	石 鋸	IA1	(1.0)	Obs.	O 4 c	W-W	21	石 帽	WA	225	Rh.v.	O 4 c	■
9	石 鋸	IB2	8.5	Ha-Sch.	O 4 c	W-W	22	擦り切り塊片		195	Rh.v.	O 3 c	▼
10	つまみ付きナイフ	IBA1	12.3	Ha-Sch.	O 3 c	■	23	ナ リ 石	WA	(435)	And.	O 4 b	▼
11	つまみ付きナイフ	IBA1	17.1	Obs.	O 4 c	W-W	24	ナ リ 石	WA	465	And.	O 4 b	▼
12	つまみ付きナイフ	IBA1	14.8	Ha-Sch.	O 3 c	▼	25	ナ リ 石	WA	960	And.	P 4 d	▼
13	つまみ付きナイフ	IBA1	(6.0)	Ha-Sch.	N 7 b	▼							

石質略号 Aga.(Agate) : めのう Aga-Sh.(Agated Shale) : めのう質頁岩 And.
 (Andesite) : 安山岩 Gne.(Gneiss) : 片麻岩 Gr-Mud.(Green Mudstone)
 : 緑色泥岩 Ha-Sh.(Hard Shale) : 硬質頁岩 Hornf.(Hornfels) : ホルン
 フェルス Mud.(Mudstone) : 泥岩 Obs.(Obsidian) : 黒曜石 Rhy.(Rhyo-
 lite) : 流紋岩 Sch.(Schist) : 片岩 Sa.(Sandstone) : 砂岩

計測値 = ()付は破損品で現存値

分類記号 当センターの従来の分類に準拠

注 A地点の出土層位は旧層位である。

VII まとめ

Ⅳ ま と め

I 土器群

(1) 土器分類の基準

a 形態の分類 (図172)

口縁部形状は6つに分類した。I : 平縁 II : 大波状縁 III : 小波状縁 IV : 大突起縁
V : 小突起縁 VI : 上面觀が方形の口縁

口縁部断面形状は3つに分類した。1 : 直状のもの 2 : 内湾するもの 3 : 外反するもの

口唇断面形状は7つに分類した。a : 丸頭のもの b : 半頭のもの c : 尖頭のもの d : 外側に傾斜するもの e : 内側に傾斜するもの f : 外側にめくれるもの g : 内側にめくれるもの

底部断面の形状は5つに分類した。X 1 : 断面が平底で張り出さないもの X 2 : 平底で丸味をもつもの X 3 : 平底で若干張り出すもの X 4 : 平底で強く張り出すもの X 5 : 尖底のもの さらに平底の底部を、a : 平らなもの b : 丸味をもつものの c : 掬底のものに分けた。

そのほか、炭化物の付着状態を、a 1 : 外面上部 a 2 : 外面中部 a 3 : 外側下部 b 1 : 内面上部 b 2 : 内面中部 b 3 : 内面下部に分けた。

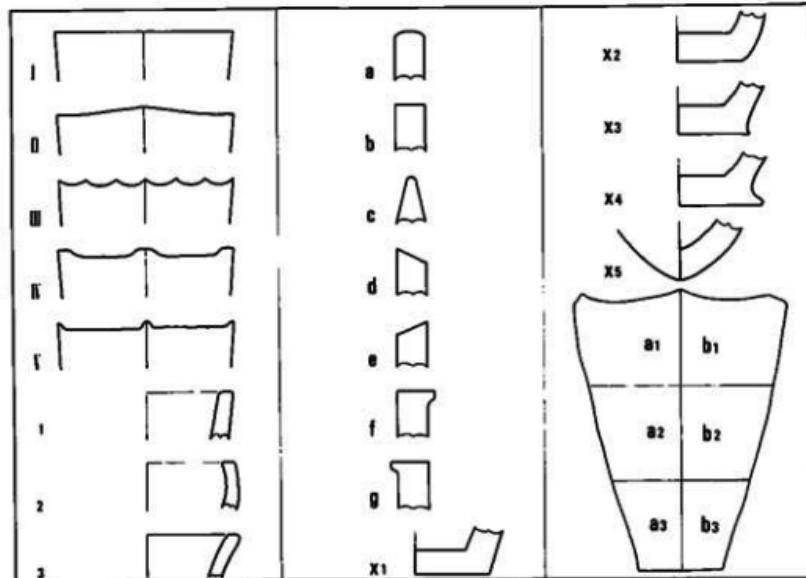
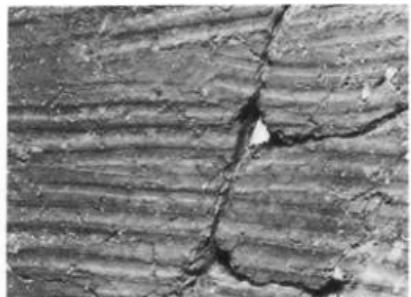


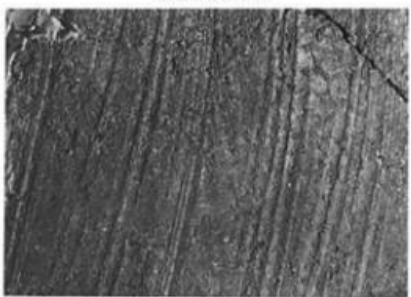
図172 上器形態の分類



貝殻条痕文(1a)



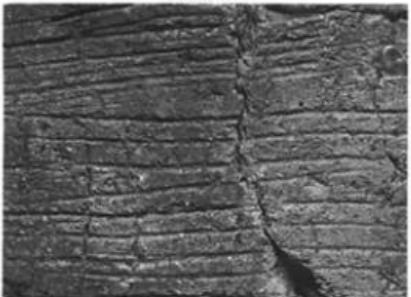
貝殻条痕文(1a)



条痕文(1b)



沈線文(2a)



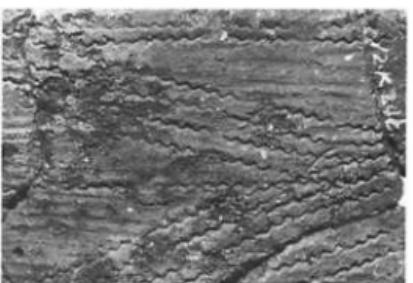
沈線文(2c)



沈線文(2c)



沈線文(2c)



貝殻腹縫文(3a)

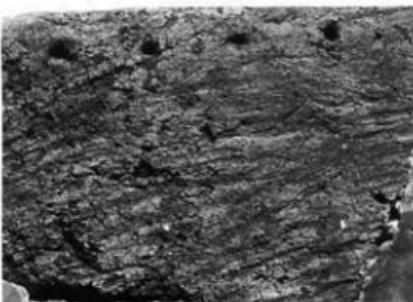
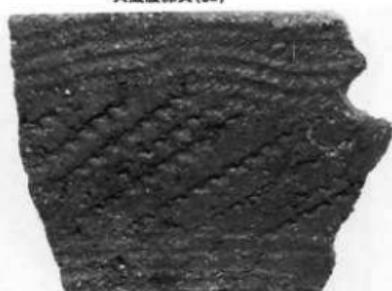
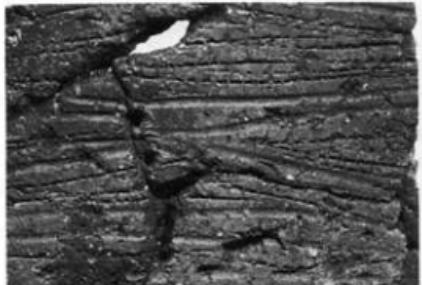
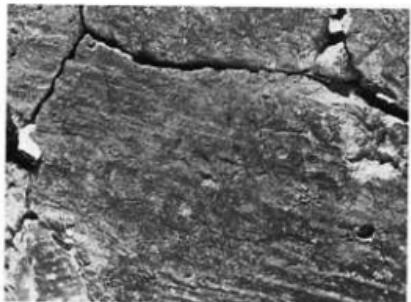
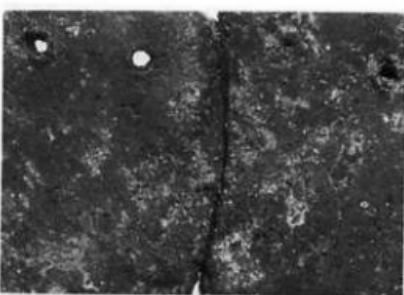


図174 土器の文様要素



貝殻条痕文(1a)



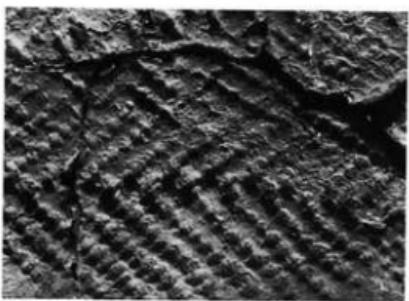
円孔文(5f)



陸縞文(6b)



R L 斜縞文(7d)



羽状縞文(7h)



羽状縞文(7h)

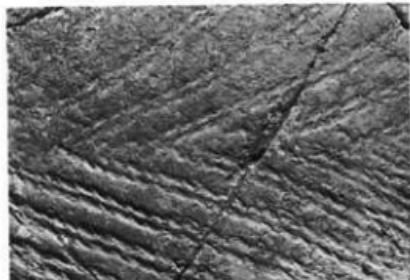


結束第1種(7i)

図175 土器の文様要素



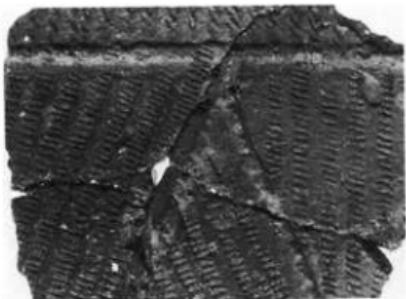
縞縞文(8d)



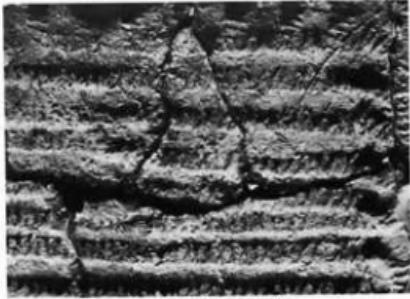
羽状燃条文(7j)



格条体压痕文(8a)



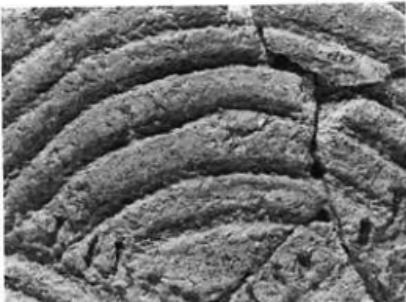
格条体压痕文(8a)



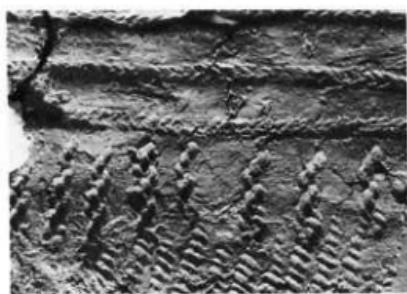
格条体压痕文(8a)



格条体压痕文(8a)



組織压痕文(8c)



短網文(8e)



L R網文(7c)

図176 土器の文様要素

b 文様の分類 (図173~176)

0 : 無文のもの

1 : 条痕・擦痕のもの a : 貝殻条痕文 b : 条痕文 c : 擦痕。

2 : 沈線のもの a : 沈線文 b : 沈線内に刺突のあるもの c : 細い沈線文 d : 刺目状の沈線文

3 : 貝殻腹縁文のもの a : 腹縁文の明瞭なもの b : 腹縁文が破線状になるもの c : 腹縁文が点線状になるもの

4 : 貝殻押し引き文の施されたもの a : 明らかに押し引き文となるもの b : 腹縁の痕を残しながら押し引きされたもの

5 : 刺突文のあるもの a : 長円形の刺突文 b : 円形の刺突文 c : 爪形の刺突文 d : 半截竹管による刺突文 e : 指頭による押圧 f : 円孔文 g : ヘラ状工具による刺突文 h : 突こぶ文

6 : 貼付のあるもの a : 薩帯文 b : 薩線文 c : 肥厚帯 d : ボタン状の貼付文

7 : 回転繩文によるもの a : R斜繩文 b : L斜繩文 c : LR斜繩文 d : RL斜繩文 e : LRないしRL斜繩文による羽状繩文 f : RL+LR斜繩文による羽状繩文 g : 摺糸文 h : 結束第1種 i : 結束第2種 j : 羽状摺糸文 k : 織繩文

8 : 押圧繩文によるもの a : 単輪絶条体圧痕文 b : 多輪絶条体圧痕文 c : 組紐圧痕文 d : 繩縫文 e : 短繩文 f : ループ状繩文。

(2) 土器の時期別分布 (図177~図182)

A 地点の主体となる土器群は I 群土器である。なかでも I 群 b-1 類の出土量が多く、発掘地区中央の高まりにある遺構をとり囲むように分布する。時期別の偏在性はとくにみられない。

B 地点は IV 群土器が主体を占め、その時期の遺構周辺に分布する傾向がある。I 群土器は、斜面から平坦面にかわるところから多く出土し、なかでも I 群 b-2 類土器がまとまって出土する例が多い。この地点からは I 群 a-3 類土器は出土していない。

C 地点には I 群 a-2 類が圧倒的に多く、全体の出土量が少ないとてもかかわらず復元された個体が多い。西側の地点からは、土器はほとんど出土していない。

D 地点は I 群 b-1 類が主体を占める。

ま　と　め

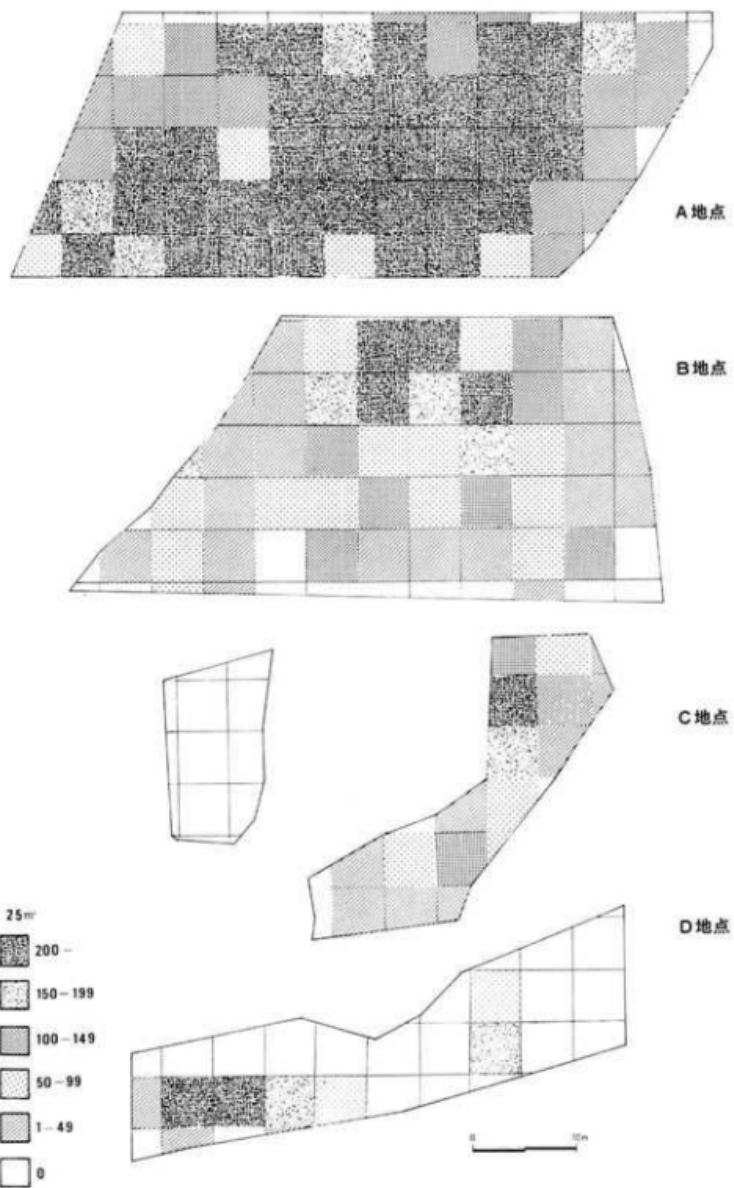


図177 A～D地点の土器分布

まとめ

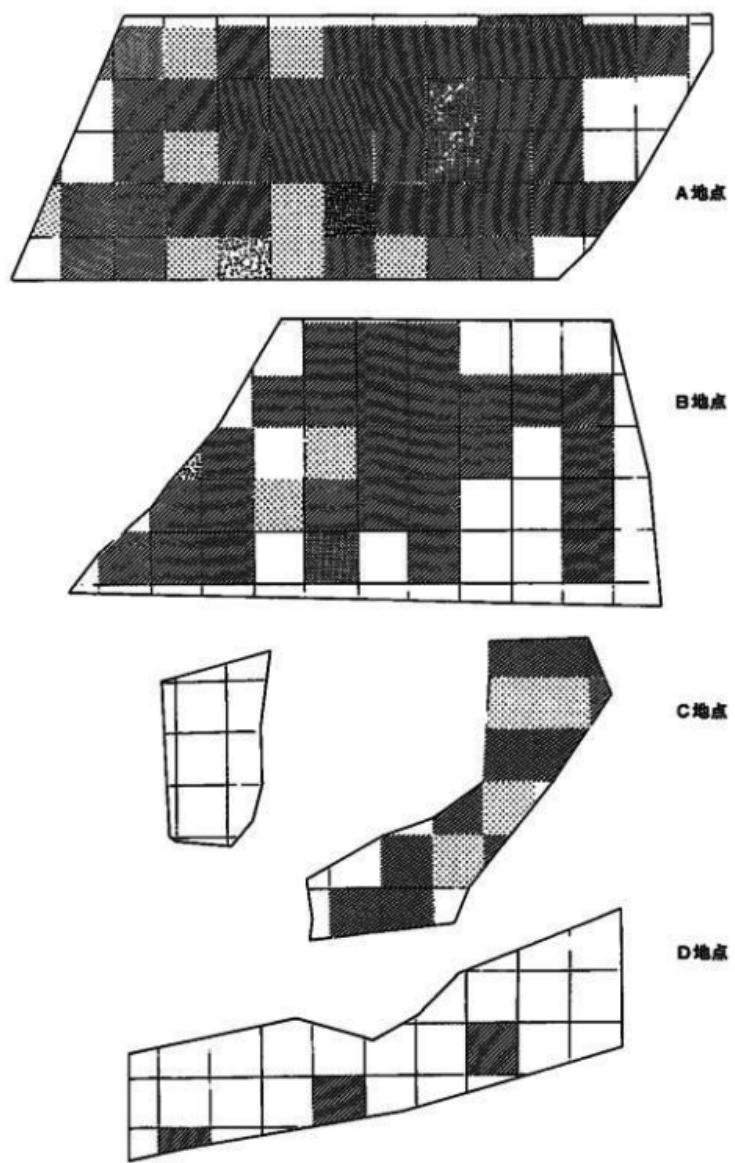


図178 I群a 土壌分布

総まとめ

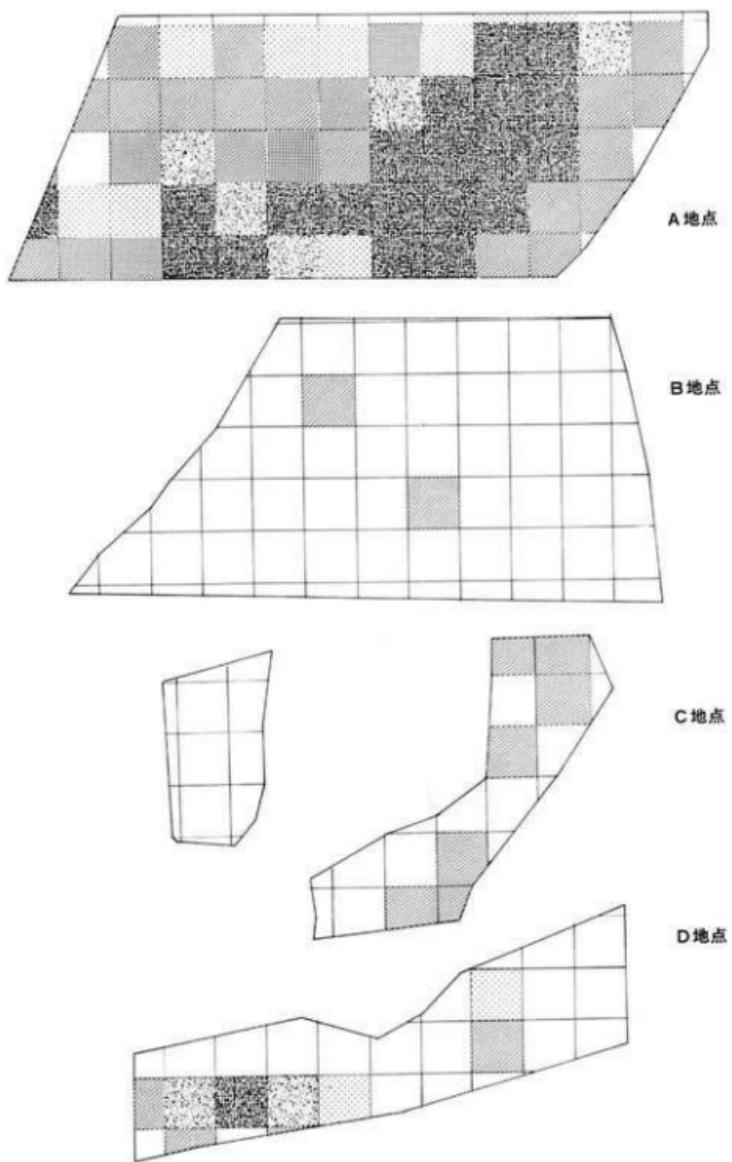


図179 I群 b-1類土器の分布

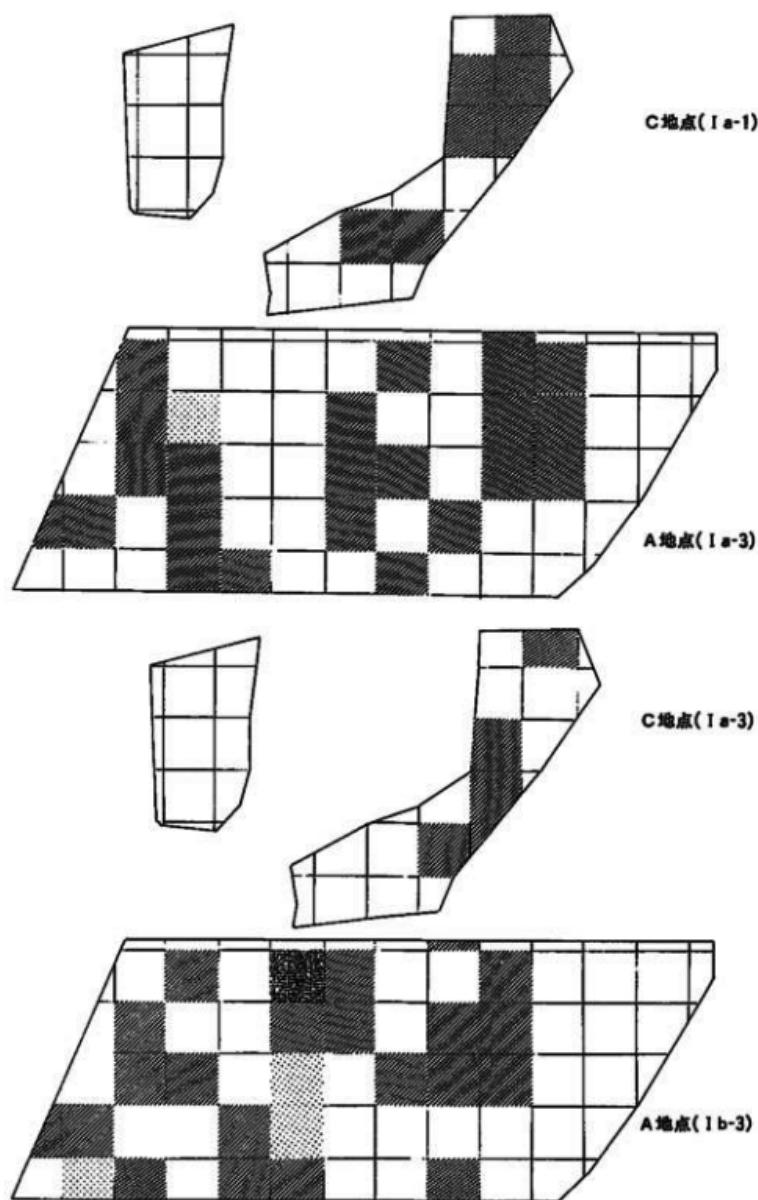


図180 I群a-1・3類、I群b-3類土器の分布

留まどめ

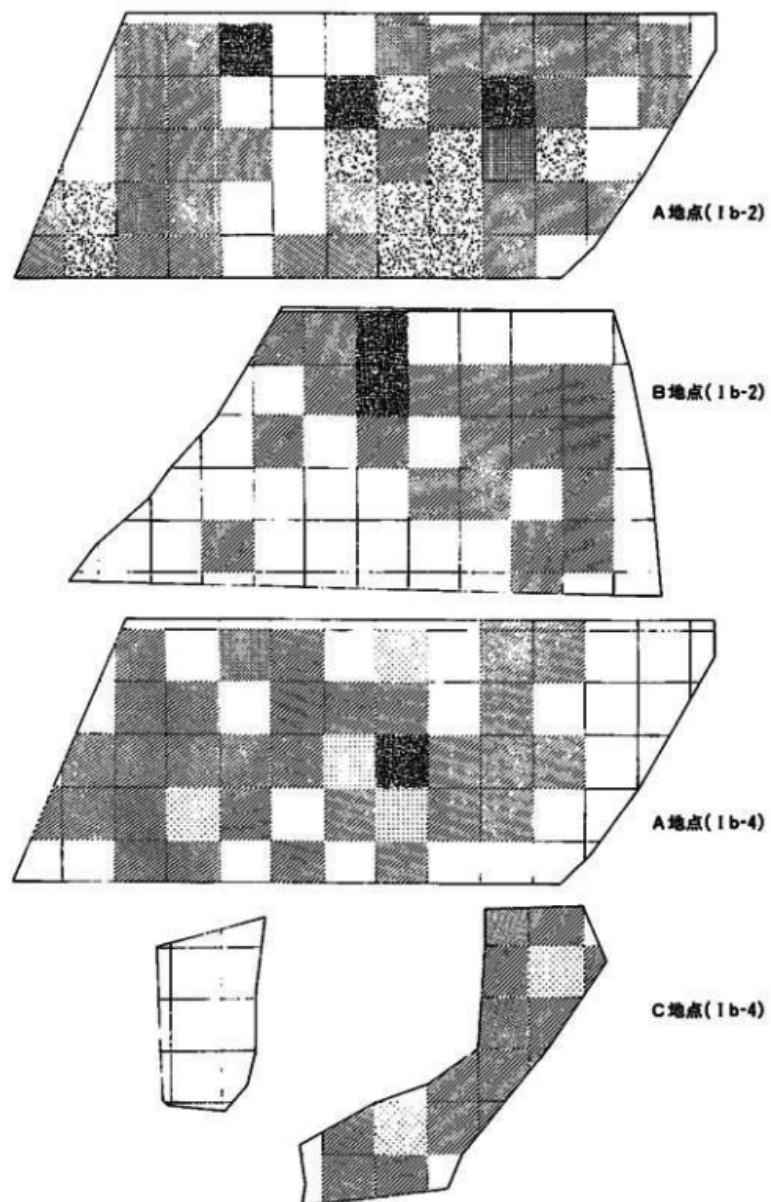


図181 I群b-2・4類土器の分布

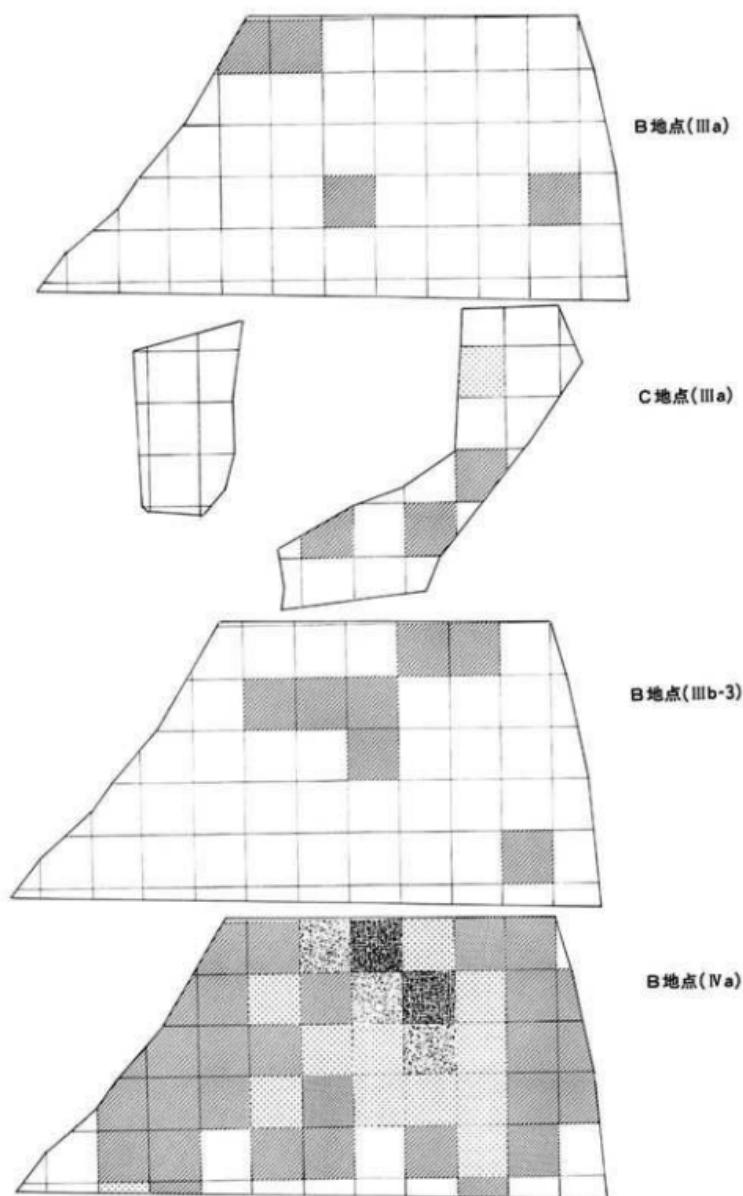


図182 III群a・b—3類、IV群a類土器の分布

緒　ま　と　め

(3) 土器群の型式対比

これまで記載してきた土器の分類記号は、当センターの分類規準によるものである。出土した土器群は、縄文時代早期のⅠ群a類、Ⅰ群b-1～4類、前期のⅡ群a類、中期のⅢ群a類、Ⅲ群b-3類、後期のⅣ群a～c類、統縄文時代のⅤ群である。今回は、新たに本遺跡の土器を基に、Ⅰ群a類を細分し、a-1～3類とした。

Ⅰ群a-1類 C地点から出土した無文または沈線文をもつ土器群で種に繊維を含むものもある。いわゆる曉式土器群(佐藤、1981)に類似するが、僅少量であるため詳細は不明である。今後、道央部において留意しなければならない土器群であろう。

Ⅰ群a-2類 A～C地点において出土した土器群で文様は貝殻条痕文・貝殻腹縁文・沈線文・円形刺突文などバリエーションに富む。こうした文様構成をもつ土器群は、従来この地域では「虎杖浜式土器」(大場ほか、1962)と呼ばれている。しかし、本遺跡における土器群を「虎杖浜式土器」に帰属せしめるには、あまりにも多様性に富み、型式論的に多くの問題が生じよう。これまで「虎杖浜式土器」と呼ばれてきたのは貝殻腹縁文・沈線文など極めて限定された特徴についての理解であって、今後は本遺跡の土器群に基づいて「虎杖浜式土器」の概念を拡大するなり、新たに型式を設定することによって、道央部の縄文時代早期前半の編年を整理する必要があろう。

Ⅰ群a-3類 A地点から多くの土器群が出土した。これまで、この土器群は「上坂式土器」(名取・峰山、1958)「アルトリ式土器」(竹田、1959、吉崎、1965)に漠然と対比され、理解されてきた。本遺跡の土器群は、かなりまとまった資料であり、上坂・アルトリ式土器を再検討する良好な基礎資料となるであろう。

Ⅰ群b-1類 東釧路Ⅲ式土器に相当するもの

Ⅰ群b-2類 仮称コッタロ式土器に相当するもの

Ⅰ群b-3類 中茶路式土器に相当するもの。

Ⅰ群b-4類 東釧路Ⅳ式土器に相当するもの

Ⅱ群a類 縄文尖底土器群

Ⅲ群a類 円筒土器・上層式土器に相当するもの

Ⅲ群b-3類 トコロ6類土器に相当するもの

Ⅳ群a類 余市式土器に相当するもの

Ⅳ群b類 手鉢式・ホッケマ式土器に相当するもの

Ⅳ群c類 堂林式土器に相当するもの。

Ⅴ群 統縄文時代の土器

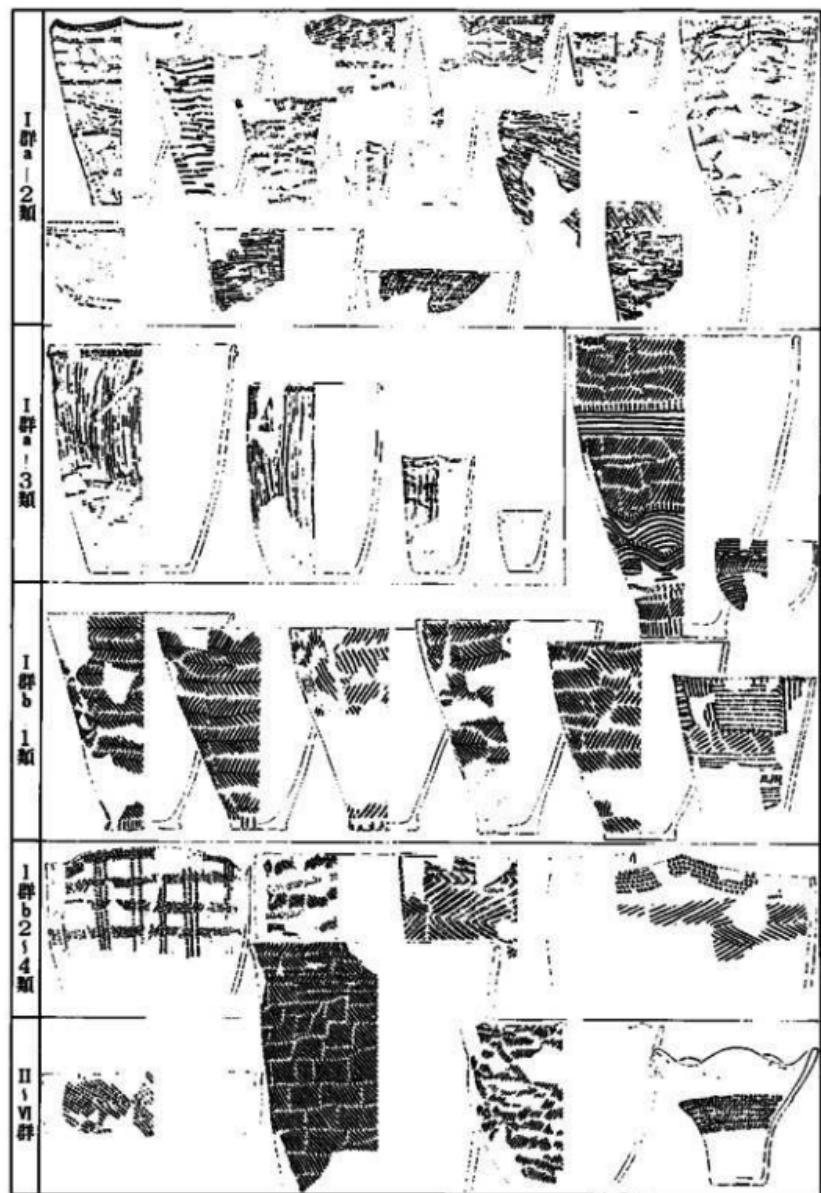


図183 土壠群の分類

緒　　と　め

2 石器群

(1) 石器分類基準

虎杖浜3遺跡から出土した石器群は、石鎌・石槍・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイバー・石斧・たたき石・すり石・石皿・砥石・石鍤・石核・加工旗のあるフレイクがある。これらの石器群は、さきに触れた土器群のいづれかに伴出するものであろうが、一部の石器を除いて、その共伴関係を示す根拠に欠ける。ここでは、これまで触ってきた石器群の分類を、当センターの分類基準に基づいてまとめることにする。なお、分類の大別は従来の分類と一致するが、細別はその限りではない。

I群 石鎌・石槍

I A 石鎌 1：石刃鎌（未検出であるが石刃が出土している） 2：細身で薄いもの（I群に多く伴う） 2 a：柳葉形のもの 2 b：五角形のもの 3：三角形のもの（基部にえぐりのあるものも含む） 4：基が明瞭でないもの 5：基のあるもの 6：最大幅が尖頭部にあるもの 7：幅広で大形のもの（五角形のものもある。本遺跡ではI群b-1類に伴う）

I B 石槍 1：基をもつもの 2：基が明瞭でないもの 2 a：幅広のもの 2 b：細長いもの

II群 穿孔具類

II A 石錐 1：刺穴部のみが作り出されたもの 2：棒状のもの 3：つまみ部が作り出されたもの

III群 ナイフ・スクレイバー類

III A つまみ付きナイフ 1：二次加工が表面全体に施されるもの 2：二次加工が周辺に施されるもの 3：両面加工のもの

III B スクレイバー とくに細分していない。エンド、サイド、ラウンドスクレイバーなどがある。

IV群 石斧類

IV A 石斧 とくに細分していない。本遺跡では擦り切り手法によるものが多く、その残片も多數出土している。側縁に敲打痕を残すもの、全面研磨のもの、刃部のみ研磨しているものなどがある。刃部は明瞭な片刃ではなく、大半が両刃である。

V群 たたき石類

V A たたき石 1：棒状の砾の一端もしくは両端に敲打痕のあるもの 2：扁平な砾の周縁に敲打痕のあるもの 3：扁平な砾の平坦な面に敲打痕のあるもの（一般にくぼみ石とされている）

VI群 すり石・石皿類

VI A すり石 1：断面が隅丸三角形の砾の縁に擦面のあるもの（擦面は1か所にある場合が多いが、2、3か所に擦面をもつものもある） 2：扁平な砾の側縁を擦面

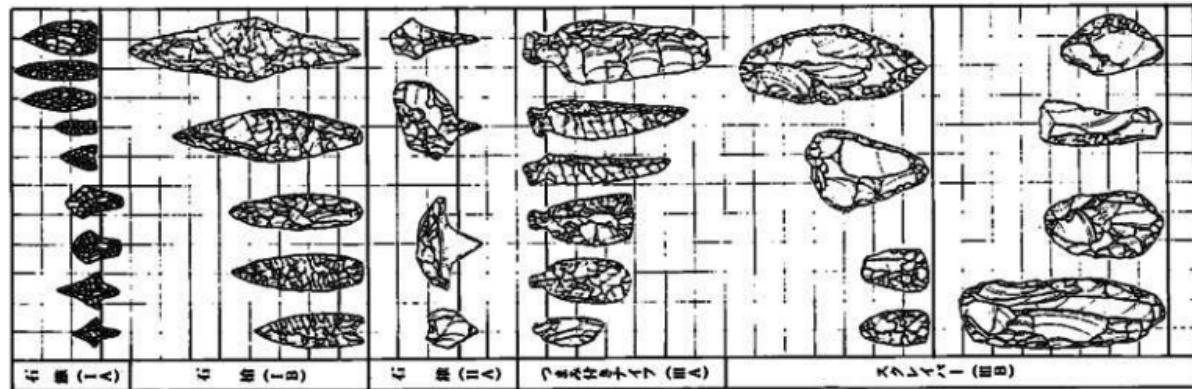
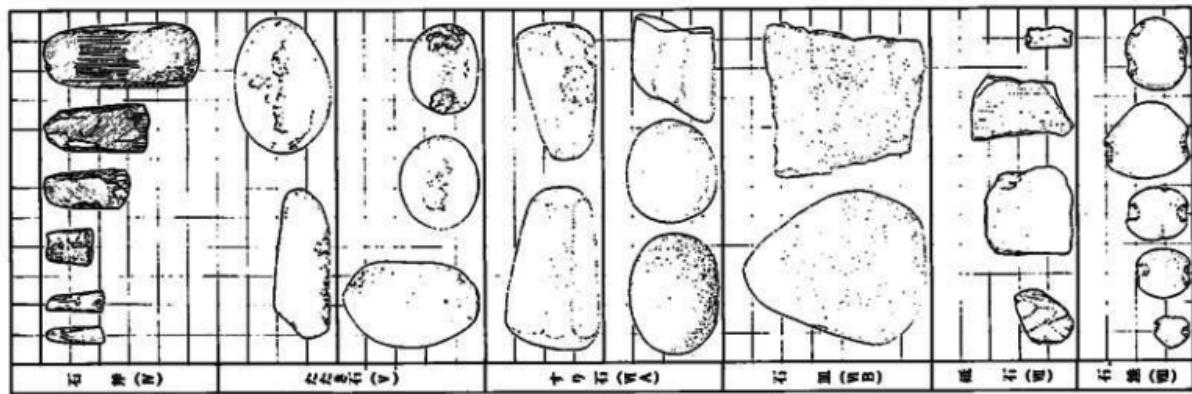


図184 石器群の分類

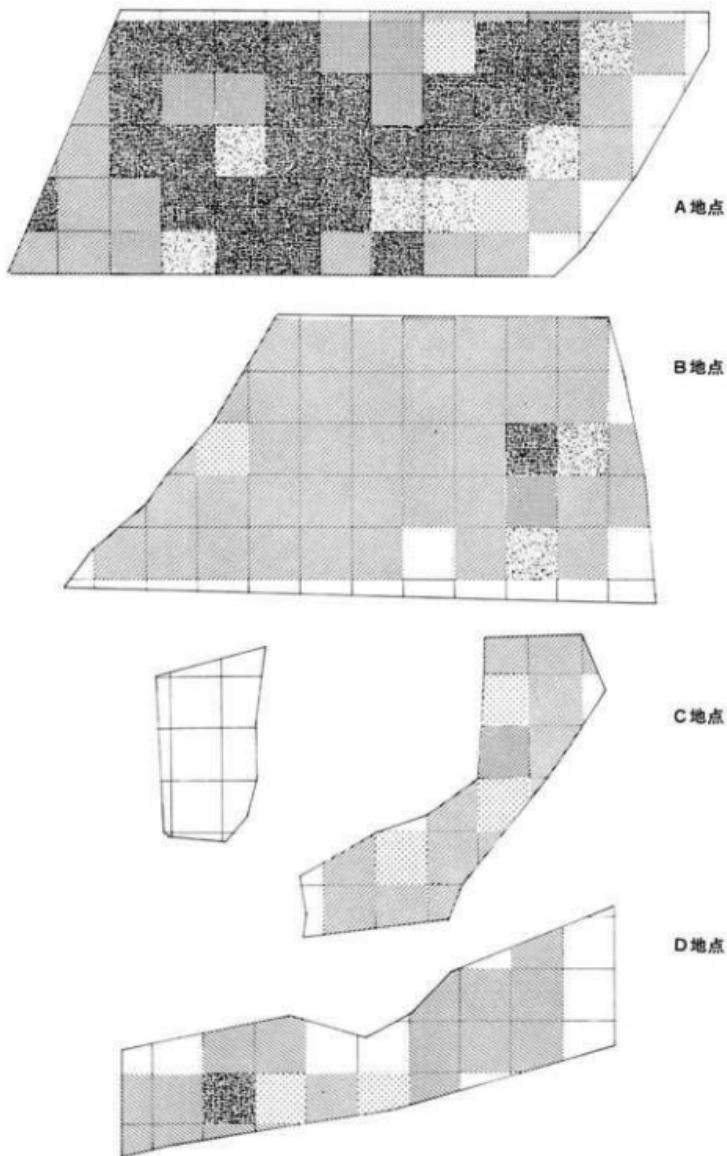


図185 A～D地点の石器分布

としたもの 3 : 敲打により縁部を作り出し、幅広の縁面をもつもの（いわゆる北海道式石延）。

V B 石皿 板状ないし扁平な縁の平坦面を使用面とするもの

V群 石鋸・砥石類

V A 石鋸 とくに細分していない。板状の縁の側縁を直線状の刃部としたものがある。

V B 砥石 1 : 砥面に溝のあるもの 2 : 砥面のあるもの

V群 石錐

V A 石錐 1 : 4か所に打ち欠きのあるもの 2 : 長軸両端に打ち欠きのあるもの 3 : 短軸の両端に打ち欠きのあるもの

K群 石核・剝片類

K A 石核

K B 剥片・削片

X群 加工痕・使用痕のある剥片・礫片など

X A 剥片に加工痕・使用痕のあるもの

X B 矶片に加工痕・使用痕のあるもの

引用・参考文献

- 大場利夫・竹田輝雄ほか 1962「白老郡虎杖浜遺跡の発掘について」『北方文化研究報告』17
 國田宏明編 1977『カムイエカシチャ』白老町教育委員会
 國田宏明編 1978『白老町虎杖浜2遺跡—1977年度試掘調査報告書—』白老町教育委員会
 佐藤一夫・工藤徹 1980「白老町発見の石刀群の新例について」『北海道考古学』16
 佐藤潤哉 1980「博前火山灰T a-d層と縄文早期一焼式土器群の編年的位置をめぐって—』『北海道考古学』16
 高橋正勝編 1980『アロ』白老町教育委員会
 竹田輝雄 1956「北海道虻田郡登祖町アルトリ遺跡出土の遺物に就いて」『上代文化』26
 長沼孝編 1962『史跡白老仙台溝跡』昭和56年度環境整備事業概報一』白老町教育委員会
 名取武光・峰山巖 1954『伊達町北黄金遺跡の発掘報告』
 名取武光・峰山巖 1962『アロ遺跡』『北方文化研究報告』17
 博北海道埋蔵文化財センター編 1981『社台1遺跡・虎杖浜4遺跡・千歳4遺跡・富岡遺跡』
 博北海道埋蔵文化財センター編 1982『川上B遺跡・虎杖浜3遺跡—北海道縱貫自動車道沿岸地区埋蔵文化財調査概報—』
 山内耕男 1979「日本先史土器の調査」先史考古学会
 古崎昌一 1965「縄文化の発展と地域性・北海道」『日本の考古学』Ⅱ



(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告 第11集

虎 杖 浜 3 遺 跡

—北海道縦貫自動車道白老地区埋蔵文化財発掘調査報告書—

昭和58年3月31日 発行

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター

064 札幌市中央区南15条西17丁目

TEL (011)561-0067

印 刷 第一法規出版株式会社

107 東京都港区南青山2-11-17

TEL (03)404-2251(代表)

北海道支社

060 札幌市中央区北4西6 毎日札幌会館

TEL (011)281-6061



10016770

北海道立歴史文化財センター